

基本計画書

基本計画							
事項	記入欄						備考
計画の区分	学部の学科の設置						
フリガナ設置者	ガッコウホウジン オオサカデンキツウシンダイガク 学校法人 大阪電気通信大学						
フリガナ大学の名称	オオサカデンキツウシンダイガク 大阪電気通信大学 (Osaka Electro-Communication University)						
大学本部の位置	大阪府寝屋川市初町18番8号						
大学の目的	<p>本学は、教育基本法および学校教育法に基づき専門の学術を教授研究し、知的ならびに道徳的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的とする。</p>						
新設学部等の目的	<p>建築学科は、次に挙げる知識や能力を修得した人材を養成することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築物を設計、建設するために必要な建築に関する基礎的専門知識と技術を身につけているだけでなく、環境、エネルギー、情報といった建築に関連する分野の知識も身につけている人材 ・建築に関する知識に加えて、コンピュータを上手に活用し、効率良く問題解決に取り組むことができる人材 ・コンピュータを駆使して、CAD(Computer Aided Design)により図面を描き、デジタルデザイン技術により図面を実際の建物のようにリアルに描画し、BIM(Building Information Modeling)により、3次元で建物をデザインしながら、そこに様々な建物情報を与えることで、設計、施工、維持管理を最適化する技術を身につけている人材 ・自ら進んで学び、人々と積極的に交流できる力を身につけている人材 ・建築物の社会的影響を理解し、技術者としての倫理観と責任感を身につけている人材 ・独創的な仕事を遂行するため、個性を活かし、アイデアを出す力を身につけている人材 ・自分の意見を説明し、かつ他人の意見を聞き、最適な建物・まちづくりができるコミュニケーション力を身につけている人材 						
新設学部等の概要	新設学部等の名称	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	工学部 [Faculty of Engineering]	年 人	年次 人	人		年 月 第 年次	大阪府寝屋川市 初町18番8号
	建築学科 [Department of Architecture]	4	80	-	学士 (工学)	平成30年4月 第1年次	
計		80		320			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>大阪電気通信大学</p> <p>総合情報学部 デジタルゲーム学科 (140) (3年次編入学定員) (5)</p> <p>ゲーム&メディア学科 (110)</p> <p>総合情報学部 デジタルゲーム学科(廃止) (△210) (2年次編入学定員) (△30) (3年次編入学定員) (△10) ※平成30年4月学生募集停止 (2年次及び3年次編入学定員は平成30年4月学生募集停止)</p> <p>金融経済学部(廃止) 資産運用学科 (△80) (3年次編入学定員) (△30) ※平成30年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は平成30年4月学生募集停止)</p>						
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	建築学科	63 科目	19 科目	40 科目	122 科目	128 単位	

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称	専任教員等						兼 任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新 設 分	工学部 建築学科	5 (4)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	8 (6)	0 (0)	63 (44)
	総合情報学部 デジタルゲーム学科	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	65 (39)
	総合情報学部 ゲーム&メディア学科	5 (6)	4 (4)	2 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	65 (39)
	計	17 (17)	11 (10)	4 (3)	0 (0)	32 (30)	0 (0)	- (-)
既 設 分	工学部 電気電子工学科	7 (7)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	96 (96)
	工学部 電子機械工学科	6 (6)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	100 (100)
	工学部 機械工学科	5 (5)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	109 (109)
	工学部 基礎理工学科	4 (4)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	92 (92)
	工学部 環境科学科	6 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	97 (97)
	情報通信工学部 情報工学科	6 (6)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	88 (88)
	情報通信工学部 通信工学科	4 (4)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	95 (95)
	医療福祉工学部 医療福祉工学科	6 (6)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	89 (89)
	医療福祉工学部 理学療法学科	5 (5)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	51 (51)
	医療福祉工学部 健康スポーツ科学科	4 (4)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	74 (74)
	総合情報学部 情報学科	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	76 (76)
	人間科学研究センター (一般総合科目担当教員)	5 (5)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
	数理学研究センター (共通教育科目担当教員)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
	英語教育センター (英語担当教員)	3 (3)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	計	71 (71)	38 (38)	27 (27)	0 (0)	136 (136)	0 (0)	- (-)
	合 計	88 (88)	49 (48)	31 (30)	0 (0)	168 (166)	0 (0)	- (-)
教員以外の職員 の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員	78 (78) 人		38 (38) 人		116 (116) 人		
	技 術 職 員	0 (0)		19 (19)		19 (19)		
	図 書 館 専 門 職 員	1 (1)		0 (0)		1 (1)		
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)		
計	79 (79)		57 (57)		136 (136)			

平成29年6月届出

平成29年6月届出

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
	校舎敷地	122,201.41㎡	0.00㎡	0.00㎡	122,201.41㎡				
	運動場用地	170,309.72㎡	0.00㎡	0.00㎡	170,309.72㎡				
	小 計	292,511.13㎡	0.00㎡	0.00㎡	292,511.13㎡				
	そ の 他	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡	0.00㎡				
	合 計	292,511.13㎡	0.00㎡	0.00㎡	292,511.13㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		88,790.98㎡ (88,790.98㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	0.00㎡ (0.00㎡)	88,790.98㎡ (88,790.98㎡)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	77 室	8 室	102 室	11 室 (補助職員 0人)	0 室 (補助職員 0人)				
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数					
		建築学科		8 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書 283,061 冊 〔うち洋書56,707冊〕	
	建築学科	44,445 [14,755] (43,465 [14,625])	360 [282] (330 [278])	82 [73] (73 [71])	246 (206)	38 (4)	0 (0)		
	計	44,445 [14,755] (43,465 [14,625])	360 [282] (330 [278])	82 [73] (73 [71])	246 (206)	38 (4)	0 (0)		
図書館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		3,093.58㎡	426		335,800				
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		2,083.10㎡	テニスコート 5面		トレーニングルーム				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※ 図書費には、電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
	教員1人当り研究費等		694千円	694千円	694千円	694千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	— 千円	— 千円	
	図書購入費	0千円	1,719千円	1,719千円	1,719千円	1,719千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	7,000千円	1,692千円	1,692千円	1,692千円	1,692千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り 納付金		第1年次 1,525 千円	第2年次 1,325 千円	第3年次 1,325 千円	第4年次 1,325 千円	第5年次 — 千円	第6年次 — 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金、付随事業・収益事業収入、雑収入							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	大阪電気通信大学							
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
	工学部						1.08		大阪府寝屋川市 初町18番8号
	電気電子工学科	4	80	—	320	学 士 (工 学)	1.08	昭和 36年度	※平成27年度 入学定員増(10人)
	電子機械工学科	4	80	—	320	学 士 (工 学)	1.17	昭和 40年度	
	機械工学科	4	90	—	350	学 士 (工 学)	1.08	昭和 50年度	
	基礎理工学科	4	60	—	240	学 士 (工 学)	1.07	平成 19年度	
	環境科学科	4	90	—	370	学 士 (工 学)	1.04	平成 23年度	
	情報通信工学部						1.02		大阪府寝屋川市 初町18番8号
情報工学科	4	160	—	640	学 士 (情 報 工 学)	0.98	平成 17年度	※平成27年度 入学定員減(△10人)	
通信工学科	4	80	—	320	学 士 (工 学)	1.11	平成 17年度		

既 設 大 学 等 の 状 況	医療福祉工学部						1.02		大阪府四條畷市 清滝1130-70	
	医療福祉工学科	4	80	第3年次 5	330	学 士 (工 学)	1.02	平成 16年度		
	理学療法学科	4	40	—	160	学 士 (理学療法学)	1.03	平成 18年度		
	健康スポーツ科学科	4	70	第3年次 5	290	学 士 (健康科学)	1.01	平成 20年度		
	総合情報学部						1.08		大阪府四條畷市 清滝1130-70	
	デジタルアート・ アニメーション学科	4	—	—	—	学 士 (情報学)	—	平成 12年度		※平成27年度より 学生募集停止 ※平成27年度より 学生定員増(100人) ※平成30年度より 学生募集停止
	デジタルゲーム学科	4	210	第2年次 30 第3年次 10	830	学 士 (情報学)	1.08	平成 15年度		
	情報学科	4	90	—	360	学 士 (情報学)	1.12	平成 17年度		
	金融経済学部						0.77		大阪府寝屋川市 早子町12-16	
	資産運用学科	4	80	第3年次 30	380	学 士 (ファイナンス)	0.77	平成 21年度		※平成30年度より 学生募集停止
	工学研究科 博士後期課程								大阪府寝屋川市 初町18番8号	
	先端理工学専攻	3	3	—	9	博 士 (工 学)	0.99	平成 4年度		
	電子通信工学専攻	3	3	—	9	博 士 (工 学)	0.00	平成 18年度		
	制御機械工学専攻	3	5	—	15	博 士 (工 学)	0.00	平成 4年度		
	情報工学専攻	3	5	—	15	博 士 (工 学)	0.00	平成 4年度		
	工学研究科 博士前期課程								大阪府寝屋川市 初町18番8号	
	先端理工学専攻	2	15	—	30	修 士 (工 学)	1.39	平成 2年度		
	電子通信工学専攻	2	20	—	40	修 士 (工 学)	0.30	平成 18年度		
	制御機械工学専攻	2	30	—	60	修 士 (工 学)	0.46	平成 2年度		
情報工学専攻	2	35	—	70	修 士 (工 学)	0.28	平成 2年度			
総合情報学研究科 博士後期課程								大阪府四條畷市 清滝1130-70		
コンピュータ サイエンス専攻	3	5	—	15	博 士 (情報学)	0.46	平成 19年度			
総合情報学研究科 博士前期課程								大阪府四條畷市 清滝1130-70		
デジタルアート・ アニメーション学専攻	2	10	—	20	修 士 (情報学)	0.70	平成 16年度			
デジタルゲーム学専攻	2	10	—	20	修 士 (情報学)	1.10	平成 17年度			

既 設 大 学 等 の 状 況	コンピュータ サイエンス専攻	2	10	—	20	修 士 (情報学)	1.20	平成 18年度	大阪府四條畷市 清滝1130-70
	医療福祉工学研究科 博士後期課程								
	医療福祉工学専攻	3	5	—	15	博 士 (工 学)	0.73	平成 19年度	
	医療福祉工学研究科 博士前期課程								
	医療福祉工学専攻	2	10	—	20	修 士 (工 学)	1.10	平成 17年度	大阪府四條畷市 清滝1130-70
附属施設の概要		該当なし							

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校に収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要															
(工学部建築学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	1前		2		○								兼1
		発達心理学	1前		2		○								兼1
		現代社会と青年の心理	1後		2		○								兼1
		教育制度論	2前		2		○								兼1
		人間形成と教育	1後		2		○								兼1
		道徳と教育	2後		2		○								兼1
	文化の理解	歴史学の世界	1前		2		○								兼1
		日本の近代史を探究する	2後		2		○								兼1
		文学の世界	1後		2		○								兼1
		国際コミュニケーション	2前		2		○								兼1
		現代社会を考える1	1前		2		○								兼5
		現代社会を考える2	1後		2		○								兼5
		異文化の理解	1後		2		○								兼1
		日本語上達法1	1前		2		○								兼2
	社会の認識と人権	日本語上達法2	2前		2		○								兼1
		日本国憲法の理念と現実	2後		2		○								兼1
		社会生活と法	2前		2		○								兼1
		経済学の世界	1前		2		○								兼1
		家族のくらしと社会	1後		2		○								兼1
	自然の認識と科学の方法	企業社会と労働	2前		2		○								兼1
		政治のしくみを探究する	1後		2		○								兼1
		環境の科学	2前		2		○								兼1
	社会とコンピュータ	生命の科学	2後		2		○								兼1
		情報活用リテラシー	1前		2		○								兼1
	総合ゼミナール	情報社会と情報倫理	2後		2		○								兼1
		総合ゼミナール	2前		2			○							兼1
小計 (26科目)		—	0	52	0	—			0	0	0	0	0	兼18	
外国語群	英語	基礎英語1	1前		1		○							兼4	
		基礎英語2	1後		1		○							兼2	
		英語リーディング1	1前		1		○							兼4	
		英語リーディング2	1後		1		○							兼4	
		英語リーディング3	2前		1		○							兼2	
		英語リーディング4	2後		1		○							兼2	
		英語スキルアップセミナー1	2前		1		○							兼3	
		英語スキルアップセミナー2	2後		1		○							兼3	
		英語コミュニケーション1	2前		1		○							兼1	
		英語コミュニケーション2	2後		1		○							兼2	
		英語コミュニケーション3	3前		1		○							兼2	
		英語コミュニケーション4	3後		1		○							兼1	
		英文法セミナー	1前		1		○								兼1
		ドイツ語	ドイツ語1	1前		1		○							
	ドイツ語2		1後		1		○								兼3
	フランス語	フランス語1	1前		1		○								兼1
		フランス語2	1後		1		○								兼1
	中国語	中国語1	1前		1		○								兼1
		中国語2	1前		1		○								兼1
		中国語3	1後		1		○								兼1
小計 (20科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼16	

健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論 スポーツ実習1 スポーツ実習2 スポーツ実習3 スポーツ実習4	2前 1前 1後 3後 4前	2 1 1 1 1		○ ○									兼1 兼3 兼3 兼3 兼3			
	小計(5科目)		—	0	6	0	—				0	0	0	0	0	兼4	—	
総合科目	キャリア形成群	キャリア入門 建築学入門 グローバル研修 地域連携プロジェクト入門 地域連携ボランティア入門 キャリア概論 キャリアデザイン演習 キャリア設計 インターンシップ	1前 1前 2後 2後 2後 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○										兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	オムニバス	
		小計(9科目)		—	0	18	0	—				4	2	0	0	0	兼5	—
基礎専門科目	数学	基礎解析・演習 基礎微積分1・演習 基礎微積分2・演習 微分積分1・演習 微分積分2・演習 線形代数1 線形代数2 確率・統計	1前 1前・後 1後・2前 1前 1後 1前 1後 2前	4 4 4 4 4 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○										兼2 兼4 兼3 兼1 兼1 兼3 兼3 兼1	※講義 ※講義 ※講義 ※講義 ※講義	
		物理	力学1・演習 力学2 基礎物理学 物理学・実験	1前 1後 1後 1前	4 2 2 3		○ ○ ○ ○									兼3 兼1 兼2 兼5	※講義 ※講義	
			情報	コンピュータリテラシー1 コンピュータリテラシー2 プログラミング基礎演習	1前 1後 1後	2 2 2		○ ○ ○									兼2 兼2 兼2	
		工学入門		基礎電気回路	1前	2		○					1					
		小計(16科目)		—	0	45	0	—				0	1	0	0	0	兼18	—
		専門科目	建築設計製図	建築設計基礎実習 建築設計実習1 建築設計実習2 建築設計実習3 建築設計実習4	1後 2前 2後 3前 3後	2 4 4 4 4		○ ○ ○ ○ ○				4 2 2 2 5	2 1 1 1 3					兼1 兼1 兼1
建築計画	建築史・都市史1 建築史・都市史2 建築史・都市史3 建築計画1 建築計画2 住環境計画 インテリア計画 都市・街並み計画 環境デザイン論			3前 3後 4前 2前 2後 3後 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○			1 1 1 1 1						兼1 兼1	オムニバス オムニバス	
	環境工学・建築設備			建築環境工学1 建築環境工学2 建築環境工学演習 建築設備1 建築設備2	1後 2前 3後 2後 3前	2 2 4 2 2		○ ○ ○ ○ ○			1 1 1 1						兼1	
				建築構造・材料	建築構造力学1 建築構造力学2 建築構造力学3 建築構造力学4 建築構造1	1前 1後 2前 2後 2後	2 2 2 2 2		○ ○ ○ ○ ○			1 1 1 2	1 1					

専 門 科 目	建築構造・材料	建築構造2	3前	2		○			1						オムニバス オムニバス
		建築構造3	3後	2		○			1	1					
		建築材料	2後	2		○			1	1					
		建築材料・構造実験	3前	2			○		2	1					
	建築生産・法規	建築生産1	3後	2		○			1						兼1 オムニバス
		建築生産2	3後	2		○			2	1					
		建築経済	3後	2		○									
		BIM実習	3後	1			○		1						
		建築法規	3前	2		○				1					
	その他	建築技術者倫理	3前	2		○			2	1					オムニバス 共同 共同 共同
		建築史実習	4前	2			○		1						
		建築設計実務実習	4前	2			○		1						
		2次元CAD実習	2前	1			○		1	1					
		3次元CAD/DTP実習	2後	1			○		1	1					
		コンピューショナルデザイン実習	3前	1			○		1	1					
特別ゼミナール1		2前	2			○		1							
特別ゼミナール2		2後	2			○		1							
建築プレゼミナール1		2後	2			○		5	3						
建築プレゼミナール2		3前	2			○		5	3						
卒業設計	4通	8				○	5	3							
卒業研究	4通	8				○	5	3							
小計(46科目)			—	36	74	0	—	5	3	0	0	0	兼8	—	
合計(122科目)			—	36	215	0	—	5	3	0	0	0	兼63	—	
学位又は称号	学 士 (工 学)		学位又は学科の分野				工 学 関 係								
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法							授 業 期 間 等								
・総合科目 人文・社会・自然群より8単位以上、外国語群より6単位以上、健康・スポーツ群より3単位以上、キャリア形成群より6単位以上、各群をあわせて24単位から40単位まで ・基礎専門科目 24単位から40単位まで ・専門科目 56単位から80単位まで(必修36単位を含む。) ・卒業要件単位 128単位以上 (履修科目の登録の上限：50単位(年間))							1学年の学期区分				2学期				
							1学期の授業期間				15 週				
							1時限の授業時間				90 分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	人間の探求	哲学の世界	自然科学の発達は一切の事象を対象として客観化し、人間の主体性や自己を喪失せしめる危機に及んでいる。かかる情勢の中でいかにして自己を回復し、主体性を確立するかが目下急務となっているが、哲学は様々な学問の中で、その根本にある真実の自己を探求するものとして、かかる要求に応えうるものであることを概説する。
		発達心理学	個人の発達は、誕生から成人に至るまでに限られるものでなく、受精時から生命を終えるときまでたゆまなく続くものである。本科目では、発達に関する諸概念、ピアジェ、S.フロイト、E.H.エリクソンおよび田中昌人の発達理論の概要を踏まえ、乳児期前半、乳児期後半、幼児期、学齢期から青年・成人期にいたる心理的発達について学ぶ。
		現代社会と青年の心理	子どもから大人への移行期にあたる青年期は、生理的にも、社会的にも、また心理的にも不安定な時期であり、それ故に可塑性に富む飛躍の時期でもある。しかしながら豊かな可能性を秘めつつも、現代社会は必ずしもその可能性を十分に開花させるものとはなっておらず、多くの矛盾に満ちている。本科目では、現代社会に生きる青年の諸問題を取り上げ、青年期の心理について発達の視点より検討・吟味していきたい。
		教育制度論	子どもの発達の要求と社会の要望をどのようにとらえて教育的指導を実現するかは、教育学で扱われてきた基本問題の一つである。この科目では、「なぜ学校が必要か」「教育権は誰のものか」「能力に応じた教育とは」など、教育学の基本テーマについて理解を深め、現代の複雑な教育問題を考えていくための「足場作り」を行うことを目的とする。
		人間形成と教育	本講義では、子どもの発達過程・学習過程の心理学的理解を通して、人間形成における教育の役割について考える。とりわけ「表象機能」という心の働きに焦点をあてることにより、(1)遊びやコミュニケーションの重要性、(2)概念発達における教育の果たす役割、(3)発達障害のある子どもたちの理解と教育について詳述する。
	人文・社会・自然群	道徳と教育	今日の科学技術の時代と国際化とグローバリゼーションの中で、日本人は道徳と教育の問題を理論的、実践的にどのように理解したらよいか、さらに、日本人のアイデンティティの確立とは何かと言う課題を中心に教授する。
		歴史学の世界	歴史学が人間のかつ科学的であるための条件、史料発見の具体例と歴史認識、史料と歴史認識の進化について述べ、歴史学とは、どのような学問であるかを教授する。
		日本の近代史を探究する	欧米列強によって近代世界に引き込まれた日本と日本人の歩みを考える。日本は、近代という時代をどのようにして迎えたか、近代の変貌を観察するとともに、その後の展望を試みることによって、日本近代の特質を明らかにする。
		文学の世界	文学は言語芸術であり、人間の諸活動に表現を与えたものであるが、広い意味では社会現象のひとつでもある。作家の意図であるにせよ無意識にせよ、作品世界には書かれた時代の諸現象が投影されている。このようなことを意識しつつ、文学とは何かを考える。
		国際コミュニケーション	諸言語圏における言語行動の比較を通して、異言語文化間で発生するコミュニケーションギャップの実際を考察するとともに、そのギャップを越えてコミュニケーションが成り立っていく過程ならびに要因を追究し、異なる文化の間におけるコミュニケーションのあり方を探ります。それにより世界や日本の社会・文化の多様性に対する理解を深め、グローバル化した現代の日本と世界の関係がどうあるべきかを考え、真の「国際人」への足がかりを築くことを目指します。
文化の理解	現代社会を考える 1	文明が高度に発展するなかで、交通・情報等によるグローバル化が進展し、様々な問題が多様化・複雑化する現代社会において、より高度な専門性と共に、より広い視野に立った多角的・総合的なものの見方、考え方が求められている。本科目では、総合科目を担当する専任教員がオムニバス形式で授業を行い、各教員が、それぞれの教員の専門領域あるいは関心を持つ事柄、学生諸君にぜひ伝えたい事柄を取り上げ、この科目を通じて現代社会についての多角的、総合的な理解を促す。 (オムニバス方式/全15回) (23 坂本知宏/3回) 資本主義的貨幣経済について学ぶ。 (18 平沼博将/3回) 戦争と障害者について、ホロコーストとベトナム戦争を通じて考察する。 (31 村木有也/3回) バイオメカニクスから見た「動く身体」 (13 佐野正彦/3回) 「人とつながること」及び「書くこと」に関わるエクササイズ (15 中里見博/3回) 原発、憲法、人権について考察する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(工学部建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合科目	文化の理解	現代社会を考える2	現代社会は、文明が高度に発展するなか、さまざまな分野・領域において、グローバル化・多様化・複雑化してきている。現代社会をよりよく生きていくために、学生諸君には、より高度な専門性が求められると共に、より広い視野に立った多角的・総合的なものの見方、考え方、行動の仕方が求められている。本科目では、総合科目を担当する専任教員がオムニバス形式で授業を行い、各教員の専門領域あるいは関心を持つ事柄、学生諸君にぜひ伝えたい事柄を取り上げ、この科目を通じて現代社会についての多角的、総合的な理解を促すことを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (23 坂本知宏/3回) 民主主義的国民国家について学ぶ。 (30 松田正貴/3回) 現代社会における「ことば」の問題を考える。 (11 金田啓稔/3回) 自己理解とパフォーマンス (31 村木有也/3回) 走運動を科学する。 (22 王 少鋒/3回) 北朝鮮の行方	オムニバス方式
		異文化の理解	人・物・情報の移動が国を越えて日常的になされている時代において、文化の違いから様々な摩擦も起こっている。異文化接触に伴って生じる問題点を想定して、それに具体的な検討を加えることにより、単に異文化に関する知見を得るだけでなく、国際的な視野と国際人としての視点を養う。	
		日本語上達法1	(1) 日本語の文章を正確に読み、理解する力、(2) 明確でわかりやすく論理的な日本語の文章を書く力、(3) 人の話を正確に聞き取り、自分の考えや要求を正確に相手に伝える会話能力などを養うことを目的に、文章の書き方の基本を学びながら、新聞記事や評論の内容を要約したり、自分の意見を文章で表現したりする方法を習得する。	
		日本語上達法2	日本語上達においてもたんに文法や技術を学ぶことだけでなく、「すぐれた」文化遺産である文学や文章をたくさん読む、アナウンサーなどが話す「きちんとした」日本語をたくさん聞いていることが一番大切な基礎となります。同時に、インターネットを含むマスメディアなどを通じて、さまざまなことがら・情報に関心を持ち、いろいろな機会にいろいろな人と積極的に会話＝コミュニケーションするなど、日常生活で多くの日本語表現の機会をつくり、情報をうのみにするのではなく自分の頭で批判的に考える習慣を身につけることが重要です。	
		日本国憲法の理念と現実	欧米における近代憲法の成立の事情や理念と、その後の変化の歴史をみていきます。そして日本国憲法がその正統な継承者であることを明らかにします。ひとたび憲法が制定されれば自動的にその理念が実現される、というわけではありません。憲法が予定している一人一人の人間が大切にされる社会を実現するためには国民の不断の努力が必要です。国民主権の担い手として、および人権の主体として、生きて考えるための素材を提供することを講義の課題・目的とします。	
	社会の認識と人権	社会生活と法	現代社会ではありとあらゆるところに紛争・トラブルのタネが潜んでおり、仕事上のトラブルのほか、労働条件が切り下げ・解雇、親子、夫婦の間で離婚、遺産相続、詐欺や悪徳商法、地域社会での騒音や悪臭や日照、またマンション管理をめぐるトラブルに巻き込まれるかもしれません。現代社会ではそうした紛争を中立公平に解決するうえで法や裁判が果たす役割がきわめて大きくなっているのです。講義では断片的知識を詰め込むのではなく、新たに直面した問題に対処できる力、法的な考え方を身につけられるようにすることを目標とします。	
		経済学の世界	現在おこっている経済問題に触れながら、経済学の基本知識と近年の日本経済の動きについて学生諸君に理解を深めるため講義をおこなう。就職活動や就職し会社で働くためには経済学の基本的理解と、近年の日本経済の動きについての理解は不可欠である。毎回作成したレジュメを基本に新聞の切抜きなどを使って具体的に身近な問題と関連づけてわかりやすく解説していく。	
		家族のくらしと社会	戦前の日本は天皇制と資本主義がドッキングした社会であった。こうした戦前の家族制度に比べ、戦後は民主的改革が行われ、日本国憲法にもとづいた家族制度が誕生した。この講義では実際に家族の暮らしが展開される地域社会に着目し、その中で家族をジェンダーの視点から論述する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(工学部建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
総合科目	社会の認識と人権	企業社会と労働	産業社会においては、産業社会に特徴的な技術システムの高度化や、制度の大規模化・複雑化などから、特有の人間関係が発達し、労働疎外等も問題になることが多い。こうした産業における人間関係、労働疎外の問題、これらと関係して重要な意味をもつ組織の動態など、産業社会の諸制度について考察する。	
		政治のしくみを探究する	「政治」という営みを分析し、理解するための「道具」=政治学の概要を講義する。民主政治(いわゆる「民主主義」)のもとで生きるわたしたちは、政治とのかかわりを断ち切ることはできない。政治と適切にかかわっていくために、政治学の知識は必須だといえる。民主政治は「アマチュア政治」と呼ばれることがあるが、「アマチュア」とは、決して「素人(感覚)」「素朴な感覚」「庶民(感覚)」を意味するわけではない。「政治のしくみ」を理解せずして、政治にかかわることはできない。この授業では、しくみ=制度についての知識を踏まえて「政治」と向き合えるようになることを目標とする。取り上げるテーマは現代政治のさまざまな制度や制度の内側で生じている現象であるが、その背後にある歴史的・思想的背景を理解することに重点を置く。	
		環境の科学	最近になって人類的課題と認識されるようになった地球規模の環境問題も、もとをたざせば環境と人間の深刻な破壊をもたらした「公害事件」から発している。「公害」問題の原因は政治・経済・社会システムの中に求めることもできるが、現代の科学のあり方の中に見てとることができる。この講義では単なる知識の修得よりも、人間としての自らの生き方を考える機会としたい。	
	自然の認識と科学の方法	生命の科学	純粋な生命の探求手段としての遺伝子科学がその役割を終えた今日、次世代の生命論のテーマは、生命活動の根幹をなす「心・意識」の探索となる。一方、現代社会はテクノロジーの急速な進展に即応することができず、「有機」と「無機」の生命観の境界があやふやになり、生命本来の意味が揺らいでいる。この講義ではナチュラリストの立場から、動物の「心・意識」についての研究を紹介し、また、コンピュータ・プログラムモデルによって発生する「心・意識」の一面を紹介する。そして現在、「生命とは何か」を考える一助としたい。	
		情報活用リテラシー	我々は、企業に関わり企業と共に生活している。社会における諸矛盾の多くは企業を中心として発生してきており企業をとりまく犯罪は毎日のマス・メディアを賑わしている。そこで、情報社会を理解するために企業の研究は不可欠な要件であり重要な課題となる。情報社会の発展と共に企業は複雑多様化しており、なかでも企業を律する立場からは、思わぬところに法が要求される。法律を情報社会(情報)の側面から捉えたと、かつての判例が新しい法解釈の情報源となる。本講は、特にマス・メディアで話題となった企業事件の裁判例を中心に、企業を法的側面から演習方式で講述していく。	
		情報社会と情報倫理	情報化社会の進展は生活の向上をもたらしているが、その反面、個人情報流出、情報操作、著作権の侵害、ネットワーク犯罪など種々な問題が発生している。インターネットの普及とともに表面化してきたこのような情報倫理と知的財産に関わる諸問題について、実例を紹介しつつ講義を行い、被害者や加害者にならないための知識と態度を学ぶ。	
	人文・社会・自然群	総合ゼミナール	毎回一人または二人に教科書の内容を「報告」してもらい、それをもとに全員で議論するというやり方が基本である。毎日の新聞を読み、ニュースを視聴して広く社会の現実に関心を向けることは、ゼミ学習にとって不可欠の前提である。日本や世界の社会の多面的な現実を「知り」、「なぜ」そうになっているのかを「考える」こと、解決策を「考える」ことを目的とする。同時に、まとまった文章を読んで内容を正確に理解し・要約する力を養うこと、それをわかりやすく伝える(報告する)力を身に付けることも目的である。	
		外国語群	基礎英語1	基礎的な語彙で書かれた英文教材を用いて、リスニングまたは音読の演習なども行いつつ、基本的な文構造や文法事項を確認することにより、英文の読解に必要な基礎を固める。多読学習を導入し、英語を英語のまま理解する力を涵養する。
			基礎英語2	基礎的な語彙で書かれた英文教材を用いて、リスニングまたは音読の演習なども行いつつ、基本的な文構造や文法事項を確認することにより、英文の読解に必要な基礎を固める。多読学習を継続し、速読力の涵養につなげる。
	英語リーディング1		基礎的な語彙で書かれた英文教材を用いて、基本的な文構造や文法事項を確認しながら、読解力を養うことを目的とする。易しい英文は辞書を使わず、難しい英文は辞書を用いて、正確に読み解くことができるよう、あらゆる英文に対応できる力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合科目	英語	英語リーディング2	基礎的な語彙で書かれた英文教材を用いて、基本的な文構造や文法事項を確認しながら、読解力を養うことを目的とする。易しい英文は辞書を使わず、難しい英文は辞書を用いて、正確に読み解くことができるよう、あらゆる英文に対応できる力を養う。
		英語リーディング3	さまざまなテーマを取り上げた英文教材を用いて、語彙を増強し、読解力（速く正確に理解する力）の向上を目指す。また、英文の構成を分析したり、内容について自分の意見を構築する機会も持つ。
		英語リーディング4	さまざまなテーマを取り上げた英文教材を用いて、語彙を増強し、読解力（速く正確に理解する力）の向上を目指す。また、英文の構成を分析したり、内容について自分の意見を構築する機会も持つ。
		英語スキルアップセミナー1	主にリーディング力とリスニング力のうち、おのおのが最も高めたいスキルを教員と相談しながら選択した上で、その目的に特化した学習を積み重ねることにより、分野別の基礎学力の向上を目指す。また別途設けられた資格試験対策コースを選択することで、目標とする資格の取得を目指す。
		英語スキルアップセミナー2	主にリーディング力とリスニング力のうち、おのおのが最も高めたいスキルを教員と相談しながら選択した上で、その目的に特化した学習を積み重ねることにより、分野別の基礎学力の向上を目指す。また別途設けられた資格試験対策コースを選択することで、目標とする資格の取得を目指す。
		英語コミュニケーション1	日常生活の中で使われる基本的な英語表現を理解し、使えるようになることを目的とする。英語の音声に慣れ、自然な英語が聞き取れるように練習する。また、基本的な英語表現を学び、それを応用しながら口頭で自己表現できる練習をする。
		英語コミュニケーション2	日常生活の中で使われる基本的な英語表現を理解し、使えるようになることを目的とする。英語の音声に慣れ、自然な英語が聞き取れるように練習する。また、基本的な英語表現を学び、それを応用しながら口頭で自己表現できる練習をする。
		英語コミュニケーション3	英会話を中心とした授業によって、日常生活のレベルで意見交換できる程度の英語運用能力の養成を目標とする。英語を話す機会を多く持ち、英語による物事の描写、意見の提示、質疑応答などに関する基本的な表現を習得する。
		英語コミュニケーション4	英会話を中心とした授業によって、日常生活のレベルで意見交換できる程度の英語運用能力の養成を目標とする。英語を話す機会を多く持ち、英語による物事の描写、意見の提示、質疑応答などに関する基本的な表現を習得する。
		英文法セミナー	英語の習得には基礎的な文法力が必要不可欠である。高校までに学習した文法事項を復習することにより、英文の基本構造を理解し、正確に読み解く方法を会得する。
	ドイツ語	ドイツ語1	ドイツ語文法の知識を習得する。習得した文法を基礎においてやさしい独文の読解力をみにつける。文法などの知識をまずはきちんと抑さえ、それを練習問題や作文、会話などのアウトプットを通じて実用的なものに転換しながら習得する。
		ドイツ語2	ドイツ語1で習得したドイツ語文法を基に、習った表現を参考に自分で作文したり、話してみたりする機会を多く設け、能動的にドイツ語を用いることで、リーディングおよびリスニング力を向上させる。
	フランス語	フランス語1	フランス語文法の知識を習得する。習得した文法を基礎においてやさしい仏文の読解力をみにつける。フランス語のまったくの初歩から、自己紹介、好き嫌いなど、自分についての基本的な情報を発したり、相手に尋ねたりできるまでを目的とする。
		フランス語2	フランス語1で習得したフランス語文法を基に、リーディングおよびリスニング力を向上させる。レストランでの食事を始め、相手に頼んだり、許可を求めたり、願望を伝えるなど、自分の意志を、簡単に伝えられるようになるまでを目的とする。
中国語	中国語1	中国語への入門として、中国語の音声やリズムに慣れ、正しい発音とピンインを学習する。基礎文法、基本単語の意味を理解させ、やさしい日常会話短文などを教える。またテキストから学んだ言葉と文法の知識が定着するよう適当な練習問題をする。	
	中国語2	中国語の基礎をつけることを目的とし、基本文法・基本単語の意味を理解させ、中国語の文型を中心に教える。基本文型を身につけることによって無理なく中国語能力の向上を計る。また、言葉に反映された中国文化のいくつかの面の適切な紹介をする。聞き取り練習と会話練習を指導していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
外国語群 中国語 総合科目 健康・スポーツ群 健康の科学	中国語3	中国語の基本単語500語、ピンイン(表音ローマ字)の読み方と綴り方、単文の基本文型、簡単な日常挨拶語をマスター、中国語検定準4級を取得でき、さらにその後、無理なく4級にステップアップできる水準を目指す。	
	健康・スポーツ科学論	現代社会の情報化にともない、この世の中を生き抜いていく力として、自己の心と体の状態を常に正しく認識し、それをうまくコントロールする力が求められる。また、社会生活の中で時々刻々と変化する事態への対応力や危機回避能力が重要な課題となっている。これら現代人に不可欠な能力を育成する場として、スポーツ授業があり、実体験を通してそれらの能力を開発し、熟達させていくのである。さらにスポーツや身体活動における科学的な基礎知識を学習することにより、将来において人生をより豊かなものにしてくれる糧となる。この講義では、スポーツや身体運動の基礎となる健康論、身体論、スポーツ論、スポーツ史、救急法、体力トレーニング法について科学的な基礎知識を教授することにより、スポーツ実習との有機的な関連を目指している。	
	スポーツ実習1	スポーツは、「体力を向上させる」だけでなく、「他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を養う」、「実践的な思考力や判断力を育む」といった人格の形成に影響をおよぼす。また、スポーツは、「人と人との交流の促進」、「心身の健康の保持増進」といった役割も果たす。スポーツ実習では、スポーツに内在するこれらの効果に着目し、自身のスポーツとの関わり方について考究し、生涯にわたって幸福で豊かな生活を送るための素養を身につけていくことを大きな目的とする。スポーツ実習1では、特に他者との関わり方について考察を深めていくことが目的となる。	
	スポーツ実習2	スポーツは、「体力を向上させる」だけでなく、「他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を養う」、「実践的な思考力や判断力を育む」といった人格の形成に影響をおよぼす。また、スポーツは、「人と人との交流の促進」、「心身の健康の保持増進」といった役割も果たす。スポーツ実習では、スポーツに内在するこれらの効果に着目し、自身のスポーツとの関わり方について考究し、生涯にわたって幸福で豊かな生活を送るための素養を身につけていくことを大きな目的とする。スポーツ実習2では、生涯スポーツを視野に入れた自身のスポーツへの最適な関わり方を発見することが目的となる。	
	スポーツ実習3	スポーツは、「体力を向上させる」だけでなく、「他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を養う」、「実践的な思考力や判断力を育む」といった人格の形成に影響をおよぼす。また、スポーツは、「人と人との交流の促進」、「心身の健康の保持増進」といった役割も果たす。スポーツ実習では、スポーツに内在するこれらの効果に着目し、自身のスポーツとの関わり方について考究し、生涯にわたって幸福で豊かな生活を送るための素養を身につけていくことを大きな目的とする。スポーツ実習3では、各種目の競技特性について理解を深めていくこと、練習やゲームの運営方法についても考察していくことが目的となる。	
	スポーツ実習4	スポーツは、「体力を向上させる」だけでなく、「他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を養う」、「実践的な思考力や判断力を育む」といった人格の形成に影響をおよぼす。また、スポーツは、「人と人との交流の促進」、「心身の健康の保持増進」といった役割も果たす。スポーツ実習では、スポーツに内在するこれらの効果に着目し、自身のスポーツとの関わり方について考究し、生涯にわたって幸福で豊かな生活を送るための素養を身につけていくことを大きな目的とする。スポーツ実習4では、生涯スポーツに向けたスポーツへの関わり方について検討していくこと、自分の身体、身体と心との関係、他者との関わり方について見つめなおすことが目的となる。	
キャリア形成群	キャリア形成	キャリア入門	本講義では、教員の学生時代の経験や企業での経験などを学生たちに伝えたり、また、建設業の企業への見学などを通して、これから4年間をかけて建築学を学ぶにあたり、良い動機付けを与え、目的意識を明確にし、学生の有意義なキャリア形成をサポートする。

授 業 科 目 の 概 要					
(工学部建築学科)					
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考		
総合科目	キャリア形成群	キャリア形成	建築学入門	<p>これからの4年間、大学で段階的に学んでいく建築学のさまざまな講義・実習・実験・等の全体的な流れを把握し、建築学の姿を理解するとともに、意欲的に勉学に励むためのモチベーションとなるよう、まず、建築学科の専門分野のトピックスを紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 佐々木厚司/3回) 建築から都市デザインに至る参加協働の計画論を講義する。</p> <p>(2 飯島憲一/3回) 建築の設計・生産プロセスにおける情報化技術について紹介する。</p> <p>(3 高畑顯信/3回) 建築生産と建築の社会性について講義する。</p> <p>(4 辻 聖晃/2回) 建築構造の役割と最新の建築振動制御技術について講義する。</p> <p>(8 添田晴生/2回) 環境配慮建築、省エネルギー建築について講義する。</p> <p>(6 北尾聡子/2回) 建築構造設計と建物の耐震性能評価について紹介する。</p>	オムニバス方式
			グローバル研修	近年のグローバルな人材の育成のニーズに対応し、国際交流センター主催の留学プログラムに参加することで世界の多様性を認識する。交換留学やプログラムにおける各種活動を通して、視野を広げ、教養・見識を高めることを目的とする。	
			地域連携プロジェクト入門	寝屋川市、四条畷市などの近隣に所在する地域の商・工業などの事業者団体と連携し、新しいビジネスモデルの提案などを通じて地域産業の活性化に貢献することにより、社会人としての高い社会意識とマナーの向上を目指すとともに、プレゼンテーション、コミュニケーションなどの基本的な対人能力を現場で体験的に身につけることを目的とする。	
			地域連携ボランティア入門	学内外で実施されている近隣地域に貢献できるボランティア活動への参加、または自らが企画したボランティア活動を実践することによって、社会人としての高い社会意識とマナーの向上を目指すとともに、プレゼンテーション、コミュニケーションなどの基本的な対人能力を現場で体験的に身につけることを目的とする。将来のキャリア設計を具体化するためのアクティブ・ラーニング型の科目である。	
			キャリア概論	本講義では、学生が様々なキャリア(体験・経験)を通して、人間形成していくことにより、自分らしい自分を作り上げていくことの重要性和、そのキャリアをこれからの人生に生かしていくことの大切さについて教える。	
			キャリアデザイン演習	本講義では、本学の理念である①「手が動かせる＝(主体的に課題に向かう)」、②「絵が描ける＝(文章や絵、図を使い、頭の中にあることを表現する)」、③「コミュニケーションができる＝(協働して学ぶ態度を身につける)」の三原則の基礎を身につけるため、グループワークを通して学び、さらには、問題解決能力も養う。	
			キャリア設計	就職活動に向けた準備として、実際にどのような流れで就職活動を行うのか、そのためには「いつまでに」「何を」「どうやって」準備しておくべきなのかを学びます。その上で、社会に出るための基本スキルを養います。	
			インターンシップ	3年次前期までに学んできた建築学や基礎科目の知識を生かして、企業における建築計画、設計、施工、監理など、様々な部門での実習を行う。その体験を通じて、社会における建築学分野の位置づけや現状をより深く理解することにより、建築学への探求心を養うとともに、将来の一般企業への就職の足掛かりとする。	
基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	<p>建築学科において、数学の基礎知識は必要不可欠である。特に、微分・積分を中心とした解析系分野に習熟していることがさまざまな場面で求められる。その基本となるのは、指数関数・対数関数・三角関数などの初等関数を理解し、計算力を身につけることである。この科目においては、これまでに学んできた数学とのつながりを考慮しながら、講義と演習を通じて初等関数の基礎知識と計算力を修得することを目指す。</p>	演習:30時間 講義:30時間	

授 業 科 目 の 概 要				
(工学部建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
基礎専門科目	数学	基礎微積分1・演習	微積分学は17世紀にニュートンらによって創始され、18世紀にオイラーらの研究により、ほぼ今日の形をとるに至った。以降、微積分学は自然科学、工学の諸分野で広く用いられ、逆にこれらの分野の諸問題が微積分学の内容を豊かにした。微積分学は、微分方程式さらにベクトル解析と呼ばれる高等微積分学あるいはもっと広く数理学と呼ばれる分野につながり、本学科の専門科目を履修・理解するのに必要な基礎知識となる。この授業では、1変数関数の微積分法について、学習内容を重要なものにてできるだけ絞り、平易な解説と演習を行う。	演習:30時間 講義:30時間
		基礎微積分2・演習	微積分学は17世紀にニュートンらによって創始され、18世紀にオイラーらの研究により、ほぼ今日の形をとるに至った。以降、微積分学は自然科学、工学の諸分野で広く用いられ、逆にこれらの分野の諸問題が微積分学の内容を豊かにした。微積分学は、微分方程式さらにベクトル解析と呼ばれる高等微積分学あるいはもっと広く数理学と呼ばれる分野につながり、本学科の専門科目を履修・理解するのに必要な基礎知識となる。この授業は、基礎微積分1・演習から続くものであり、2変数関数を主とする多変数関数の微積分法について、学習内容を重要なものにてできるだけ絞り、平易な解説と演習を行う。	演習:30時間 講義:30時間
		微積分1・演習	微積分学は17世紀にニュートンらによって創始され、18世紀にオイラーらの研究により、ほぼ今日の形をとるに至った。以降、微積分学は自然科学、工学の諸分野で広く用いられ、逆にこれらの分野の諸問題が微積分学の内容を豊かにした。微積分学は、微分方程式さらにベクトル解析と呼ばれる高等微積分学あるいはもっと広く数理学と呼ばれる分野につながり、本学科の専門科目を履修・理解するのに必要な基礎知識となる。この授業では、1変数関数の微積分法について、平易な解説と演習を行う。	演習:30時間 講義:30時間
		微積分2・演習	微積分学は17世紀にニュートンらによって創始され、18世紀にオイラーらの研究により、ほぼ今日の形をとるに至った。以降、微積分学は自然科学、工学の諸分野で広く用いられ、逆にこれらの分野の諸問題が微積分学の内容を豊かにした。微積分学は、微分方程式さらにベクトル解析と呼ばれる高等微積分学あるいはもっと広く数理学と呼ばれる分野につながり、本学科の専門科目を履修・理解するのに必要な基礎知識となる。この授業は、微積分1・演習から続くものであり、2変数関数を主とする多変数関数の微積分法について、平易な解説と演習を行う。	演習:30時間 講義:30時間
		線形代数1	線形代数は微積分と共に、自然科学、工学および社会科学など多くの分野で必要とされている基礎的な数学の知識である。この科目では、線形代数の基本項目である連立一次方程式の解法、行列の階数、行列式について解説を行う。行列の行基本変形が連立一次方程式の解法のみならず、逆行列の計算法、行列式の計算においても有効であることを例題と共に示す。また、演習を行い知識と計算力の体得を目指す。	
		線形代数2	線形代数の知識は、数学だけでなく物理学や工学を始め数理学や経済学など広い分野で使われている。それは線形性という性質が、自然科学や社会学などにおいても重要な役割を演じているからである。この科目では、「線形代数1」で学んだ知識を前提として、ベクトル空間、内積、線形写像、固有値問題について解説を行う。さらに、演習により計算力を身につけると共に論理的筋道に沿って問題を解決する能力の体得を目指す。	
		確率・統計	不確実な現象を扱う数学としての確率論の考え方を理解し、その知識を基盤として、実データを整理し解析するための基本的な手法について学ぶ。計算力を養うとともに、論理的な思考力を磨いてゆく。具体的な例によって確率の概念に親しみ、統計的推測・仮説検定の考え方を理解する。主として、組合せと確率、期待値と分散、確率変数、二項分布と正規分布、資料の整理、区間推定、仮説検定などの項目について教授する。	
		物理	力学1・演習	自然科学を理解するための基礎となる古典力学の法則や原理について学ぶ。この科目では、運動の3法則、仕事やエネルギー保存則を理解するとともに、それを使って物体の運動を数学的に記述し、問題を解析的に解く方法を身につけることを目標とする。また、物体の位置、速度、加速度や力をグラフやベクトルを使って表示する方法、重力による一次元と二次元の運動、摩擦のある面上での運動、フックの法則などを演習によって基礎的な力を養う。

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
物理	力学2	自然のより複雑な現象を理解するためには、「力学1・演習」で学んだ力学的な考え方をまず身近な物体の運動に適用して、それらの応用力を養うことが求められる。この科目では、剛体のつりあい、回転運動、剛体の運動方程式、さらに万有引力の法則と惑星の運動を扱い、ニュートン力学を体系的に理解することを目指す。	
	基礎物理学	音波や光・電磁波などの波動現象は、科学技術において重要な役割を果たしている。また現代物理学を理解するには振動・波動の知識は不可欠である。この科目では、ばねや弦の振動から、弾性波、水の波、音の波、光の波・電磁波の波動に至るまで、それらの現象を系統的に理解することを目指す。	
	物理学・実験	物理現象との接触を通じて物理学の理解を図る。工学諸分野を専攻するのに不可欠な基本的な実験操作・測定値処理方法を学習すると共に、物理学における研究方法を会得することを目的とする。予め与えられた実験課題をスムーズに実行するためには、各課題に関する現象の理解と実験原理・方法について、「物理学実験指導書」を十分予習しておくことが必要である。実験課題としては、浮力法による液体の密度測定、サールの装置による金属のヤング率測定、物体の自由落下による重力加速度の測定などである。	実験:30時間 講義:30時間
情報	コンピュータリテラシー1	初心者にはコンピュータの使用法を習得させ、現代社会における情報の役割を述べ、情報セキュリティ・情報倫理の重要性、コンピュータリテラシー、メディアリテラシーに関して学ぶ。インターネットの基礎技能、英文、和文のワープロの利用技能を習得させる。Windowsシステム上で利用する種々のユーティリティを組み合わせる表現力のある統合化文書を作成する技法を身に付けさせる。使用するインターネットブラウザはMozilla Firefox、応用ソフトウェアは主にMicrosoft Wordである。	
	コンピュータリテラシー2	「コンピュータリテラシー1」に続いて表計算の利用に関する技能を習得する。特にワープロと連携したレポートの作成や、データベースを扱い実践的な情報演習を実施する。次いでプレゼンテーションに関する基礎と作成ツールの利用を習得後、発表会を行わせる。使用する応用ソフトウェアは主に、Microsoft WordとExcelおよびPower Pointである。	
	プログラミング基礎演習	StudyCというC言語学習用教育ソフトを用いて各コンピュータ言語に共通する初級レベルの逐次型プログラミングを学ぶ。まず、定数、変数、書式などを学び、1ビットで表される「スイッチ」の有限集合体からどのようにしてデータを表現し、モニタに表示するかについて学ぶ。次に流れ制御文としてif文、while文、for文を学ぶ。逐次型プログラムが前から順番に処理されることを体得するために、演習を多用し毎回小テストにより達成度を確認する。さらに、関数による高次機能化について学ぶ。	
工学入門	基礎電気回路	工学部の基礎専門科目である電気回路をわかりやすく講義する。抵抗と直流電源からなる回路について節点の電圧、抵抗を流れる電流や消費電力などの電気諸量に関する法則、定理とその応用法を講義する。まず、直流回路において成り立つ「法則」を学び、これを使っていくつかの基本的な回路の電気諸量を計算する方法を習得する。次により複雑な回路の電気諸量の計算に役立ついくつかの「定理」とその応用を学ぶ。	
専門科目	建築設計基礎実習	建築設計製図の基本を学び、実習を通して、建築設計に必要な基本技術を習得する。ここでは、線、文字、寸法線などの書き方や、記号の読み方・書き方、立体や第三角法、透視図法についても理解する。また、木造住宅等の設計図面の模写及び模型製作を行う。	
	建築設計実習1	建築設計の実習を通して、建築の企画・設計に関する基礎知識や技術を習得する。さらには、建築設計に必要な分析力、創造力や表現力を養う。実習課題としては、①キャンパス内にカフェを設置するとして、学生や教員が利用するカフェ、②大学近くの店舗付き単身者用集合住宅、を設計する。①の構造は自由、②は鉄骨造もしくは鉄筋コンクリート造とする。	
	建築設計実習2	建築設計の実習を通して、建築の企画・設計に関する基礎知識や技術を習得する。さらには、建築設計に必要な分析力、創造力や表現力を養い、新たな課題に取り組むための学習力を養成する。実習課題としては、①寝屋川市内の駅近くに設置される子ども園、②IT企業やクリエイティブ企業の入る新時代オフィス、を設計する。①の構造は自由、②は鉄骨造もしくは鉄筋コンクリート造とする。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
建築設計製図	建築設計実習3	建築設計の実習を通して、これまでに身につけた様々な能力を発揮して課題解決への提案力、プレゼンテーション力を養成する。実習課題としては、①デイサービス機能を有する介護福祉施設、②公共スペースとしての美術館もしくは博物館などの展示施設、を設計する。構造は、いずれも鉄筋コンクリート造を基本とすし、コンペティション方式とする。 (オムニバス方式/全60回) (1 佐々木厚司・5 矢ヶ崎善太郎/全30回) ①の設計課題について取り組む。 (7 北澤誠男・34 伊藤仁志/全30回) ②の設計課題について取り組む。	オムニバス方式
	建築設計実習4	この建築設計実習では、建築の企画・設計・工学に関する専門知識や技術を習得する。建築構造設計や建築設備設計も対象とする。実習課題としては、①大学施設建物の構造設計、設備設計、②既存建築物のリノベーション、を行う。 (2 飯島憲一・3 高畑顕信・4 辻 聖晃・6 北尾聡子・8 添田晴生/全30回) ①の設計課題について取り組む。 (1 佐々木厚司・5 矢ヶ崎善太郎・7 北澤誠男/全30回) ②の設計課題について取り組む。	オムニバス方式
専門科目	建築史・都市史1	日本建築や町の変遷や特徴を学び、木造建築の特質を理解する。具体的には、神社建築、仏教建築、中世の和洋建築、民家、近代の洋風建築などについて学び、理解する。また、京都や門前町、宿場町などの歴史的街並みの形成過程やその保存活性化などについても学ぶ。	
	建築史・都市史2	西洋建築史をテーマとして、ヨーロッパの歴史にしたがって、各時代の建築や都市の特徴と変遷と代表的建築を学ぶ。具体的には、古代ギリシア建築、古代ローマ建築、キリスト教建築、ルネサンス建築などを学び、理解する。また、歴史的建造物の保存再生についてのヨーロッパでの取組についても学ぶ。	
	建築史・都市史3	近代建築や都市について学ぶ、十九世紀から二十世紀にかけて、建築は大きく変化したが、建築に関わる必要な近現代の建築と建築家に関する知識と教養を修得する。近代の都市計画に関する様々な事例・提案についても学ぶ。	
	建築計画1	建築計画の基礎的な理論について学ぶ。建築物の企画・計画・設計における建築計画の位置づけを行い、建築の構造形態、健康、心理、機能、用途、構造、設備、材料、コスト、生産、歴史、風土など多様な側面を考慮して、計画するための理論について学ぶ。	
	建築計画2	各建築物の建築計画法について学ぶ。具体的には、住宅、ホテル、旅館、病院・診療所、介護福祉施設、学校、子ども園・幼稚園・保育所、オフィス、劇場、商業施設、図書館、博物館などの各種建物の建築計画に関して、基本的な計画論について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (1 佐々木厚司/8回) 住宅、病院・診療所、介護福祉施設、学校、子ども園・幼稚園・保育所 (7 北澤誠男/7回) ホテル、旅館、オフィス、劇場、商業施設、図書館、美術館・博物館	オムニバス方式
	住環境計画	建築において、人が住まう環境は重要な要素の一つである。ここでは、住戸集合の構成原理と住要求に対応した住環境計画の考え方について学ぶ。また、循環型社会に向けて、ストックとしての持続可能な住環境形成を実現するための住宅団地再生と環境マネジメントの手法について考える。 (オムニバス方式/全15回) (7 北澤誠男/7回) 一戸の住宅としての環境計画について述べる。 (1 佐々木厚司/8回) 住居集合としての住宅団地、集合住宅の環境計画、また商業施設との関係における環境計画について述べる。	オムニバス方式
	インテリア計画	インテリア計画は、人がより快適に過ごすために必要な要素である。ここでは、インテリア計画における基本的な考え方や知識を身につける。家具や床、天井の構造や仕上げについて、建具や照明などの室内空間の在り方、さらには、ユニバーサルデザイン、シックハウス問題についても学ぶ。	
	都市・街並み計画	建築の集合体として都市や街並みは形成される、あるいは為政者の下で都市計画に基づき形成される場合もある。既に形成されている都市環境、街並みにおいて、建築を行う場合、その建築によって周辺環境に少なからず影響を与えることになる。こうした影響をより良い方向に導く、あるいは現状を改善するための施策について、いくつかの具体的な都市・街並み計画の事例を通じて学習する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(工学部建築学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	建築計画	環境デザイン論	都市・建築環境に関する幅広いデザインについて学ぶ。歴史的な価値や意味、また、周辺環境に配慮したデザイン、あるいは、地球環境や循環型社会に配慮したデザインなどを学び、都市と建築についての総合的な理解を深める。	
	環境工学・建築設備	建築環境工学1	建築における屋外環境や室内環境、さらには人間の感覚との関係について学ぶ。ここでは、日照・日射、採光・照明、音響に関する基本的な現象を理解し、健康で快適な環境を提供するための建築計画や設計に必要な基本事項を理解する。	
		建築環境工学2	建築における屋外環境や室内環境、さらには人間の感覚との関係について学ぶ。ここでは、換気・通風、伝熱、湿気・結露に関する基本的な現象を理解し、健康で快適な環境を提供するための建築計画や設計に必要な基本事項を理解する。	
		建築環境工学演習	本授業は、PBL形式で建築環境工学に関する演習を行う。各グループに、建物を模擬した小さな箱を製作させ、断熱材や他の建材やそれ以外の材料を使用して、冬期にいかにか箱の中の温度や明るさを快適に維持することができるか考えさせる。製作に取りかかると前に、各グループがプランを発表し、さらには、製作途中にも中間発表をさせ、最終的に実測を行う。実測を終えた後に、データ解析、考察を行い、評価会で最終発表を行う。これらを通して、互いに学び合い、建築環境工学についての理解を深める。	
		建築設備1	建築において、人間に快適な環境を提供することは重要な要素の一つであるが、そのために必要な建築設備について学ぶ。ここでは、環境配慮建築、電気設備、空調設備、給排水・衛生設備、防災設備、情報通信設備等を学ぶ。環境配慮建築として、建築物の環境性能評価やゼロエネルギー建築などを学び、電気設備として、直流や交流、電源設備、電気配線、供給電圧、配線方式について学ぶ。また、空調設備として、中央方式や分散型方式、空調機や熱源機の種類や送風機について学び、給排水・衛生設備として、上下水道、配管、給水方式、給湯方式やガス設備などについて学ぶ。また防災設備として、消火設備、排煙設備について学ぶ。情報設備としては、インターネット回線、スマートグリッドなどについて学ぶ。	
		建築設備2	建築において、人間に快適な環境を提供することは重要な要素の一つであるが、そのために必要な空調設備を中心とした建築設備について学ぶ。ここでは、室内の熱負荷計算、蒸気圧縮冷凍サイクル、湿り空気線図について学び、具体的には、暖冷房負荷の要素である日射熱負荷、通過熱負荷、発熱負荷、外気負荷の計算手法について学ぶ。また、Ph線図を用いて蒸気圧縮冷凍サイクルの性能曲線を描き、最後に湿り空気線図の基本的な読み方、書き方を演習を通して理解する。	
	建築構造・材料	建築構造力学1	建築内の人と空間を自然災害から守り、安全な建築物を設計するために、構造力学の基礎を学ぶ。「かたち」が形として保持される理りを、梁や柱などの部材および骨組構造をとりあげて述べ、建築に必要な建築構造力学の基本概念の獲得を目指す。力の基本として、力のモーメント、力のモデル化、力の合成と分解、力のつり合いを学んだ後、外力を受けたときの、部材の内部に生じているひずみ、内力・応力の求め方などを学ぶ。	
		建築構造力学2	建築内の人と空間を自然災害から守り、安全な建築物を設計するために、構造力学の基礎を学ぶ。ここでは、静定骨組構造の部材に生じる力(断面力)の求め方を学ぶ。静定梁としての片持梁、単純梁、ゲルバー梁また、静定ラーメン、静定トラスの解き方について学ぶ。また、梁の変形量の求め方、柱などの圧縮材における弾性座屈荷重の求め方を学ぶ。	
		建築構造力学3	建築内の人と空間を自然災害から守り、安全な建築物を設計するために、構造力学の基礎を学ぶ。ここでは、変形情報を用いて求める不静定構造物の解法についての基礎概念を学び、モーメントの定理や仮想荷重法などの変位の計算法や、たわみ角法・固定モーメント法の他、コンピュータ解析に適した行列を用いた弾性骨組解法について学ぶ。ここまでの建築構造力学1～3の修得によって、建築士学科試験の構造力学問題の8割に対応できるようになる。	
		建築構造力学4	建築内の人と空間を自然災害から守り、安全な建築物を設計するために、構造力学の基礎を学ぶ。ここでは、部材の塑性変形を考慮した極限解析と弾塑性解析法について学ぶ。また、構造物の固有周期や固有モードなどの振動に関する基礎理論を学び、地震時挙動の予測法、建築物の耐震設計法について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	建 築 構 造 ・ 材 料	建築物の構造として、鉄筋コンクリート系構造、鋼材系構造、木材系構造などの各種構造、構造形式、地震時被害状況について学ぶとともに、建築物にかかる荷重や外力の種類、それらの構造設計時の想定方法などについて学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (3 高畑顕信/6回) 構造設計に用いる荷重・外力の種類、地盤と基礎、鉄筋コンクリート系構造について述べる。 (4 辻聖晃/5回) 鋼材系構造と免震・制振構造について述べる。 (6 北尾聡子/4回) 木材系構造について述べる。	オムニバス方式
		鉄筋コンクリート構造物を構造設計するための基礎知識を修得することを目的として、材料の力学的性質、許容応力度について学び、鉄筋コンクリート断面の許容断面力の考え方・求め方、各種部位の構造設計、配筋などについて学ぶ。また、プレストレスト・コンクリートについても学ぶ。	
		鋼構造物、木構造物を構造設計するための基礎知識を修得することを目的として、構造計画法の基礎、構造設計の考え方、構造設計式について解説する。鋼構造については、部材の断面設計、接合部設計、柱脚の設計を学び、木構造については、仕様規定に加えて、壁量計算・4分割法・接合部金物についての計算法などについて学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (4 辻 聖晃/9回) 鋼構造 (6 北尾聡子/6回) 木構造	オムニバス方式
		建築主体構造として主に用いられるコンクリート、鋼材、木材などの材料としての力学的性質や基本的特性について学ぶとともに、内装・外装材として用いられる各種材料について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (3 高畑顕信/7回) 建築構造材料としてのコンクリートについて、セメントや骨材に関する基礎知識、調合設計法、フレッシュコンクリートおよび硬化コンクリートの性質について述べる。また、鋼材の製造過程、鋼製品について述べるとともに構造用木材の基本特性のほか木質系製品について述べる。煉瓦や土壁などについても触れる。 (7 北澤誠男/8回) 鋼板やセラミックなどの各種外装材について述べ、内装材としての木製品、壁材、各種プラスチック、非鉄金属材料のほか、塗装剤、接着剤などについても述べる。	オムニバス方式
		建築物を構成する構造材料であるコンクリートや鋼材の物理的特性を実験により把握することを目的とする。コンクリート試験(コンクリートの調合、スランプ試験、コンクリートの強度試験)、鋼材試験(鋼材の引張試験など)、鋼管圧縮試験などを行う。また、紙等を用いて構造模型を計画、作成し、載荷実験を行い、構造形式の役割を実感する。	
	建 築 生 産 ・ 法 規	建築生産における施工の部分に重点をおき、建築する、つまり、建物を建てることについての実際の作業の流れと、各工事段階における施工管理の基礎を理解し、実務の基礎能力を養う。ここでは、公共建築や事務所ビルなどの一般的な建築物を対象として、建築生産を学ぶ。	
		建築生産における施工の部分に重点をおき、建築する、つまり、建物を建てることについての実際の作業の流れと、各工事段階における施工管理の基礎を理解し、実務の基礎能力を養う。ここでは、住宅や集合住宅を対象として、建築生産を学ぶ。	
		建築の設計・施工・維持管理・修繕・解体・廃棄などの費用および建築のライフサイクルの総費用であるLCC(ライフサイクルコスト)に焦点を当て、建築コストの積算方法・積算過程や建築生産の契約方式・業務分担などを講義し、建築経済について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (3 高畑顕信/5回) 建築施工を中心とした費用 (2 飯島憲一/5回) 企画からランニングまでを含めたトータルの見直し (7 北澤誠男/5回) 建築設計に際し、見積もる費用	オムニバス方式
		近年、3次元CADの建物形状データに、建物構成要素の材料や物性、仕様などの属性情報を持たせたBIM(Building Information Modeling)と呼ばれる手法が普及しつつある。BIMで作成された建物データベースと連携することにより、数量やコストの算出、熱や気流、構造、音、光などのシミュレーションの解析が容易となる。ここでは、BIMの実習を行い、基礎的操作方法を習得する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	建築法規	建築設計をする際に、必要となる建築関係の法規制について概説する。建築関係法令の種類や概要を理解する。具体的には、建築物の安全性、採光、換気、構造強度、防火、非常用照明、都市計画、地区計画などの法令について学ぶ。	
	建築技術者倫理	建築技術者として、正しい倫理観を養い、安全かつ安心できる建築物を提供しなければならない。ここでは、建築設計倫理、建築構造倫理、建築環境倫理の3つについて概説し、建築物に関する過去の事故や不正事件を取り上げ、グループディスカッションを通して、意見交換を行い、互いに学び合う。 (オムニバス方式/全15回) (2 飯島憲一/5回) 建築企画から施工までのプロセス管理の立場で、過程毎の判断に伴う倫理について考える。 (3 高畑顯信/5回) 建築施工における管理の重要性について、いくつかの問題事例を通じて、建築施工者の倫理を考える。 (7 北澤誠男/5回) 建築設計者の立場で、建築設計上の問題事例、建築監理上の問題事例を通じて、それらの倫理について考える。	オムニバス方式
	建築史実習	神社仏閣などの建築物や歴史的保存地区を見学し、その周辺環境や歴史についても調べることにより、建築物と周辺環境との関わり、また建築物や都市の計画、環境デザインなどを学ぶ。各自が調べた内容についてプレゼンテーションを行い、互いに学び合う。基本的に、京阪神地区を見学対象とする。	
	建築設計実務実習	建築事務所、ゼネコン、サブコン、ハウスメーカーなどの企業に実習体験に行き、これまで大学で学んだ知識や技術を実践し、さらに実習体験を通して、建築に関係する応用力や幅広い知識を新たに身につける。最終的には、報告書を提出し、プレゼンテーションを行う。	
	2次元CAD実習	建築基準法等により建築設計図の作成は義務化されており、建築製図においてはCADが広く用いられている。ここでは、AutoCADを用いて、2次元CADの基本的な操作方法を学び、それには建築製図の演習を行い、2次元CADの技術を習得する。	共同
	3次元CAD/DTP実習	コンピュータの高性能化に伴い、建築設計の早い段階から、3次元設計が可能となった。ここでは、3次元CADやDTP (DeskTop Publishing) ソフトウェアの基本的な操作方法を学び、プレゼンテーション技法を習得する。	共同
	コンピュータシミュレーション実習	デザインを創出する際に積極的にコンピュータ利用するコンピュータシミュレーションデザインが注目されている。ここでは、「3次元CAD/DTP実習」で使用したものは別の3次元CADの基礎的操作方法を習得し、アルゴリズムによりデザイン案がパラメトリックに出力される技法を習得する。	共同
	特別ゼミナール1	アクティブ・ラーニング、本学の他学科での科目履修や企業との連携講座等のカリキュラム外の学修によって、専門知識や技術の向上が期待できる。また、このことは就職活動にも有利なだけでなく、将来就く業務によっては必要となることもある。このような学修について、一定の要件の下単位を付与する。	
	特別ゼミナール2	アクティブ・ラーニング、本学の他学科での科目履修や企業との連携講座等のカリキュラム外の学修によって、専門知識や技術の向上が期待できる。また、このことは就職活動にも有利なだけでなく、将来就く業務によっては必要となることもある。このような学修について、一定の要件の下単位を付与する。	
	建築プレゼミナール1	総合技術である建築は、工学的側面から社会的側面・文化的側面まで幅広い分野で成り立っている。この建築ゼミナールでは、本学科教員の研究室を順次訪問し、各教員の研究分野についてゼミ形式で学ぶ。1研究室では4週間にわたり、研究室から出される課題について、自ら調べ発表するとともに、グループディスカッションを行い、レポートを作成する。	
	建築プレゼミナール2	総合技術である建築は、工学的側面から社会的側面・文化的側面まで幅広い分野で成り立っている。この建築ゼミナールでは、本学科教員の研究室を順次訪問し、各教員の研究分野についてゼミ形式で学ぶ。1研究室では4週間にわたり、研究室から出される課題について、自ら調べ発表するとともに、グループディスカッションを行い、レポートを作成する。建築ゼミナール1以外の研究室で行う。	
	プレゼミナール	プレゼミナールでは、各研究室に仮配属を行い、4年次から始まる卒業設計、卒業研究の準備を本格的に行う。ここでは、卒業設計、卒業研究のテーマを仮で決定し、各研究テーマに必要な基礎知識を復習し、関連する専門知識についても調べ、身につけておく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(工学部建築学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	その他	卒業設計	卒業設計は、配属された各研究室で指導教員の指導のもと、特定のテーマを設定し、建築あるいは都市に関連する設計制作を行う。卒業設計を通して、社会課題を深く考え、必要な専門知識を深く学び、自らのアイデアや建築計画力を磨き、さらにはプレゼンテーション力を身につける。最終的には、成果物は学内、学外への展示を行う。
		卒業研究	卒業研究は、配属された各研究室で指導教員の指導のもと、特定のテーマを設定し、建築あるいは都市に関連する研究を行う。卒業研究を通して、専門知識や理論を深く学び、考察力を磨き、文章作成能力、さらには、プレゼンテーション力も身につける。最終的には、卒業研究発表を行い、卒業研究論文を提出する。

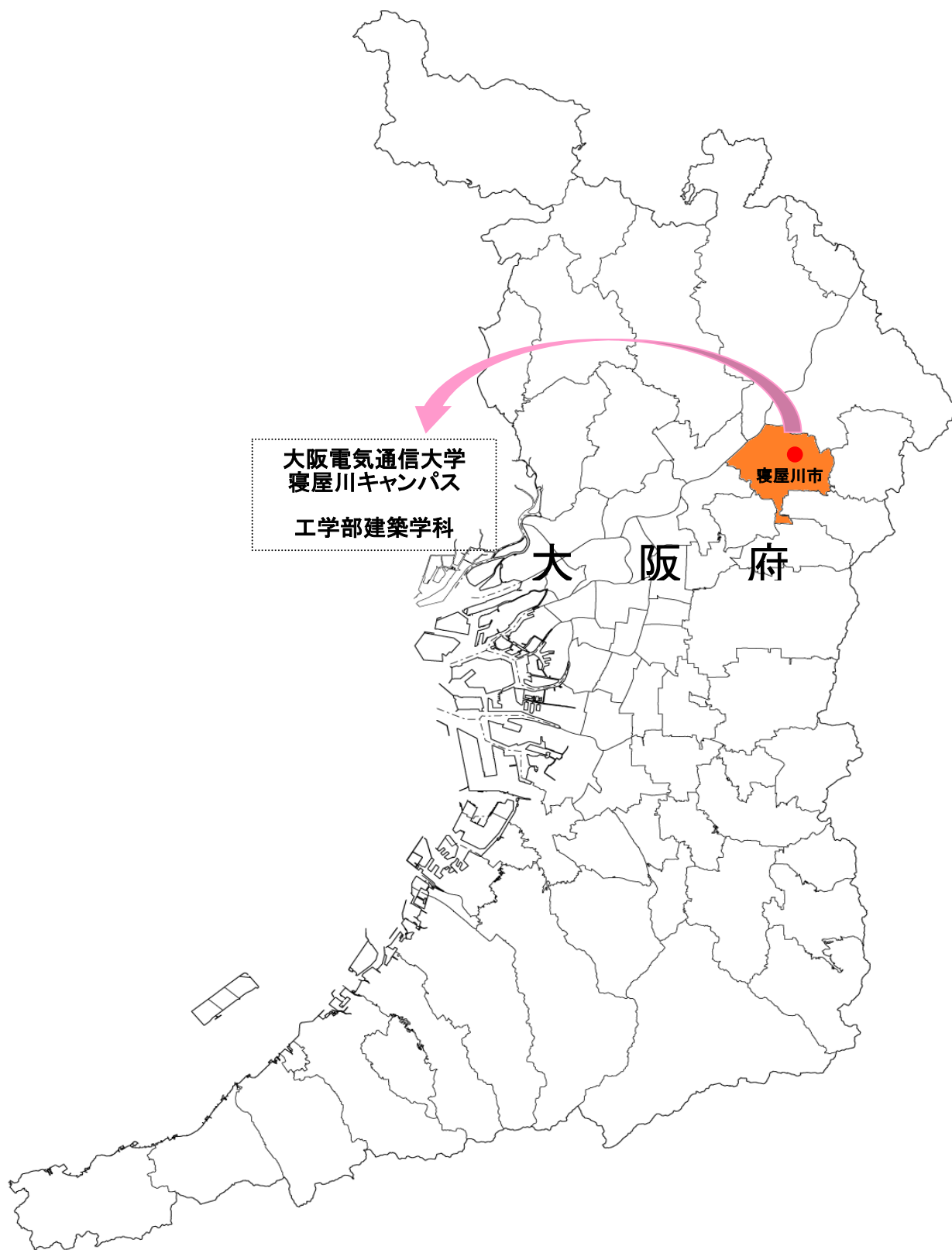
(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうの設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうと類を作成する必要はない。

学校法人大阪電気通信大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	→	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
大阪電気通信大学					大阪電気通信大学				
工 学 部					工 学 部				
電気電子工学科	80	-	320		電気電子工学科	80	-	320	
電子機械工学科	80	-	320		電子機械工学科	80	-	320	
機械工学科	90	-	360		機械工学科	90	-	360	
基礎理工学科	60	-	240		基礎理工学科	60	-	240	
環境科学科	90	-	360		環境科学科	90	-	360	
					<u>建築学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>	学科の設置(届出)
情報通信工学部					情報通信工学部				
情報工学科	160	-	640		情報工学科	160	-	640	
通信工学科	80	-	320		通信工学科	80	-	320	
医療福祉工学部					医療福祉工学部				
医療福祉工学科	80	第3年次 (5)	330		医療福祉工学科	80	第3年次 (5)	330	
理学療法学科	40	-	160		理学療法学科	40	-	160	
健康スポーツ科学科	70	第3年次 (5)	290		健康スポーツ科学科	70	第3年次 (5)	290	
総合情報学部					総合情報学部				
デジタルゲーム学科	210	第2年次 (30) 第3年次 (10)	950		<u>デジタルゲーム学科</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	平成30年4月 学生募集停止
					<u>デジタルゲーム学科</u>	<u>140</u>	第3年次 (5)	<u>570</u>	学科の設置(届出)
					<u>ゲーム&メディア学科</u>	<u>110</u>	-	<u>440</u>	学科の設置(届出)
情報学科	90	-	360		情報学科	90	-	360	
金融経済学部					<u>金融経済学部</u>				
資産運用学科	80	第3年次 (30)	380		<u>資産運用学科</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>0</u>	平成30年4月 学生募集停止
計	1210	80	5030		計	<u>1250</u>	<u>15</u>	5030	
大阪電気通信大学大学院					大阪電気通信大学大学院				
工学研究科 博士後期課程	16	-	48	→	工学研究科 博士後期課程	16	-	48	
工学研究科 博士前期課程	100	-	200		工学研究科 博士前期課程	100	-	200	
医療福祉工学研究科 博士後期課程	5	-	15		医療福祉工学研究科 博士後期課程	5	-	15	
医療福祉工学研究科 博士前期課程	10	-	20		医療福祉工学研究科 博士前期課程	10	-	20	
総合情報学研究科 博士後期課程	5	-	15		総合情報学研究科 博士後期課程	5	-	15	
総合情報学研究科 博士前期課程	30	-	60		総合情報学研究科 博士前期課程	30	-	60	
計	166	-	358		計	166	-	358	

大阪府内における学舎の位置



アクセス

3つあるキャンパスの最寄り駅は、それぞれ大阪・梅田から30分以内、京都から40分台と、関西エリアの幅広い地域が通学圏内の好立地。授業やクラブ活動が終わったあとのお出かけもスムーズです。

寝屋川キャンパス(工学部・情報通信工学部)

駅前キャンパス



寝屋川キャンパス
〒572-8530 大阪府寝屋川市初町18-8 Tel.072-824-1131(代) Fax.072-825-4589

駅前キャンパス
〒572-8537 大阪府寝屋川市早子町12-16 Tel.072-824-8900 Fax.072-824-8903

京阪本線「寝屋川市」駅までの所要時間(目安)

- 京橋駅から……約11分
- 大阪駅から……約25分
- 天王寺駅から……約30分
- 京都駅から……約48分
- 三ノ宮駅から……約54分
- 大阪空港から……約54分
- 関西空港から……約83分

四條畷キャンパス(医療福祉工学部・総合情報学部)

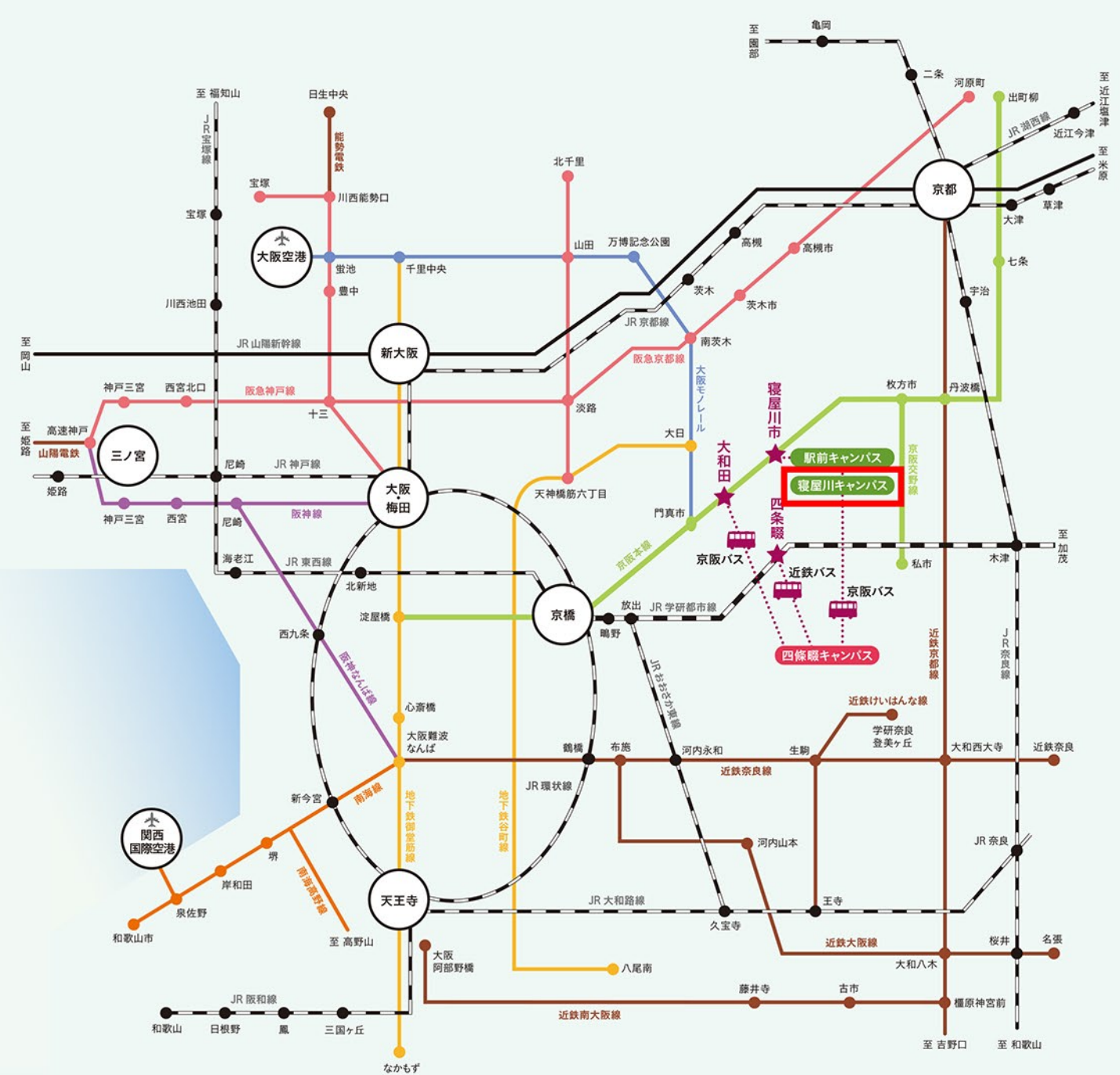


四條畷キャンパス
〒575-0063 大阪府四條畷市清滝1130-70 Tel.072-876-3317 Fax.072-876-3321

JR学研都市線「四條畷」駅までの所要時間(目安)

- 京橋駅から……約13分
- 大阪駅から……約25分
- 天王寺駅から……約30分
- 京都駅から……約59分
- 三ノ宮駅から……約54分
- 大阪空港から……約71分
- 関西空港から……約84分

忍ヶ丘駅～四條畷キャンパス
約2km



3キャンパスを結ぶ 路線バス

3つのキャンパスをラクラク移動！
キャンパス間をバスが運行しています。



3キャンパスを直結！

駅前・寝屋川・四條畷の3キャンパスを乗り換えなしで行き来可能。通学や授業での移動を手助けします。(駅前↔四條畷所要時間約30分)

30分間隔で運行！

運行時間は8:20～21:50。30分間隔で運行しています。また、スムーズな運行を行うため、混雑する時間帯は直行便を配車しています。

クラブ学生の味方！

クラブ活動でバスに乗る必要がある場合は、1日1往復まで乗車が無料に。活動の幅が広がります。

1か月4,000円！

寝屋川市駅から四條畷キャンパスへ通学する学生のために、大学にて前・後期ごとに半期定期券を24,000円で販売しています。1か月あたり4,000円で何度でも利用できます。



第1章 総則

(名称)

第1条 本大学は大阪電気通信大学(以下「本学」という。)と称する。

(目的)

第2条 本学は、教育基本法(昭和22年法律第25号)及び学校教育法(昭和22年法律第26号)に基づき専門の学術を教授研究し、知的並びに道徳的な完成を期し、更に応用能力を展開させ得る人材の育成を目的とする。

(学部及び学科)

第3条 本学に次の学部及び学科をおく。

学部	学科
工学部	電気電子工学科 電子機械工学科 機械工学科 基礎理工学科 環境科学科 建築学科
医療福祉工学部	医療福祉工学科 理学療法学科 健康スポーツ科学科
情報通信工学部	情報工学科 通信工学科
総合情報学部	デジタルゲーム学科 ゲーム&メディア学科 情報学科

2 前項各学部の目的は、次のとおりとする。

- (1) 工学部は、産業社会の基盤である総合的な工学技術を支え発展させるために、工学技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。
- (2) 医療福祉工学部は、人々の生活の質の向上をめざし、医療、健康、福祉及びリハビリテーションに活用可能な技術の基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成を支援し、広く社会で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。
- (3) 情報通信工学部は、社会の基盤技術である情報通信工学にかかわる基礎知識及び応用に関する実学教育を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成を支援し、情報通信技術をベースとして広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。
- (4) 総合情報学部は、多様な生活文化の創造を支えるために、情報技術の基礎知識及び応用に関する実学教育並びにコンテンツ制作活動を通じて、学生の学習成果の向上及び学習目標の達成並びに技能の向上を支援し、広く社会及び産業界で活躍できる専門的人材を育成することを目的とする。

(大学院)

第3条の2 本学に大学院をおく。

2 大学院の学則は、別に定める。

(収容定員)

第4条 学部及び学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80名	—	320名
	電子機械工学科	80名	—	320名
	機械工学科	90名	—	360名
	基礎理工学科	60名	—	240名
	環境科学科	90名	—	360名
	建築学科	80名	—	320名
	小計		480名	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80名	5名	330名
	理学療法学科	40名	—	160名
	健康スポーツ科学科	70名	5名	290名
	小計	190名	10名	780名
情報通信工学部	情報工学科	160名	—	640名
	通信工学科	80名	—	320名
	小計	240名	—	960名
総合情報学部	デジタルゲーム学科	140名	5名	570名
	ゲーム&メディア学科	110名	—	440名
	情報学科	90名	—	360名
	小計	340名	5名	1,370名
合計		1,250名	15名	5,030名

(修業年限及び在学年限)

第5条 学部の修業年限は4年とする。

2 学生は8年を超えて在学することはできない。

3 前2項の規定にかかわらず、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する学生（以下「長期履修学生」という。）がその旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

4 長期履修学生の申し出は、入学時に行うものとする。

第2章 学年、学期及び休業日

(学年)

第6条 学年は4月1日に始まり翌年の3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年を分けて次の2学期とする。

前期 4月1日から9月15日まで

後期 9月16日から翌年3月31日まで

(休業日)

第8条 休業日は次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日
- (3) 本学の創立記念日 10月1日
- (4) 夏期休業日 8月1日から9月15日まで
- (5) 冬期休業日 12月24日から翌年1月7日まで

2 前項の規定にかかわらず、特に必要な場合には休業日に授業を行うことがある。

3 学長は必要な場合、学部教授会の議を経て、休業日を臨時に変更し、又は第1項に定めるもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第3章 入学、退学、休学、転部及び転科

(入学の時期)

第9条 入学の時期は学年の始めとする。

(入学資格)

第10条 本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)により文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (8) 本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学の出願)

第11条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて指定の期日までに提出しなければならない。

2 入学検定料については、別に定める。

(入学者の選考)

第12条 前条の入学志願者については、選考により入学を許可すべき者を決定する。

2 前項の選考の方法及び基準は、運営会議の議を経て学長が定める。

(入学手続及び入学許可)

- 第13条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、指定の期日までに、誓約書その他本学所定の書類を提出するとともに、所定の入学金及び学費を納付しなければならない。
- 2 学長は前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。
 - 3 前項により入学を許可された者は、入学式に出席し、かつ入学の宣誓をしなければならない。

(編入学、再入学)

- 第14条 本学に編入学を志願する者があるときは、編入学定員の範囲において、又は、編入学定員のない学科においては欠員のある場合に限り、選考のうえ入学を許可する。
- 2 本学に再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考のうえ入学を許可する。
 - 3 編入学及び再入学について必要な事項は、別に定める。

(退学)

- 第15条 退学しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(休学)

- 第16条 疾病その他やむを得ない事情により、3か月以上にわたって修学することのできない者は、学長が許可すれば休学することができる。

(休学の期間)

- 第17条 休学期間は学年末を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合は、学長が許可すれば、休学期間を延長することができる。
- 2 休学期間は通算して2年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、更に2年以内に限って延長することができる。
 - 3 休学期間は在学年数に算入しない。

(復学)

- 第18条 休学の理由が消滅した場合は、学長が許可すれば復学することができる。ただし、休学期間が3か月未満となる場合は、休学許可を取り消す。

(除籍)

- 第19条 次の各号のいずれかに該当する者は、学長が除籍する。
- (1) 第5条第2項に定める在学年限を超えた者
 - (2) 学費の納入を怠り、督促してもなお納入しない者
 - (3) 死亡した者
 - (4) 第13条第3項に定める入学式に正当な理由なく欠席した者又は宣誓しない者

(転部)

- 第20条 転部を願い出た者については、志望する学部欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。

(転科)

第20条の2 転科を願い出た者については、志望する学科に欠員がある場合に限り、選考のうえ許可することがある。

第4章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第21条 教育課程は、授業科目を4年間に配当し、これを編成する。

- 2 授業科目を、総合科目及び専門教育科目に区分し、区分ごとに修得すべき単位数を定める。
- 3 専門教育科目については、学科ごとに必修科目を定める。
- 4 開設する授業科目の名称、単位数、配当年次等については、別表第1のとおりとする。
- 5 授業科目の履修について必要な事項は、別に定める。
- 6 授業科目は、その授業の方法、内容及び年間の計画並びに成績評価の基準をあらかじめ学生に明示するものとする。

(授業の方法)

第21条の2 授業は、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

- 2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。なお、これにより修得する単位数は60単位を超えないものとする。
- 3 第1項の授業を、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第21条の3 本学は、本学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(教職課程)

第22条 第21条に定めるもののほか、教職に関する授業科目をおく。

- 2 前項の授業科目の名称、単位数、配当年次等は、別表第2のとおりとする。

(単位の計算方法)

第23条 各授業科目の単位数は、次の基準により計算する。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 演習については、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。
- (4) 授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合の1単位の授業時間については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準に基づき計算する。

(授業期間)

第23条の2 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行う。ただし、教育上の特別の必要があると認められる場合は、15週より短い特定の期間において授業を行うことができる。

(単位の授与等)

第24条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 試験等の成績は、A(優)、B(良)、C(可)、D(不可)をもって表し、A(優)、B(良)、C(可)を合格とする。
- 3 前項の規定にかかわらず、特に定める授業科目の成績は、G(合格)、D(不合格)をもって表す。
- 4 授業科目の成績評価は、当該基準に従って適切に行うものとする。
- 5 試験について必要な事項は、別に定める。

(他の大学等における授業科目の履修又は学修)

第24条の2 教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。
- 3 学生が外国の大学又は短期大学に留学する場合には、第1項の規定を準用する。
- 4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、合わせて60単位を超えないものとする。
- 5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。

(入学前の既修得単位等の認定)

第24条の3 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなす。

- 2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行つた前条第2項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与える。
- 3 学生が外国の大学又は短期大学において修得した単位については、第1項の規定を準用する。
- 4 前3項により修得したものとみなし、又は与える単位数は、編入学及び再入学の場合を除き、前条第1項から第3項までにより本学において修得したものとみなし、又は与える単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 5 教育上有益と認める基準及び手続きについては、別に定める。

(特別の課程)

第24条の4 本学は、教育研究の成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するため、文部科学大臣が別に定めるところにより、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

- 2 特別の課程の編成等に関し必要な事項は、別に定める。

第5章 卒業及び学士の学位等

(卒業の要件)

第25条 本学を卒業するためには、4年(編入学又は再入学した者については、第14条第3項によっ

て定める年数)以上在学し、別表第1に定めるところにより、128単位以上を修得しなければならない。

- 前項の規定にかかわらず、本学の学生として3年以上在学し、大学院への進学を希望している者で、学部の定める卒業要件を満たし、かつ、優秀な成績を修めたと認めた場合、学部長が推薦し教授会の議を経て、学長は卒業を認めることができる。

(卒業)

第26条 前条の規定による卒業の要件を備えた者には、教授会の議を経て、卒業を認め、学士の学位を授与する。

- 学士の学位は、卒業した学部に応じて、次のとおり定める。

工学部 学士(工学)

医療福祉工学部 医療福祉工学科 学士(工学)

理学療法学科 学士(理学療法学)

健康スポーツ科学科 学士(健康科学)

情報通信工学部 情報工学科 学士(情報工学)

通信工学科 学士(工学)

総合情報学部 学士(情報学)

(資格の取得)

第27条 本学において取得することができる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

学部	学科	免許状の種類
工学部	電気電子工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
	電子機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	機械工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(技術) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)
	基礎理工学科	中学校教諭一種免許状(数学)(理科) 高等学校教諭一種免許状(数学)(理科)
	環境科学科	中学校教諭一種免許状(理科)(技術) 高等学校教諭一種免許状(理科)(工業)
医療福祉工学部	医療福祉工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
	健康スポーツ科学科	中学校教諭一種免許状(保健体育) 高等学校教諭一種免許状(保健体育)
情報通信工学部	情報工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
	通信工学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(工業)(情報)
総合情報学部	デジタルアート・アニメーション学科	高等学校教諭一種免許状(情報)
	情報学科	中学校教諭一種免許状(数学) 高等学校教諭一種免許状(数学)(情報)

- 前項の教育職員免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、第25条に定める卒業の要件を満たすほか、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び同法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 前項に定める資格を得るための履修方法は、別に定める。

第6章 科目履修生、研究生及び外国人留学生等

(科目履修生)

第28条 本学において特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、科目履修生として入学を許可することがある。

2 科目履修生について必要な事項は、別に定める。

(聴講生)

第28条の2 本学において特定の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生について必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第29条 本学において特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない限り、学部教授会で選考のうえ、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生について必要な事項は、別に定める。

(外国人留学生)

第30条 外国人で本学に入学を志願する者があるときは、運営会議で選考のうえ、外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生について必要な事項は、別に定める。

第7章 学費及びその他の費用

(学費)

第31条 入学金及び学費の金額は別表第4のとおりとする。

(その他の費用)

第32条 学費の他学習等に必要の費用は、別にこれを徴収することがある。

(学費等の納入)

第33条 学費及びその他の費用の納入については、別に定める。

(休学の場合の学費)

第34条 休学期間中の者については学費を免除し、在籍料を徴収する。

2 在籍料については、別に定める。

(既納の学費等)

第35条 既納の学費等は原則としてこれを返付しない。

第8章 賞罰

(表彰)

第36条 次の各号のいずれかに該当する者に対し、学部長は学部教授会の議を経て、これを賞することがある。

- (1) 成績特に優秀なる者
- (2) 品行方正にして他学生の模範となる者

(懲戒)

第37条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、学部教授会の議を十分に考慮した上で、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

停学の期間は在学年数に算入しない。

3 前項の退学は、次の各号のいずれかに該当する者についてこれを行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由なくして、出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第9章 職員組織

(職員)

第38条 本学の職員の種類は次のとおりとする。

学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員、用務員

2 学長は、人格が高潔で、学識が優れ、かつ、大学運営に関し識見を有する者であって、校務を掌り所属職員を統督する。

3 教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

4 准教授は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

5 講師は、教授又は准教授に準ずる。

6 助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有し、かつ、大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

7 助手は、その所属する組織における教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。

8 事務職員は学内の事務の処理にあたる。

9 技術職員は学生に対し、実験、実習等の技術上の指導及び設備又は機器等の管理並びに整理にあたる。

10 用務員は学内の雑務の処理に従事する。

第38条の2 本学に必要な応じて副学長を置くことができる。

2 副学長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の管理運営に関する重要な事項についての企画及び各部門間の調整を行う。

第38条の3 学部に学部長をおき、教授をもって充てる。

2 学部長は、学長を補佐し、その命を受けて本学の教学運営業務を遂行し、各学部内の業務を処理するとともに、各学部に所属する職員を指揮監督する。

(事務組織)

第39条 本学に、庶務、会計及び施設に関する事務を処理するため事務局を、学生の厚生補導に関する事務を処理するため学生部を、学生の就職に関する事務を処理するため就職部を、大学の教務に関する事務を処理するため教務部を、大学の入学試験及び入試広報に関する事務を処理するため入試部をおく。

2 事務局に事務局長をおき事務職員をもって、学生部に学生部長をおき教授又は事務職員をもって、就職部に就職部長をおき教授又は事務職員をもって、教務部に教務部長をおき教授又は事務職員をもって、入試部に入試部長をおき教授又は事務職員をもって充てる。

3 事務局長、学生部長、就職部長、教務部長及び入試部長は、学長の監督の下に、それぞれの事務を掌理する。

第39条の2 削除

第10章 運営組織

(運営会議)

第40条 本学に、運営会議をおく。

2 運営会議は、大学及び大学院の運営に関する全学的事項を審議し、学長の意思決定の円滑化を図る。

3 運営会議に関する事項は、別に定める。

(学部教授会)

第41条 本学の各学部に、学部教授会をおく。

2 学部教授会は、学部の運営に関する事項を審議し、学長が決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

3 学部教授会に関する事項は、別に定める。

第42条 削除

第42条の2 削除

第43条 削除

第11章 附属施設

(図書館)

第44条 本学に図書館をおく。

2 図書館に館長をおき教授をもって充てる。

- 3 図書館長は学長の統督の下に図書館の管理運営にあたる。
- 4 その他図書館について必要な事項は、別に定める。

(国際交流センター)

第44条の2 本学に海外の大学等の高等教育機関及び学生と本学との国際交流並びに留学生の修学支援を行うため国際交流センターをおく。

- 2 国際交流センターにセンター長をおき教授をもって充てる。
- 3 センター長は学長の統督の下に国際交流センターの管理運営にあたる。
- 4 その他国際交流センターについて必要な事項は、別に定める。

(教育開発推進センター)

第44条の3 本学に教育力の向上並びに教育活動の点検と評価の推進のため教育開発推進センター(以下「センター」という。)をおく。

- 2 センターにセンター長をおき教授をもって充てる。
- 3 センター長は学長の統督の下にセンターの管理運営にあたる。
- 4 その他センターについて必要な事項は、別に定める。

(総合学生支援センター)

第44条の4 本学に学生の生活支援及び障がいをもった学生の修学支援を行うため総合学生支援センターをおく。

- 2 総合学生支援センターにセンター長をおき教授をもって充てる。
- 3 センター長は学長の統督の下に総合学生支援センターの管理運営にあたる。
- 4 その他総合学生支援センターについて必要な事項は、別に定める。

(メディアコミュニケーションセンター)

第45条 本学の情報ネットワークサービスに関する次の各号の業務を行うため、本学にメディアコミュニケーションセンターをおく。

- (1) 教育、研究に必要なコンピュータ及び情報ネットワークサービス
 - (2) コンピュータ及び情報ネットワークサービスの充実を図るための企画・開発
 - (3) その他学長が必要と認めた業務
- 2 メディアコミュニケーションセンターにセンター長、副センター長及び必要な職員をおく。
 - 3 センター長は教授をもって充てる。
 - 4 その他メディアコミュニケーションセンターに関し、必要な事項は別に定める。

第45条の2 削除

(エレクトロニクス基礎研究所)

第45条の3 エレクトロニクスの基礎分野に関する次の各号の業務を行うため、本学にエレクトロニクス基礎研究所(以下「FERI」という。)をおく。

- (1) 教育研究に必要な機器の共同利用サービス
- (2) エレクトロニクス素子素材等に関する研究及びその推進に必要な業務
- (3) その他学長が必要と認めた業務

- 2 FERIに所長及び必要な職員をおく。
- 3 所長は教授をもって充てる。
- 4 その他FERIに関し必要な事項は、別に定める。

(衛星通信研究施設)

第45条の4 衛星通信に関する研究を推進するため、情報通信工学部に衛星通信研究施設を設ける。

- 2 衛星通信研究施設に関し必要な事項は、別に定める。

(メカトロニクス基礎研究所)

第45条の5 メカトロニクスの基礎分野に関する研究を推進するため、本学にメカトロニクス基礎研究所(以下「MERI」という。)を設ける。

- 2 MERIに所長及び必要な職員をおく。
- 3 所長は教授をもって充てる。
- 4 その他MERIに関し必要な事項は、別に定める。

(情報学研究所)

第45条の6 情報学に関する研究を推進するため、本学に情報学研究所(以下「II」という。)を設ける。

- 2 IIに所長及び必要な職員をおく。
- 3 所長は教授をもって充てる。
- 4 その他、IIに関し必要な事項は、別に定める。

(実験センター)

第45条の7 実験科目の教育等に関する業務を行うため、本学に実験センターを設ける。

- 2 実験センターにセンター長をおく。
- 3 センター長は、教授をもって充てる。
- 4 その他、実験センターに関し必要な事項は、別に定める。

(研究連携推進センター)

第45条の8 本学に研究連携活動を活性化させるため、研究連携推進センターをおく。

- 2 研究連携推進センターにセンター長をおき教授をもって充てる。
- 3 センター長は学長の統督の下に研究連携推進センターの管理運営にあたる。
- 4 その他研究連携推進センターに関し必要な事項は、別に定める。

(地域連携推進センター)

第45条の9 本学に地域連携活動を活性化させるため、地域連携推進センターをおく。

- 2 地域連携推進センターにセンター長をおき教授をもって充てる。
- 3 センター長は学長の統督の下に地域連携推進センターの管理運営にあたる。
- 4 その他地域連携推進センターに関し必要な事項は、別に定める。

(保健施設)

第46条 本学の職員並びに学生の健康診断、健康相談、救急処置等を行うため医務室を設ける。

第12章 その他

(施行細則)

第47条 本学則の施行に必要な細則は、別に定める。

(学則の改訂)

第48条 本学則の改正は、学部教授会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が理事長に上程し、常任理事会での審議を経て理事会で決定する。

附 則 1

本学則は昭和36年4月1日からこれを施行する。

昭和40年3月20日改正

昭和40年4月1日施行

昭和49年3月4日改正

昭和49年4月1日施行

昭和50年4月1日改正・施行

昭和52年4月1日改正・施行

昭和53年4月1日改正・施行

昭和54年4月1日改正・施行

昭和55年4月1日改正・施行

昭和55年10月31日改正・施行

昭和56年4月1日改正・施行

昭和57年4月1日改正・施行

昭和58年4月1日改正・施行

昭和59年4月1日改正・施行

昭和60年4月1日改正・施行

昭和60年6月13日改正・施行

昭和61年4月1日改正・施行

昭和62年4月1日改正・施行

昭和63年4月1日改正・施行

平成元年4月1日改正・施行

平成2年4月1日改正・施行

平成3年4月1日改正・施行

平成4年4月1日改正・施行

平成5年4月1日改正・施行

平成6年4月1日改正・施行

平成7年4月1日改正・施行

平成8年4月1日改正・施行

平成9年4月1日改正・施行

平成10年4月1日改正・施行

平成10年11月1日改正・施行

平成11年4月1日改正・施行

平成12年4月1日改正・施行

平成13年4月1日改正・施行

平成14年4月1日改正・施行

附 則 2

- 1 第21条、第25条および第26条については、昭和54年度以前に入学した者、昭和55年度2年次以上に編入学または再入学した者、昭和56年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに昭和57年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 2 第21条、第25条および第26条については、昭和59年度以前に入学した者、昭和60年度2年次以上に編入学または再入学した者、昭和61年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに昭和62年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 3 第31条については、昭和60年度以前に入学、編入学または再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 4 第19条第2号については、昭和59年度以前に入学した者、昭和60年度以前に2年次以上に編入学または再入学した者、昭和61年度以前に3年次以上に編入学または再入学した者ならびに昭和62年度以前に4年次に再入学した者には適用しない。
- 5 第4条に規定する収容定員は、昭和62年度から平成元年度までの間は、次のとおりとする。

学部学科\年度		昭和62年度		昭和63年度		平成元年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	通信工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	電子物性工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	電子機械工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	経営工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	精密工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名
	応用電子工学科	120名	360名	120名	400名	120名	440名

- 6 第21条、第25条および第26条については、昭和61年度以前に入学した者、昭和62年度2年次以上に編入学または再入学した者、昭和63年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに平成元年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 7 昭和63年度以前の入学者については、学費のうち維持・拡充費を次のとおりとする。
 - (1) 昭和61～63年度入学者 288,400円
 - (2) 昭和59、60年度入学者 257,500円
 - (3) 昭和57、58年度入学者 216,300円
- 8 第21条、第22条、第25条、第26条および第27条については、平成元年度以前に入学した者、平成2年度2年次以上に編入学または再入学した者、平成3年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに平成4年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 9 第4条に規定する収容定員は、平成2年度から平成13年度までの間は、次のとおりとする。

学部学科\年度		平成2年度		平成3年度		平成4年度		平成5年度～平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	通信工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	電子物性工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	電子機械工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	経営工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
	精密工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490

応用電子工学科	130	490	130	500	130	510	130	520	120	510	120	500	120	490
---------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

10 第21条、第25条、第26条については、平成2年度以前に入学した者、平成3年度2年次以上に編入学または再入学した者、平成4年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに平成5年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。

11 第21条、第25条、第26条については、平成3年度以前に入学した者、平成4年度2年次以上に編入学または再入学した者、平成5年度3年次以上に編入学または再入学した者ならびに平成6年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。

12 第21条、第23条、第25条、第26条については、平成6年度2年次以上に在学する者、平成7年度3年次以上に在学する者ならびに平成8年度4年次に在学する者は従前の当該規定を適用する。

13 第4条に規定する収容定員は、平成7年度から平成13年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成7年度		平成8年度		平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	通信工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	電子物性工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	電子機械工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	精密工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	応用電子工学科	120	510	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	小計		720	3450	720	3260	720	3070	720	2880	660	2820	660	2760	660
情報工学部	情報工学科	190	190	190	380	190	570	190	760	180	750	180	740	180	730
合計		910	3640	910	3640	910	3640	910	3640	840	3570	840	3500	840	3430

14 経営工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成7年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

15 第4条に規定する収容定員は、平成8年度から平成13年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成8年度		平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	通信工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	電子物性工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	電子機械工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	知能機械工学科	120	120	120	240	120	360	110	470	110	460	110	450
	応用電子工学科	120	500	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450
	小計		720	3260	720	3070	720	2880	660	2820	660	2760	660
情報工学部	情報工学科	190	380	190	570	190	760	180	750	180	740	180	730
合計		910	3640	910	3640	910	3640	840	3570	840	3500	840	3430

16 精密工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成8年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

17 第4条に規定する収容定員は、平成9年度から平成14年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450	110	440
	通信工学科	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450	110	440
	電子材料工学科	120	120	120	240	110	350	110	460	110	450	110	440
	電子機械工学科	120	490	120	480	110	470	110	460	110	450	110	440
	知能機械工学科	120	240	120	360	110	470	110	460	110	450	110	440
	光システム工学科	120	120	120	240	110	350	110	460	110	450	110	440

	小計	720	3070	720	2880	660	2820	660	2760	660	2700	660	2640
情報工学部	情報工学科	190	570	190	760	180	750	180	740	180	730	180	720
合計		910	3640	910	3640	840	3570	840	3500	840	3430	840	3360

18 電子物性工学科および応用電子工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成9年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

19 工学部については、改正後の第3条にかかわらず、平成10年3月31日に当該学部に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

20 第4条に規定する収容定員は、平成11年度は次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成11年度	
学部	学科	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	120	480
	通信工学科	120	480
	電子材料工学科	120	480
	電子機械工学科	120	480
	知能機械工学科	120	480
	光システム工学科	120	480
	小計	720	2880
情報工学部	情報工学科	190	760
合計		910	3640

21 第4条に規定する収容定員は、平成12年度から平成18年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	118	478	116	474	114	468	112	460	110	452	110	446	110	442
	通信工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子材料工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子機械工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	知能機械工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	光システム工学科	110	470	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440
	小計	668	2828	666	2774	664	2718	662	2660	660	2652	660	2646	660	2642
工学部第2部	電子工学科	60	180	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	知能機械工学科	60	180	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	360	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合情報学部	情報工学科	188	758	186	754	184	748	182	740	180	732	180	726	180	722
	メディア情報文化学科	130	130	130	260	130	420	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	318	888	316	1014	314	1168	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302
合計		1106	4076	1102	4268	1098	4366	1094	4460	1090	4444	1090	4432	1090	4424

22 情報工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成12年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

23 第4条に規定する収容定員は、平成13年度から平成19年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	116	474	114	468	112	460	110	452	110	446	110	442	110	440
	通信工学科	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子材料工学科	80	430	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	知能機械工学科	90	440	90	410	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	430	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	小計	586	2694	584	2558	582	2420	580	2332	580	2326	580	2322	580	2320
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	知能機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480

総合情報学部	情報工学科	186	754	184	748	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	260	130	420	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	316	1014	314	1168	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302	310	1300
合計		1022	4188	1018	4206	1014	4220	1010	4124	1010	4112	1010	4104	1010	4100

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

24 第4条に規定する収容定員は、平成13年度から平成19年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	116	474	114	468	112	460	110	452	110	446	110	442	110	440
	通信工学科	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子材料工学科	80	430	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	110	460	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	知能機械工学科	90	440	90	410	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	430	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	医療福祉工学科	80	80	80	160	80	250	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	666	2774	664	2718	662	2670	660	2672	660	2666	660	2662	660	2660
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	知能機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合情報学部	情報工学科	186	754	184	748	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	260	130	420	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	316	1014	314	1168	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302	310	1300
合計		1102	4268	1098	4366	1094	4470	1090	4464	1090	4452	1090	4444	1090	4440

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

25 第4条に規定する収容定員は、平成14年度から平成20年度までの間は、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	114	468	112	460	110	452	110	446	110	442	110	440	110	440
	通信工学科	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	電子材料工学科	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	110	450	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440	110	440
	機械工学科	90	410	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	390	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320	80	320
	医療福祉工学科	80	160	80	250	80	340	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	664	2718	662	2670	660	2672	660	2666	660	2662	660	2660	660	2660
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480	120	480
総合情報学部	情報工学科	184	748	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720	180	720
	メディア情報文化学科	130	420	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	小計	314	1168	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302	310	1300	310	1300
合計		1098	4366	1094	4470	1090	4464	1090	4452	1090	4444	1090	4440	1090	4440

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

26 工学部第1部および工学部第2部の知能機械工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成14年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- 1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成15年度から平成19年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
学部	学科	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員
工学部第1部	電子工学科	102	450	100	432	100	416	100	402	100	400
	通信工学科	100	430	100	420	100	410	100	400	100	400
	電子材料工学科	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	430	100	420	100	410	100	400	100	400
	機械工学科	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	医療福祉工学科	80	250	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	632	2640	630	2612	630	2576	630	2542	630	2540
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
		小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120
総合情報学部	情報工学科	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
		小計	312	1320	310	1312	310	1306	310	1302	310
合計		1064	4440	1060	4404	1060	4362	1060	4324	1060	4320

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

附 則

- 1 この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成15年度から平成19年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
学部	学科	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員
工学部第1部	電子工学科	102	450	100	432	100	416	100	402	100	400
	通信工学科	100	430	100	420	100	410	100	400	100	400
	電子材料工学科	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	430	100	420	100	410	100	400	100	400
	機械工学科	90	380	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	350	80	320	80	320	80	320	80	320
	医療福祉工学科	80	250	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	632	2640	630	2612	630	2576	630	2542	630	2540
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240	60	240
		小計	120	480	120	480	120	480	120	480	120
総合情報学部	情報工学科	182	740	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580	130	580
	デジタルゲーム学科	110	110	110	220	110	360	110	500	110	500
		小計	422	1430	420	1532	420	1666	420	1802	420
合計		1174	4550	1170	4624	1170	4722	1170	4824	1170	4820

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は期間付定員を含む。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年9月16日から施行する。

附 則

- この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 平成15年度末に工学部第1部医療福祉工学科に在籍中の学生すべてを平成16年度から医療福祉工学部医療福祉工学科学生とする。
- 第4条に規定する収容定員は、平成16年度から平成19年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	432	100	416	100	402	100	400
	通信工学科	100	420	100	410	100	400	100	400
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	420	100	410	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	小計	550	2272	550	2236	550	2202	550	2200
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	80	340	80	340	80	340	80	340
総合情報学部	情報工学科	180	732	180	726	180	722	180	720
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580
	デジタルゲーム学科	110	220	110	360	110	500	110	500
	小計	420	1532	420	1666	420	1802	420	1800
合計		1170	4624	1170	4722	1170	4824	1170	4820

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は、期間付定員を含む。

附 則

- この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1—5については、平成15年度以前に入学した者、平成16年度に2年次以上に編入学または再入学した者、平成17年度に3年次以上に編入学または再入学した者および平成18年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成17年度から平成20年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	416	100	402	100	400	100	400
	通信工学科	100	410	100	400	100	400	100	400
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	410	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	小計	550	2236	550	2202	550	2200	550	2200
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240

	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	380	120	420	120	460	120	500
	小計	120	380	120	420	120	460	120	500
総合情報学部	情報工学科	180	726	180	722	180	720	180	720
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580
	デジタルゲーム学科	110	360	110	500	110	500	110	500
	小計	420	1666	420	1802	420	1800	420	1800
合計		1210	4762	1210	4904	1210	4940	1210	4980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は、期間付定員を含む。

附 則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成17年度から平成20年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	416	100	402	100	400	100	400
	通信工学科	—	310	—	200	—	100	—	—
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	410	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	小計	370	2,056	370	1,842	370	1,660	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	60	240	60	240	60	240	60	240
	機械工学科	60	240	60	240	60	240	60	240
	小計	120	480	120	480	120	480	120	480
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	340	80	340	80	340	80	340
	小計	80	340	80	340	80	340	80	340
情報通信工学部	情報工学科	180	180	180	360	180	540	180	720
	通信工学科	100	100	100	200	100	300	100	400
	光システム工学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	小計	360	360	360	720	360	1,080	360	1,440
総合情報学部	情報工学科	—	546	—	362	—	180	—	—
	メディア情報文化学科	130	580	130	580	130	580	130	580
	デジタルゲーム学科	110	360	110	500	110	500	110	500
	小計	240	1,486	240	1,442	240	1,260	240	1,080
合計		1,170	4,722	1,170	4,824	1,170	4,820	1,170	4,820

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は、期間付定員を含む。

- 工学部第1部通信工学科および光システム工学科ならびに総合情報学部情報工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成17年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成17年度から平成20年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員

工学部第1部	電子工学科	100	416	100	402	100	400	100	400
	通信工学科	—	310	—	200	—	100	—	—
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	410	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	小計	370	2,056	370	1,842	370	1,660	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	40	220	40	200	40	180	40	160
	機械工学科	40	220	40	200	40	180	40	160
	小計	80	440	80	400	80	360	80	320
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	380	120	420	120	460	120	500
	小計	120	380	120	420	120	460	120	500
情報通信工学部	情報工学科	180	180	180	360	180	540	180	720
	通信工学科	100	100	100	200	100	300	100	400
	光システム工学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	小計	360	360	360	720	360	1,080	360	1,440
総合情報学部	情報工学科	—	546	—	362	—	180	—	—
	メディア情報文化学科	100	550	100	520	100	490	100	460
	デジタルゲーム学科	110	360	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータシステム学科	70	70	70	140	70	210	70	280
	小計	280	1,526	280	1,522	280	1,380	280	1,240
合計	1,210	4,762	1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度までの収容定員は、期間付定員を含む。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	小計	370	1,842	370	1,660	370	1,480	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	機械工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	小計	80	400	80	360	80	320	80	320
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	小計	120	420	120	460	120	500	120	500
情報通信工学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	100	200	100	300	100	400	100	400
	光システム工学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	360	720	360	1,080	360	1,440	360	1,440

総合情報学部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	420	—	290	—	130	—	—
	デジタルアート・アニメーション学科	100	100	100	200	100	330	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータシステム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
合計		1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

- 3 総合情報学部メディア情報文化学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
 2 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	応用化学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	小計	370	1,842	370	1,660	370	1,480	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	機械工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	小計	80	400	80	360	80	320	80	320
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	小計	120	420	120	460	120	500	120	500
情報通信工学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	100	200	100	300	100	400	100	400
	光システム工学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	360	720	360	1,080	360	1,440	360	1,440
総合情報学部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	100	520	100	490	100	460	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータシステム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
合計		1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

- 3 工学部第1部電子材料工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
 2 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
----------	--------	--------	--------	--------

学部	学科	入学	収容	入学	収容	入学	収容	入学	収容
		定員	定員	定員	定員	定員	定員	定員	定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	80	320	80	320	80	320	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	小計	370	1,842	370	1,660	370	1,480	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	20	180	20	140	20	100	20	80
	機械工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	小計	60	380	60	320	60	260	60	240
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	理学療法学科	40	40	40	80	40	120	40	160
	小計	160	460	160	540	160	620	160	660
情報通信工学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	80	180	80	260	80	340	80	320
	光システム工学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	340	700	340	1,040	340	1,380	340	1,360
総合情報学部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	100	520	100	490	100	460	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータシステム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
合計		1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

附 則

- この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
学部	学科	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	応用化学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
小計		370	1,842	370	1,660	370	1,480	370	1,480
工学部第2部	電子工学科	20	180	20	140	20	100	20	80
	機械工学科	40	200	40	180	40	160	40	160
	小計	60	380	60	320	60	260	60	240
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	理学療法学科	40	40	40	80	40	120	40	160
	小計	160	460	160	540	160	620	160	660
情報通信工学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	80	180	80	260	80	340	80	320
	光システム工学科	—	80	—	80	—	80	—	—
	光・エレクトロニクス学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	小計	340	700	340	1,040	340	1,380	340	1,360
総合情報学部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	420	—	290	—	130	—	—
	デジタルアート・アニメーション学科	100	100	100	200	100	330	100	460

	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータシステム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
合計		1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

- 3 情報通信工学部光システム工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
 2 第4条に規定する収容定員は、平成18年度から平成21年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
学部	学科	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
工学部第1部	電子工学科	100	402	100	400	100	400	100	400
	通信工学科	—	200	—	100	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	240	—	160	—	80	—	—
	応用化学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	電子機械工学科	100	400	100	400	100	400	100	400
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	環境技術学科	60	60	60	120	60	180	60	240
	小計	430	1,902	430	1,780	430	1,660	430	1,720
工学部第2部	電子工学科	—	160	—	100	—	40	—	—
	機械工学科	—	160	—	100	—	40	—	—
	小計	—	320	—	200	—	80	—	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	420	120	460	120	500	120	500
	理学療法学科	40	40	40	80	40	120	40	160
	小計	160	460	160	540	160	620	160	660
情報通信工学部	情報工学科	180	360	180	540	180	720	180	720
	通信工学科	80	180	80	260	80	340	80	320
	光システム工学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	340	700	340	1,040	340	1,380	340	1,360
総合情報学部	情報工学科	—	362	—	180	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	420	—	290	—	130	—	—
	デジタルアート・アニメーション学科	100	100	100	200	100	330	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータシステム学科	70	140	70	210	70	280	70	280
	小計	280	1,522	280	1,380	280	1,240	280	1,240
合計		1,210	4,904	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980

(注) 工学部第1部電子工学科および総合情報学部情報工学科の平成18年度の収容定員は、期間付定員を含む。

- 3 工学部第2部電子工学科および機械工学科については、改正後の第3条にかかわらず、平成18年3月31日に当該学科に在学する者が、存在しなくなるまでの間、従前の学則を存続する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
 2 改正後の規定にかかわらず、平成17年度以前に入学した者、平成18年度に2年次以上に編入学、再入学、転部または転科した者、平成19年度に3年次以上に編入学、再入学、転部または転科した者および平成20年度に4年次に編入学または再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成19年度から平成22年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
学部	学科	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員
工学部第1部	電子工学科	90	390	90	380	90	370	90	360
	通信工学科	—	100	—	—	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	応用化学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	電子機械工学科	90	390	90	380	90	370	90	360
	機械工学科	90	360	90	360	90	360	90	360
	光システム工学科	—	80	—	—	—	—	—	—
	環境技術学科	60	120	60	180	60	240	60	240
	基礎理工学科	40	40	40	80	40	120	40	160
小計	450	1,800	450	1,700	450	1,780	450	1,800	
工学部第2部	電子工学科	—	100	—	40	—	—	—	—
	機械工学科	—	100	—	40	—	—	—	—
	小計	—	200	—	80	—	—	—	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	460	120	500	120	500	120	500
	理学療法学科	40	80	40	120	40	160	40	160
	小計	160	540	160	620	160	660	160	660
情報通信工学部	情報工学科	160	520	160	680	160	660	160	640
	通信工学科	80	260	80	340	80	320	80	320
	光システム工学科	—	80	—	80	—	—	—	—
	光・エレクトロニクス学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	320	1,020	320	1,340	320	1,300	320	1,280
総合情報学部	情報工学科	—	180	—	—	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	290	—	130	—	—	—	—
	デジタルアート・アニメーション学科	100	200	100	330	100	460	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータシステム学科	70	210	70	280	70	280	70	280
	小計	280	1,380	280	1,240	280	1,240	280	1,240
合計	1,210	4,940	1,210	4,980	1,210	4,980	1,210	4,980	

附 則

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成19年度から平成22年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度	
学部	学科	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員	入学 定員	収容 定員
工学部	電子工学科	90	90	90	180	90	270	90	360
	応用化学科	80	80	80	160	80	240	80	320
	電子機械工学科	90	90	90	180	90	270	90	360
	機械工学科	90	90	90	180	90	270	90	360
	環境技術学科	60	60	60	120	60	180	60	240
	基礎理工学科	40	40	40	80	40	120	40	160
	小計	450	450	450	900	450	1350	450	1800
工学部第1部	電子工学科	—	300	—	200	—	100	—	—
	通信工学科	—	100	—	—	—	—	—	—
	電子材料工学科	—	160	—	80	—	—	—	—
	応用化学科	—	80	—	80	—	80	—	—
	電子機械工学科	—	300	—	200	—	100	—	—
	機械工学科	—	270	—	180	—	90	—	—
	光システム工学科	—	80	—	—	—	—	—	—
	環境技術学科	—	60	—	60	—	60	—	—

	小計	—	1350	—	800	—	430	—	—
工学部第2部	電子工学科	—	100	—	40	—	—	—	—
	機械工学科	—	100	—	40	—	—	—	—
	小計	—	200	—	80	—	—	—	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	120	460	120	500	120	500	120	500
	理学療法学科	40	80	40	120	40	160	40	160
	小計	160	540	160	620	160	660	160	660
情報通信工学部	情報工学科	160	520	160	680	160	660	160	640
	通信工学科	80	260	80	340	80	320	80	320
	光システム工学科	—	80	—	80	—	—	—	—
	光・エレクトロニクス学科	80	160	80	240	80	320	80	320
	小計	320	1020	320	1340	320	1300	320	1280
総合情報学部	情報工学科	—	180	—	—	—	—	—	—
	メディア情報文化学科	—	290	—	130	—	—	—	—
	デジタルアート・アニメーション学科	100	200	100	330	100	460	100	460
	デジタルゲーム学科	110	500	110	500	110	500	110	500
	メディアコンピュータシステム学科	70	210	70	280	70	280	70	280
	小計	280	1380	280	1240	280	1240	280	1240
合計		1210	4940	1210	4980	1210	4980	1210	4980

- 3 工学部第1部については、改正後の規定にかかわらず、平成19年3月31日に当該学部に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を適用する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
 2 第4条に規定する収容定員は、平成20年度から平成22年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成20年度			平成21年度			平成22年度		
学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員
工学部	電子工学科	90	—	180	90	—	270	90	—	360
	応用化学科	80	—	160	80	—	240	80	—	320
	電子機械工学科	90	—	180	90	—	270	90	—	360
	機械工学科	90	—	180	90	—	270	90	—	360
	環境技術学科	60	—	120	60	—	180	60	—	240
	基礎理工学科	40	—	80	40	—	120	40	—	160
	小計		450	—	900	450	—	1,350	450	—
工学部第1部	電子工学科	—	—	200	—	—	100	—	—	—
	電子材料工学科	—	—	80	—	—	—	—	—	—
	応用化学科	—	—	80	—	—	80	—	—	—
	電子機械工学科	—	—	200	—	—	100	—	—	—
	機械工学科	—	—	180	—	—	90	—	—	—
	環境技術学科	—	—	60	—	—	60	—	—	—
	小計		—	—	800	—	—	430	—	—
工学部第2部	電子工学科	—	—	40	—	—	—	—	—	—
	機械工学科	—	—	40	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	80	—	—	—	—	—	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	10	460	80	10	420	80	5	375
	理学療法学科	40	—	120	40	—	160	40	—	160

	健康スポーツ科学科	70	—	70	70	—	140	70	5	215
	小計	190	10	650	190	10	720	190	10	750
情報通信工学部	情報工学科	160	—	680	160	—	660	160	—	640
	通信工学科	80	—	340	80	—	320	80	—	320
	光システム工学科	—	—	80	—	—	—	—	—	—
	光・エレクトロニクス学科	—	—	160	—	—	160	—	—	80
	小計	240	—	1,260	240	—	1,140	240	—	1,040
総合情報学部	メディア情報文化学科	—	—	130	—	—	—	—	—	—
	デジタルアート・アニメーション学科	100	30	330	100	30	460	100	30	460
	デジタルゲーム学科	130	30	520	130	30	540	130	30	560
	メディアコンピュータシステム学科	100	—	310	100	—	340	100	—	370
	小計	330	60	1,290	330	60	1,340	330	60	1,390
合計		1,210	70	4,980	1,210	70	4,980	1,210	70	4,980

3 大阪電気通信大学情報通信工学部光・エレクトロニクス学科は、改正後の規定にかかわらず、平成20年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

- この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 第31条については、平成19年度以前に入学、編入学または再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1-2、別表第1-6及び別表第1-7にかかわらず、各学科に平成19年度以前に入学した者、平成20年度に2年次以上に再入学、転部又は転科した者、平成21年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成22年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成20年10月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成21年度から平成23年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成21年度			平成22年度			平成23年度					
学部	学科	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員
工学部	電子工学科	80	—	—	260	80	—	—	340	80	—	—	330
	応用化学科	60	—	—	220	60	—	—	280	60	—	—	260
	電子機械工学科	80	—	—	260	80	—	—	340	80	—	—	330

	機械工学科	80	—	—	260	80	—	—	340	80	—	—	330
	環境技術学科	60	—	—	180	60	—	—	240	60	—	—	240
	基礎理工学科	40	—	—	120	40	—	—	160	40	—	—	160
	小計	400	—	—	1,300	400	—	—	1,700	400	—	—	1,650
工学部第1部	電子工学科	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—
	応用化学科	—	—	—	80	—	—	—	—	—	—	—	—
	電子機械工学科	—	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—
	機械工学科	—	—	—	90	—	—	—	—	—	—	—	—
	環境技術学科	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	—	430	—	—	—	—	—	—	—	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	—	10	420	80	—	5	375	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	—	140	70	—	5	215	70	—	5	290
	小計	190	—	10	720	190	—	10	750	190	—	10	780
情報通信工学部	情報工学科	160	—	—	660	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	光・エレクトロニクス学科	—	—	—	160	—	—	—	80	—	—	—	—
	小計	240	—	—	1,140	240	—	—	1,040	240	—	—	960
総合情報学部	デジタルアート・アニメーション学科	100	15	5	450	100	15	5	440	100	15	5	455
	デジタルゲーム学科	110	15	5	510	110	15	5	500	110	15	5	515
	メディアコンピュータシステム学科	90	—	—	330	90	—	—	350	90	—	—	370
	小計	300	30	10	1,290	300	30	10	1,290	300	30	10	1,340
金融経済学部	アセット・マネジメント学科	80	—	—	80	80	—	—	160	80	—	—	270
合計		1,210	30	20	4,960	1,210	30	20	4,940	1,210	30	50	5,000

附 則

1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成21年度から平成23年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成21年度			平成22年度			平成23年度		
学部	学科	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	入学 定員	編入学 定員	収容 定員
工学部	電気電子工学科	90	—	90	90	—	180	90	—	270
	電子工学科	—	—	180	—	—	180	—	—	90
	応用化学科	80	—	240	80	—	320	80	—	320
	電子機械工学科	90	—	270	90	—	360	90	—	360
	機械工学科	90	—	270	90	—	360	90	—	360
	環境技術学科	60	—	180	60	—	240	60	—	240
	基礎理工学科	40	—	120	40	—	160	40	—	160
	小計	450	—	1,350	450	—	1,800	450	—	1,800
工学部第1部	電子工学科	—	—	100	—	—	—	—	—	—
	応用化学科	—	—	80	—	—	—	—	—	—
	電子機械工学科	—	—	100	—	—	—	—	—	—
	機械工学科	—	—	90	—	—	—	—	—	—
	環境技術学科	—	—	60	—	—	—	—	—	—
	小計	—	—	430	—	—	—	—	—	—
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	10	420	80	5	375	80	5	330
	理学療法学科	40	—	160	40	—	160	40	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	140	70	5	215	70	5	290
	小計	190	10	720	190	10	750	190	10	780
情報通信工学部	情報工学科	160	—	660	160	—	640	160	—	640
	通信工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	光・エレクトロニクス学科	—	—	160	—	—	80	—	—	—
	小計	240	—	1,140	240	—	1,040	240	—	960
総合情報学部	デジタルアート・アニメーション学科	100	30	460	100	30	460	100	30	460
	デジタルゲーム学科	130	30	540	130	30	560	130	30	580
	メディアコンピュータシステム学科	100	—	340	100	—	370	100	—	400
	小計	330	60	1,340	330	60	1,390	330	60	1,440

合計	1,210	70	4,980	1,210	70	4,980	1,210	70	4,980
----	-------	----	-------	-------	----	-------	-------	----	-------

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 医療福祉工学部医療福祉工学科については、改正後の別表第4の規定にかかわらず、平成21年3月31日に当該学科に在学する者には従前の規定を適用する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1—1第3号及び別表第1—8については、平成21年3月31日に当該学科に在学する者、平成21年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成22年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成23年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表第1—3については、平成22年3月31日に当該学科に在学する者、平成22年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成23年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成24年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第27条及び別表第2 (2) については、平成22年3月31日に当該学科に在学する者、平成22年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成23年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成24年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。
- 3 改正後の別表第1—1 (2) については、当該学科に平成20年度に1年次に入学、再入学、転部又は転科した者、平成21年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成22年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者並びに平成23年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成22年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年2月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第4条に規定する収容定員は、平成23年度から平成25年度までの間、次のとおりとする。

3 大阪電気通信大学工学部応用化学科及び工学部環境技術学科は、改正後の規定にかかわらず、平成23年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

学部・学科\年度		平成23年度				平成24年度				平成25年度			
学部	学科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80	—	—	330	80	—	—	320	80	—	—	320
	応用化学科	—	—	—	200	—	—	—	120	—	—	—	60
	電子機械工学科	80	—	—	330	80	—	—	320	80	—	—	320
	機械工学科	80	—	—	330	80	—	—	320	80	—	—	320
	環境技術学科	—	—	—	180	—	—	—	120	—	—	—	60
	基礎理工学科	60	—	—	180	60	—	—	200	60	—	—	220
	環境科学科	100	—	—	100	100	—	—	200	100	—	—	300
	小計	400	—	—	1,650	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	—	5	330	80	—	5	330	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	5	290	70	—	5	290	70	—	5	290
	小計	190	—	10	780	190	—	10	780	190	—	10	780
情報通信工学部	情報工学科	160	—	—	640	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	小計	240	—	—	960	240	—	—	960	240	—	—	960
総合情報学部	デジタルアート・アニメーション学科	100	15	5	455	100	15	5	455	100	15	5	455
	デジタルゲーム学科	110	15	5	515	110	15	5	495	110	15	5	495
	メディアコンピュータシステム学科	90	—	—	370	90	—	—	360	90	—	—	360
	小計	300	30	10	1,340	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310
金融経済学部	アセット・マネジメント学科	80	—	30	270	80	—	30	380	80	—	30	380
合計		1,210	30	50	5,000	1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030

附 則

- この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1—1、別表第1—6、別表第1—7、別表第1—9及び別表第2にかかわらず、各学科に平成22年度以前に入学した者、平成23年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成24年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成25年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成23年7月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第2については、各学科に平成23年度以前に入学した者、平成24年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成25年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成26年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成24年6月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成25年4月1日から施行する。

2 第4条に規定する収容定員は、平成25年度から平成27年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成25年度				平成26年度				平成27年度			
学部	学科	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員
工学部	電気電子工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	応用化学科	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	電子機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	環境技術学科	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	基礎理工学科	60	—	—	220	60	—	—	240	60	—	—	240
	環境科学科	100	—	—	300	100	—	—	400	100	—	—	400
	小計	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	—	5	330	80	—	5	330	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	5	290	70	—	5	290	70	—	5	290
	小計	190	—	10	780	190	—	10	780	190	—	10	780
情報通信工学部	情報工学科	160	—	—	640	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	小計	240	—	—	960	240	—	—	960	240	—	—	960
総合情報学部	デジタルアート・アニメーション学科	100	15	5	455	100	15	5	455	100	15	5	455
	デジタルゲーム学科	110	15	5	495	110	15	5	495	110	15	5	495
	メディアコンピュータシステム学科	—	—	—	270	—	—	—	180	—	—	—	90
	情報学科	90	—	—	90	90	—	—	180	90	—	—	270
	小計	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310
金融経済学部	アセット・マネジメント学科	80	—	30	380	80	—	30	380	80	—	30	380
	小計	80	—	30	380	80	—	30	380	80	—	30	380
合計		1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030

3 大阪電気通信大学総合情報学部メディアコンピュータシステム学科は、改正後の規定にかかわらず、平成25年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1—10については、平成24年度以前に入学した者、平成25年度に2年次以上に編入学、再入学又は転部した者、平成26年度に3年次以上に編入学、再入学又は転部した者及び平成27年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成26年度から平成28年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成26年度				平成27年度				平成28年度			
学部	学科	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員	入学 定員	2年次 編入学 定員	3年次 編入学 定員	収容 定員

工学部	電気電子工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	応用化学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	電子機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	環境技術学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	基礎理工学科	60	—	—	240	60	—	—	240	60	—	—	240
	環境科学科	100	—	—	400	100	—	—	400	100	—	—	400
小計	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600	
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	—	5	330	80	—	5	330	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	5	290	70	—	5	290	70	—	5	290
小計	190	—	10	780	190	—	10	780	190	—	10	780	
情報通信工学部	情報工学科	160	—	—	640	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
小計	240	—	—	960	240	—	—	960	240	—	—	960	
総合情報学部	デジタルアート・アニメーション学科	100	15	5	455	100	15	5	455	100	15	5	455
	デジタルゲーム学科	110	15	5	495	110	15	5	495	110	15	5	495
	メディアコンピュータシステム学科	—	—	—	180	—	—	—	90	—	—	—	—
	情報学科	90	—	—	180	90	—	—	270	90	—	—	360
小計	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310	
金融経済学部	アセット・マネジメント学科	—	—	30	300	—	—	30	220	—	—	—	110
	資産運用学科	80	—	—	80	80	—	—	160	80	—	30	270
小計	80	—	30	380	80	—	30	380	80	—	30	380	
合計		1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030	1,210	30	50	5,030

3 大阪電気通信大学金融経済学部アセット・マネジメント学科は、改正後の規定にかかわらず、平成26年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則

この学則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成27年2月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成27年度から平成29年度までの間、次のとおりとする。
- 大阪電気通信大学総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科は、改正後の規定にかかわらず、平成27年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

学部・学科\年度		平成27年度				平成28年度				平成29年度			
学部	学科	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	電子機械工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	機械工学科	90	—	—	330	90	—	—	340	90	—	—	350
	基礎理工学科	60	—	—	240	60	—	—	240	60	—	—	240
	環境科学科	90	—	—	390	90	—	—	380	90	—	—	370
	小計	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600	400	—	—	1,600
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	—	5	330	80	—	5	330	80	—	5	330
	理学療法学科	40	—	—	160	40	—	—	160	40	—	—	160
	健康スポーツ科学科	70	—	5	290	70	—	5	290	70	—	5	290
	小計	190	—	10	780	190	—	10	780	190	—	10	780

情報通信工学部	情報工学科	160	—	—	640	160	—	—	640	160	—	—	640
	通信工学科	80	—	—	320	80	—	—	320	80	—	—	320
	小計	240	—	—	960	240	—	—	960	240	—	—	960
総合情報学部	デジタルアート・アニメーション学科	—	15	5	355	—	—	5	240	—	—	—	120
	デジタルゲーム学科	210	15	5	595	210	30	5	710	210	30	10	830
	メディアコンピュータシステム学科	—	—	—	90	—	—	—	—	—	—	—	—
	情報学科	90	—	—	270	90	—	—	360	90	—	—	360
	小計	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310	300	30	10	1,310
金融経済学部	アセット・マネジメント学科	—	—	30	220	—	—	—	110	—	—	—	—
	資産運用学科	80	—	—	160	80	—	30	270	80	—	30	380
	小計	80	—	30	380	80	—	30	380	80	—	30	380
合計		1,210	30	5,030	1,210	30	5,030	1,210	30	5,030	1,210	30	5,030

附 則

- この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1-1、1-2及び1-6については、平成26年度以前に入学した者、平成27年度に2年次以上に編入学、再入学又は転部した者、平成28年度に3年次以上に編入学、再入学又は転部した者及び平成29年度に4年次に編入学、再入学又は転部した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第2については、各学科に平成26年度以前に入学した者、平成27年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成28年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成29年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1-4については、当該学科に平成27年度以前に入学した者、平成28年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成29年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成30年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1-3及び別表第1-5については、当該学科に平成27年度以前に入学した者、平成28年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成29年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成30年度に4年次に編入学又は再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

この学則は、平成29年1月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 金融経済学部アセット・マネジメント学科については、改正後の規定にかかわらず、平成29年3月31日に当該学科に在学する者が、在学しなくなるまでの間、従前の学則を適用する。

附 則

- この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 改正後の別表第1-8については、当該学科に平成28年度以前に入学した者、平成29年度に2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成30年度に3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者及び平成31年度に4年次に再入学した者は、従前の当該規定を適用する。

附 則

- この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 改正後の第26条及び第27条については、平成30年度以前に入学した者、平成31年度2年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者、平成32年度3年次以上に編入学、再入学、転部又は転科した者ならびに平成33年度4年次に再入学した者は従前の当該規定を適用する。
- 第4条に規定する収容定員は、平成30年度から平成32年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科\年度		平成30年度			平成31年度			平成32年度		
学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
工学部	電気電子工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	電子機械工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	機械工学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	基礎理工学科	60	—	240	60	—	240	60	—	240
	環境科学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	建築学科	80	—	80	80	—	160	80	—	240
	小計	480	—	1,680	480	—	1,760	480	—	1,840
医療福祉工学部	医療福祉工学科	80	5	330	80	5	330	80	5	330
	理学療法学科	40	—	160	40	—	160	40	—	160
	健康スポーツ科学科	70	5	290	70	5	290	70	5	290
	小計	190	10	780	190	10	780	190	10	780
情報通信工学部	情報工学科	160	—	640	160	—	640	160	—	640
	通信工学科	80	—	320	80	—	320	80	—	320
	小計	240	—	960	240	—	960	240	—	960
総合情報学部	デジタルゲーム学科(注1)	—	—	700	—	—	450	—	—	210
	デジタルゲーム学科(注2)	140	—	140	140	—	280	140	5	425
	ゲーム&メディア学科	110	—	110	110	—	220	110	—	330
	情報学科	90	—	360	90	—	360	90	—	360
	小計	340	—	1,310	340	—	1,310	340	5	1,325
金融経済学部	資産運用学科	—	—	270	—	—	160	—	—	80
合計		1,250	10	5,000	1,250	10	4,970	1,250	15	4,985

(注1)平成29年度廃止分

(注2)平成30年度開設分

- 大阪電気通信大学総合情報学部デジタルゲーム学科及び金融経済学部資産運用学科は、改正後の規定にかかわらず、平成30年3月31日に当該学科に在学する学生が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

別表第1—1 工学部 電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、基礎理工学科

(1) 総合科目(共通)

(平成27年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	2	△	2・0				8単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群をあわせて24単位から40単位まで
		発達心理学	2	△	2・0				
		現代社会と青年の心理	2	△	0・2				
		教育制度論	2	△		2・0			
		人間形成と教育	2	△	0・2				
		現代社会と宗教	2	△		0・2			
		道徳と教育	2	△		0・2			
	文化の理解	歴史学の世界	2	△	2・0				
		日本の近代史を探究する	2	△		0・2			
		文学の世界	2	△	0・2				
		芸術の世界	2	△	2・0				
		国際コミュニケーション	2	△		2・0			
		現代社会を考える1	2	△	2・0				
		現代社会を考える2	2	△	0・2				
		異文化の理解	2	△	0・2				
		日本語上達法1	2	△	2・0				
		日本語上達法2	2	△		[2・0] [0・2]			
	社会の認識と人権	日本国憲法の理念と現実	2	△		0・2			
		社会生活と法	2	△		2・0			
		経済学の世界	2	△	2・0				
		家族のくらしと社会	2	△	0・2				
		企業社会と労働	2	△		2・0			
		政治のしくみを探究する	2	△	0・2				
	自然の認識と科学の方法	環境の科学	2	△		2・0			
		生命の科学	2	△		0・2			
		情報活用リテラシー	2	△	2・0				
		情報社会と情報倫理	2	△		0・2			
	総合ゼミナール	総合ゼミナール	2	△		[2・0] [0・2]			
外国語群	英語	基礎英語1	1	□	2・0			選択必修科目4単位以上を含み6単位以上	
		基礎英語2	1	□	0・2				
		英語リーディング1	1	□	2・0				
		英語リーディング2	1	□	0・2				
		英語リーディング3	1	□		2・0			
		英語リーディング4	1	□		0・2			
		英語リーディング5	1	□			2・0		
		英語リーディング6	1	□			0・2		
		英語スキルアップセミナー1	1	□		2・0			
		英語スキルアップセミナー2	1	□		0・2			
		英語スキルアップセミナー3	1	□			2・0		
		英語スキルアップセミナー4	1	□			0・2		
		英語スキルアップセミナー5	1	□			2・0		
		英語スキルアップセミナー6	1	□			0・2		
		英語コミュニケーション1	1	□		2・0			
		英語コミュニケーション2	1	□		0・2			
		英語コミュニケーション3	1	□			2・0		
		英語コミュニケーション4	1	□			0・2		
		英文法セミナー	1	□	2・0				
	ドイツ語	ドイツ語1	1	△	2・0				
		ドイツ語2	1	△	0・2				
		ドイツ語特別ゼミナール	1	△		2・0			

	フランス語	フランス語1	1	△	2・0						
		フランス語2	1	△	0・2						
	中国語	中国語1	1	△	2・0						
		中国語2	1	△	2・0						
		中国語3	1	△	0・2						
		中国語特別ゼミナール	1	△		2・0					
	韓国語	韓国語1	1	△	2・0						
		韓国語2	1	△	0・2						
	健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2	△		2・0				3単位以上
			スポーツ実習1	1	△	2・0					
スポーツ実習2			1	△	0・2						
スポーツ実習3			1	△			[2・0]	[0・2]			
スポーツ実習4			1	△				[2・0]	[0・2]		
キャリア形成群	キャリア形成	キャリア入門	2	○ (注2) △ (注3)	2・0					6単位以上、電気電子学科のみ、必修科目4単位を含み6単位以上	
		電気電子工学入門(注4)	2	○	2・0						
		メカトロニクス基礎演習(注5)	2	△	2・0						
		機械工学入門(注6)	2	△	2・0						
		基礎理工学入門(注7)	2	△	2・0						
		グローバル研修	2	△		0・2					
		地域連携プロジェクト入門	2	△		0・2					
		地域連携ボランティア入門	2	△		0・2					
		キャリア概論	2	△		2・0					
		キャリアデザイン演習	2	△		0・2					
		キャリア設計	2	△				2・0			
インターンシップ	2	△				0・4					

(注1) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(注2) 必選欄 ○：電気電子工学科

(注3) 必選欄 △：電子機械工学科、機械工学科、基礎理工学科

(注4) 電気電子工学科のみ配当

(注5) 電子機械工学科のみ配当

(注6) 機械工学科のみ配当

(注7) 基礎理工学科のみ配当

(2) 専門教育科目 電気電子工学科

(平成27年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数
				1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期	
基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	4	△	4・0			必修科目11単位、選択科目あわせて24単位から40単位まで
	基礎微積分1・演習	4	△	[4・0] [0・4]				
	基礎微積分2・演習	4	△	[0・4]	[4・0]			
	微分積分1・演習	4	△	4・0				
	微分積分2・演習	4	△	0・4				
	微分方程式	2	△		0・2			
	線形代数1	2	△	2・0				
	線形代数2	2	△	0・2				
	確率・統計	2	△		2・0			
	物理	物理学1・演習	4	○	4・0			
物理学・実験	3	○	0・4					

専門科目		物理学2	2	△	0・2				
		現代物理学入門	2	△		2・0			
	情報	コンピュータリテラシー1	2	△	2・0				
		コンピュータリテラシー2	2	△	0・2				
		プログラミング基礎演習	2	○	0・2				
	工学入門	基礎電気回路	2	○	2・0				
	実験	工学基礎実験	2	○	4・0				必修科目40単位、選択必修科目2単位、選択科目あわせて、56単位から80単位まで
		電気電子工学実験1	2	○		4・0			
		電気電子工学実験2	2	○		0・4			
		電気電子工学実験3	2	○			4・0		
		電気電子工学実験4	2	○			0・4		
	電気電子工学基礎	電気数学・演習	2	○	2・0				
		基礎電磁気学・演習	2	○	2・0				
		電磁気学1	2	△		2・0			
		電磁気学2	2	△		0・2			
		電気電子設計製図	2	△			2・0		
	電気・電子回路	電気回路1	2	○	0・2				
		電気回路2	2	△		0・2			
		基礎電子回路	2	○		2・0			
		電気回路演習	2	○		2・0			
		電子回路演習	2	□		0・2			
		デジタル電子回路	2	△			2・0		
		アナログ電子回路	2	△			0・2		
		LSI設計工学	2	△			2・0		
	エネルギー・電気応用	画像・映像工学	2	△			0・2		
		電気機器	2	△			2・0		
		パワーエレクトロニクス応用	2	△			0・2		
		パワーエレクトロニクス・演習	2	△			0・2		
		音響工学	2	△			0・2		
		電気法規と施設管理	2	△				2・0	
		送配電工学	2	△			0・2		
情報	プログラム演習1	2	○		2・0				
	プログラム演習2	2	□		0・2				
	コンピュータ・ハードウェア	2	△		0・2				
	ハードウェア設計演習	2	△			0・2			
	情報工学1	2	○	0・2					
	情報工学2	2	△		2・0				
	情報工学3	2	△			2・0			
	コンピュータ・ソフトウェア・演習	2	△			0・2			
計測制御	制御工学・演習	2	○			2・0			
	ロボット制御	2	△			2・0			
	デジタル信号処理	2	△			0・2			
	計測・センサ工学	2	△		0・2				
	電磁波工学	2	△			0・2			
	信号システム理論特論	2	△				0・2		
電子・光デバイス	固体物理学・演習	2	○		0・2				
	半導体工学・演習	2	○		2・0				
	電気電子材料	2	△			0・2			
	半導体デバイス	2	△			2・0			
	光エレクトロニクス	2	△			2・0			
	量子物理学	2	△			2・0			
	半導体デバイス工学	2	△				2・0		
その他	特別ゼミナール1	2	△		2・0				
	特別ゼミナール2	2	△		0・2				
	電気電子連携講座	2	△			0・2			
	プレゼミナール	2	○			0・2			
	知的財産権	2	△			2・0			
	電気電子工学創成演習	2	△			0・2			
	卒業研究	8	○				◎・◎		

(注) 必選欄 △：選択科目

(3) 専門教育科目 電子機械工学科

(平成27年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期			
基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	4	△	4・0				必修科目5単位、選択科目あわせて、24単位から40単位まで	
		基礎微積分1・演習	4	△	[4・0] [0・4]					
		基礎微積分2・演習	4	△	[0・4]	[4・0]				
		微分積分1・演習	4	△	4・0					
		微分積分2・演習	4	△	0・4					
		微分方程式	2	△		0・2				
		線形代数1	2	△	2・0					
		線形代数2	2	△	0・2					
		確率・統計	2	△		2・0				
	物理/化学		力学1・演習	4	△	4・0				
			力学2	2	△		2・0			
			基礎物理学	2	△	0・2				
			物理学・実験	3	○	4・0				
			化学1	2	△		2・0			
			化学2	2	△		0・2			
	情報		コンピュータリテラシー1	2	△	2・0				
			コンピュータリテラシー2	2	△	0・2				
			プログラミング基礎演習	2	△	0・2				
	工学入門	基礎電気回路	2	○	2・0					
	専門科目	数理基礎	電磁気学1	2	△		2・0			
電磁気学2			2	△		0・2				
機械基礎力学		機械運動学	2	△		2・0				
		力学3	2	△		0・2				
		材料力学1	2	△		2・0				
		材料力学2	2	△		0・2				
		熱工学	2	△				2・0		
		流体力学	2	△				2・0		
		機械モデル論	2	△			2・0			
生産・加工		工作法1	2	△		2・0				
		工作法2	2	△		0・2				
		材料工学	2	△			2・0			
		図学及び製図	1	△	0・2					
		工学基礎製図	1	△		2・0				
		CAD基礎	2	△		0・2				
		設計製図1	2	○			4・0			
		設計製図2	2	○			0・4			
電気・電子		電気回路1	2	△	0・2					
		電気回路2	2	△		2・0				
		電子回路1	2	△		0・2				
		電子回路2	2	△			2・0			
		電気回路演習	2	△	0・2					
		電子回路演習	2	△			0・2			
		デジタル回路	2	△				2・0		
		電気実験	2	○		0・4				
情報・制御		コンピュータ演習1	2	△		2・0				
		コンピュータ演習2	2	△		2・0				
		コンピュータ工学1	2	△		0・2				
		コンピュータ工学2	2	△			2・0			
	センシング論1	2	△		0・2					
	センシング論2	2	△			2・0				
	制御基礎論	2	△			2・0				

その他	システム制御工学	2	△			0・2	
	基礎工学	2	△	0・2			
	工学英語	2	△			2・0	
	知的財産権入門	2	△			2・0	
	メカトロニクス1	2	△		0・2		
	メカトロニクス2	2	△			2・0	
	ロボット工学	2	△			0・2	
	電子機械実験1	2	○			4・0	
	電子機械実験2	2	○			0・4	
	特別ゼミナール1	2	△		2・0		
	特別ゼミナール2	2	△		0・2		
	プレゼミナール	2	○			0・2	
	卒業研究	8	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(4) 専門教育科目 機械工学科

(平成27年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	4	△	4・0				必修科目3単位、選択科目あわせて24単位から40単位まで
	基礎微積分1・演習	4	△	[4・0] [0・4]					
	基礎微積分2・演習	4	△	[0・4]	[4・0]				
	微分積分1・演習	4	△	4・0					
	微分積分2・演習	4	△	0・4					
	線形代数1	2	△	2・0					
	線形代数2	2	△	0・2					
	確率・統計	2	△		2・0				
	物理／化学	力学1・演習	4	△	4・0				
	力学2	2	△	0・2					
	基礎物理学	2	△	0・2					
	物理学・実験	3	○	4・0					
	化学1	2	△		2・0				
	化学2	2	△		0・2				
情報	コンピュータリテラシー1	2	△	2・0					
コンピュータリテラシー2	2	△	0・2						
プログラミング基礎演習	2	△	0・2						
工学入門	基礎電気回路	2	△	2・0					
専門科目	機械基礎	力学・運動学	工業力学及び演習1	2	○	0・2			必修科目31単位、選択必修科目25単位以上(□Aから4単位以上、□Bから2単位以上、□Cから12単位以上、□Dから7単位以上)、選択科目あわせて56単位から80単位まで
			工業力学及び演習2	2	□C		2・0		
		機械運動学	2	□C		2・0			
		機械力学1	2	○		0・2			
		機械力学演習	2	□A		0・2			
	材料力学	材料力学2	2	□C			2・0		
	熱・流体力学	材料力学1	2	○		2・0			
		材料力学演習	2	□A		2・0			
		材料力学2	2	□C		0・2			
		流体力学1	2	○		0・2			
		流体力学演習	2	□A		0・2			
		流体力学2	2	□C			2・0		
		熱力学1	2	○		2・0			
	熱力学演習	2	□A		2・0				
	熱力学2	2	□C		0・2				
	伝熱工学	2	□C			2・0			
	計測・制御工学	計測工学	2	□D		2・0			
		制御工学1	2	○		0・2			

		制御工学演習	2	<input type="checkbox"/> A		0・2			
		制御工学2	2	<input type="checkbox"/> D			2・0		
機械材料・設計		機械材料学	2	<input type="checkbox"/> C			0・2		
		機械工作法1	2	<input type="radio"/>			2・0		
		機械工作法演習	2	<input type="checkbox"/> A			2・0		
		機械工作法2	2	<input type="checkbox"/> D			0・2		
		機械要素設計1	2	<input type="radio"/>			2・0		
		機械要素設計演習	2	<input type="checkbox"/> A			2・0		
		機械要素設計2	2	<input type="checkbox"/> D			0・2		
		機械創成	機械創成工学実習	2	<input type="checkbox"/> C			0・4	
	発展創成実習	2	<input type="checkbox"/> D				4・0		
設計・製図		図学基礎	1	<input type="checkbox"/> D	2・0				
		機械製図基礎	1	<input type="radio"/>	0・2				
		テクニカルイラストレーション	2	<input type="checkbox"/> D			0・2		
		CAD実習	1	<input type="checkbox"/> D		2・0			
		3次元CAD実習	1	<input type="checkbox"/> D		0・2			
		機械設計製図1	2	<input type="radio"/>			4・0		
		機械設計製図2	2	<input type="checkbox"/> C			0・4		
機械工学実験		機械工学実験1	2	<input type="radio"/>			4・0		
		機械工学実験2	2	<input type="radio"/>			0・4		
		電気機器学	2	<input type="checkbox"/> D			2・0		
情報		コンピュータ演習1	2	<input type="checkbox"/> D		2・0			
		コンピュータ演習2	2	<input type="checkbox"/> D		0・2			
機械応用		自動車工学	2	<input type="checkbox"/> B				2・0	
		流体機械	2	<input type="checkbox"/> B				2・0	
その他		ロボット工学	2	<input type="checkbox"/> B				2・0	
		工学倫理	2	<input type="checkbox"/> B				2・0	
		特別ゼミナール1	2	<input type="checkbox"/> D		2・0			
		特別ゼミナール2	2	<input type="checkbox"/> D		0・2			
		機械工学連携講座	2	<input type="checkbox"/> B			0・2		
		プレゼミナール	2	<input type="checkbox"/> B			0・2		
		卒業研究	8	<input type="radio"/>					◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □A、□B、□C、□D：選択必修科目 △：選択科目

(5) 専門教育科目 基礎理工学科

(平成27年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期			
基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	4	△	4・0				必修科目3単位、選択科目あわせて、24単位から40単位まで	
		基礎微積分1・演習	4	△	[4・0] [0・4]					
		基礎微積分2・演習	4	△	[0・4]	[4・0]				
		微分積分1・演習	4	△	4・0					
		微分積分2・演習	4	△	0・4					
		線形代数1	2	△	2・0					
		線形代数2	2	△	0・2					
	理科		物理学1・演習	4	△	4・0				
			物理学・実験	3	○	0・4				
			物理学2	2	△	0・2				
			現代物理学入門	2	△		2・0			
			化学1	2	△	2・0				
			化学2	2	△	0・2				
			生物学	2	△			2・0		
		地球科学	2	△		2・0				
情報		熱学	2	△			0・2			
		コンピュータリテラシー1	2	△	2・0					

		コンピュータリテラシー2	2	△	0・2				
		プログラミング基礎演習	2	△		2・0			
専門科目	数学系	複素数の数学	2	□a		2・0		必修科目16単位、選択必修科目18単位以上(□aから4単位以上、□bから8単位以上、□cから4単位以上、□dから2単位以上)、選択科目あわせて、56単位から80単位まで	
		常微分方程式	2	□a		2・0			
		離散数学	2	□a		0・2			
		ベクトル解析	2	□a			2・0		
		確率・統計1	2	□a		0・2			
		応用代数学	2	□a			2・0		
		応用幾何学	2	□a		0・2			
		フーリエ解析	2	□a			2・0		
		確率・統計2	2	□a			2・0		
		数理解析	2	□a			0・2		
		現象数理学特論	2	△					2・0
		複素解析特論	2	△					2・0
		微分方程式特論1	1	△					0・1
		微分方程式特論2	1	△					0・1
		物理系	電気回路・演習	2	□b				2・0
電気磁気基礎	2		□b	0・2					
電磁気学	2		□b		0・2				
量子物理・化学	2		□b		0・2				
光計測工学	2		□b			2・0			
一般力学	2		□b		0・2				
電磁物理学	2		□b			0・2			
物性科学	2		□b			0・2			
量子力学	2		□b			2・0			
地球物理学特論	2		△				2・0		
量子物理学特論	2		△				2・0		
現代物理学特論	2		△				0・2		
半導体工学特論1	1		△				0・1		
半導体工学特論2	1		△				0・1		
化学系	無機化学	2	□b	0・2					
	無機材料化学	2	□b			2・0			
	有機化学	2	□b		0・2				
	物理化学1	2	□b		2・0				
	物理化学2	2	□b		0・2				
	高分子化学	2	□b			2・0			
	機器分析	2	□b				2・0		
	電気化学	2	□b			0・2			
実験・演習	サイエンス実験	2	○			4・0			
	化学実験	2	○			0・4			
	応用サイエンス実験	2	□d				4・0		
	工学基礎実験	2	○	4・0					
	応用数学演習	2	□d				4・0		
	コンピュータ・シミュレーション	2	△		0・2				
	シミュレーション化学	2	△			2・0			
計測・データ処理	2	△				0・2			
融合・その他	基礎理工学ゼミナール1	2	□c			2・0			
	基礎理工学ゼミナール2	2	□c		0・2				
	基礎理工学ゼミナール3	2	□c			2・0			
	基礎理工学ゼミナール4	2	□c			0・2			
	基礎理工学ゼミナール5	2	□c				2・0		
	特別ゼミナール1	2	△			2・0			
	特別ゼミナール2	2	△		0・2				
	基礎理工学特別講義1	2	△			2・0			
	基礎理工学特別講義2	2	△			0・2			
	プレゼミナール	2	○				0・2		
	卒業研究	8	○					◎・◎	

(注) 必選欄 ○：必修科目 □a、□b、□c、□d：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—2 工学部 環境科学科

(1) 総合科目

(平成 27 年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	2	△	2・0				8単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群をあわせて24単位から40単位まで
		発達心理学	2	△	2・0				
		現代社会と青年の心理	2	△	0・2				
		教育制度論	2	△		2・0			
		人間形成と教育	2	△	0・2				
		現代社会と宗教	2	△		0・2			
		道徳と教育	2	△		0・2			
	文化の理解	歴史学の世界	2	△	2・0				
		日本の近代史を探究する	2	△		0・2			
		文学の世界	2	△	0・2				
		芸術の世界	2	△	2・0				
		国際コミュニケーション	2	△		2・0			
		現代社会を考える1	2	△	2・0				
		現代社会を考える2	2	△	0・2				
		異文化の理解	2	△	0・2				
		日本語上達法1	2	△	2・0				
		日本語上達法2	2	△		[2・0] [0・2]			
	社会の認識と人権	日本国憲法の理念と現実	2	△		0・2			
		社会生活と法	2	△		2・0			
		経済学の世界	2	△	2・0				
		家族のくらしと社会	2	△	0・2				
		企業社会と労働	2	△		2・0			
	自然の認識と科学の方法	環境の科学	2	△		2・0			
		生命の科学	2	△		0・2			
	社会とコンピュータ	情報活用リテラシー	2	△	2・0				
		情報社会と情報倫理	2	△		0・2			
	総合ゼミナール	総合ゼミナール	2	△		[2・0] [0・2]			
外国語群	英語	基礎英語1	1	△	2・0			6単位以上	
		基礎英語2	1	△	0・2				
		英語リーディング1	1	△	2・0				
		英語リーディング2	1	△	0・2				
		英語リーディング3	1	△		2・0			
		英語リーディング4	1	△		0・2			
		英語リーディング5	1	△			2・0		
		英語リーディング6	1	△			0・2		
		英語スキルアップセミナー1	1	△		2・0			
		英語スキルアップセミナー2	1	△		0・2			
		英語スキルアップセミナー3	1	△			2・0		
		英語スキルアップセミナー4	1	△			0・2		
		英語スキルアップセミナー5	1	△			2・0		
		英語スキルアップセミナー6	1	△			0・2		
		英語コミュニケーション1	1	△		2・0			
		英語コミュニケーション2	1	△		0・2			
		英語コミュニケーション3	1	△			2・0		
		英語コミュニケーション4	1	△			0・2		
		英文法セミナー	1	△	2・0				
	ドイツ語	ドイツ語1	1	△	2・0				
ドイツ語2		1	△	0・2					
ドイツ語特別ゼミナール		1	△		2・0				

	フランス語	フランス語1	1	△	2・0						
		フランス語2	1	△	0・2						
	中国語	中国語1	1	△	2・0						
		中国語2	1	△	2・0						
		中国語3	1	△	0・2						
		中国語特別ゼミナール	1	△			2・0				
	韓国語	韓国語1	1	△	2・0						
		韓国語2	1	△	0・2						
	健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2	△			2・0			3単位以上
			スポーツ実習1	1	△	2・0					
スポーツ実習2			1	△	0・2						
スポーツ実習3			1	△				[2・0] [0・2]			
スポーツ実習4			1	△					[2・0] [0・2]		
キャリア形成群	キャリア形成	キャリア入門	2	△	2・0					6単位以上	
		環境科学入門	2	△	0・2						
		グローバル研修	2	△			0・2				
		地域連携プロジェクト入門	2	△			0・2				
		地域連携ボランティア入門	2	△			0・2				
		キャリア概論	2	△			2・0				
		キャリアデザイン演習	2	△			0・2				
		キャリア設計	2	△					2・0		
		インターンシップ	2	△					0・4		

(注) 必選欄 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(平成27年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	コース別必選			週時間数				卒業要件単位数	
			1コース	2コース	3コース	1年次	2年次	3年次	4年次		
						前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
特別基礎科目	地球環境の物理	2	○	○	○	2・0				必修科目6単位	
	地球環境の化学	2	○	○	○	2・0					
	環境社会学	2	○	○	○	2・0					
基礎専門	理科	物理学1・演習	4	△	△	△	4・0				必修科目7単位、選択科目あわせて、30単位から62単位まで
		物理学2	2	△	△	△	0・2				
		物理学・実験	3	○	○	○	0・4				
		化学1	2	△	△	△	2・0				
		化学2	2	△	△	△	0・2				
		生活化学実験	2	○	○	○	4・0				
		生物1	2	△	△	△	2・0				
		地球環境の生物	2	△	△	△	0・2				
	地球科学	2	△	△	△		2・0				
	環境基礎	有機化学1	2	△	△	△	0・2				
		有機化学2	2	△	△	△		2・0			
		無機化学	2	△	△	△	0・2				
		無機材料化学	2	△	△	△		2・0			
生物2		2	△	△	△	0・2					
物理化学1		2	△	△	△		2・0				
高分子化学		2	△	△	△		2・0				
熱力学1	2	△	△	△		2・0					
熱力学演習	2	△	△	△		2・0					
工業力学1	2	△	△	△	0・2						
工学基礎製図	1	△	△	△	0・2						
CAD基礎	2	△	△	△		2・0					

	基礎電気回路	2	△	△	△		2・0			
	環境科学実験	2	○	○	○		4・0			
数学	基礎解析・演習	4	△	△	△	4・0				
	基礎微積分1・演習	4	△	△	△	[4・0] [0・4]				
	基礎微積分2・演習	4	△	△	△	0・4				
	微積分1・演習	4	△	△	△	[4・0] [0・4]				
	微積分2・演習	4	△	△	△	0・4				
	線形代数1	2	△	△	△			2・0		
	環境の数学	2	△	△	△	2・0				
情報	コンピュータリテラシー1	2	△	△	△	2・0				
	コンピュータリテラシー2	2	△	△	△	0・2				
	プログラミング基礎演習	2	△	△	△	0・2				
	プログラミング演習	2	△	△	△			2・0		
専門科目 環境科学共通	電気電子工学1	2	△	△	△			2・0	36単位から68単位まで (1コースは必修科目16 単位を含む。 2コースは必修科目16 単位を含む。 3コースは必修科目20 単位を含む。)	
	電気電子工学2	2	△	△	△			0・2		
	電気実験	2	△	△	○			0・4		
	化学実験	2	○	○	△			0・4		
	大気と水の環境学	2	△	△	△			0・2		
	気象観測	2	△	△	△			2・0		
	リサイクル論	2	△	△	△			2・0		
	環境倫理	2	△	△	△					2・0
	エコ化学	有機化学3	2	△	△	△				0・2
		物理化学2	2	△	△	△				0・2
機器分析		2	△	△	△			2・0		
電気化学		2	△	△	△			0・2		
環境と電池		2	△	△	△			2・0		
エコマテリアル		2	△	△	△			0・2		
ナノ化学		2	△	△	△			0・2		
エコ化学実験1		2	○	△	△			4・0		
エコ化学実験2		2	○	△	△			0・4		
バイオ化学	生化学	2	△	△	△			0・2		
	バイオ材料	2	△	△	△			2・0		
	高分子材料	2	△	△	△			0・2		
	化学生物学	2	△	△	△			2・0		
	食品化学	2	△	△	△			0・2		
	数理生物学	2	△	△	△			2・0		
	環境・化学コンピュータ演習	2	△	△	△			0・2		
	環境・化学シミュレーション	2	△	△	△			2・0		
	バイオ化学実験1	2	△	○	△			4・0		
バイオ化学実験2	2	△	○	△			0・4			
エネルギー機械	機械CAD	2	△	△	△			0・2		
	流体力学1	2	△	△	△			0・2		
	流体力学2	2	△	△	△			2・0		
	熱力学2	2	△	△	△			0・2		
	伝熱工学	2	△	△	△			2・0		
	材料力学	2	△	△	△			2・0		
	機械力学	2	△	△	△			0・2		
	設計工学	2	△	△	△			2・0		
	空気調和・冷凍工学	2	△	△	△			0・2		
	エネルギー変換工学	2	△	△	△			0・2		
	エネルギー機械実験1	2	△	△	○			4・0		
	エネルギー機械実験2	2	△	△	○			0・4		
	エネルギー機械演習	4	△	△	○			0・4		
その他	特別ゼミナール1	2	△	△	△			2・0		
	特別ゼミナール2	2	△	△	△			0・2		
	プレゼミナール	2	○	○	○			0・2		
	卒業研究	8	○	○	○				◎・◎	

(注) コース別必選欄

○：必修科目 △：選択科目

1コース：エコ化学コース

2コース：バイオ化学コース

3コース：エネルギー機械コース

別表第1—3 工学部 建築学科

(1) 総合科目

(平成30年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期 ・後期	前期 ・後期	前期 ・後期	前期 ・後期		
人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	2	△	2・0				8単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群をあわせて24単位から40単位まで
		発達心理学	2	△	2・0				
		現代社会と青年の心理	2	△	0・2				
		教育制度論	2	△		2・0			
		人間形成と教育	2	△	0・2				
	文化の理解	歴史学の世界	2	△	2・0				
		日本の近代史を探究する	2	△		0・2			
		文学の世界	2	△	0・2				
		国際コミュニケーション	2	△		2・0			
		現代社会を考える1	2	△	2・0				
		現代社会を考える2	2	△	0・2				
		異文化の理解	2	△	0・2				
		日本語上達法1	2	△	2・0				
	日本語上達法2	2	△		2・0				
	社会の認識と人権	日本国憲法の理念と現実	2	△		0・2			
		社会生活と法	2	△		2・0			
		経済学の世界	2	△	2・0				
		家族のくらしと社会	2	△	0・2				
		企業社会と労働	2	△		2・0			
	自然の認識と科学の方法	環境の科学	2	△		2・0			
		生命の科学	2	△		0・2			
社会とコンピュータ	情報活用リテラシー	2	△	2・0					
	情報社会と情報倫理	2	△		0・2				
総合ゼミナール	総合ゼミナール	2	△		2・0				
外国語群	英語	基礎英語1	1	□	2・0			選択必修科目4単位以上を含み6単位以上	
		基礎英語2	1	□	0・2				
		英語リーディング1	1	□	2・0				
		英語リーディング2	1	□	0・2				
		英語リーディング3	1	□		2・0			
		英語リーディング4	1	□		0・2			
		英語スキルアップセミナー1	1	□		2・0			
		英語スキルアップセミナー2	1	□		0・2			
		英語コミュニケーション1	1	□		2・0			
		英語コミュニケーション2	1	□		0・2			
		英語コミュニケーション3	1	□			2・0		
		英語コミュニケーション4	1	□			0・2		
	英文法セミナー	1	□	<4・0> ・<0・0>					
	ドイツ語	ドイツ語1	1	△	2・0				
		ドイツ語2	1	△	0・2				
フランス語	フランス語1	1	△	2・0					
	フランス語2	1	△	0・2					
中国語	中国語1	1	△	<4・0>					

					・〈0・0〉			
		中国語2	1	△	〈0・4〉			
		中国語3	1	△	〈0・0〉			
					・〈4・0〉			
健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2	△		2・0		3単位以上
		スポーツ実習1	1	△	2・0			
		スポーツ実習2	1	△	0・2			
		スポーツ実習3	1	△		0・2		
		スポーツ実習4	1	△			2・0	
キャリア形成群	キャリア形成	キャリア入門	2	△	2・0			6単位以上
		建築学入門	2	△	2・0			
		グローバル研修	2	△		0・2		
		地域連携プロジェクト入門	2	△		0・2		
		地域連携ボランティア入門	2	△		0・2		
		キャリア概論	2	△		2・0		
		キャリアデザイン演習	2	△		0・2		
		キャリア設計	2	△			2・0	
		インターンシップ	2	△			0・4	

(注1) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(注2) 〈 〉：クォーター科目

(2) 専門教育科目

(平成30年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	4	△	4・0			24単位から40単位まで
		基礎微積分1・演習	4	△	(4・0) (0・4)			
		基礎微積分2・演習	4	△	(0・4)	(4・0)		
		微分積分1・演習	4	△	4・0			
		微分積分2・演習	4	△	0・4			
		線形代数1	2	△	2・0			
		線形代数2	2	△	0・2			
		確率・統計	2	△		2・0		
	物理	力学1・演習	4	△	4・0			
		力学2	2	△	0・2			
		基礎物理学	2	△	0・2			
		物理学・実験	3	△	4・0			
	情報	コンピューターリテラシー1	2	△	2・0			
	コンピューターリテラシー2	2	△	0・2				
	プログラミング基礎演習	2	△	0・2				
工学入門	基礎電気回路	2	△	2・0				
専門科目	建築設計製図	建築設計基礎実習	2	○	0・4			必修科目36単位、選択必修科目8単位、選択科目を合わせて56単位から80単位まで
		建築設計実習1	4	○		8・0		
		建築設計実習2	4	○		0・8		
		建築設計実習3	4	△			8・0	
		建築設計実習4	4	△			0・8	
	建築計画	建築史・都市史1	2	△			2・0	
		建築史・都市史2	2	△			0・2	
		建築史・都市史3	2	△			2・0	
		建築計画1	2	○		2・0		
		建築計画2	2	○		0・2		
		住環境計画	2	△			0・2	
		インテリア計画	2	△			0・2	
		都市・街並み計画	2	△			2・0	

	環境デザイン論	2	△			0・2	
環境工学・建築設備	建築環境工学1	2	○	0・2			
	建築環境工学2	2	△		2・0		
	建築環境工学演習	4	△			0・4	
	建築設備1	2	○		0・2		
	建築設備2	2	△			2・0	
建築構造・材料	建築構造力学1	2	○	2・0			
	建築構造力学2	2	○	0・2			
	建築構造力学3	2	△		2・0		
	建築構造力学4	2	△		0・2		
	建築構造1	2	○		0・2		
	建築構造2	2	○			2・0	
	建築構造3	2	△			0・2	
	建築材料	2	○		0・2		
	建築材料・構造実験	2	△			4・0	
建築生産・法規	建築生産1	2	○			0・2	
	建築生産2	2	△			0・2	
	建築経済	2	△			0・2	
	BIM実習	1	△			0・2	
	建築法規	2	○			2・0	
その他	建築技術者倫理	2	○			2・0	
	建築史実習	2	△				4・0
	建築設計実務実習	2	△				4・0
	2次元CAD実習	1	△		2・0		
	3次元CAD/DTP実習	1	△		0・2		
	コンピューターショナルデザイン実習	1	△			2・0	
	特別ゼミナール1	2	△		2・0		
	特別ゼミナール2	2	△		0・2		
	建築プレゼミナール1	2	△		0・2		
	建築プレゼミナール2	2	△			2・0	
	プレゼミナール	2	○			0・2	
	卒業設計	8	□				◎・◎
	卒業研究	8	□				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—4 医療福祉工学部 医療福祉工学科

(1) 総合科目

(平成28年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数	
				1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期		
人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	2	△	2・0				8単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群をあわせて24単位から40単位まで
		発達心理学	2	△	2・0				
		現代社会と青年の心理	2	△	0・2				
		教育制度論	2	△		2・0			
		人間形成と教育	2	△	0・2				
		現代社会と宗教	2	△		0・2			
		道徳と教育	2	△		2・0			
		文化の理解	歴史学の世界	2	△	2・0			
	日本の近代史を探究する	2	△		0・2				
	文学の世界	2	△	0・2					
	芸術の世界	2	△	2・0					
	国際コミュニケーション	2	△		2・0				
	現代社会を考える	2	△		2・0				
	異文化の理解	2	△	0・2					
日本語上達法1	2	△		2・0					
日本語上達法2	2	△		0・2					

		文字の文化と歴史	2	△		0・2				
社会の認識と人権		日本国憲法の理念と現実	2	△		0・2				
		社会生活と法	2	△		2・0				
		経済学の世界	2	△	2・0					
		家族のくらしと社会	2	△	0・2					
		企業社会と労働	2	△		0・2				
		政治のしくみを探究する	2	△	0・2					
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2					
		今日の医療医学の課題	2	△	0・2					
	社会とコンピュータ		情報法と企業	2	△		2・0			
			情報活用リテラシー	2	△	2・0				
			情報社会と情報倫理	2	△		0・2			
			エレクトロニクス入門	2	△	2・0				
	外国語群	英語	英語1	2	△	2・0				12単位以上
			英語2	2	△	0・2				
英語3			2	△	2・0					
英語4			2	△	0・2					
英語5			2	△		2・0				
英語6			2	△		0・2				
英語総合セミナー1			2	△		2・0				
英語総合セミナー2			2	△		0・2				
コミュニケーション英語1			2	△		2・0				
コミュニケーション英語2			2	△		0・2				
基礎英文法a			2	△	2・0					
基礎英文法b			2	△	0・2					
医学英語1			2	△			2・0			
医学英語2			2	△			0・2			
ドイツ語		ドイツ語初級1	2	△	2・0					
		ドイツ語初級2	2	△	0・2					
中国語		中国語初級1	2	△	2・0					
		中国語初級2	2	△	0・2					
韓国語		韓国語初級1	2	△	2・0					
		韓国語初級2	2	△	0・2					
健康・スポーツ群	健康とスポーツ	スポーツの科学	2	△		0・2		4単位以上		
		スポーツ文化論	2	△		0・2				
		スポーツ実習1	1	△	2・0					
		スポーツ実習2	1	△	0・2					
		スポーツ実習3	1	△			2・0			
		スポーツ実習4	1	△					2・0	

(注) 必選欄 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(平成28年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
基礎専門科目	数学基礎演習	4	□a	4・0				選択必修科目18単位以上(□aから6単位以上、□bから6単位以上及び□cから6単位以上)34単位まで
	基礎解析・演習	4	□a	[4・0] [0・4]				
	微分積分・演習	4	□a	0・4				
	線形代数1	2	□a	2・0				
	線形代数2	2	□a	0・2				
	微分方程式	2	□a		2・0			
	確率・統計	2	□a		2・0			
	医用数学	2	□a		2・0			
	応用数学と臨床医工学	2	□a		0・2			
	応用数学と振動学	2	□a			2・0		

理科	物理学基礎演習	4	<input type="checkbox"/> b	4・0					
	力学・演習	4	<input type="checkbox"/> b	0・4					
	基礎生理学	2	<input type="checkbox"/> b	2・0					
	健康と化学	2	<input type="checkbox"/> b	2・0					
	基礎物理学	2	<input type="checkbox"/> b	0・2					
	医用物理学	2	<input type="checkbox"/> b		2・0				
	情報	コンピュータリテラシー1	2	<input type="checkbox"/> c	2・0				
		コンピュータリテラシー2	2	<input type="checkbox"/> c	0・2				
		プログラミング基礎演習1	2	<input type="checkbox"/> c	2・0				
		プログラミング基礎演習2	2	<input type="checkbox"/> c	0・2				
		情報工学基礎演習	2	<input type="checkbox"/> c		2・0			
		プログラミング応用演習	2	<input type="checkbox"/> c		0・2			
専門科目	医学	生理学	2	<input type="radio"/> ○	2・0			必修科目13単位、選択必修科目8単位以上(<input type="checkbox"/> dから2単位以上、 <input type="checkbox"/> eから6単位以上)選択科目をあわせて64単位から80単位まで	
		解剖学	2	<input type="checkbox"/> d	2・0				
		機能解剖学	2	<input type="checkbox"/> d	2・0				
		公衆衛生学	1	<input type="checkbox"/> △		0・1			
		医療関係法規	1	<input type="checkbox"/> △		0・1			
		免疫学	2	<input type="checkbox"/> △		2・0			
		看護学と介護予防	2	<input type="checkbox"/> △		2・0			
		生化学	2	<input type="checkbox"/> △		2・0			
		病理学	2	<input type="checkbox"/> △		0・2			
		薬理学	2	<input type="checkbox"/> △		0・2			
		医学概論・基礎医学特別演習	2	<input type="checkbox"/> △			0・2		
		臨床内科学総論	2	<input type="checkbox"/> △		0・2			
		臨床生理学	2	<input type="checkbox"/> △			2・0		
		臨床外科学総論	2	<input type="checkbox"/> △			0・2		
		臨床検査学	2	<input type="checkbox"/> △			2・0		
		女性小児医学	2	<input type="checkbox"/> △			0・2		
		臨床医学特別演習	2	<input type="checkbox"/> △					2・0
		情報工学	デジタル回路	2	<input type="checkbox"/> △		0・2		
	計測工学		2	<input type="checkbox"/> △		2・0			
	システム工学		2	<input type="checkbox"/> △		0・2			
	医療情報学特別実習		3	<input type="checkbox"/> e			6・0		
	医用情報工学演習		2	<input type="checkbox"/> △			0・2		
	電気・電子工学	電気回路学	2	<input type="checkbox"/> △	0・2				
		応用電気回路学	2	<input type="checkbox"/> △		2・0			
		電気電子工学実験	3	<input type="radio"/> ○		6・0			
		電子回路学	2	<input type="checkbox"/> △		2・0			
		医用電子工学実験	3	<input type="checkbox"/> e		0・6			
		応用電子回路学	2	<input type="checkbox"/> △			2・0		
電気電子回路演習		2	<input type="checkbox"/> △			0・2			
機械工学	機械工学基礎演習	2	<input type="checkbox"/> △	0・2					
	材料工学	2	<input type="checkbox"/> △		2・0				
	生体物性工学	2	<input type="checkbox"/> △		0・2				
	材料力学	2	<input type="checkbox"/> △		0・2				
	流体力学	2	<input type="checkbox"/> △			2・0			
	基礎製図演習	2	<input type="checkbox"/> △			0・2			
	機械製図実習	1	<input type="checkbox"/> △			0・2			
医用機器学	医用機器学	2	<input type="checkbox"/> △	0・2					
	生体計測装置学	2	<input type="checkbox"/> △		0・2				
	生体計測装置学実習	3	<input type="checkbox"/> e			6・0			
	医用治療機器学	2	<input type="checkbox"/> △			2・0			
	医用機器安全制御学	2	<input type="checkbox"/> △			2・0			
	医用機器安全管理学	2	<input type="checkbox"/> △			0・2			
	先端医療工学	2	<input type="checkbox"/> △			0・2			
生体機能代行技術学	生体機能代行装置学1	2	<input type="checkbox"/> △		2・0				
	生体機能代行装置学2	4	<input type="checkbox"/> △		0・4				
	生体機能代行医用機器学実習	3	<input type="checkbox"/> e			0・6			
	生体機能代行装置学実習	3	<input type="checkbox"/> △				6・0		
健康福祉工学	ヒト型ロボット創造製作実習	3	<input type="checkbox"/> e			6・0			

	ヒト型ロボット歩行制御実習	3	□e			0・6	
	健康スポーツ統計学	2	△			2・0	
	生活支援工学	2	△			0・2	
	福祉機器学	2	△			0・2	
	福祉住環境特別実習	1	△			0・2	
	リハビリテーション工学	2	△			2・0	
卒業研究・臨床実習	臨床実習	4	△			8・0	
	特別講義	2	△			0・2	
	卒業研究	8	○			◎・◎	
キャリア形成科目	基礎医学・福祉工学入門実習	2	△	4・0			必修科目2単位、選択科目をあわせて6単位から16単位まで
	アカデミック・ライティング	2	△	0・4			
	生体医工学基礎実習	2	△		4・0		
	ベーシックキャリアデザイン	2	△		1・1		
	キャリアデザイン	2	△			4・0	
	プレゼミ	2	○			0・4	
	生体医工学応用実習	2	△			4・0	
	臨床工学特別実習	2	△			0・4	

(注) 必選欄 ○：必修科目 □a・□b・□c・□d・□e：選択必修科目
△：選択科目

別表第1—5 医療福祉工学部 理学療法学科

(1) 総合科目

(平成28年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	2	△	2・0			8単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群をあわせて24単位から26単位まで
		発達心理学	2	△	2・0			
		現代社会と青年の心理	2	△	0・2			
		教育制度論	2	△		2・0		
		人間形成と教育	2	△	0・2			
		現代社会と宗教	2	△		0・2		
		道徳と教育	2	△		2・0		
	文化の理解	歴史学の世界	2	△	2・0			
		日本の近代史を探究する	2	△		0・2		
		文学の世界	2	△	0・2			
		芸術の世界	2	△	2・0			
		国際コミュニケーション	2	△		2・0		
		現代社会を考える	2	△		2・0		
		異文化の理解	2	△	0・2			
		日本語上達法1	2	△		2・0		
	社会の認識と人権	日本語上達法2	2	△		0・2		
		文字の文化と歴史	2	△		0・2		
		日本国憲法の理念と現実	2	△		0・2		
		社会生活と法	2	△		2・0		
		経済学の世界	2	△	2・0			
		家族のくらしと社会	2	△	0・2			
		企業社会と労働	2	△		0・2		
		政治のしくみを探究する	2	△	0・2			
	社会とコンピュータ	高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2			
		今日の医療医学の課題	2	△		2・0		
		情報法と企業	2	△		2・0		
		情報活用リテラシー	2	△	2・0			
情報社会と情報倫理		2	△		0・2			
	エレクトロニクス入門	2	△	2・0				

外国語群	英語	英語1	2	△	2・0				12単位以上
		英語2	2	△	0・2				
		英語3	2	△	2・0				
		英語4	2	△	0・2				
		英語5	2	△		2・0			
		英語6	2	△		0・2			
		英語総合セミナー1	2	△		2・0			
		英語総合セミナー2	2	△		0・2			
		コミュニケーション英語1	2	△		2・0			
		コミュニケーション英語2	2	△		0・2			
		基礎英文法a	2	△	2・0				
		基礎英文法b	2	△	0・2				
		医学英語1	2	△	2・0				
		医学英語2	2	△	0・2				
	ドイツ語	ドイツ語初級1	2	△	2・0				
		ドイツ語初級2	2	△	0・2				
中国語	中国語初級1	2	△	2・0					
	中国語初級2	2	△	0・2					
韓国語	韓国語初級1	2	△	2・0					
	韓国語初級2	2	△	0・2					
健康・スポーツ群	健康の科学	スポーツの科学	2	△	0・2				4単位以上
		スポーツ文化論	2	△		0・2			
		スポーツ実習1	1	△	2・0				
		スポーツ実習2	1	△	0・2				
		スポーツ実習3	1	△			2・0		
		スポーツ実習4	1	△				2・0	

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(平成24年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数
				1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期	
基礎専門科目	数学	基礎生体数学	2	△	2・0			8単位から10単位
		確率・統計	2	△		2・0		
	理科	基礎生体物理学	2	△	2・0			
		基礎生体解析学	2	△	2・0			
	情報	コンピュータリテラシー1	2	△	2・0			
		コンピュータリテラシー2	2	△	0・2			
プログラミング基礎演習		2	△	2・0				
専門科目	支援工学	生体計測工学	2	△	0・2			必修科目90単位、選択科目を あわせて90単位から92単位
		福祉環境デザイン論	2	△			0・2	
		リハビリテーション工学	2	△			0・2	
		基礎コンピュータ工学	2	△			0・2	
	基礎医学	生理学1	2	○	2・0			
		生理学2	2	○	2・0			
		解剖学1	2	○	2・0			
		解剖学2	2	○	2・0			
		基礎医学実習	4	△	0・4			
		機能解剖学演習1	2	○	2・0			
		機能解剖学演習2	2	○	2・0			
		運動学演習1	2	○	0・2			
		運動学演習2	4	○	0・4			
		医療の制度	2	△		2・0		
	リスク管理学	2	△		2・0			
	臨床医学	臨床医学1	2	△		2・0		
臨床医学2		2	○		2・0			

	臨床医学3	2	○		0・2		
	臨床医学4	2	○		0・2		
	臨床医学5	2	○		0・2		
	臨床心理学	2	△		2・0		
	基礎医学特論1	2	△			2・0	
	基礎医学特論2	2	○			0・2	
	基礎医学特論3	2	○			0・2	
	基礎医学特論4	2	○			0・2	
	臨床理学療法学演習1	2	○			0・2	
	臨床理学療法学演習2	2	○			0・2	
	臨床理学療法学演習3	2	○			0・2	
基礎理学療法学	日常生活活動学演習	2	△		0・2		
	障害学概論	2	△	0・2			
	理学療法評価学演習1	4	○		4・0		
	理学療法評価学演習2	4	○		0・4		
	物理療法学演習	4	△		4・0		
	義肢装具学演習1	2	△			2・0	
	義肢装具学演習2	2	△			2・0	
	運動療法学1	2	△		2・0		
	運動療法学2	2	△		2・0		
	生体運動解析学演習	2	△		2・0		
理学療法治療学	運動系理学療法学演習1	2	△		0・2		
	運動系理学療法学演習2	2	△		0・2		
	呼吸循環系理学療法演習	2	△			2・0	
	小児系理学療法学演習	2	△			2・0	
	神経系理学療法学演習1	4	△		0・4		
	神経系理学療法学演習2	2	○			2・0	
	スポーツ系理学療法学演習	2	○			2・0	
	老年系理学療法学演習	2	○		0・2		
応用理学療法学	実践運動系理学療法学演習1	2	△			2・0	
	実践運動系理学療法学演習2	2	△			0・2	
	実践介助法演習	2	△			2・0	
	チームリハビリテーション特論	2	△			2・0	
	実践評価学演習1	2	△			2・0	
	実践評価学演習2	2	△			0・2	
	実践理学療法演習1	4	△			4・0	
	実践理学療法演習2	4	△			0・4	
	実践理学療法演習3	2	○			0・2	
	総合技術特論1	2	△				2・0
	総合技術特論2	2	○				0・2
	総合技術特論3	2	○				0・2
	総合技術特論4	2	○				0・2
	総合技術特論5	2	○				0・2
	総合理学療法技術演習	2	○				0・2
卒業研究・学外実習	臨床実習1	1	△		0・2		
	臨床実習2	1	○		0・2		
	臨床実習3	1	○			2・0	
	臨床実習4	2	○			0・4	
	臨床実習5	4	○				0・8
	臨床実習6	10	○				0・20
	卒業研究	8	○				◎・◎
キャリア形成科目	理学療法学概論	2	○	2・0			必修科目 2 単位、選択科目を あわせて 4 単位から 6 単位
	アカデミック・ライティング	2	△	0・2			
	理学療法キャリアデザイン1	2	△	0・2			
	理学療法キャリアデザイン2	2	△		2・0		
	理学療法キャリアデザイン3	2	△		0・2		
	ベーシックキャリアデザイン	2	△		0・2		

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

別表第1—6 医療福祉工学部 健康スポーツ科学科

(1) 総合科目

(平成28年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	2	△	2・0				8単位以上 人文・社会・自然群、 外国語群をあわせて 24単位から40単 位まで
		発達心理学	2	△	2・0				
		現代社会と青年の心理	2	△	0・2				
		教育制度論	2	△		2・0			
		人間形成と教育	2	△	0・2				
		現代社会と宗教	2	△		0・2			
	道徳と教育	2	△		2・0				
	文化の理解	歴史学の世界	2	△	2・0				
		日本の近代史を探究する	2	△		0・2			
		文学の世界	2	△	0・2				
		芸術の世界	2	△	2・0				
		国際コミュニケーション	2	△		2・0			
		現代社会を考える	2	△		2・0			
		異文化の理解	2	△	0・2				
		日本語上達法1	2	△		2・0			
		日本語上達法2	2	△		0・2			
		文字の文化と歴史	2	△		0・2			
	社会の認識と人権	日本国憲法の理念と現実	2	△		0・2			
		社会生活と法	2	△		2・0			
		経済学の世界	2	△	2・0				
		家族のくらしと社会	2	△	0・2				
		企業社会と労働	2	△		0・2			
		政治のしくみを探究する	2	△	0・2				
		高齢者社会と医療福祉	2	△	0・2				
	今日の医療医学の課題	2	△	0・2					
	社会とコンピュータ	情報法と企業	2	△		2・0			
		情報活用リテラシー	2	△	2・0				
		情報社会と情報倫理	2	△		0・2			
		エレクトロニクス入門	2	△	2・0				
	外国語群	英語	英語1	2	△	2・0			
英語2			2	△	0・2				
英語3			2	△	2・0				
英語4			2	△	0・2				
英語5			2	△		2・0			
英語6			2	△		0・2			
英語総合セミナー1			2	△		2・0			
英語総合セミナー2			2	△		0・2			
コミュニケーション英語1			2	△		2・0			
コミュニケーション英語2			2	△		0・2			
基礎英文法a			2	△	2・0				
基礎英文法b			2	△	0・2				
医学英語1			2	△			2・0		
医学英語2			2	△			0・2		
ドイツ語		ドイツ語初級1	2	△	2・0				
		ドイツ語初級2	2	△	0・2				
中国語		中国語初級1	2	△	2・0				
		中国語初級2	2	△	0・2				
韓国語		韓国語初級1	2	△	2・0				
		韓国語初級2	2	△	0・2				

(注) 必選欄 △：選択科目

(2) 専門教育科目

(平成28年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
基礎専門科目	社会学	コミュニケーション論	2	<input type="checkbox"/> a	2・0			選択必修科目22単位以上(<input type="checkbox"/> aから6単位以上、 <input type="checkbox"/> bから4単位以上、 <input type="checkbox"/> cから4単位以上、 <input type="checkbox"/> dから4単位以上)28単位まで	
		ビジネス概論	2	<input type="checkbox"/> a	2・0				
		教育学	2	<input type="checkbox"/> a	0・2				
		心理学	2	<input type="checkbox"/> a	0・2				
		社会福祉学	2	<input type="checkbox"/> a		2・0			
	数学	数学リテラシー・演習	4	<input type="checkbox"/> b	4・0				
		基礎解析・演習	4	<input type="checkbox"/> b	4・0				
		統計入門	2	<input type="checkbox"/> b		2・0			
	理科	基礎力学	2	<input type="checkbox"/> c	2・0				
		生物学	2	<input type="checkbox"/> c	2・0				
		化学	2	<input type="checkbox"/> c	2・0				
		物理学	2	<input type="checkbox"/> c	0・2				
	情報	コンピュータリテラシー1	2	<input type="checkbox"/> d	2・0				
		コンピュータリテラシー2	2	<input type="checkbox"/> d	0・2				
		コンピュータ基礎演習	2	<input type="checkbox"/> d	0・2				
専門科目	生体情報学	くらしとコンピュータ	2	<input type="checkbox"/> e	0・2			必修科目22単位、選択必修科目20単位以上(<input type="checkbox"/> eから6単位以上、 <input type="checkbox"/> fから8単位以上、 <input type="checkbox"/> gから6単位以上)、選択科目14単位以上をあわせて56単位から72単位まで	
		くらしとエネルギー	2	<input type="checkbox"/> e		2・0			
		生体計測学	2	<input type="checkbox"/> e		2・0			
		バイオメカニクス	2	<input type="checkbox"/> e		0・2			
		システム情報処理演習	2	<input type="checkbox"/> e		0・2			
		生体計測学・実習	4	<input type="checkbox"/> e		0・6			
		生体電気計測学演習	2	<input type="checkbox"/> e			2・0		
		健康スポーツ統計学演習	2	<input type="checkbox"/> e			2・0		
		医療情報学演習	2	<input type="checkbox"/> e			0・2		
		生体情報工学	2	<input type="checkbox"/> e			2・0		
		プログラミング応用演習	2	<input type="checkbox"/> e			0・2		
		リハビリゲーム論	2	<input type="checkbox"/> e					2・0
		リハビリテーション工学	2	<input type="checkbox"/> e					2・0
		医学	解剖学	2	<input type="checkbox"/> f	2・0			
	生理学1		2	<input type="checkbox"/> f	2・0				
	生理学2		2	<input type="checkbox"/> f	0・2				
	生化学		2	<input type="checkbox"/> f	0・2				
	健康と化学		2	<input type="checkbox"/> f		2・0			
	運動生理学		2	<input type="checkbox"/> f		2・0			
	機能解剖学		2	<input type="checkbox"/> f		2・0			
	神経筋生理学		2	<input type="checkbox"/> f		0・2			
公衆衛生と医療の法律	2		<input type="checkbox"/> f		0・2				
スポーツコンディショニング演習	2		<input type="checkbox"/> f			2・0			
スポーツ医学と救急救命演習	2		<input type="checkbox"/> f			2・0			
精神医学	2		<input type="checkbox"/> f			0・2			
運動生理学・実習	4		<input type="checkbox"/> f			0・6			
医療福祉学	臨床心理学	2	<input type="checkbox"/> g		0・2				
	発育・発達と老化	2	<input type="checkbox"/> g		0・2				
	リハビリテーション学演習	2	<input type="checkbox"/> g			2・0			
	運動療法学演習	2	<input type="checkbox"/> g			2・0			
	介護予防学	2	<input type="checkbox"/> g			2・0			
	福祉機器学	2	<input type="checkbox"/> g			2・0			
	生活環境論	2	<input type="checkbox"/> g			0・2			
健康運動指導学	生活習慣病・健康管理概論	2	<input type="checkbox"/> g		2・0				
	基礎栄養学	2	<input type="checkbox"/> g		2・0				
	健康づくり運動の理論と施策	2	<input type="checkbox"/> g		2・0				
	応用栄養学演習	2	<input type="checkbox"/> g		0・2				
	体力測定と評価	2	<input type="checkbox"/> g		0・2				

	運動と心の健康増進	2	△		0・2		
	運動行動変容の理論と実際	2	△		0・2		
	健康運動指導演習	2	△		0・2		
	運動障害と予防	2	△			2・0	
	健康運動指導学特別演習	2	△				2・0
スポーツ実技・健康づくり運動	器械運動1	1	△	2・0			
	ソフトボール	1	△	2・0			
	バレーボール1	1	△	0・2			
	スポーツトレーニング	1	△	0・2			
	エアロビックダンス	1	△	0・2			
	スキー・スノーボード	1	△	0・2			
	バスケットボール1	1	△		2・0		
	創作ダンス	1	△		2・0		
	水泳・水中運動	1	△		2・0		
	陸上競技1	1	△		2・0		
	テニス1	1	△		0・2		
	武道1	1	△		0・2		
	器械運動2	1	△		0・2		
	バレーボール2	1	△			2・0	
	テニス2	1	△			2・0	
	野外活動	1	△			2・0	
	スポーツ方法実習1	1	△			2・0	
	健康運動指導実技	1	△			2・0	
	武道2	1	△				2・0
	スポーツ方法実習2	1	△				2・0
バスケットボール2	1	△				0・2	
陸上競技2	1	△				0・2	
スポーツ教育学	運動学	2	△	2・0			
	スポーツ文化論	2	△	0・2			
	体育原理	2	△	0・2			
	体育心理学	2	△		2・0		
	スポーツ施設・用具論	2	△		0・2		
	学校保健	2	△		0・2		
	体育社会学	2	△			0・2	
	スポーツ指導演習	2	△			0・2	
卒業研究・ゼミナール	スポーツクラブ実習	1	△			0・2	
	卒業研究	8	○				◎・◎
キャリア形成群	健康スポーツ科学と医学概論	2	○	2・0			必修科目8単位、選択科目をあわせて10単位から12単位まで
	キャリアデザイン	2	△		2・0		
	アカデミック・ライティング	2	△		2・0		
	プレゼミ	4	○			2・2	
	キャリア特別演習	2	○				

(注) 必選欄 ○：必修科目 □a・□b・□c・□d・□e・□f・□g：選択必修科目

△：選択科目

別表第1—7 情報通信工学部

(1) 総合科目(共通)

(平成27年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
人文・社会・自然群	人間の探求	哲学の世界	2	△	2・0				8単位以上 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群をあわせて24単位から40単位まで
		発達心理学	2	△	2・0				
		現代社会と青年の心理	2	△	0・2				
		教育制度論	2	△		2・0			
		人間形成と教育	2	△	0・2				
		現代社会と宗教	2	△		0・2			
		道徳と教育	2	△		0・2			
	文化の理解	歴史学の世界	2	△	2・0				
		日本の近代史を探究する	2	△		0・2			
		文学の世界	2	△	0・2				
		芸術の世界	2	△	2・0				
		国際コミュニケーション	2	△		2・0			
		現代社会を考える1	2	△	2・0				
		現代社会を考える2	2	△	0・2				
		異文化の理解	2	△	0・2				
		日本語上達法1	2	△	2・0				
		日本語上達法2	2	△		[2・0] [0・2]			
	社会の認識と人権	日本国憲法の理念と現実	2	△		0・2			
		社会生活と法	2	△		2・0			
		経済学の世界	2	△	2・0				
		家族のくらしと社会	2	△	0・2				
		企業社会と労働	2	△		2・0			
		政治のしくみを探究する	2	△	0・2				
	自然の認識と科学の方法	環境の科学	2	△		2・0			
		生命の科学	2	△		0・2			
	社会とコンピュータ	コンピュータと情報活用術	2	△	2・0				
		コンピュータで文化を測る	2	△	0・2				
		情報活用リテラシー	2	△	2・0				
		情報社会と情報倫理	2	△		0・2			
	総合ゼミナール	総合ゼミナール	2	△		[2・0] [0・2]			
外国語群	英語	基礎英語1	1	□	2・0			選択必修科目4単位以上を含み6単位以上	
		基礎英語2	1	□	0・2				
		英語リーディング1	1	□	2・0				
		英語リーディング2	1	□	0・2				
		英語リーディング3	1	□		2・0			
		英語リーディング4	1	□		0・2			
		英語リーディング5	1	□			2・0		
		英語リーディング6	1	□			0・2		
		英語スキルアップセミナー1	1	□		2・0			
		英語スキルアップセミナー2	1	□		0・2			
		英語スキルアップセミナー3	1	□			2・0		
		英語スキルアップセミナー4	1	□			0・2		
		英語スキルアップセミナー5	1	□			2・0		
		英語スキルアップセミナー6	1	□			0・2		
		英語コミュニケーション1	1	□		2・0			
		英語コミュニケーション2	1	□		0・2			
		英語コミュニケーション3	1	□			2・0		
		英語コミュニケーション4	1	□			0・2		
		英文法セミナー	1	□	2・0				
		ドイツ語	ドイツ語1	1	△	2・0			

		ドイツ語2	1	△	0・2				
		ドイツ語特別ゼミナール	1	△		2・0			
	フランス語	フランス語1	1	△	2・0				
		フランス語2	1	△	0・2				
	中国語	中国語1	1	△	2・0				
		中国語2	1	△	2・0				
		中国語3	1	△	0・2				
		中国語特別ゼミナール	1	△		2・0			
	韓国語	韓国語1	1	△	2・0				
		韓国語2	1	△	0・2				
健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2	△		2・0			3単位以上
		スポーツ実習1	1	△	2・0				
		スポーツ実習2	1	△	0・2				
		スポーツ実習3	1	△			[2・0] [0・2]		
		スポーツ実習4	1	△				[2・0] [0・2]	
キャリア形成群	キャリア形成	情報キャリア入門(注2)	2	△	2・0				6単位以上
		情報工学入門(注2)	2	△	2・0				
		通信キャリア入門(注3)	2	○	2・0				
		情報通信工学入門(注3)	2	○	2・0				
		グローバル研修	2	△		0・2			
		地域連携プロジェクト入門	2	△		0・2			
		地域連携ボランティア入門	2	△		0・2			
		キャリア概論	2	△		2・0			
		キャリアデザイン演習	2	△		0・2			
		キャリア設計	2	△			2・0		
		インターンシップ	2	△			0・4		

(注1) 必選欄 □：選択必修科目 △：選択科目

(注2) 情報工学科のみ配当

(注3) 通信工学科のみ配当

(2) 専門教育科目 情報工学科

(平成27年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数
				1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期	
基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	4	△	4・0			必修科目12単位、選択科目あわせて24単位から40単位まで
		基礎微積分1・演習	4	△	[4・0] [0・4]			
		基礎微積分2・演習	4	△	0・4			
		微分積分1・演習	4	△	4・0			
		微分積分2・演習	4	△	0・4			
		線形代数1	2	△	2・0			
		線形代数2	2	△	0・2			
		確率・統計1	2	△	0・2			
		確率・統計2	2	△		2・0		
		応用数学1	2	△		2・0		
		応用数学2	2	△		0・2		
理科		基礎力学	2	△	2・0			
		基礎物理学	2	△	0・2			
		化学1	2	△	2・0			
		化学2	2	△	0・2			
		生物1	2	△	2・0			
		生物2	2	△	0・2			
情報		情報工学概論	2	△	0・2			

		コンピュータ工学1	2	○	2・0						
		コンピュータ工学2	2	○	0・2						
		Cプログラミング入門1	2	△	2・0						
		Cプログラミング入門2	2	△	0・2						
		Cプログラミング入門演習1	2	○	2・0						
		Cプログラミング入門演習2	2	○	0・2						
		コンピュータ基礎演習1	2	△	2・0						
		コンピュータ基礎演習2	2	△	0・2						
		情報科学英語	2	△		2・0					
	電気・電子	基礎電子回路1	2	△		2・0					
		基礎電子回路2	2	△		0・2					
		基礎電気回路1	2	△	2・0						
		基礎電気回路2	2	△	0・2						
		電子基礎実験1	2	○		[4・0] [0・4]					
		電子基礎実験2	2	○		[4・0] [0・4]					
専門科目	基盤専門科目	情報工学基礎	情報数学1	2	△		2・0			必修科目14単位、基盤専門科目選択科目16単位以上、郡別専門科目16単位以上をあわせて56単位から80単位まで	
			情報数学2	2	△		0・2				
			情報理論1	2	△		2・0				
			情報理論2	2	△		0・2				
			論理回路1	2	△		2・0				
			論理回路2	2	△		0・2				
			数値計算論	2	△		0・2				
			Cプログラミング	2	△		2・0				
			Cプログラミング演習	2	△		2・0				
	コンピュータ応用演習	2	△		0・2						
	計算機システム	プログラミング言語学	2	△		2・0					
		オペレーティングシステム	2	△		0・2					
		コンピュータアーキテクチャ1	2	△		2・0					
		コンピュータハードウェア	2	△		0・2					
		コンピュータアーキテクチャ2	2	△			2・0				
	情報ネットワーク	ネットワーク工学1	2	△		0・2					
		ネットワーク工学2	2	△			2・0				
	知的情報処理	アルゴリズム基礎論	2	△		2・0					
		コンパイラ論	2	△		0・2					
		人工知能	2	△			2・0				
		アルゴリズム設計論	2	△			2・0				
		データベース工学	2	△			2・0				
	統計情報解析	統計工学	2	△			2・0				
		人間工学	2	△			2・0				
	情報システム	ソフトウェア工学	2	△			2・0				
		集積回路学	2	△			2・0				
		認知科学	2	△			2・0				
		制御工学	2	△			2・0				
	メディア情報工学	画像工学	2	△			2・0				
		信号処理学	2	△			2・0				
		視覚情報学	2	△			2・0				
	実験	情報工学実験1	2	○			[4・0] [0・4]				
		情報工学実験2	2	○			[4・0] [0・4]				
群別専門科目	計算機システム	並列分散処理	2	△		0・2					
		オートマトンと計算論	2	△			(2・0)	2・0			
	情報ネットワーク	ネットワークプログラミング	2	△			0・2				
		情報セキュリティ工学	2	△			0・2				
	知的情報処理	ソフトコンピューティング	2	△			0・2				
		情報管理	2	△			0・2				
		バイオ情報学	2	△			(2・0)	2・0			
	統計情報解析	多変量データ解析	2	△			0・2				

		統計の品質管理	2	△			0・2	
		オペレーションズリサーチ	2	△			(2・0)	2・0
		データマイニング	2	△			(2・0)	2・0
	情報システム	組み込みシステム論	2	△			0・2	
		ヒューマンインタフェース	2	△			0・2	
		ロボット工学	2	△			0・2	
	メディア情報工 学	画像情報処理	2	△			0・2	
		音声・言語情報処理	2	△			0・2	
		カラービジョン	2	△			0・2	
		光情報処理	2	△			(2・0)	2・0
		コンピュータグラフィックス	2	△			(2・0)	2・0
	教養	情報特許論	2	△			(2・0)	2・0
	その他	特別ゼミナール1	2	△		2・0		
		特別ゼミナール2	2	△		0・2		
		プレゼミナール	2	○			0・2	
		卒業研究	8	○				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(3) 専門教育科目 通信工学科

(平成27年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
				前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期			
基礎専門科目	数学	基礎解析・演習	4	△	4・0				必修科目7単位、選択科目あわせて、24単位から40単位まで	
		基礎微積分1・演習	4	△	[4・0] [0・4]					
		基礎微積分2・演習	4	△	[0・4]	[4・0]				
		微分積分1・演習	4	△	4・0					
		微分積分2・演習	4	△	0・4					
		微分方程式	2	△		0・2				
		線形代数1	2	△	2・0					
		線形代数2	2	△	0・2					
		確率・統計	2	△		2・0				
		物理	物理学1・演習	4	△	4・0				
			物理学・実験	3	○	4・0				
			物理学2	2	△	0・2				
		情報	コンピュータリテラシー1	2	△	2・0				
		プログラミング基礎演習	2	○	0・2					
	工学入門	基礎電気回路	2	○	2・0					
専門科目	通信方式	電気回路1a・演習	2	○	0・2				必修科目30単位、選択必修科目10単位以上 (□H又は□Sいずれか一方の選択必修科目)選択科目をあわせて56単位から80単位まで	
		電気回路1b・演習	2	○	0・2					
		基礎電磁気学1・演習	2	○	0・2					
		基礎電磁気学2・演習	2	○	0・2					
		電気回路2	2	□H		2・0				
		電子回路1	2	□H		2・0				
		電磁気学1	2	□H		2・0				
		計測工学	2	△		0・2				
		電子回路2	2	□H		0・2				
		電磁気学2	2	□H		0・2				
		パルス回路	2	△			2・0			
		電磁波工学1	2	□H			2・0			
		伝送線路工学	2	△			0・2			
		電磁波工学2	2	△			0・2			
		情報通信ネットワーク	基礎通信工学	2	○	0・2				
			情報伝送工学1	2	□H			2・0		
			ネットワーク工学	2	△			2・0		
			光通信工学	2	△			2・0		

情報工学	情報伝送工学2	2	△			0・2		
	情報交換工学	2	△			0・2		
	移動通信工学	2	△			0・2		
	光エレクトロニクス	2	△			0・2		
	電波法規	2	△				2・0	
	基礎情報工学	2	□S	0・2				
	計算機工学	2	□S		2・0			
	ソフトウェア工学	2	□S		2・0			
	情報通信理論	2	△		0・2			
	コンピュータシステム	2	△		0・2			
	マルチメディア工学	2	△			2・0		
	符号理論	2	△			2・0		
	情報セキュリティ	2	△			0・2		
	プログラミング演習1	2	□S		2・0			
	プログラミング演習2	2	□S		0・2			
	プログラミング応用演習1	2	□S			2・0		
	プログラミング応用演習2	2	□S			0・2		
	実験	工学基礎実験	2	○	0・4			
		電気実験1	2	○		4・0		
電気実験2		2	○		0・4			
情報通信工学実験1		2	○			4・0		
情報通信工学実験2		2	○			0・4		
その他	特別ゼミナール1	2	△		2・0			
	特別ゼミナール2	2	△		0・2			
	プレゼミナール	2	○			0・2		
	卒業研究	8	○				◎・◎	

(注) 必選欄 ○：必修科目 □H・□S：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—8 総合情報学部 デジタルゲーム学科、ゲーム&メディア学科

(1) 総合科目(共通)

(平成30年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期		
人文・社会・自然群	人間の探究	哲学の世界	2	△	2・0				6単位から16単位まで 人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群をあわせて24単位から40単位まで
		発達心理学	2	△	2・0				
		人間形成と教育	2	△	0・2				
		現代社会と青年の心理	2	△	0・2				
	文化と社会の理解	教育制度論	2	△		2・0			
		日本国憲法の理念と現実	2	△	0・2				
		文学の世界	2	△	0・2				
		政治のしくみを探究する	2	△	0・2				
		経済学の世界	2	△	2・0				
		国際コミュニケーション	2	△		2・0			
	科学と自然	日本の近代史を探究する	2	△		0・2			
		情報社会と情報倫理	2	△		0・2			
科学の世界		2	△		2・0				
数理の世界		2	△		0・2				
外国語群	英語	基礎英語1	1	□	2・0			選択必修科目4単元以上、選択科目2単位以上をあわせて10単位まで	
		基礎英語2	1	□	0・2				
		英語リーディング1	1	□	2・0				
		英語リーディング2	1	□	0・2				
		英語リーディング3	1	□		2・0			
		英語リーディング4	1	□		0・2			
		英語スキルアップセミナー1	1	□			2・0		
		英語スキルアップセミナー2	1	□			0・2		
		英語コミュニケーション1	1	□		2・0			

		英語コミュニケーション2	1	□		0・2		
		英語コミュニケーション3	1	△			2・0	
		英語コミュニケーション4	1	△			0・2	
		英文法セミナー	1	△	[2・0] [0・2]			
	中国語	中国語1	1	△	2・0			
		中国語2	1	△	0・2			
	ドイツ語	ドイツ語1	1	△	2・0			
		ドイツ語2	1	△	0・2			
	日本語	日本語1	1	△	2・0			
		日本語2	1	△	0・2			
		日本語3	1	△	2・0			
		日本語4	1	△	0・2			
健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2	△		2・0		3単位から7単位まで
		スポーツ文化論	2	△		0・2		
		スポーツ実習1	1	△	2・0			
		スポーツ実習2	1	△	0・2			
		スポーツ実習3	1	△			[2・0] [0・2]	
		スポーツ実習4	1	△			[2・0] [0・2]	
キャリア形成群	キャリア形成基礎	大学とその学び	1	○	2・0			必修科目3単位、選択科目4単位以上をあわせて11単位まで
		キャリアと学び	1	○		2・0		
		キャリア実践	1	○			1・1	
		インターンシップ	2	△			0・4	
		社会ボランティア実践	2	△		2・2		
	学部の特徴	仕事と生活	2	△	0・2			
		コンピュータリテラシー	2	△	2・0			
		メディア芸術文化論	2	△	0・2			
		メディアリテラシー	2	△	0・2			
		知的財産権入門	2	△		0・2		
		文字の文化と歴史	2	△		0・2		
		高齢社会と医療福祉	2	△		0・2		
		今日の医療医学の課題	2	△		0・2		

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(2) 専門教育科目 デジタルゲーム学科

(平成30年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数
				1年次 前期・後期	2年次 前期・後期	3年次 前期・後期	4年次 前期・後期	
専門科目	グラフィックス	コンピュータグラフィックス基礎論	2	△	2・0			必修科目26単位、選択必修科目8単位、選択科目をあわせて88単位以上
		グラフィックデザイン・実習1	2	△	0・4			
		グラフィックデザイン実習2	2	△		4・0		
		3Dグラフィックス・実習1	2	△		4・0		
		3Dグラフィックス実習2	2	△		0・4		
		Webデザイン・演習1	4	△			4・0	
		Webデザイン演習2	2	△			0・2	
		キャラクターデザイン・実習	2	△			0・4	
		VRグラフィックス演習	4	△			4・0	
	クリエイション	デザイン基礎実習	2	△	4・0			
		デッサンの基礎・実習	2	△	0・4			
		映像制作基礎演習	2	△		2・0		
		デッサン実習	2	△		4・0		
		表現実習1	2	△		0・4		
映像制作実習		2	△			4・0		
アドバンストデザイン・実習		2	△			4・0		

	UI・UXデザイン	2	△			2・0	
	コマースデザイン	2	△			2・0	
	映像シナリオ	2	△			2・0	
	メディアアート・演習	2	△			0・2	
	表現実習2	2	△			0・4	
	イラストレーション・実習	2	△			0・4	
	エディトリアルデザイン・演習	2	△			0・2	
	3D造形・実習	2	△			0・4	
	コスチュームデザイン	2	△				2・0
アニメーション	アニメーション概論	2	△	2・0			
	アニメーション技法	2	△	0・2			
	2DCGアニメーション・実習1	2	△		4・0		
	2DCGアニメーション実習2	2	△		0・4		
	3DCGアニメーション・実習1	2	△		0・4		
	3DCGアニメーション実習2	2	△			4・0	
	モーションプログラミング演習	4	△			0・4	
ゲーム学	ゲーム学	2	○	2・0			
	ゲーム制作入門実習	2	△	4・0			
	知的所有権	2	○	0・2			
	インタラクティブメディア概論	2	○	0・2			
	ゲーム工学概論	2	△	0・2			
	ゲームシナリオ	2	△		2・0		
	ゲーム評価法・演習	2	△		0・2		
	ゲームデザイン	2	△		0・2		
	ゲームマネジメント	2	△			0・2	
	シリアスゲーム論	2	△				2・0
	ゲームと教育	2	△				2・0
ゲームの科学	ゲームの心理学	2	○	2・0			
	基礎生物学	2	△	2・0			
	ゲームの数学1	2	△	2・0			
	基礎力学・物理学	2	△	2・0			
	基礎天文学	2	△	0・2			
	論理・離散数学	2	△	0・2			
	ヒューマンインタラクション	2	△		2・0		
	社会学概論	2	△		2・0		
	ゲームの数学2	2	△		2・0		
	認知科学	2	△		0・2		
	確率・統計入門	2	△		0・2		
	人間工学	2	△		0・2		
	ゲームインタフェース実験	2	△			4・0	
	ゲームと人工知能	2	△			2・0	
	パズルの数学	2	△				2・0
情報工学	デジタル回路基礎	2	△	0・2			
	C++プログラミング・実習1	2	△		4・0		
	情報通信論	2	△		2・0		
	コンピュータアーキテクチャ	2	△		0・2		
	デジタルインタフェース	2	△		0・2		
	シミュレーションプログラミング	2	△		0・2		
	プログラミングシステム論	2	△			2・0	
	オペレーティングシステム	2	△			2・0	
	ゲームセンサー論	2	△			2・0	
	データベース概論・演習	2	△			0・2	
	情報セキュリティ	2	△			0・2	
	形式システム・計算論	2	△			0・2	
	プログラミング手法と言語	2	△			0・2	
プログラミング	オブジェクト指向プログラミング入門・実習	2	△	4・0			
	スクリプトプログラミング入門・実習	2	△	4・0			
	オブジェクト指向プログラミング・実習	2	△	0・4			
	アルゴリズム基礎論	2	△	0・2			
	スクリプトプログラミング演習1	2	△		2・0		

	データ構造とアルゴリズム	2	△		2・0		
	オブジェクト指向ソフトウェア開発	2	△		0・2		
	3Dゲームプログラミング・実習	2	△		0・4		
	チーム開発技法	2	△		0・2		
	ゲーム開発実習	2	△			4・0	
	インタラクションプログラミング	2	△			2・0	
	C++プログラミング実習2	2	△			0・4	
	並列・ネットワークプログラミング・実習	2	△			0・4	
	ハードウェアプログラミング	2	△			0・2	
	Webプログラミング・実習	2	△				4・0
	スクリプトプログラミング演習2	2	△				2・0
	先端ゲームプログラミング・実習	2	△				4・0
サウンド	サウンドデザイン・実習	2	△	0・4			
	音楽理論	2	△		2・0		
	ゲームミュージック・演習	2	△			0・2	
プロデュース	プランニング入門・演習	2	△	0・2			
	コンテンツマーケティング・演習	2	△		2・0		
	コンセプトメイキング	2	△		0・2		
	コンテンツマネジメント・演習	2	△		0・2		
	アンケート調査法基礎	2	△			2・0	
	ビジネスマネジメント論	2	△			2・0	
	メディアプロデュース・実習	2	△			0・4	
	イベントプロデュース	2	△				2・0
アート&カルチャー	多文化コミュニケーション	2	△	2・0			
	芸術概論	2	△	2・0			
	視覚表現論	2	△	0・2			
キャリア形成	アクティブシンキング論・実習	2	△	4・0			
	問題解決の基礎	2	△	2・0			
	日本語表現法・演習	2	○	0・2			
	ゲーム・メディア制作特論	2	○	0・2			
	情報産業英語	2	△		2・0		
	コミュニケーション技法	2	△		2・0		
	テクニカルライティング	2	△		2・0		
	ビジネスコミュニケーション・演習	2	△		0・2		
	キャリアプランニング	2	○		0・2		
プロジェクト	プロジェクト入門・実習	2	○	0・4			
	プロジェクト実習1	2	○		4・0		
	プロジェクト実習2	2	○		0・4		
	社会プロジェクト実習	2	○			2・2	
その他	特別活動A	2	△		◎・◎		
	特別活動B	2	△		◎・◎		
	ゲーム制作実習	2	△			0・4	
ゼミナール	プレゼミ	2	○			2・0	
	ゼミナール	2	○			0・2	
	卒業制作	8	□				◎・◎
	卒業研究	8	□				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

(3) 専門教育科目 ゲーム&メディア学科

(平成30年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数
				1年次	2年次	3年次	4年次	
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期	
専門科目	コンピュータグラフィックス基礎論	2	△	2・0				必修科目26単位、選択必修科目8単位、選択科目をあわせて88単位以上
	グラフィックデザイン・実習1	2	△	0・4				
	グラフィックデザイン実習2	2	△		4・0			
	3Dグラフィックス・実習1	2	△		4・0			

	3Dグラフィックス実習2	2	△		0・4		
	Webデザイン・演習1	4	△			4・0	
	Webデザイン演習2	2	△			0・2	
	キャラクターデザイン・実習	2	△			0・4	
	VRグラフィックス演習	4	△				4・0
クリエイション	デザイン基礎実習	2	△	4・0			
	映像・映画概論	2	△	2・0			
	デッサンの基礎・実習	2	△	0・4			
	映像設計	2	△	0・2			
	映像制作基礎演習	2	△		2・0		
	デッサン実習	2	△		4・0		
	表現実習1	2	△		0・4		
	映像制作実習	2	△			4・0	
	アドバンストデザイン・実習	2	△			4・0	
	UI・UXデザイン	2	△			2・0	
	コマーシャルデザイン	2	△			2・0	
	映像シナリオ	2	△			2・0	
	映像音響論・実習	2	△			4・0	
	メディアアート・演習	2	△			0・2	
	表現実習2	2	△			0・4	
	イラストレーション・実習	2	△			0・4	
	エディトリアルデザイン・演習	2	△			0・2	
	3D造形・実習	2	△			0・4	
	コスチュームデザイン	2	△				2・0
アニメーション	アニメーション概論	2	△	2・0			
	アニメーション技法	2	△	0・2			
	2DCGアニメーション・実習1	2	△		4・0		
	2DCGアニメーション実習2	2	△		0・4		
	3DCGアニメーション・実習1	2	△		0・4		
	3DCGアニメーション実習2	2	△			4・0	
	モーションプログラミング演習	4	△			0・4	
	3DCGアニメーション実習3	2	△				4・0
ゲーム学	ゲーム学	2	○	2・0			
	ゲーム制作入門実習	2	△	4・0			
	知的所有権	2	○	0・2			
	インタラクティブメディア概論	2	○	0・2			
	ゲームシナリオ	2	△		2・0		
	ゲーム評価法・演習	2	△		0・2		
	ゲームデザイン	2	△		0・2		
	シリアスゲーム論	2	△			2・0	
	ゲームと教育	2	△			2・0	
ゲームの科学	ゲームの心理学	2	○	2・0			
	社会学概論	2	△		2・0		
	認知科学	2	△		0・2		
情報工学	情報通信論	2	△		2・0		
	データベース概論・演習	2	△			0・2	
	情報セキュリティ	2	△			0・2	
プログラミング	オブジェクト指向プログラミング入門・実習	2	△	4・0			
	スクリプトプログラミング入門・実習	2	△	4・0			
	オブジェクト指向プログラミング・実習	2	△	0・4			
	アルゴリズム基礎論	2	△	0・2			
	スクリプトプログラミング演習1	2	△		2・0		
	オブジェクト指向ソフトウェア開発	2	△		0・2		
	3Dゲームプログラミング・実習	2	△		0・4		
	チーム開発技法	2	△		0・2		
	スクリプトプログラミング演習2	2	△			2・0	
	ゲーム開発実習	2	△			4・0	
	Webプログラミング・実習	2	△				4・0
サウンド	サウンドデザイン・実習	2	△	0・4			
	音楽理論	2	△		2・0		

	音楽制作・実習	2	△		0・4		
	ゲームミュージック・演習	2	△			0・2	
プロデュース	プランニング入門・演習	2	△	0・2			
	コンテンツマーケティング・演習	2	△		2・0		
	コンセプトメイキング	2	△		0・2		
	コンテンツマネジメント・演習	2	△		0・2		
	アンケート調査法基礎	2	△			2・0	
	ビジネスマネジメント論	2	△			2・0	
	イベントプロデュース	2	△			2・0	
	メディアプロデュース・実習	2	△			0・4	
	アート&カルチャー	多文化コミュニケーション	2	△	2・0		
芸術概論		2	△	2・0			
視覚表現論		2	△	0・2			
言葉のデッサン		2	△	0・2			
サブカルチャー・コミック論		2	△		2・0		
ナラティブライティング・実習		2	△		4・0		
メディア		メディア英語	2	△		0・2	
	放送システム	2	△		0・2		
	広報システム	2	△			0・2	
ライブ	アートイベント	2	△		0・2		
	アナウンス論・演習	2	△		0・2		
	演劇概論	2	△			2・0	
	ゲーム・メディアライブ・実習	2	△			0・4	
キャリア形成	アクティブシンキング論・実習	2	△	4・0			
	問題解決の基礎	2	△	2・0			
	日本語表現法・演習	2	○	0・2			
	ゲーム・メディア制作特論	2	○	0・2			
	情報産業英語	2	△		2・0		
	コミュニケーション技法	2	△		2・0		
	テクニカルライティング	2	△		2・0		
	ビジネスコミュニケーション・演習	2	△		0・2		
	キャリアプランニング	2	○		0・2		
プロジェクト	プロジェクト入門・実習	2	○	0・4			
	プロジェクト実習1	2	○		4・0		
	プロジェクト実習2	2	○		0・4		
	社会プロジェクト実習	2	○			2・2	
その他	特別活動A	2	△		◎・◎		
	特別活動B	2	△		◎・◎		
	ゲーム制作実習	2	△			0・4	
ゼミナール	プレゼミ	2	○			2・0	
	ゼミナール	2	○			0・2	
	卒業制作	8	□				◎・◎
	卒業研究	8	□				◎・◎

(注) 必選欄 ○：必修科目 □：選択必修科目 △：選択科目

別表第1—9 総合情報学部 情報学科

(1) 総合科目

(平成29年度からの教育課程)

区分	授業科目	単位数	必選	週時間数				卒業要件単位数			
				1年次	2年次	3年次	4年次	CSコース		DMコース	
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期				
人文・社会・自然群	人間の探求	2	△	2・0				8単位	24単位	8単位以上	人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群
	哲学の世界	2	△	2・0							
	発達心理学	2	△	2・0							
	現代社会と青年の心理	2	△	0・2							
	教育制度論	2	△		2・0						
	人間形成と教育	2	△	0・2							
現代社会と宗教	2	△		0・2							

		道徳と教育	2	△		0・2								
文化の理解		歴史学の世界	2	△	2・0								をあわせて 24単位 から40単 位まで	
		日本の近代史を探究する	2	△		0・2								
		文学の世界	2	△	0・2									
		芸術の世界	2	△	2・0									
		国際コミュニケーション	2	△		2・0								
		現代社会を考える1	2	△	2・0									
		現代社会を考える2	2	△	0・2									
		異文化の理解	2	△	0・2									
		日本語上達法1	2	△	2・0									
		日本語上達法2	2	△	0・2									
		メディア芸術文化論	2	△	0・2									
		社会の認識と 人権		日本国憲法の理念と現実	2	△		0・2						
				社会生活と法	2	△		2・0						
				経済学の世界	2	△	2・0							
				家族のくらしと社会	2	△	0・2							
企業社会と労働	2			△		2・0								
政治のしくみを探究する	2			△	0・2									
高齢社会と医療福祉	2			△		0・2								
知的財産権入門	2			△		0・2								
総合ゼミナール	2	△		[2・0] [0・2]										
外国語群	英語	英語1	2	△	2・0					英語12単位	12単位以 上			
		英語2	2	△	0・2									
		英語3	2	△	2・0									
		英語4	2	△	0・2									
		英語5	2	△		2・0								
		英語6	2	△		0・2								
		英語7	2	△			2・0							
		英語8	2	△			0・2							
		英語総合セミナー1	2	△		2・0								
		英語総合セミナー2	2	△		0・2								
		英語総合セミナー3	2	△			2・0							
		英語総合セミナー4	2	△			0・2							
		コミュニケーション英語1	2	△		2・0								
		コミュニケーション英語2	2	△		0・2								
		コミュニケーション英語3	2	△			2・0							
		コミュニケーション英語4	2	△			0・2							
		基礎英文法a	2	△	2・0									
		基礎英文法b	2	△	0・2									
	ドイツ語	ドイツ語初級1	2	△	2・0									
		ドイツ語初級2	2	△	0・2									
	中国語	中国語初級1	2	△	2・0									
		中国語初級2	2	△	0・2									
	韓国語	韓国語初級1	2	△	2・0									
		韓国語初級2	2	△	0・2									
	健康・スポーツ群	健康の科学	健康・スポーツ科学論	2	△		2・0			4単位		4単位以 上		
			スポーツ文化論	2	△		0・2							
			スポーツ実習1	1	△	2・0								
スポーツ実習2			1	△	0・2									
スポーツ実習3			1	△			0・2							
スポーツ実習4			1	△				2・0						

(注) 必選欄 △：選択科目

CS コース：コンピュータサイエンスコース、DM コース：デジタルメディアコース

(2) 専門教育科目

(平成29年度からの教育課程)

区分	授業科目	単 位 数	コース別必選		週時間数				卒業要件単位数	
			CS コース	DM コース	1年次	2年次	3年次	4年次	CS コース	DM コース
					前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期	前期・ 後期		

基礎専門科目	数学	線形代数学	2	○	□c	2・0			必修科目 16単位、 選択必修 科目4単 位以上、 選択科目 をあわせ て24~40 単位まで	必修科目 4単位、選 択必修科 目8単位 以上、選 択科目を あわせて 20~40単 位まで
		空間幾何	2	△	□c	0・2				
		離散数学	2	○	□c	0・2				
		微分積分学1	2	△	△	0・2				
		微分積分学2	2	△	△		2・0			
		確率・統計	2	○	□c		2・0			
	情報理論	2	○	□c		0・2				
	理科	基礎化学	2	□a	△	2・0				
		基礎生物学	2	□a	△	2・0				
		力学	2	□a	△		2・0			
		電気・電子回路	2	□a	△		0・2			
	情報	論理回路	2	○	□c	2・0				
		情報リテラシ演習1	2	△	□c	2・0				
		情報リテラシ演習2	2	△	□c	0・2				
		Linux演習	2	△	△		2・0			
		コンピュータと社会	2	○	□c	2・0				
		C++プログラミング実習1	2	○	○	4・0				
		C++プログラミング実習2	2	○	○	0・4				
ウェブデザイン演習		2	△	△		0・2				
数値解析演習		2	△	△		0・2				
専門科目	ソフトウェア科学	アルゴリズムとデータ構造1	2	○	□d	0・2		必修科目 48単位、 選択必修 科目12単 位以上、 選択科目 をあわせ て64~80 単位まで	必修科目 18単位、 選択必修 科目10単 位以上、 選択科目 をあわせ て48~84 単位まで	
		アルゴリズムとデータ構造2	2	○	□d		2・0			
		プログラミング言語論	2	○	□d	0・2				
		C++プログラミング実習3	2	○	□d	4・0				
		C++プログラミング実習4	2	□b	△	0・4				
		C++プログラミング応用演習1	2	□b	△		2・0			
		C++プログラミング応用演習2	2	□b	△		0・2			
		グループプログラミング演習	2	○	△	0・2				
		ソフトウェア設計論	2	○	□d		2・0			
		Javaプログラミング演習	2	□b	△		2・0			
	オブジェクト指向設計論	2	□b	△			2・0			
	ソフトウェアとシステムの検証	2	△	△		0・2				
	コンピュータ工学	コンピュータアーキテクチャ1	2	○	□d	0・2				
		コンピュータアーキテクチャ2	2	○	□d		2・0			
		論理設計1・演習	4	△	△	4・0				
		論理設計2・演習	4	△	△	0・4				
		ロボティクス	2	△	△	0・2				
		組み込みソフトウェア開発基礎演習	2	□b	△		2・0			
組み込みソフトウェア開発演習		2	△	△		0・2				
コンピュータ計測と制御		2	△	△			2・0			
情報システム	情報システム実験	2	○	○	4・0					
	情報ネットワーク	2	○	□d	2・0					
	ウェブプログラミング演習	2	□b	△	0・2					
	オペレーティングシステム	2	○	□d		2・0				
	データベース	2	□b	□d		2・0				
	並列分散システム	2	□b	△		0・2				
	情報システムの構築・運用・管理	2	△	□d		0・2				
	情報セキュリティ	2	△	□d		2・0				
符号理論	2	△	△		0・2					
情報ネットワーク応用演習	4	△	△			4・0				
情報メディア	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	△	△	0・2					
	CGデザイン演習	2	△	△	0・2					
	CGプログラミング演習	2	△	△	0・2					
	GUIデザイン演習	2	△	△		0・2				
	画像情報処理	2	△	△		2・0				
	情報メディア論	2	△	△			2・0			
	モデリング・シミュレーション手法	2	△	△		0・2				
知識処理	2	△	△			0・2				
ITキャリア形成	スタディスキル	2	○	○	1・1					
	ITマネジメント	2	△	□d	0・2					
	テクニカルライティング	2	○	△	0・2					
	テクニカルプレゼンテーション	2	○	△		2・0				

	問題解決法	2	○	△		2・0			
	グループディスカッション	2	○	△			0・2		
	エンジニアリングデザイン演習	2	○	△			2・0		
	キャリアプランニング1	2	○	○			0・2		
	キャリアプランニング2	2	○	○				2・0	
	インターンシップ	2	△	△			0・4		
ゼミ及び研究	プレゼミ	2	○	○		1・1			
	卒業研究	8	○	○			◎・◎		
	特別研究	4	□b	△				◎・◎	

(注)コース別必選欄 ○：必修科目 □a、□b、□c、□d：選択必修科目 △：選択科目

総合情報学部の他学科の指定された科目を専門科目の選択科目として10単位まで認定する。

CSコース：コンピュータサイエンスコース

DMコース：デジタルメディアコース

別表第2 教職課程

(1) 教科に関する科目 工学部電気電子工学科

(平成27年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
免許教科	教科に関する科目				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	代数学	代数学1	2	○		2・0		
		代数学2	2	△		0・2		
	幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
		幾何学2	2	△		0・2		
	解析学	解析学1	2	○			2・0	
		解析学2	2	△			0・2	
工業	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
情報	情報と職業	情報と職業	2	○		0・2		

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(2) 教科に関する科目 工学部電子機械工学科

(平成27年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
免許教科	教科に関する科目				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	代数学	代数学1	2	○		2・0		
		代数学2	2	△		0・2		
	幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
		幾何学2	2	△		0・2		
	解析学	解析学1	2	○			2・0	
		解析学2	2	△			0・2	
工業	職業指導	職業指導	2	○		2・0		

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(3) 教科に関する科目 工学部機械工学科

(平成27年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
免許教科	教科に関する科目				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	代数学	代数学1	2	○		2・0		
		代数学2	2	△		0・2		
	幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
		幾何学2	2	△		0・2		

	解析学	解析学1	2	○			2・0	
		解析学2	2	△			0・2	
工業	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
技術	木材加工(製図及び実習を含む。)	木材加工	2	○		2・0		
	栽培(実習を含む。)	栽培	2	○		2・0		

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(4) 教科に関する科目 工学部基礎理工学科

(平成27年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
免許教科	教科に関する科目				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	代数学	代数学1	2	○		2・0		
	幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
	解析学	解析学1	2	○			2・0	
理科	生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	生物学実験 *	1	△		2・0		
	地学実験(コンピュータ活用を含む。)	地学実験 *	1	△		2・0		

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(5) 教科に関する科目 工学部環境科学科

(平成27年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
免許教科	教科に関する科目				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
工業	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
技術	木材加工(製図及び実習を含む。)	木材加工	2	○		2・0		
	栽培(実習を含む。)	栽培	2	○		2・0		
理科	生物学実験(コンピュータ活用を含む。)	生物学実験 *	1	△		2・0		
	地学実験(コンピュータ活用を含む。)	地学実験 *	1	△		2・0		

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(6) 教科に関する科目 医療福祉工学部医療福祉工学科

(平成24年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	必選	週時間数			
免許教科	教科に関する科目				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	代数学	代数学1	2	○		2・0		
		代数学2	2	△		0・2		
	幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
		幾何学2	2	△		0・2		
	解析学	解析学1	2	○			2・0	
		解析学2	2	△			0・2	
工業	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
情報	情報と職業	情報と職業	2	○		0・2		

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(7) 教科に関する科目 情報通信工学部情報工学科

(平成27年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単 位 数	必 選	週時間数			
免許教科	教科に関する科目				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	代数学	代数学1	2	○		2・0		
		代数学2	2	△		0・2		
	幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
		幾何学2	2	△		0・2		
	解析学	解析学1	2	○			2・0	
		解析学2	2	△			0・2	
工業	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
情報	情報と職業	情報と職業	2	○		0・2		

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(8) 教科に関する科目 情報通信工学部通信工学科

(平成27年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単 位 数	必 選	週時間数			
免許教科	教科に関する科目				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	代数学	代数学1	2	○		2・0		
		代数学2	2	△		0・2		
	幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
		幾何学2	2	△		0・2		
	解析学	解析学1	2	○			2・0	
		解析学2	2	△			0・2	
工業	職業指導	職業指導	2	○		2・0		
情報	情報と職業	情報と職業	2	○		0・2		

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(9) 削除

(10) 教科に関する科目 総合情報学部情報学科

(平成25年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単 位 数	必 選	週時間数			
免許教科	教科に関する科目				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
数学	代数学	代数学1	2	○		2・0		
		代数学2	2	△		0・2		
	幾何学	幾何学1	2	○		2・0		
		幾何学2	2	△		0・2		
	解析学	解析学1	2	○			2・0	
		解析学2	2	△			0・2	
情報	情報と職業	情報と職業	2	○		0・2		

(注) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(11) 教職に関する科目

工学部、情報通信工学部、医療福祉工学部

(平成27年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単 位 数	必 選	週時間数			
科目	各科目に必要な事項				1年次	2年次	3年次	4年次
					前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期

教育の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割	教職論	2	○		2・0		
	教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) 進路選択に資する各種機会の提供等							
教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	○		2・0		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	教育心理学	2	○		2・0		
		発達心理学	2	△	2・0			
		現代社会と青年の心理	2	△	0・2			
		人間形成と教育	2	△		0・2		
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育学の世界	2	○		2・0			
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論	2	○		0・2		
	各教科の指導法	数学科教育法1	2	○		2・0		
		数学科教育法2	2	○		0・2		
		数学科教育法3*	2	△		2・0		
		数学科教育法4*	2	△		0・2		
		技術科教育法1	2	○		2・0		
		技術科教育法2	2	○		0・2		
		技術科教育法3	2	○		2・0		
		技術科教育法4	2	○		0・2		
		工業科教育法1	2	○		2・0		
		工業科教育法2	2	○		0・2		
		情報科教育法1	2	○		2・0		
		情報科教育法2	2	○		0・2		
		理科教育法1	2	○		2・0		
		理科教育法2	2	○		0・2		
		理科教育法3*	2	△		2・0		
		理科教育法4*	2	△		0・2		
		保健体育科教育法1	2	○		2・0		
		保健体育科教育法2	2	○		0・2		
		保健体育科教育法3*	2	△		2・0		
		保健体育科教育法4*	2	△		0・2		
	道徳の指導法	道徳教育の理論と方法*	2	△		2・0		
	特別活動の指導法	特別活動指導法	2	○		2・0		
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法と技術	2	○		0・2			
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論	2	○		2・0		
	進路指導の理論及び方法	教育相談	2	○		0・2		
教育実習	教育実習	教育実習1	2	○			2・2	
		教育実習2 *	2	△			2・2	
		事前・事後指導	1	○			1・1	
教職実践演習	教職実践演習(中・高)	2	○			0・2		

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) 各教科の指導法の履修は、当該教科の教育法を修得すること。

(注3) *印の授業科目は、中一種必修とする。

総合情報学部 情報学科

(平成25年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	週時間数			
科目	各科目に必要な事項			1年次 前期・ 後期	2年次 前期・ 後期	3年次 前期・ 後期	4年次 前期・ 後期
教育の意義等に関する科目	教職の意義及び教員の役割 教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。) 進路選択に資する各種機会の提供等	教職論	2	○		2・0	

教育の基礎理論に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	○		2・0		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)	教育心理学	2	○		2・0		
		発達心理学	2	△	2・0			
		現代社会と青年の心理	2	△	0・2			
		人間形成と教育	2	△		0・2		
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育制度論	2	○		2・0			
教育課程及び指導法に関する科目	教育課程の意義及び編成の方法	教育課程論	2	○		0・2		
	各教科の指導法	数学科教育法1	2	○		2・0		
		数学科教育法2	2	○		0・2		
		数学科教育法3 *	2	△		2・0		
		数学科教育法4 *	2	△		0・2		
	情報科教育法	情報科教育法1	2	○		2・0		
		情報科教育法2	2	○		0・2		
	道徳の指導法	道徳教育の理論と方法 *	2	△		2・0		
特別活動の指導法	特別活動指導法	2	○		2・0			
教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法と技術	2	○		0・2			
生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論	2	○		2・0		
	進路指導の理論及び方法							
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)	教育相談	2	○		0・2		
教育実習		教育実習1	2	○				2・2
		教育実習2 *	2	△				2・2
		事前・事後指導	1	○				1・1
教職実践演習		教職実践演習(中・高)	2	○				0・2

(注1) 必選欄 ○：必修科目 △：選択科目

(注2) 各教科の指導法の履修は、当該教科の教育法を修得すること。

(注3) *印の授業科目は、中一種必修とする。

(12) 教科又は教職に関する科目

(平成18年度からの教育課程)

免許法施行規則に定める科目区分等	授業科目	単位数	必選	週時間数			
				1年次	2年次	3年次	4年次
				前期・後期	前期・後期	前期・後期	前期・後期
教科又は教職に関する科目	介護等体験指導 *	1	△			2・0	

(注1) 必選欄 △：選択科目

(注2) *印の授業科目は、中一種必修とする。

別表第3 削除

別表第4 入学金及び学費

学部	項目	金額(円)
工学部 情報通信工学部 総合情報学部	入学金	200,000
	学費 (内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 340,000	1,325,000
医療福祉工学部医療福祉工学科	入学金	200,000
	学費 (内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 340,000 実験実習料 50,000	1,375,000
医療福祉工学部理学療法学科	入学金	200,000
	学費	1,625,000

	(内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 340,000 実験実習料 300,000	
医療福祉工学部健康スポーツ科学科	入学金	200,000
	学費 (内訳 単位：円) 授業料 985,000 維持拡充費 240,000 実習料 100,000	1,325,000

別表第5 削除

学部教授会規則

平成17年4月19日

制定

最近改正 平成27年2月24日

(趣旨)

第1条 この規則は、大阪電気通信大学学則(以下「学則」という。)第41条第3項の規定に基づき、学部教授会(以下「教授会」という。)の構成と運営に関し必要な事項を定める。

(構成)

第2条 教授会は、当該学部所属の専任の教員をもって組織する。

2 この規則において「教員」とは、学則第38条に規定する教授、准教授、講師をいう。

3 複数の学部が合同で教授会を開催することができる。

(審議事項)

第3条 教授会は、学部の運営に関する次の事項について審議し、学長が決定を行うにあたり意見を述べるものとする。

- (1) 教育課程に関する事項
- (2) 学生の入学、卒業及び課程の修了その他学生の身分の取扱いに関する事項
- (3) 学位の授与の基準に関する事項
- (4) 学生の学修指導及び評価に関する事項
- (5) 学生の厚生補導、賞罰に関する事項
- (6) 教育の改善及び研究に関する事項
- (7) 教員の人事選考に関する事項
- (8) 学部長の選考に関する事項
- (9) 学部に関する学則及び規則に関する事項
- (10) 学長から付議又は諮問された事項及び主任会から提起された事項
- (11) その他学部の運営に関する事項

(主任会)

第4条 教授会は、教授会の構成員のうちの一部をもって構成される主任会を置くことができる。

2 主任会に関する事項は、別に定める。

(教員選考委員会)

第5条 第3条第7号の人事選考に関する事項を審議するため、教員選考委員会をおく。

2 教員選考委員会に関する規則は、別に定める。

(教授会の招集)

第6条 教授会は、あらかじめ議案を通知して、学部長がこれを招集し、その議長となる。

複数の学部が合同で教授会を開催する場合には、議長は当該学部長の間で定める。

2 学部長が職務を遂行できないときは、学部長の指名した者が、学部長の職務を代行する。

(教授会の運営)

第7条 教授会の運営は、次のとおりとする。

(1) 教授会は、構成員の過半数の出席によって成立し、その議決は、構成員である出席者の過半数によって行う。ただし、可否同数の場合は、議長が決する。

(2) 前号の構成員数には休職中の者、在外研究員及び国内研究員の数は含めない。

(3) 教授会の議事は、議長の指名する書記によって記録し、次回教授会の冒頭に確認した後、議事録として構成員に公開するものとする。

(4) 教授会が必要と認めた場合、構成員以外の者の出席を求め意見を聴くことができる。

(改廃)

第8条 この規則の改廃は、教授会での意見を参酌し、運営会議の審議を経て学長が理事長に上程し、常任理事会での審議を経て理事長が決裁する。

附 則

1 この規則は、平成17年5月1日から施行する。

2 学部教授会規則(平成7年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類
(工学部 建築学科)

目次

1. 設置の趣旨及び必要性	p. 1
2. 学部・学科等の特色	p. 6
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称	p. 6
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	p. 6
5. 教員組織の編成の考え方及び特色	p. 11
6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件	p. 14
7. 施設、設備等の整備計画	p. 16
8. 入学者選抜の概要	p. 18
9. 取得可能な資格	p. 22
10. 企業実習（インターンシップを含む。）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画	p. 22
11. 管理運営	p. 25
12. 自己点検・評価	p. 26
13. 情報の公表	p. 27
14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	p. 30
15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	p. 31

設置の趣旨等を記載した書類

1. 設置の趣旨及び必要性

(1) 学校法人大阪電気通信大学のMV²(Mission/Value/Vision)と教育方針

学校法人大阪電気通信大学では、設置する大阪電気通信大学及び大阪電気通信大学高等学校を含む学園全体のこれまでの伝統と卒業生が社会で受けられている高い評価を噛みしめ、初心に戻って本学園運営の基本となるビジョンを再確認するために、次のとおりMV²(Mission/Value/Vision)を平成28年に策定した。

Mission : 「人間力と技術力で人生を楽しめる人材」を育成・輩出します。

Value : 学生・生徒の力を信じ、共に、成長できる場をつくり続けます。

Vision :

【技術】人間力と技術力を活かし、活躍する人材を輩出する学園としてさらに社会的認識（社会的評価）の輪が広がっています。

【満足】在学生、卒業生、保護者、教職員がより高い満足感と誇りを持っている学園となっています。

【多様性】さまざまな学生・生徒が集い、共に学ぶことのできる包容力のある学園となっています。

このMV²における人間力と技術力を「人生の土台となる力」と本学では解釈し、学生・生徒が豊かな人生を築くため、この人間力と技術力を養うことをMissionの基礎としている。人間力とは、友人と、教職員と、地域社会と、正面から向き合っていく普遍的な力である。例えば、人間愛・責任感・共生力・対応力等を意味する。その人間力に、建学以来培ってきた実践教育により、確かな技術力を付加価値として付与することで、人生の選択肢を広げることができる。

本学園では、卒業後も、人と社会の幸せを願い、人間力と技術力を磨き続け、一步一步着実に自らの力で前進できる人材こそが人生を楽しめる人材であると信じている。このような人材こそ、本学園が社会に残したい人材であり、その人材輩出こそが本学園の最も重要な社会貢献と考えている。

Missionを達成するために、教職員はすべての学生・生徒が人間力・技術力を伸ばすことができると信じ、個々に最適な支援・教育・環境を提供する。

そして、Visionに支えられて、Missionを達成することにより、人間力と技術力を活かし、活躍する人材を輩出することを目指している。

MV²に基づいた教育方針として、「実学」を重視した教育を教職員一体となって行い、次の能力が身に付くことを目指している。

- ・ (手) 手が動かせる
与えられた／考えた課題に対して手が出せる
- ・ (頭) 絵が描ける
自分の考えが具象化できる (図表化できる)
- ・ (心) コミュニケーションができる
双方向の意思疎通：人の考えが理解できる、自分の考えを伝えられる

(2) 大阪電気通信大学の成り立ち

学校法人大阪電気通信大学は、昭和 36 年 4 月、大阪電気通信大学を開設、全国の私立大学で初めて電子工学科を設置し、56 年に及ぶ電子工学教育の歴史を有する。翌昭和 37 年 4 月に通信工学科を増設、昭和 40 年 4 月には 3 学科 (電子物性工学科、電子機械工学科、経営工学科)、昭和 50 年 4 月にはさらに 2 学科 (精密工学科、応用電子工学科) を増設した。かくして、工学部は 7 学科となり、一貫してエレクトロニクス (電子工学) とこれを基礎とする先端科学技術である計算機工学、通信工学、制御機械工学および情報工学の諸分野の教育研究を実施し、多くの卒業生を産業各界に送ってきた。平成 2 年 4 月には、大学工学部を基礎として大学院工学研究科博士前期課程に総合電子工学専攻、制御機械工学専攻、情報工学専攻の 3 専攻を設置し、平成 4 年 4 月には、上記 3 専攻の博士後期課程を設置した。これにより大阪電気通信大学は工学部 1 学部による高等教育機関としての体制を整備した次第である。

その後、あらゆる科学技術が急速な進展をなし得た根幹をなすものはエレクトロニクスを基盤としたコンピュータハード技術の向上、すなわち情報工学技術の発展によるものとの認識のもとに、平成 7 年 4 月に経営工学科を改組転換し、情報工学部情報工学科を設置した。一方、工学部をさらに充実させるために、平成 8 年 4 月に精密工学科を智能機械工学科に、平成 9 年 4 月に電子物性工学科を電子材料工学科に、応用電子工学科を光システム工学科に学科名称を変更した。

21 世紀のデジタル情報社会においては情報工学技術と並行して、コンピュータソフト情報技術が重要な役割を担うものと考え、平成 12 年 4 月に情報工学部を総合情報学部に学部名称を変更した。同時に、デジタル・マルチメディア情報環境におけるグローバルな情報文化社会の形成に貢献することができる人材を育成するため、メディア情報文化学科を開設した。さらに総合情報学部は、ゲーム開発を担う人材を育成するために平成 15 年 4 月にデジタルゲーム学科を開設し、学部を充実させるために平成 17 年 4 月にはメディアコンピュータシステム学科を開設した。その後、社会状況に合うように改組と学科名称の変更を行い、現在の総合情報学部は 2 学科 (デジタルゲーム学科、情報学科) で構成されている。一方、平成 17 年 4 月に開設した情報通信工学部は現在 2 学科 (情報工学科、通信工学科) で構成されている。

得意分野である電子工学分野を医療福祉分野に展開させるために、平成13年4月には工学部に医療福祉工学科を開設した。さらに医療福祉分野を発展させるために、平成16年4月には医療福祉工学部医療福祉工学科に改組した。その後医療福祉工学部は、平成18年4月に理学療法学科、平成20年4月に健康スポーツ科学科を開設し、現在に至っている。

一方、工学部では、機械工学分野を強化するために平成14年4月に知能機械工学科を機械工学科に学科名称を変更した。さらに工学部を充実させるために、平成18年4月に環境技術学科を開設し、同時に電子材料工学科を応用化学科に学科名称を変更した。平成19年4月には、数学と理科を基礎から学ばせ、数学・理科の教員を養成することを目指した基礎理工学科を開設した。その後、社会状況の変化に合わせて、平成21年4月には電子工学科を電気電子工学科に学科名称を変更し、平成23年4月には応用化学科と環境技術学科を環境科学科に改組した。現在の工学部は5学科（電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、基礎理工学科、環境科学科）で構成されている。

(3) 工学部建築学科設置の趣旨

新学科を開設する工学部は、戦後の復興期に、いち早く電子工学や通信工学など最先端のエレクトロニクス分野で、実学を身につけた有為な人材を育成することを目的として建学された。その後、健康で快適な生活を支援する工学、さらには地球の環境を守り安心・安全な社会を築く工学への教学の分野を広げ、従来の基盤的工学である電気電子・機械・情報・通信との相乗効果を創出し、開学以来「実学」を重視した教育を実践し、本年度創立56周年を迎えた。

この流れを踏まえ、電気電子工学分野、機械工学分野、環境科学分野、基礎理工学分野以外に社会に必要とされる工学分野として、人間の生活環境を構成し、安全で健康にして快適な生活を発展させるよりどころとなる技術分野であり、多様な技術を総合して行われる創造的な努力によって作りだされる建築学科を創設することとした。そして、建築学科は人間生活のあらゆる面に密接かつ深く係わっており、全人的な技術である。このような建築の特色は本学の「実学で『人間力』と『技術力』を養う。」というMissionにまさに適合しており、従来からの社会の幅広い層による建築学科設立への強い期待があった。

これらのことより、工学の一層の充実を図り、工学全般を網羅し完成を期することは、本学の沿革と照らしても整合性のあるものであり、社会に抵抗感なく受け入れられると考え、建築学科を設置することとした。

(4) 地域から見た本学工学部建築学科の可能性

大阪府内で建築関係学科として開設されているのは、関西大学環境都市工学部建築学科、近畿大学建築学部建築学科、摂南大学理工学部建築学科、大阪工業大学工学部建築学科、大阪産業大学デザイン工学部建築・環境デザイン工学科があり、いずれも開設されている他の学科と比べて志願倍率が高く需要度の高い学科となっている。特に摂南大学や大阪工業大学では志願倍率は10倍程度あることから、本学工学部建築学科を設置した場合でも十分な志願者が見込めると判断した。本学では伝統的な工学としての建築学が学べる学科として開設することで、将来性が見込めると判断した。

(5) 教育研究の目的及び研究対象とする学問分野

建築学科は、既存の学科（工学の基盤である電気電子・機械・情報・通信・環境の分野、医療福祉や理学療法、健康・スポーツ分野の工学分野、情報学をベースにしたデジタルゲームやアニメーションなどの工学分野）とシナジーが形成され、本学独自の色彩を強調できる教育・研究を目的とした学科である。例えば、伝統の電気技術や通信技術を取り込んだ建築設備学の習得、3次元CAD(Computer Aided Design)、CG(Computer Graphics)や造形技術を駆使できる建築設計技術の習得、さらには建築の生産性向上において普及・活用が期待されているBIM(Building Information Modeling)の習得などを目指す。教授陣も実社会で建築に関する諸分野で豊富な経験を持つ研究・設計者を充て、まさに実学教育を徹底する。また、本学は資格取得環境を充実させ、一級・二級建築士の取得支援を行う。

したがって、上述した教育研究の目的から、建築学科が組織として研究対象とする中心的な学問は、「工学」とする。

(6) 養成する人材と教育上の目的及び卒業時の達成目標

① 養成する人材

次に挙げる知識や能力を修得した人材を養成する。

- ・建築物を設計、建設するために必要な建築に関する基礎的専門知識と技術を身につけているだけでなく、環境、エネルギー、情報といった建築に関連する分野の知識も身につけている人材
- ・建築に関する知識に加えて、コンピュータを上手に活用し、効率良く問題解決に取り組むことができる人材
- ・コンピュータを駆使して、CADにより図面を描き、デジタルデザイン技術により図面を実際の建物のようにリアルに描画し、BIMにより、3次元で建物をデザインしながら、そこに様々な建物情報を与えることで、設計、施工、維持管理を最適化する技術を身につけている人材

- ・自ら進んで学び、人々と積極的に交流できる力を身につけている人材
- ・建築物の社会的影響を理解し、技術者としての倫理観と責任感を身につけている人材
- ・独創的な仕事を遂行するため、個性を活かし、アイデアを出す力を身につけている人材
- ・自分の意見を説明し、かつ他人の意見を聞き、最適な建物・まちづくりができるコミュニケーション力を身につけている人材

② 学生にどのような能力を習得させるのか等の教育上の目的

建築学科では、持続可能社会を実現する「人と環境に配慮した建物・まちづくり」をモットーとして、人に対しては、安全かつ快適な空間を提供し、環境に対しては、自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を計画、設計、施工できる建築家や建築技術者の養成を目指している。また、コンピュータを活用して、建築設計・構造・設備などの実務に携われる技術者の養成を目指す。

さらに、地域（特に京阪電気鉄道沿線）の方々と積極的に交流し、住みやすいまちづくりをめざしたアクティブラーニングを教育の一環とし、コミュニケーション能力、チームで働く能力などの社会人として必要な基礎能力（社会人基礎力）を確実に身につけさせ、社会に貢献できる人材を輩出できる教育を行い、社会で活躍できる人材の育成を目指している。

そして卒業生は、建築、構造、設備の設計や施工に携わる建築家及び建築技術者として、ゼネコン（総合建設業者）、建築設備業者、建築設計事務所、住宅メーカーや住宅関連の設備業者への就職を目指す。また、建築・まちづくりに関するプランナー、コミュニティデザイナー、行政担当者、あるいは、工業・技術分野での教育者などの進路も目指す。

③ 卒業時における達成目標

建築学科では、養成する人材の目的を踏まえ、具体的な学修課題・計画に沿って教育した結果として、次のとおりディプロマポリシーとして卒業時における達成目標を設定する。

- 1) 建築に関する基礎的な専門知識を有し、それらを適切に応用する能力を備えていること。
- 2) 建築に関する知識に加えて、IT 技術や ICT 技術を活用し、効率良く問題解決に取り組むことができること。
- 3) 個性を發揮しながらも他人と協調して、自らの役割を、責任を持って果たし、社

会に貢献できる能力を有すること。

- 4) 獲得した技術を社会で正しく使用できる倫理観と責任感を有すること。
- 5) 自らに誇りを持ち、心豊かな生活を営む価値観を有すること。

2. 学部・学科等の特色

建築学科における教育研究上の目的は、持続可能社会を実現する「人と環境に配慮した建物・まちづくり」を目指した教育研究を通じて、「人に対して安全かつ快適な空間であることを考慮しつつ、環境に対して自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を念頭に置いて、計画、設計、施工できる建築家や建築技術者を養成する」こととしている。

また、人材養成の目的は、「住みやすいまちづくりをめざしたアクティブラーニングを中心とした教育により、コミュニケーション能力、チームで働く能力などの社会人として必要な基礎能力（社会人基礎力）を確実に身につけさせ、社会に貢献できる人材を輩出できる教育を行い、社会で活躍できる人材を養成する」こととしている。

これらのことから、建築学科が担う機能と特色としては、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」を踏まえて、「幅広い職業人養成」の機能を重点的に担うとともに、人間が主体として心豊かな住環境の創造に関する諸問題にも比重を置いた教育研究に取り組むことである。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

既述したように、建築学科は、建築物と人間及び自然・都市環境との共生を志向し、機能的であり、かつ住みやすい居住環境を創造できる人材を養成できることを目的とした学科であり、本学工学部の人材養成の目的と合致していることから、既存の工学部に設置し、学科の名称及び学位の名称を次のとおりとした。

学科の名称及び学位の名称

建築学科 「Department of Architecture」

学士（工学） 「Bachelor of Engineering」

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

本学建築学科のカリキュラムポリシーを以下に示す。

◇ カリキュラムポリシー

・学修課題

- 1) 建築を設計、建設するために必要な基礎的専門知識と技術を着実に修得。
- 2) 環境、エネルギー、情報といった建築に関連する分野の知識を修得。

- 3) コンピュータを駆使して、CADにより図面を描き、CGにより図面を実際の建物のようにリアルに描画し、BIMにより、3次元で建物をデザインしながら、そこに様々な建物情報を与えることで、設計、施工、維持管理を最適化する技術を修得。
- 4) 自ら進んで学び、人々と積極的に交流できる力を研磨。
- 5) 建築物の社会的影響を理解し、技術者としての倫理観と責任感を修得。
- 6) 独創的な仕事を遂行するため、個性を活かし、アイデアを出す力を研磨。
- 7) 自分の意見を説明し、かつ他人の意見を聞き、最適な建物・まちづくりができるコミュニケーション力を修得。

・学修計画

- 1) 建築で最も基礎となる数学・力学を1年次に学び、専門科目が十分に理解できる基礎力を伸ばす。
- 2) 設計に必要な製図を、最初は製図板を用いて、設計製図の基礎を学ぶ。次に、本学の得意分野であるIT技術を活かして、CADやCGを用いて図面やデザインを書く。さらに、最先端のICT技術であるBIMについても学ぶ。
- 3) 一級・二級建築士受験資格に必要な建築設計、建築計画、建築環境工学・建築設備、構造力学・建築構造・建築材料、建築生産・法規について学修する。
- 4) まちづくりプロジェクトのようなアクティブラーニングにより、地域の人々の話を聴き、地域の行事に参加し、地域の方々と一緒にまちづくりを考える力を身につける。

以上のカリキュラムポリシーに基づき、教育課程の編成の考え方及び特色について具体的に説明を行う。

(1) 総合科目

本学科の教育課程は、全学の教育課程の体系に準じて、総合科目(人文・社会・自然群、外国語群、健康・スポーツ群、キャリア形成群)と専門科目からなる。

総合科目は、本学の教養教育として位置づけられ、「社会人基礎力を醸成する」を目的として各科目(群)の編成を行っている。特に、キャリア形成群は中心的な科目群であり、学部学生としての基礎的な能力の育成から社会人基礎力の醸成に至る本学の特色たる実学教育の根幹をなすものである。

① 人文・社会・自然群

人間のありようと教育の重要性、個人の自由と平等、社会において担うべき責任を理解し、公正に判断する能力を養うことや、文化・科学の成り立ちと、現代社会における様々な課題の認識を理解する。

② 外国語群

国際社会に対応できる英語能力をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養うとともに、日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養う。

③ 健康・スポーツ群

生涯にわたって自ら健康を維持していくことができるための素養と、健康に関する情報が氾濫する現代社会において、科学の観点から健康に関する基礎知識を学び、自身で健康を守るための素養を身につける。

④ キャリア形成群

社会人としての基礎力である「学び」のあり方について、まず本学、すなわち大阪電気通信大学の学生としての学びからはじめて、社会人の学びや、学部・学科の卒業生としての基本的な教養、及び関連する社会情勢とその問題点に関する知識を身につける。グループディスカッションなどを行い、「自分を知る」・「大学を知る」・「社会を知る」ことから自分の将来を真剣に考え、人間形成を行う。

(2) 専門科目

本学科では、専門科目を工学としての基礎専門科目（「数学」群、「物理」群、「情報」群、工学入門）と一級・二級建築士受験資格を念頭にした科目群からなる建築専門科目で構成している。建築専門科目は、「建築設計製図」群、「建築計画」群、「環境工学・建築設備」群、「建築構造・材料」群、「建築生産・法規」群、「その他」の6群からなっている。「その他」を除く各群には、さらに一級建築士の受験資格に必要な専門分野に区分されており、分野毎に必修となる授業科目と必要な単位数が定められている。

また、本学の特長としてコンピュータを活用したCADやBIMを習得できる授業科目を充実させている。以下、各科目群についてその目的と教育概要について述べる。

[資料1：カリキュラムマップ]

① 建築設計製図群

様々な規模、機能等を有し、人々に心の豊かさや安心安寧、社会の活性化を促進する建築や空間を自らデザインし、表現する能力を継続的な実習を通して醸成する。また、建築物等の建築工事を実施するために必要となる図面等の作成を行うことができる技能を身につける。

1年次の「建築設計基礎実習」では、建築製図を行う上での基礎的技術を訓練し、2年次の「建築設計実習1、2」で比較的小規模で身近な建築を自らデザインしつつ、機能計画、構造等を学ぶ。これらの授業科目は必修とし、建築士受験資格に必要な単位数が満たされる。3年次には、「建築設計実習3、4」において、より規模が大きく、機能が複雑な、あるいは象徴的な建築を設計、提案する訓練を行うとともに、後期の構造設計、設備設計、補修・補強を伴うリノベーションなどの技術分野についても実習を通して学ぶ。

② 建築計画群

様々な機能を満たし、建築内とその周辺の空間のあり方等の配置に係る計画を作成する際に考慮することが必要となる人間の行動及び意識に与える作用に関することを教授する。また、住環境、インテリア、街並みに関する計画や環境デザインについても教授する。さらに日本や世界の伝統的建築、近現代の建築、都市の形成過程等を教授する。

2年次の「建築計画1、2」は必修であり、人間に深く関わる建築物の企画から竣工後の運用に至る全てのプロセスにおける基礎的な理論と、用途毎で異なる基本的な事項を学ぶ。同時期の建築設計製図群「建築設計実習1、2」での応用によっても確実な知識となる。2年次の「インテリア計画」も直接的に人間に接するものであり、単に色彩や材質といった問題を越えて、人間の心理や健康にも影響があることを学ぶ。建築は単独で成立するものではなく、周辺環境に影響を受け、逆に周辺に対しても影響を与える。3年次の「住環境計画」、「都市・街並み計画」、「環境デザイン論」は、建築と周辺環境について学ぶ授業科目である。また、建築は空間的存在であると同時に時間的存在として意識される。3、4年次の「建築史・都市史1～3」では、人間の歴史における建築物の係わりを日本・世界の技術進化やデザイン変遷を通して学ぶ。また「その他」に配されている「建築史実習」において、実建築物を訪れ、調べ、報告することで、より確実なものとする。

③ 環境工学・建築設備群

建築環境工学分野と建築設備分野の2分野の構成とし、一級建築士受験資格として各2単位以上が必修である。

建築環境工学分野は「建築環境工学1、2」、「建築環境工学演習」の3科目からなり、建築内において人の健康等に与える影響のある光、音、空気、温度等の工学理論を教授し、PBL形式の演習を通して深く理解する。

建築設備分野は「建築設備1、2」の2科目からなり、快適な室内環境の形成及び維持のために必要な換気、暖房・冷房等の設備、建築物の安全性を確保するために必要な消火、排煙等の設備、さらにそれらを運転するために必要な電気、ガス等の設備等について教授する。

④ 建築構造・材料群

様々な自然の脅威に晒されている我が国の建築物において、一級建築士受験資格上この群の教育は不可欠であり、構造力学分野、建築一般構造分野、建築材料分野から成っている。

構造力学分野は「建築構造力学1～4」の4科目からなり、地震や台風、豪雪などの建築に加わる外力や建築物を形づける材料の重量、人や什器等の荷重に対して安全性を担保するために、部材応力や変形等を求める構造計算の基礎理論、耐震性能に関する構造力学を教授する。この分野では、一級建築士受験資格を得るには4単位以上が必要であり、「建築構造力学1、2」を必修とする。

建築一般構造分野は「建築構造1～3」の3科目からなり、建築物の主たる構造形式である鉄筋コンクリート構造、鋼構造、木造の構造特性と構造設計等について教授する。この分野では、一級建築士受験資格を得るには4単位以上が必要であり、「建築構造1、2」が必修である。

建築材料分野は「建築材料」、「建築材料・構造実験」の2科目で構成し、建築物の構造を形成する木材、鋼材、鉄筋、コンクリート等の構造材料、建築内外装材の特性について教授する。また、構造材料や構造形態に関して実験を通して強さや変形性能などを観察させる。一級建築士受験資格を得るには2単位以上が必要であり、「建築材料」を必修とする。

⑤ 建築生産・法規群

この群は、建築物を実際につくるために不可欠な科目群であり、建築生産分野と建築法規分野で構成されている。

建築生産分野は「建築生産1、2」、「建築経済」、「BIM実習」の4科目であり、「建築生産1、2」では総合建設業やハウジングメーカーなどにおける企画、設計プロセス、工事施工等の建築生産過程を、「建築経済」では必要経費の積算等、について教授する。また本学では、特に、これからの建築生産に不可欠となるBIMにつ

いて実習を通して体験させる。一級建築士受験資格を得るには2単位以上が必要であり、「建築生産1」を必修とする。

建築法規分野は「建築法規」を必修科目として、建築基準法令や建築行政等について教授する。一級建築士受験資格には1単位以上が必要である。

⑥ その他

CAD/CGの実習科目である「2次元CAD実習」、「3次元CAD/DTP実習」、「コンピュータショナルデザイン実習」が含まれるほか、建築技術者としての倫理教育を実務経験者が教授する「建築技術者倫理」や建築事務所や建設会社でのインターンシップを行う「建築設計実務実習」、ゼミナール、卒業設計又は卒業研究が含まれている。2年次後期、3年次前期の「建築プレゼミナール1、2」では、総合技術である建築をより深く捉えるために、専任教員の全ての指導のもと、アクティブラーニングによる学びを展開する。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

本学科は教授5名、准教授3名の合計8名の専任教員で教員組織を構成するが、建築専門科目建築士受験資格群の構成に対応した教員配置とするとともに、4名の一級建築士資格を有するものを配置した。また、非常勤教員が担当する科目においては、それぞれの科目群の専任教員が責任をもち、教育の質を管理する。専任教員の専門分野と主として担当する科目群、授業科目等は以下である。なお、2、3年次の「建築プレゼミナール1、2」及び「プレゼミナール」、4年次の「卒業設計」、「卒業研究」は専任教員全員で担当することを原則とし、少人数教育できめ細かな指導を行う。また、必修科目は、必ず専任教員が担当することとしている。

・建築計画・街並み計画の研究者・実務者1名〔一級建築士〕《教授》

… 建築設計製図群（「建築設計実習1～4」）、建築計画群（「建築計画1、2」、「住環境計画」、「都市・街並み計画」）を担当する。

京都三条通りや伏見龍馬通りなどの都市域まちづくりから、京都北部地域の過疎地域の活性化にいたるまで、住民と連携した実践を通じた教育研究を行っており、概念的建築ではなく、建築物と周辺環境との関係に配慮できる建築教育が展開できる。また、医療・介護系の建築計画研究者でもあり、今後の建築に不可欠なユニバーサルアクセスに関する指導も行える。前任校における大学教員としての教育研究実績は十分にある。

・建築設計実務者1名〔一級建築士〕《准教授》

… 建築設計製図群（「建築設計実習1～4」）、建築計画群（「建築計画2」、「住環境計画」、「インテリア計画」）、建築構造・材料群（「建築材料」）、建築生産・法規群（「建築経済」、「建築法規」）、「建築技術者倫理」を担当する。

大手の組織建築設計事務所2社において、建築設計及びインテリア設計を担当してきており、実務経験は豊富である。建築設計製図群、建築計画群及び建築構造・材料群の科目や実務的内容の濃い建築生産・法規群、技術者倫理の担当者として適している。

・建築史・都市史の研究者1名〔博士（学術）〕《教授》

… 建築設計製図群（「建築設計実習1～4」）、建築計画群（「建築史・都市史1」）、建築史実習を担当する。

日本建築史及び庭園史の研究者であり、多数の調査報告書や著書がある。また、文化財建築物の復原改修工事の監修や伝統職人・技能の継承にも携わっており、建築設計実習の指導や講義を通じて、建築や街並みに時間的深みを与える視点、マインドの醸成に寄与する。また、フィールドワークにおける実測、図面作成を指導する。前任校での大学教員としての教育研究実績は十分である。なお、KBS京都によるテレビ番組「京都・国宝浪漫」の建築や庭園等の解説者として出演していた。

・建築環境工学の研究者1名〔博士（工学）〕《准教授》

… 環境工学・建築設備群（「建築環境工学1、2」「建築環境工学演習」、「建築設備1」）、CAD系（「2次元CAD実習」、「3次元CAD/DTP実習」、「コンピュータシヨナルデザイン実習」）を担当する。他に、「基礎電気回路」も担当する。

建築環境工学、熱工学、流体工学を専門とする研究者であり、空調システムの省エネルギー化、潜熱蓄熱材（PCM）の応用を研究テーマとしている。物理学に基づく建築環境工学の理論講義、建築設備の授業担当者として適している。なお、これまで本学の機械工学科で教育研究の指導実績があり、CAD実習の指導も行っており、CAD系実習科目の担当者として適任である。

・建築構造力学の研究者2名〔2名とも博士（工学）〕

… 建築構造・材料群
《教授》

建築構造・材料群（「建築構造力学1、4」、「建築構造1、3」、「建築材料・構造実験」）を担当する。

建築制震構造システムの研究者であり、ダンパー性能や最適配置理論等で優れた研究成果を上げている。また、耐震補強等に関する耐震診断判定委員、建築構造性能評価委員としての豊富な経験を有している。前任2校において大学教員としての教育研究実績も十分に積んでいる。建築構造力学においては、入門と耐震工学分野を担当し、構造形態に関する知識教授とその実験指導を行う。

《准教授》

建築構造・材料群（「建築構造力学2、3」、「建築構造1、3」、「建築材料・構造実験」）を担当する。

ファジィ理論を利用した建築骨組の最適設計理論および木造建物の耐震性能評価に関する研究者である。前任校において実験指導を含めた大学教員としての教育研究実績は十分である。建築構造力学においては、建築構造物の応力解析分野を担当し、鋼構造、木構造の構造特性に関する講義と鋼材の実験指導を行う。

・建築生産実務者1名〔一級建築士〕《教授》

… 建築構造・材料群（「建築構造1、2」、「建築材料」、「建築材料・構造実験」、建築生産・法規群（「建築生産1」、「建築経済」）、「建築技術者倫理」を担当する。

大手総合建設会社において工務担当者として従事しており、関連する施工管理技士1級、技術士（建設部門）、コンクリート主任技士の資格を有している。建築構造・材料群の鉄筋コンクリート構造関係、コンクリートの材料実験、建築生産・法規群の建築生産1（鉄筋コンクリート構造の施工関係）、建築経済（建築工事における積算業務）、技術者倫理の担当者として適している。

・BIM実務者1名〔一級建築士、博士（工学）〕《教授》

… 建築生産・法規群（「建築経済」、「BIM実習」）、CAD系（「2次元CAD実習」、「3次元CAD/DTP実習」、「コンピューショナルデザイン実習」）、「建築技術者倫理」を担当する。

大手組織建築設計事務所のICT/BIMデザインセンター長であり、これまで事務所内の情報・プレゼンテーション業務に従事してきた。また、日本建築学会情報システム技術委員会委員を務めている。よって、本学の特長となる建築情報処理分野で、これからの建築生産プロセスおよびライフサイクルの管理に不可欠となるBIM技術を教育研究するための最適任者である。

教員の年齢構成は、60代3名（最高齢61歳）、50代3名、40代2名であり、研究水準の維持に配慮した構成となっている。また建築実務者（建設会社、建築設計事務所）3名、大学研究者5名であり、かつ一級建築士が半数の4名、博士学位保有者が5名おり実践面、研究面の両面に配慮した構成としている。また、申請時の教員構成を完成年度以降も維持できる充実安定した教育研究の実施体制となっている。

なお、教員の定年については、定年規則に定められており、教授は68歳、准教授及び講師は65歳である。

[資料2：学校法人大阪電気通信大学定年規則]

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業の方法

本学の各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じて、当該授業における教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

講義、演習については授業15時間、授業外30時間の学習をもって1単位とする。

実験、実習については授業30時間、授業外15時間の学習をもって、1単位とする。

ただし、卒業設計、卒業研究については、学修の成果を評価して単位を授与する。

建築学科における授業方法は、教育内容に応じて、適宜、講義形式、演習形式、実験形式、実習形式をとる。各分野の知識と理解を目的とする科目については、講義形式を中心とした授業形態をとるが、知識や理論を応用する能力を身につけることを目的とする科目については、演習による授業形態をとることとする。さらには、現象の理解や理論を検証することを目的とする科目については、実験形式を中心とした授業形態をとる。また、図面等による建築の表現能力を養うことを目的とする科目については、実習形式を中心とした授業形態をとる。現地調査、文献調査等を伴う科目についても、実習形式とする。

(2) 学生数の設定

授業の内容に応じた学生数の設定については、授業科目ごとの授業形態に則した教育目的を効果的かつ確実に達成するために、工学の基礎となる「英語」、「数学」、「力学」の科目において、クラス分割を行い、実施する。専門教育科目については、受講予定者の状況に応じて、教育効果上必要があれば、クラス分割を行い、実施する。

また、「実験」、「実習」、「演習」及び「製図」の各授業形式を中心に、必要に応じて大学院生のティーチングアシスタント（TA）又は学部4年次生のスチューデントアシスタント（SA）を適切に配置し、教育効果を向上させる。

（3）配当年次

配当年次は、基礎専門科目から専門科目へと体系的な学習が可能となるようにするとともに、専門教育においても、専門分野ごとに、例えば、建築設計基礎実習、建築設計実習1、建築設計実習2、建築設計実習3、建築設計実習4などと履修の順位を明確にして、4年間で計画的に履修できるように配慮した配当となっている。

（4）履修科目の登録上限

単位制度の実質化の観点から踏まえたうえで、学生の主体的な学習を促し、教室における授業と教室外の学習を合わせた充実した授業を展開することにより学修効果を高めるために、1年間に履修科目として受講の届出を行うことができる単位数の上限は、各年次とも50単位とする。

ただし、所定の単位を優れた成績をもって修得した者が、履修指導により認められた場合は、この限りではない。また、過年次に不合格となった科目や、卒業設計・研究の「認定」科目についてはそれらの制限から除外することとする。

（5）成績評価

成績の評価は、A（優）、B（良）、C（可）、及びD（不可）をもって表し、C（可）以上を合格とする。成績判定の方法は、各授業科目において試験、又は課題提出を実施し、その結果により判定する。各授業科目の成績評価基準はシラバスにおいて明示する。また、厳格な成績評価により、学習成果の質を確保するために、GPA(Grade Point Average)制度を導入する。

（6）履修指導方法

建築学科における履修指導方法は、1、2、3年次では、約10人の学生それぞれに対してグループ担任制度を設けて、きめ細やかな教育指導を行う。さらには、学生に対して、オフィスアワーを利用して教員が相談に応じる時間を設けて教育指導を行う。また、前期開始前に、学年別の履修ガイダンスを実施したうえで、学生の適性や能力に応じて、学生の履修科目の選択に関する個別の履修相談に応じるなど、履修指導体制を整備する。また、特定の学期における偏りのある履修登録を避け、学生が学習目標に沿った適切な授業科目の履修が可能となるような指導や、養成する具体的な人材像、また学生個人のキャリアデザインに対応した「履修モデル」を提示し指導する。

(7) 卒業要件

建築学科における卒業要件は、学部で4年以上在学し体系的な授業科目の履修により、128単位以上を修得することとする。総合科目では、「人文・社会・自然群」中の選択科目8単位以上、「外国語群」中の選択必修科目4単位を含む6単位以上、「健康・スポーツ群」は、3単位以上、「キャリア形成群」は、6単位以上を修得する。

専門教育科目では、「基礎専門科目」は、24単位以上、「専門科目」中の必修科目36単位、また「卒業設計」「卒業研究」の選択必修科目8単位を含む56単位以上を修得する。以上、合計128単位以上を修得することが卒業要件となる。

7. 施設・設備等の整備計画

(1) 校地・運動場の整備計画

本学は、大阪府の東北部、淀川沿いの寝屋川市に「寝屋川キャンパス」と「駅前キャンパス」を設置し、寝屋川市に隣接する関西文化学術研究都市のエントランスゾーンに位置する四條畷市清滝に「四條畷キャンパス」がある。

校地面積については、寝屋川キャンパス 54,164.49 m²、駅前キャンパス 1,178.64 m²、四條畷キャンパス 150,791.00 m²、その他（グラウンド）86,377.00 m²、合計 292,511.13 m²となり大学設置基準を満たしている。

寝屋川キャンパスにおいては、既設の工学部5学科（電気電子工学科、電子機械工学科、機械工学科、基礎理工学科、環境科学科）及び情報通信工学部2学科（情報工学科、通信工学科）が教育研究を行っており、この度、工学部に設置する建築学科についても寝屋川キャンパスで教育研究を行う。なお、他のキャンパスでの状況については、四條畷キャンパスでは、医療福祉工学部3学科（医療福祉工学科、理学療法学科、健康スポーツ科学科）及び総合情報学部2学科（デジタルゲーム学科、情報学科）が教育研究を行っており、駅前キャンパスでは、金融経済学部1学科（資産運用学科）が教育研究を行っている。

本学は、開学以来、工学部は寝屋川キャンパスにおいて教育研究を行っており、同キャンパスの教育研究環境の整備と充実にこれまで取り組み続けてきている。これにより本学開学時に設置された工学部については、講義室、実験・演習室、研究室などの各教室と運動場などの基本的な教育研究の設備環境は十分に整備されており、まだ十分な余裕を持っている。この度、設置する建築学科は、既設の工学部の新たな学科として設置されるので、既存の校地、講義室、実験・演習室、研究室などの各教室と運動場などを活用することとしている。

(2) 校舎等施設の整備計画

建築学科教員の研究室は、現在、空いているZ号館6階(551.65 m²)を整備して利用する。

寝屋川キャンパスにおける講義全般については、主にJ号館(延べ床面積15,281.01 m²)の3階から5階が使用されており、教室数は、90.43 m²から271.29 m²までの大小28教室がある。この度設置する建築学科も、これらの教室を使用し、既存の工学部及び情報通信工学部の2学部(8学科)の共同利用としても十分な広さがある。実験室は、Y号館6教室を他の学部学科と共同で使用する。既存の工学部の各学科で各種実験が行われているが、既に整備されている設備で実験は可能である。

建築学科として、既存の学科で使用しているK号館2階の製図室を2室(483.84 m²)共同で使用する。さらに、IT技術を活かしたCAD、CG及びBIM教育については、本学メディアコミュニケーションセンターが管理する共同利用のコンピュータ演習室(J号館6階及び7階)を使用する。その他、材料の強度を計測するための万能試験機については、既にK号館1階の3D造形先端加工センターに設置しており、共同で使用する。

大学全体の校舎面積については、寝屋川キャンパス42,188.77 m²、駅前キャンパス1,178.64 m²、四條畷キャンパス78,834.00 m²、合計122,201.41 m²となり大学設置基準を上回っている。

以上のように本学における校舎や教育施設については、この度、設置する建築学科及び他学部学科も含めた学生が時間・空間的に余裕を持って利用できるよう整備している。建築学科の時間割案を資料として示す。

[資料4:建築学科時間割案]

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学は、工学を中心とする教育研究を柱として、理工系図書を中心に蔵書数約283,000冊、雑誌約3,800点を有する図書館を設置している。一方で、情報化社会に対応して、情報検索システムの構築及びオンライン化や学術雑誌の電子ジャーナル化など、環境、設備の充実に努めている。特に情報検索システムについては、「CiNii」、「JDreamIII」及び「Web of Science」を利用し的確な情報収集体制を構築している。

図書館は、寝屋川キャンパス図書館(本館)及び四條畷キャンパス図書館のほか、駅前キャンパスに図書室を配置している。各キャンパスにおいて設置学部が異っており、本館は工学・情報通信分野、四條畷館は医療系、生物学、スポーツ科学、ソフトウェア分野、駅前図書室は経済学、金融学分野を重点的に収書している。既存の工学部に設置する建築学科は、寝屋川キャンパスにあるため本館を主に利用することが想定される。

本館には、300席以上の閲覧席を設置しており、自習スペースは十分にあり、ここで自習に励む学生が多い。また、個人パソコンを持ち込んでの使用が可能だけでなく、学

内 LAN に接続するための無線 LAN を整備しており、個人パソコンやタブレット端末、スマートフォン等を Wi-Fi 接続して利用することができる。その他、DVD 等の視聴覚資料が館内で視聴ができるよう、13 席のパーソナルスペースも確保している。図書、視聴覚資料ともに所蔵がないものについては、学生の要望を受け付けており、学生一人ひとりのニーズに応じている。

学術研究用の雑誌については、建築学会の構造、計画、環境系の論文報告集、日本構造協会の鋼構造論文集、日本都市計画学会の都市計画論文集、学会建築史学会の建築史学等の和雑誌、洋雑誌については、Journal of Architectural Education、Journal of Asian Architecture and Building Engineering、Journal of Engineering Mechanics 等を含んで約 20 誌の整備を予定している。

図書館では、近年、特筆すべき 3 つの学生支援策を講じている。

第 1 は平成 24 年からの取り組みで英語教育センターと連携して英語の習熟度に応じたレベルの本をたくさん読むこと（多読、リーディングシャワー）によって英語に慣れ親しみ、理解力の向上を目指している。多読授業を開始してから年々図書館利用者が増えており、多読図書の所蔵も増えている。

第 2 はカリキュラム上の各教育科目において指定された教科書、参考書を各館にてそれぞれ配架し、学生の図書館利用と学習の便宜向上を図っている。

第 3 は就職部と連携して、就職対策図書、資格取得に必要な過去問題等の関連図書を配架している。就職対策図書を帯出した学生には、後に就職にどのように役立ったか等アンケートを依頼し、さらに就職に有利となる本の収書と学生への PR も行っている。

このように図書館を単なる「知識の宝庫」として受動的に整備するだけでなく学内の教員、学生、各部課室と連携して、図書館のより効率的な利用を目指して積極的に取り組んでいる。

8. 入学者選抜の概要

(1) アドミッションポリシー

建築学科では、とくに、次のような人を求めている。

- ・ 建築の専門知識や技能を自ら進んで学ぶ姿勢の人
- ・ 人々と積極的に交流し、環境に配慮した建物やまちづくりに意欲のある人
- ・ 建築士をめざす人

(2) 入学者選抜方法・体制

選抜方法については、アドミッションポリシーに沿い、建築学科の教育を受けるにふさわしい能力・意欲・適性などを多面的・総合的に判定し公正かつ妥当な方法で入学者を選抜するため、主に以下の選抜制度を実施する。

① 指定校推薦入試〔約 5%〕

本学が指定する学校の学校長が推薦する学業・人物ともに特に優秀な者について、出願書類による審査及び面接により総合的に評価し、意欲ある優秀な人材を確保することを目的とする。

② 公募推薦入学試験〔約 31%〕

高校での学習成績・人物が優秀で、出身高等学校長が推薦する者を対象とし、適性検査の結果に加え、調査書の内容や各種資格取得の有無など、総合的な観点から人物を評価することで、主体性を有した優秀な人材を確保することを目的とする。

◇適性検査の内容

数学の素養
外国語（英語）の素養 又は 理科（物理、化学、生物より選択）の素養

③ 一般入学試験〔約 32%〕

本学独自の学力試験により選抜をおこなう。2教科判定・3教科判定などの多様な判定方式を設けることで、幅広い対象から学習意欲の高い優秀な人材を選抜することを目的とする。

◇学力試験の内容

・前期

2教科判定	3教科判定
数学	数学
外国語（英語） 又は 理科（物理、化学、生物より選択） の高得点採用	外国語（英語）
	理科（物理、化学、生物より選択）

・後期

2教科判定
数学
外国語（英語）

④ 一般入学試験（大学入試センター試験を利用した入学試験）〔約 5%〕

大学入試センター試験の成績により選抜をおこなう。本学独自の学力試験をおこなわないことで、受験生の負担を軽減し、建築学科での学びに関心を持つ者に受験の門戸を広げ、広範な地域からより学習意欲の高い優秀な人材を選抜することを目的とする。

◇指定科目

・前期

数 学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」から1科目 及び「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」から1科目
外国語	「英語（リスニングは除く。）」
理 科	「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から2科目 又は「物理」「化学」「生物」から1科目の高得点採用

・後期

数 学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・数学A」から1科目 及び「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・数学B」から1科目
外国語	「英語（リスニングは除く。）」

⑤ 得意科目セレクト入学試験〔約 8%〕

適性検査の2科目のうち、受験者自身の得意科目の配点を大きくすることにより、得意能力を積極的に評価し、特定の科目に秀でた自主性の高い人材を選抜することを目的とする。

◇適性検査の内容

数学の素養
外国語（英語）の素養 又は 理科（物理、化学、生物より選択）の素養

⑥ 専門学科・総合学科特別入学試験〔約 7%〕

適性検査の1科目の結果に加え、調査書の内容を積極的に評価し、専門高校及び総合高校で培った専門性や多様性に優れた人材を選抜することを目的とする。

◇適性検査の内容

数学の素養 又は 外国語（英語）の素養

⑦ AO入学試験〔約12%〕

建築学科の教育内容に強い関心を持ち、学びに対して意欲的で探究心旺盛な者を対象とし、通常の学力試験では評価できない、やる気や適性（センス）を高く評価する。具体的には、調査書等で一定の学力を確認するとともに、建築に対する関心度を課題小論文(思考や問題解決力)や保有する資格(自己研鑽)、面接(人物像)などにより多面的に評価し、総合的な観点から建築学科での学びを熱望する人材を選抜することを目的とする。

⑧ 社会人入学試験〔若干名〕

2年以上の就業経験を有する者を対象とし、建築学科での学びに関する口頭試問と書類審査により総合的に評価し、自らの教養を高めたいとする意欲ある人材を選抜することを目的とする。

⑨ 帰国生徒入学試験〔若干名〕

外国での学校教育を2年以上受けた者を対象とし、学力試験と面接により総合的に評価し、海外での貴重な経験を活かし国際的に活躍したいとする意欲ある人材を選抜することを目的とする。

◇学力試験の内容

数学
外国語（英語）
理科（物理、化学、生物より選択）

⑩ 外国人留学生入学試験〔若干名〕

外国籍を有する者を対象とし、学力試験と面接により総合的に評価し、本学への留学経験を活かし日本や自国あるいは国際的に活躍したいとする意欲ある人材を選抜することを目的とする。

◇学力試験の内容

・ I 期

数 学
外国語（英語） 又は 理科（物理、化学、生物より選択）

・ II 期

数学
外国語（英語）
理科（物理、化学、生物より選択）

9. 取得可能な資格

（1）一級建築士

ア 国家資格、イ 受験資格

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の修得及び卒業後建築実務の経験年数2年以上で受験資格取得可能である。

（2）二級建築士

ア 国家資格、イ 受験資格

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の修得で受験資格取得可能であるが、受験資格取得が卒業の必須要件ではない。

（3）木造建築士

ア 国家資格、イ 受験資格

ウ 卒業要件単位に含まれる科目の修得で受験資格取得可能であるが、受験資格取得が卒業の必須要件ではない。

10. 企業実習（インターンシップを含む。）や海外語学研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

（1）選択科目「インターンシップ」

① 目的

本科目は、技術者教育における体験学習の重要性を踏まえたもので、基礎専門科目や建築学の知識を基盤として、企業における実習体験（研究・開発・製造・販売・補修等）を通じ、社会における建築学分野の位置付けや将来性をより深く認識する機会を与える。企業での就業体験により現象を認識し、知識として体系化するプロセスを修得することで、高い倫理観を持った技術者育成を実現することを目指す。また、企業への就職に対する心構えや準備をより具体的に進めることで、企業とのミスマッチの防止や職業意識・職業観の育成、あるいは課題探究能力育成や専門技術の向上等、より一層実践的な力を高めることを目的に実施している。

② 実施及び運営

3年次生を対象とし、3年次前期の「キャリア設計」を履修し、かつ、担当教員との面接、企業訪問などの活動を行うことにより、企業で働くとはどのようなことかを

自覚し、よく考える。また、企業での実習に対しての心構えや、社会常識等を十分に学んだ上で、夏期休暇等を利用して、企業での実習を行う。実習前には事前研修を行う。実習後も報告書の作成、学内での報告会への参加等の活動が必要である。

③ 単位認定

単位認定評価基準を満たした者は、総合科目の選択科目「インターンシップ」として単位認定を行う。

④ 実習期間

原則夏期休業中の2～3週間程度（実習日10日以上）

⑤ 実習先の確保の状況

添付の資料のとおり。

[資料5：インターンシップ 受入企業]

⑥ 実習先との連携体制

- 1) 大学から企業へインターンシップの学生受け入れを依頼し、承諾いただいた企業に対し「インターンシップご協力のお願い（実習概要等記載）」等の確認を行う。
- 2) 学生はエントリーシートにより企業へ実習の申込みを行い、企業が学生を選考する。
- 3) 実施が決定次第、大学と企業は覚書を交わし、学生は企業に誓約書を提出するとともに、事前研修を行う。
- 4) 学生は毎日実習日誌を企業の研修担当者に提出し、終了後は研修担当者からの評価を受け、「インターンシップ報告書」を大学及び企業に提出する。企業からは実習評価票の提出を受ける。
- 5) 全体終了後、学科単位で報告会を実施するとともに、大学において企業の研修担当者を招きインターンシップ報告会を行う。

⑦ 成績評価体制及び単位認定方法

インターンシップの成績担当教員が単位認定の条件（実習期間原則実質10日間以上・事前研修の参加・報告書の提出）を満たしていることの確認を行い、該当者の成績報告書を教務部に提出する。単位は「インターンシップ」2単位として認定する。

(2) 選択科目「グローバル研修」

① 目的

交流協定に基づく派遣留学により、異文化を理解することにより国際的な視野を持ち、海外で活躍できる技術者を育成する。

② 実習先の確保の状況及び運営等

実習先（留学）	内容	期間
北京科技大学 （中国）	中国の文化や現地学生との交流を図るプログラム	7日間程度のプログラム 8月下旬～9月中旬
湖西大学校 （韓国）	韓国の文化に触れ、現地学生との交流を日本の他大学の学生と合同で実施するプログラム	10日間程度のプログラム 8月下旬～9月中旬

③ 実習先との連携体制

学生が実習するに際し、本学国際交流センターを通じ、申込みを行う。国際交流センターは、実施に先立ち実習先機関に対し、直接、日程の設定、実習内容及び実施体制の確認を行う。実習終了後、実習先機関から実習時の状況等の報告を受ける。

④ 成績評価体制及び単位認定方法

学生は、帰国後の報告会で実習の報告を行う。

グローバル研修の成績担当教員が単位認定の条件を満たしていることの確認を行い、該当者の成績報告書を教務部に提出する。単位は「グローバル研修」2単位として認定する。

(3) 選択科目「英語スキルアップセミナー1」又は「英語スキルアップセミナー2」

① 目的

短期語学研修のプログラムに参加し、異文化を理解することにより国際的な視野を持ち、海外で活躍できる技術者を育成する。

② 実習先の確保の状況及び運営等

留学先	内容	期間
ブリティッシュコロンビア大学 （カナダ）	カナダの家庭でホームステイをしながら英語を勉強するプログラム	4週間プログラム 2月下旬～3月下旬

③ 実習先との連携体制

学生が実習するに際し、本学国際交流センターを通じ、申込みを行う。実習の実施

に先立ち、国際交流センターが手配を行っている業者を通じて、日程、実習内容及び実施体制の確認を行っている。実習中は、本学専任教員1名が現地に同行し、実習の状況を把握し、実習が円滑に進むよう体制を整えている。

④ 成績評価体制及び単位認定方法

「英語スキルアップセミナー1」又は「英語スキルアップセミナー2」の成績担当教員が単位認定の条件を満たしていることの確認を行い、該当者の成績報告書を教務部に提出する。単位は「英語スキルアップセミナー1」又は「英語スキルアップセミナー2」いずれかの科目1単位として認定する。

11. 管理運営

(1) 運営会議

大学全体に係る教育及び研究に関する最高審議機関として、全学教授会に代わるものとして、平成27年度より設置している。構成員は、学長、副学長、各学部長、各研究科長、学生部長、教務部長、就職部長、入試部長及び大学事務局長であり、必要に応じて学長が招集して議長となる。また、構成員は、審議内容に応じて、教育開発推進センター長、図書館長、メディアコミュニケーションセンター長が出席している。

運営会議は、(1)教育の基本方針と大学の将来計画に関する事項、(2)研究予算の編成方針に関する事項、(3)学生の入学、卒業及び課程の修了その他学生の身分の取扱いに関する事項、(4)学位の授与の基本に関する事項、(5)学生の懲戒の決定に関する事項、(6)教員人事の方針、選考基準及び最終選考に関する事項、(7)学部長及び研究科長の選考に関する事項、(8)学則その他の重要な規則の制定改廃に関する事項、(9)自己点検及び外部評価に関する事項、(10)学部その他の機関相互の連絡・調整に関する事項、(11)理事会から付議又は諮問された事項及び学部教授会又は大学院研究科委員会から提起された事項、(12)その他大学の運営に関する重要事項、について審議する。

さらに、学部及び大学院に渉る全学的事項について意見を集約し、学長の意思決定の円滑化を図る。運営会議の設置にともなって、以下の組織における役割についても変更を加えている。

(2) 学部教授会及び主任会

学部教授会は各学部にも所属する専任教員で組織し、学部における(1)教育課程に関する事項、(2)学生の入学、卒業及び課程の修了その他学生の身分の取扱いに関する事項、(3)学位の授与の基準に関する事項、(4)学生の試験、学修指導及び評価に関する事項、(5)学生の厚生補導、賞罰に関する事項、(6)教育の改善及び研究に関する事項、(7)教員人事の人事選考に関する事項、(8)学部長の選考に関する事項、(9)学部に関する学則及

び規則に関する事項、(10)学長から付議又は諮問された事項及び主任会から提起された事項、(11)その他学部の運営に関する事項、について審議し、学長が決定を行うにあたり意見を述べるものとしている。

学部の運営を円滑に行うために各学部に主任会を置いている。主任会は、学部長と各学科主任で組織する。ここでは、学部運営上の具体的業務の協議・調整を行い、(1)学部教授会へ提出される議案の検討、(2)学部教授会決議事項の具体化に関する諸施策の検討、(3)学部の各種計画に関する事項、(4)その他、学長及び学部長が必要と認めた事項、について協議している。

(3) 所属施設の運営

教育を担う附属施設としては、図書館、実験センター、メディアコミュニケーションセンター及び教育開発推進センターがあり、主として研究を担う附属施設としては、エレクトロニクス基礎研究所、メカトロニクス基礎研究所、衛星通信研究施設、情報学研究施設及び法人直属の先端マルチメディア合同研究所がある。これらは、大学における教育研究の目的を達成するために、学部や大学院との連携をとりながら、それぞれ適切に運営されている。

(4) 各種委員会

教育業務の円滑な運営を図るため、教授会の下に以下の委員会が設置されている。

① 教務委員会

学長を委員長として関係部署長等の委員を召集して開催する委員会であり、教育課程、授業計画及び試験等の教育課程において重要となる事項について審議している。

② 就職対策委員会

各学科ごとに就職対策委員をおき、就職部長の招集により開催する委員会であり、就職に関する市場状況、進路指導状況などを共有し、就職部と連携しながら学生の就職指導を円滑に進められるようにしている。

12. 自己点検・評価

本学は使命・目的において、確かな実学の教育とそれをベースにした人間力の養成を掲げており、その教育の実行と効果に対する自己点検・評価のシステムとして自己点検・評価委員会にあたるIRE委員会を設置し、全学における教育・研究の自己点検・評価を行い、改善を図るシステムを構築している。さらに、教員及び学科ごとにおいても毎年自己評価・点検を実施している。

また、これらの教育点検の一部とFD活動を担い、自己点検・評価のPDCAサイクルを円滑に促進するための組織として教育開発推進センターを設置している。

(1) IRE委員会

IRE委員会は、委員長である学長のもと、主要構成員として各学部長及び研究科長並びに入試部長、教務部長、学生部長及び就職部長によって構成されており、教学に係る部門の長が適切に状況を判断できる体制になっている。また、当該委員会は、IR (Institutional Research)作業部会及びIE (Institutional Evaluation)作業部会で構成されており、前者は本学の教育研究に関する情報の収集と分析を行うのに対し、後者は本学の自己点検・評価に向けて必要な準備作業を行っている。

さらに、自己点検・評価の各種資料は、学長が教授会及び理事会において説明しており、教学部門と経営部門の意思疎通を図っている。

(2) 教員及び学科の自己点検評価

全教員に対して、自己点検評価である「活動評価」を実施し、統計処理をした上で、教授会及び理事会で報告している。評価項目について添付資料で示す。また、学科ごとの教員の自己点検・評価書は、学科主任に回付し、学科運営の参考資料として活用している。この評価書は、教員（個人）が継続的な改善策を考慮した（PDCAのサイクルを組み込んだ）FDという位置づけで実施している。一方、各学科においても、年度ごとに自己点検・評価を行い、教育開発推進センターがとりまとめて「学科教育点検・評価書」を作成し、大学ホームページ上に公開している。

[資料6:活動評価シート]

13. 情報の公表

(1) 紙媒体を通じての提供

紙媒体による情報提供については、定期的（年3回）発行する学報を発行し、保護者・卒業生をはじめ近隣の各種機関など幅広く配布し、本学の取組みについて周知を行っている。また、上記以外にも大学案内及び各種学部学科紹介パンフレット等を適宜発行・配布し、学部学科ごとの詳細情報の周知に努めている。

(2) インターネットを通じての提供

学校教育法施行規則等の一部を改正する省令（平成22年文部科学省令第15号）の趣旨に沿って、大学が公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、教育の質向上の観点から、教育研究に関する情報については、大学ホームページ上に次のとおり公開している。

大学ホームページ URL <http://www.osakac.ac.jp/>

- ① 大学の教育研究上の目的に関すること
大学学則第2条及び第3条第2項に規定されており、大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒学則・設置認可／届出に関する書類⇒2017年度版大阪電気通信大学学則)
- ② 教育研究上の基本組織に関すること
大学学則第3条第1項に規定されており、大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒学則・設置認可／届出に関する書類⇒2017年度版大阪電気通信大学学則)
- ③ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
 - 1) 教員組織と各教員が保有する学位及び業績
次のとおり大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教員情報データベース（学位、業績等）
 - 2) 教員の数
次のとおり大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒教職員数等
- ④ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
次のとおり大学ホームページ上に公開している。
 - 1) 入学者受入れ方針
次のとおり大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数⇒大学のアドミッションポリシー
 - 2) 入学者の数、在学学生数、卒業者数、進学者数、就職者数
次のとおり大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒入学者に関する受入方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数⇒入学者数、入学者推移、在学者数、学位授与（卒業・修了）者数、進学・就職者数)

- 3) 収容定員
大学学則第4条に規定されており、学則は大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒学則・設置認可/届出に関する書類⇒2017年度版大阪電気通信
大 学学則
- 4) 進学・就職の状況
進学・就職の状況及び主な就職内定先については、次のとおり大学ホームページ
上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒入学者に関する受入方針、入学者数、収容
定員、在学者数、卒業（修了）者数、進学者数、就職者数⇒進学・就職者数、
主な内定先及び内定先業種
- ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
次のとおり大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の
授業計画（シラバス又は年間授業計画の概要）⇒WEBシラバス
- ⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
大学学則第24条及び第25条に規定されており、次のとおり大学ホームページ上に
公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認
定に当たっての基準⇒大学（学則）
- ⑦ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
寝屋川キャンパス、四條畷キャンパス、駅前キャンパスの3つのキャンパスがある
が、各キャンパスの建物の配置及び施設の情報については、次のとおり大学ホームペ
ージ上に情報公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒校地校舎の施設その他の学生の教育研究環境
⇒寝屋川キャンパス、駅前キャンパス、四條畷キャンパス
- ⑧ 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
次のとおり大学ホームページ上に公開している。
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒授業料、入学料その他の大学等が徴収する費
用⇒学費（大学）
- ⑨ 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

次のとおり大学ホームページ上に公開している。

- 1) 学生の修学及び心身の健康等に関する支援
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒学生の修学、進路選択及び心身の健康等に
係る支援⇒修学・心身の健康等に関する支援)
- 2) 進路選択に関する支援
トップ⇒大学紹介⇒教育情報の公表⇒学生の修学、進路選択及び心身の健康等に
係る支援⇒進路選択に関する支援)

⑩ その他

財務情報、学則等の各規程、設置認可申請書及び届出書、設置計画履行状況等報告書、自己点検・自己評価報告書及び認証評価等の情報について、大学ホームページ上に掲載している。

14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

教育目的の達成状況を測る指標の1つとして、各学科で「学修効果の測定方法」を策定し、各学科の特性を活かした評価方法を開発している。評価方法の種類は、学修課題全体と専門的知識に関するレーダーチャート、分野ごとの修得単位数の年次経過、総合的な自己評価シート、科目横断的な記述試験等に分類できる。

また、教育目的の達成状況を見るには、在学生の評価だけでなく、卒業生（大学院修了生を含む）の評価も不可欠であると考え、卒業時（学位授与判定後）に「卒業生満足度調査」を行い、そのアンケート結果を受け科目担当教員が「授業改善プラン」を策定して学生に示し、プランに基づいて授業の改善をすることで授業内容の充実を図っている。

一方、組織的な研修としては、「学科教育点検・評価（FD）」を平成20年度より実施しており、各学科にて教育目標やカリキュラムの位置づけ、教育改善・授業点検、成績評価法、学生指導、卒業研究指導、学科独自の教育等を振り返りながら改善を試みている。また、教育開発推進センターにおいて、定期的に学内FD研修会を実施し教員の能力向上に努めると同時に、学外のFD研修会についても、開催案内を通知して参加を奨励している。

また、大学職員に必要な知識・技能を修得させるための取組としては、年度毎に「職員の職能開発（SD）」に関する実施方針を作成し、部課長会等を通じて職員に周知するとともに、年に数回、教育開発推進センター（CED）が主体となり、教員を含む職員を対象とした研修を実施している。主なテーマとしては、「3つのポリシーに基づく大学の取組みの自己点検・評価と内部質保証」「大学運営に関する法律について」「経常費補助金を見据えた大学改革に関するもの」「特性がある学生への支援に関するもの」などである。

[資料7：FD・SD 実施テーマ]

さらに、大学職員として必要な業務スキルの向上を目的として、外部講師を迎えた研修を毎年実施すると共に、外部機関主催の研修について法人契約を締結し参加を奨励するなど、職員が自らの知識・技能を向上させることができる機会を幅広く設けている。

15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

(1) 教育課程内における取組について

本学科の、学生に対する社会的・職業的自立に関する取組は、教育課程においてはまず、教養教育である総合科目内でのキャリア形成群が中心となって社会人基礎力を高める教育を行い、同時並行して専門科目においてはキャリア科目群において、本学科の卒業生が目指すべき建築業界における基本的な職業的な知識、技能の教育と、社会人としての応用力(仕事力)を身に付けるためのPBL(プロジェクトに基づく教育)を行う。

(2) 教育課程外における取組について

就職に対する意識を醸成させる取組みとして、学科ごとに3年次初期より就職ガイダンスを実施すると同時に、就職支援講座として「業界研究」「筆記対策」「面接対策」等のプログラムを教育課程外に設け、就職活動に臨むにあたっての基本スキルを自覚させるとともに、それらの修得による不安解消を指導している。

(3) 就職支援の体制について

本学では就職部を中心として、低年次からのキャリア形成を目指した取組みを行っている。就職指導担当者を学科ごとに配置し、進路に関する相談や指導を専属的に行うことで、一人ひとりの学生に応じた的確な支援が実施できる体制となっている。また、学科ごとの就職指導担当者には、教員と職員をあてており、相互に連携を取りながら学生の希望や進捗状況を把握するとともに、相談と適切な助言の体制を整えている。また、学科教員による企業訪問を行い、企業側の望む人材像の把握に努めている。新設となる建築学科についても同様の体制を整え、支援を行う。

資 料 目 次
(工学部 建築学科)

- 資料1 カリキュラムマップ
- 資料2 学校法人大阪電気通信大学定年規則
- 資料3 履修モデル1、2
- 資料4 授業時間割
- 資料5 インターンシップ 受入企業
- 資料6 活動評価シート
- 資料7 FD・SD 実施テーマ

建築学科 カリキュラムマップ

基礎専門科目

建築技術者としての理数系基礎力および情報技術に関する基礎力を身につけます。

卒業要件 単位数	区分	1年		2年		3年		4年	
24単位から 40単位まで	数 学	基礎解析・演習(4)	基礎微積分1・演習(4)	基礎微積分2・演習(4)					
		基礎微積分1・演習(4)	基礎微積分2・演習(4)						
		微分積分1・演習(4)	微分積分2・演習(4)						
		線形代数1(2)	線形代数2(2)						
	物 理 学	力学1・演習(4)	力学2(2)						
		物理学・実験(3)	基礎物理学(2)						
		コンピュータリテラシー1(2)	コンピュータリテラシー2(2)						
	情 報		プログラミング基礎演習(2)						
		工学入門	基礎電気回路(2)						

習熟度によるクラス分けを
実施し、クラスにより履修
する科目が異なる。

専門科目

一級建築士受験資格に必要な建築専門力をバランスよく身につけ、ITも駆使した建築設計力・実務力を養成する。

卒業要件 単位認定数	専門科目 区分	建築士受 験資格区 分	1年		2年		3年		4年	
56単位から80 単位まで (必修36単位 を含む。)	その他					建築プレゼミナール1 (2)	建築プレゼミナール2 (2)	○プレゼミナール(2)		□卒業設計/□卒業研究
	建築設計 製図	建築設計 製図	○建築設計 基礎実習(2)	○建築設計実習1(4)	○建築設計実習2(4)	○建築設計実習3(4)	建築設計実習4(4)			
	建築計画	建築計画		○建築計画1(2)	○建築計画2(2)		住環境計画(2)			
	その他	その他			インテリア計画(2)	都市・街並み計画(2)	環境デザイン論			
	環境工学・ 建築設備	環境工学		○建築環境工学1(2)	建築環境工学2(2)		建築史・都市史1(2)	建築史・都市史2(2)	建築史・都市史3(2)	
		建築設備				○建築設備1(2)	建築設備2(2)			建築史実習(2)
		構造力学		○建築構造力学1(2)	建築構造力学3(2)	建築構造力学4(2)				
		建築構造・ 材料				○建築構造1(2)	○建築構造2(2)	建築構造3(2)		
		建築材料				○建築材料(2)	建築材料・ 構造実験(2)			
		建築生産・ 法規						○建築生産1(2)		
		その他							建築生産2(2)	
									建築経済(2)	
					2次元CAD実習(1)	3次元CAD/DTP 実習(1)	コンピュータシヨナル デザイン実習(1)			
		建築生産・ 法規	建築生産 建築法規				○建築法規(2)	BIM実習(1)		
		その他	その他				○建築技術者倫理(2)			建築設計実務実習(2)

○:必修科目 □:選択必修科目

学校法人大阪電気通信大学定年規則

昭和49年4月1日

制定

最近改正 平成21年5月23日

第1条 この規則は、学校法人大阪電気通信大学就業規則(以下単に「就業規則」という。)

第39条の定めに基づき、本法人に勤務する専任職員の定年に関する事項を定める。

第2条 職員の定年は、次のとおりとする。

- (1) 学長 満74歳
- (2) 校長 満68歳
- (3) 教授 満68歳
- (4) その他の職員 満65歳

2 学長、校長については、任期の定めにかかわらず前項の適用を受けるものとする。

第3条 定年で退職する職員の退職期日は、定年に達した日の属する年度末とし、退職発令日は3月31日とする。

第4条 退職一時金支給については、就業規則別表1「退職一時金支給率表」中、定年による支給率を適用する。

第5条 削除

第6条 勤続年数が満20年以上の職員が退職するときは、その受けるべき退職一時金に関し、定年による支給率を適用する。

第7条 法人は、退職期日の60日以前に文書をもって、定年該当者にその旨通知するものとする。

附 則

この規程は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和55年3月31日から施行する。

附 則

この規程は、昭和62年2月24日から施行する。

附 則

この規程は、平成3年2月6日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成4年3月27日から施行する。

2 第5条については、平成4年4月1日以降採用者から適用する。

附 則

この規則は、平成7年5月27日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 削除

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年5月23日から施行する。

建築学科 履修モデル1

◇一級建築士受験資格取得コース

一級建築士受験に必要な建築に関する専門知識を習得するだけでなく、その知識を適切に応用する能力を備え、社会で正しく使用できる倫理観と責任感を習得します。

総合科目	区分	1年		2年		3年		4年		一級建築士 受験資格区分
		人文・社会・ 自然群	現代社会と青年の心理 歴史学の世界	環境の科学 情報社会と情報倫理	2	2	2	2	2	
総合科目	外国語群	基礎英語1	1	□英語リーディング3 □英語リーディング4	1					
		基礎英語2	1							
		□英語リーディング1 □英語リーディング2	1							
		スポーツ実習1	1		スポーツ実習2	1				
健康・スポーツ 群	健康・スポーツ実習1	2	健康・スポーツ科学論	2						
		2	キャリア概論	2						
基礎専門科目	数学	建築学入門	2	キャリアデザイン演習	2					
		基礎微積分1・演習	4							
		基礎微積分2・演習	4							
		線形代数1 線形代数2	2 2							
物理学	力学1・演習	4								
	力学2 基礎物理学	2 2								
	物理学・実験	3								
情報	コンピュータリテラシー1	2								
	コンピュータリテラシー2 プログラミング基礎演習	2 2								
工学入門	基礎電気回路	2								
	○建築設計基礎実習	2	○建築設計実習1 ○建築設計実習2	4 4	○建築設計実習3 ○建築設計実習4	4 4				建築設計 製図
建築計画			○建築計画1 ○建築計画2	2 2	○建築史・都市史1 ○建築史・都市史2	2 2	建築史・都市史3	2		建築計画
	○建築環境工学1	2	○建築環境工学2 ○建築設備1	2 2	○建築設備2	2				建築環境工学 建築設備
建築構造・ 材料	○建築構造力学1 ○建築構造力学2	2 2	○建築構造1(2) ○建築材料(2)	2 2	○建築構造2 ○建築材料・構造実験	2 2				構造力学 建築一般構造 建築材料
					○建築生産1 建築生産2 建築経済 ○建築法規	2 2 2 2				建築生産 建築法規
その他	2次元CAD実習(1) 建築プレゼミナール1(2)	1	○建築技術者倫理	2	○建築プレゼミナール2	2				その他
		2	○プレゼミナール	2	○卒業設計/○卒業研究	8				
単位数計		50	36	32	10	32	総合計		128	

○:必修科目 □:選択必修科目

建築学科 履修モデル2

◇建築・情報コース

建築に関する知識だけでなく、環境、エネルギーといった建築に関連する分野の知識を習得し、さらには、IT技術・ICT技術やデジタルデザインについて学びます。

総合科目	区分	1年		2年		3年		4年		
		現代社会と青年の心理 歴史学の世界	環境の科学 情報社会と情報倫理	環境の科学 情報社会と情報倫理	環境の科学 情報社会と情報倫理	環境の科学 情報社会と情報倫理	環境の科学 情報社会と情報倫理	環境の科学 情報社会と情報倫理	環境の科学 情報社会と情報倫理	
総合科目	外国語群	□基礎英語1	1	□英語リーディング3 □英語リーディング4 スポーツ実習2 健康・スポーツ科学論	1	1 1 1 2	1 1 1 2	1 1 1 2	1 1 1 2	
		□基礎英語2	1							
		□英語リーディング1	1							
		□英語リーディング2	1							
	健康・スポーツ群	スポーツ実習1	1	1	2	2	2	2	2	
		建築学入門	2	2	2	2	2	2	2	
	基礎専門科目	教 学	基礎積分1・演習	4	基礎積分2・演習 線形代数1 線形代数2 力学1・演習 力学2 基礎物理学 物理学・実験	4	4 4 2 2	2 2 2 3	2 2 2 3	2 2 2 3
			基礎積分2・演習	4						
			線形代数1	2						
			線形代数2	2						
物理学		力学1・演習	4	4	2	2	2	2	2	
		力学2	2	2	2	2	2	2	2	
情報		コンピューターリテラシー1	2	2	2	2	2	2	2	
		コンピューターリテラシー2 プログラミング基礎演習	2	2	2	2	2	2	2	
工学入門		基礎電気回路	2	2	2	2	2	2	2	
		○建築設計基礎実習	2	2	2	2	2	2	2	
専門科目	建築設計 製図	○建築設計基礎実習	2	○建築設計実習1	4	4	4	4	4	
		○建築設計実習2	2	○建築計画1 ○建築計画2	2	2	2	2	2	
	建築計画	○建築計画1	2	○建築計画2	2	2	2	2	2	
		○建築計画2	2	○建築環境工学2 ○建築設備1	2	2	2	2	2	
	環境工学・ 建築設備	○建築環境工学1	2	○建築環境工学2 ○建築設備1	2	2	2	2	2	
		○建築環境工学2	2	○建築設備2 ○建築設備1(2)	2	2	2	2	2	
	建築構造・ 材料	○建築構造力学1	2	○建築構造1(2)	2	2	2	2	2	
		○建築構造力学2	2	○建築材料(2)	2	2	2	2	2	
	建築生産・ 法規	○建築生産1	2	○建築生産2	2	2	2	2	2	
		○建築生産2	2	○建築法規	2	2	2	2	2	
その他	2次元CAD実習	1	2次元CAD実習	1	1	1	1	1		
	3次元CAD/DTP実習 建築プレゼミナール1	2	3次元CAD/DTP実習 建築プレゼミナール1	2	2	2	2	2		
単位数 計		50	33	34	34	34	34	34		
	合計									

○：必修科目 □：選択必修科目

総合計 129

建築学科 時間割
1 年次

		前 期									
		月		火		水		木		金	
		科目名 担当者 教室		科目名 担当者 教室		科目名 担当者 教室		科目名 担当者 教室		科目名 担当者 教室	
1	9:00 ~ 10:30	基礎解析 ・演習 (柳田達雄) E254 (和田浩一) E354		経済学の世界 (牧野泰典) J302		基礎電気回路 (添田晴生) J308		キャリア入門 (添田晴生) J406		力学1・演習 (原田 融) J306 (山本剛宏) J510 (外川直子) J409	
		基礎微積分1 ・演習 (岡井孝行) E253 (三浦薫広) E353		日本語上達法1 (平沼博将) J502 哲学の世界 (坂本知宏) J312 発達心理学 (大谷宗啓) J308 情報活用リテラシー (大村基将) J404 歴史学の世界 (榎本喜一) J407 日本語上達法1 (辻 晶子) J502		基礎英語1 (杉村寛子) J503 (増田純一) J403 (桑原啓二) J404		スポーツ実習1 (大前 拓、村木有也、関岡有季)			
3	13:00 ~ 14:30	英語リーディング1 (相原和子) J703b (演) (松正貴) J503 (中内啓太) J402 (石井啓子) J509		英語リーディング1 (相原和子) J703b (演) (松正貴) J503 (中内啓太) J402 (石井啓子) J509		コンピュータリテラシー1 (大村基将) J704a (演)		建築学入門 (飯島憲一、佐々木厚司、高畑顯信、辻 聖亮、添田晴生、北尾総子) J308		英文法セミナー (上垣公明) J504	
		物理学・実験 (中村敏浩、中村賢志、山城 敦、山口雅弘、八木彩祐美) Y号館4階、Y324		〇建築構造力学1 (辻 聖亮) J510		線形代数1 (三浦薫広) J509 (柳田達雄) J408 (和田浩一) J306				中国語2 (王 少鋒) J408	
5	16:20 ~ 17:50	現代社会を考える1 (坂本知宏、平沼博将、村木有也、佐野正彦、中里見博) J312		中国語1 (王 少鋒) J408				ドイツ語1 (北川 尚) J508 (加藤智也) J407 (湯浅美季) J306			
								フランス語1 (春藤 寛) J402			

備考 ○：必修科目 □：選択必修科目 ()：科目担当者 J305：教室番号

1 年次

後 期									
月		火		水		木		金	
科目名 担当者 教室		科目名 担当者 教室		科目名 担当者 教室		科目名 担当者 教室		科目名 担当者 教室	
1	9:00 10:30	基礎微積分 1・演習 (柳田達雄) E254 (和田浩一) E354	基礎微積分2 (岡井孝行) E253 (三浦善広) E353	政治のしくみを探究する (木村祐治) J306	○建築構造力学2 (北尾聡子) J507	力学2 (山本剛宏) J308			
	10:40 12:10		現代社会と青年の心理 (平沼博将) J409 異文化の理解 (王 少鋒) J413 文学の世界 (富田成美) J305 家族のくらしと社会 (五井真理子) J508	人間形成と教育 (平沼博将) J308	基礎英語2 (中内啓太) J402 (桑原啓二) J504	スポーツ実習2 (大前 拓、村木有也、 関岡有季)	基礎物理学 (安江寛夫) J308 (外川直子) J406		
3	13:00 14:30		英語リーディング2 (柏原祐子) J703b (演) (松田正貴) J503 (上垣公明) J504 (石井啓子) J407		○建築環境工学1 (添田晴生) J507	コンピュータリテラシー2 (島袋舞子) J704a (演)			
	14:40 16:10	○建築設計基礎実習 (飯島憲一、佐々木厚司、高畑顯信、 辻 聖晃、添田晴生、北尾聡子) 製図室、各教員研究室			線形代数2 (三浦善広) J515 (柳田達雄) J508 (和田浩一) J514	プログラミング基礎演習 (大村基将) J704a (演)			
5	16:20 17:50	中国語3 (王 少鋒) J507	現代社会を考える2 (坂本和宏、松田正貴、金田啓 稔、村木有也、王 少鋒、) J312			ドイツ語2 (北川 尚) J508 (加藤智也) J407 (湯浅美季) J306			
						フランス語1 (春藤 寛) J402			

備考 ○：必修科目 □：選択必修科目 ()：科目担当者 a, X, ①：クラス J305：教室番号 (前)：後期前半科目 (後)：後期後半科目 (再)：再履修科目 (旧)：旧カリキュラム

2年次

	前 期					金
	月	火	水	木	金	
	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室
1 9:00 ~ 10:30		社会生活と法 (中里見博) J413	確率・統計 (町頭義朗) J407			
2 10:40 ~ 12:10		環境の科学 (尾花由紀) J413 国際コミュニケーション (王 少釋) J408 教育制度論 (佐野正彦) J507 日本語上達法2 (中里見博) J503 企業社会と労働 (牧野泰典) J302	○建築計画1 (佐々木厚司) J510	○建築設計実習1 ① (佐々木厚司、矢ヶ崎善太郎、北澤誠男、西笠彰一) 製図室、各教員研究室	○建築設計実習1 ② (佐々木厚司、矢ヶ崎善太郎、北澤誠男、西笠彰一) 製図室、各教員研究室	
3 13:00 ~ 14:30	2次元CAD実習 (飯島憲一、添田晴生) J704a (演)	基礎微積分2・演習 (門田直之) J514	建築構造力学3 (北尾聡子) J509			英語リーディング3 (中内啓太) J502 (松田正貴) J503
4 14:40 ~ 16:10	建築環境工学2 (添田晴生) J510			健康・スポーツ科学論 (林 郁子) J413		キャリア概論 (佐野正彦) J308
5 16:20 ~ 17:50	英語スキルアップセミナー1 (柏原郁子) J703	総合ゼミナール (中里見博) J503	英語スキルアップセミナー1 (上垣公明) J703	英語コミュニケーション1 (平井亮尚) J501		英語スキルアップセミナー1 (杉村寛子) J703

備考 ○：必修科目 □：選択必修科目 ()：科目担当者 a, X, ①：クラス J305：教室番号 (前)：前期前半科目 (後)：前期後半科目 (再)：再履修科目 (旧)：旧カリキュラム

2年次

後 期									
月		火		水		木		金	
	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室	科目名	担当者	教室
1	9:00 ~ 10:30	○建築設備1 (添田晴生) J308	道徳と教育 (坂本知宏) J507 日本の近代史を探究する (櫻本喜一) J406 生命の科学 (井上栄壮) J413	3次元CAD/DTP実習 (飯島憲一、添田晴生) J704a (演)	○建築設計実習2 ① (佐々木厚司、矢ヶ崎善太郎、北澤誠男、山田哲也) 製図室、各教員研究室	○建築設計実習2 ② (佐々木厚司、矢ヶ崎善太郎、北澤誠男、山田哲也) 製図室、各教員研究室			
2	10:40 ~ 12:10	○建築プレゼミナール1 (飯島憲一、佐々木厚司、高畑顯信、辻 聖晃、矢ヶ崎善太郎、添田晴生、北尾聡子、北澤誠男) 各教員研究室	情報社会と情報倫理 (大村基将) J406 日本国憲法の理念と現実 (中里晃博) J307	○建築計画2 (佐々木厚司、北澤誠男) J514					
3	13:00 ~ 14:30		キャリアデザイン演習 (玉井真理子) J708 (演)	建築構造力学4 (辻 聖晃) J514	○建築材料 (高畑顯信、北澤誠男) J509				
4	14:40 ~ 16:10		英語リーディング4 (柏原郁子) J703b (演) (松田正貴) J504	○建築構造1 (高畑顯信、辻 聖晃、北尾聡子) J509					
5	16:20 ~ 17:50	英語スキルアップセミナー2 (柏原郁子) J703	インテリア計画 (北澤誠男) J308	英語スキルアップセミナー2 (上垣公明) J703	英語コミュニケーション2 (松田正貴) J502 (申 幸月) J501				英語スキルアップセミナー2 (杉村寛子) J703

備考 ○：必修科目 □：選択必修科目 ()：科目担当者 a, X, ①：クラス J305：教室番号 (前)：後期前半科目 (後)：後期後半科目 (再)：再履修科目 (旧)：旧カリキュラム

3年次

前 期								
	月		水		木		金	
	科目名	担当者	科目名	担当者	科目名	担当者	科目名	担当者
1	9:00 ~ 10:30		キャリア設計 (佐々木厚司) J510					
2	10:40 ~ 12:10	○建築プレゼミナール2 (飯島憲一、佐々木厚司、高畑顯 信、辻 聖晃、矢ヶ崎善太郎、添 田晴生、北尾聡子、北澤誠男) 製図室、各教員研究室	建築材料・構造実験 (高畑顯信、辻 聖晃、北尾聡 子) K号館1階		建築史・都市史2 (西田正嗣) J515		コンピューテーションデザイン実 習 (飯島憲一、添田晴生) J704a (演)	
3	13:00 ~ 14:30	建築史・都市史1 (矢ヶ崎善太郎) J515	○建築法規 (北澤誠男) J510	○建築技術者倫理 (飯島憲一、高畑顯信、北澤誠 男) J507	建築設備2 (岡本 茂) J413		建築設計実習3 ② (佐々木厚司、矢ヶ崎善太郎、北 澤誠男) 製図室、各教員研究室	
4	14:40 ~ 16:10	都市・街並み計画 (佐々木厚司) J515	建築設計実習3 ① (佐々木厚司、矢ヶ崎善太郎、北 澤誠男、伊藤仁志) 製図室、各教員研究室	○建築構造2 (高畑顯信) J507	英語コミュニケーション3 (石井谷子) J515 (松浦芳子) J504			
5	16:20 ~ 17:50							

備考 ○：必修科目 □：選択必修科目 ()：科目担当者 J305：教室番号 (前)：前期前半科目 (後)：前期後半科目 (再)：再履修科目 (旧)：旧カリキュラム

3年次

		後 期				
		月	火	水	木	金
		科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室
1	9:00 ~ 10:30	住環境計画 (佐々木厚司、北澤誠男) J312			スポーツ実習3 (大前 拓、村木有也、関岡有季)	
2	10:40 ~ 12:10		建築環境工学演習 (添田晴生) J510			BIM実習 (飯島憲一) J704a (演)
3	13:00 ~ 14:30	建築史・都市史3 (笠原一人) J515	建築設計実習4 ① (飯島憲一、佐々木厚司、高畑顯信、辻 聖晃、矢ヶ崎善太郎、添田晴生、北尾聡子、北澤誠男) 製図室、各教員研究室	○建築生産1 (高畑顯信) J406	建築構造3 (辻 聖晃、北尾聡子) J510	建築設計実習4 ② (飯島憲一、佐々木厚司、高畑顯信、辻 聖晃、矢ヶ崎善太郎、添田晴生、北尾聡子、北澤誠男) 製図室、各教員研究室
4	14:40 ~ 16:10	環境デザイン論 (角田暁治) J510			建築生産2 (稲垣秀和) J510	
5	16:20 ~ 17:50	建築経済 (飯島憲一、高畑顯信、北澤誠男) J514			英語コミュニケーション4 (平井克尚) J703	〇プレゼミナール (飯島憲一、佐々木厚司、高畑顯信、辻 聖晃、矢ヶ崎善太郎、添田晴生、北尾聡子、北澤誠男) 各教員研究室

備考 ○：必修科目 □：選択必修科目 ()：科目担当者 a, X, ①：クラス J305：教室番号 (前)：後期前半科目 (後)：後期後半科目 (再)：再履修科目 (旧)：旧カリキュラム

4年次

前 期				
	月	火	水	木
	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室
1	9:00 10:30			
2	10:40 12:10			スポーツ実習4 (大前 拓、村木有也、関岡有季)
3	13:00 14:30			
4	14:40 16:10	建築史実習 (矢ヶ崎善太郎) J514		
5	16:20 17:50			

通年授業 卒業設計 卒業研究

備考 ○：必修科目 □：選択必修科目 ()：科目担当者 a, X, ①：クラス J305：教室番号

後 期				
	月	火	水	木
	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室	科目名 担当者 教室
1	9:00 10:30			
2	10:40 12:10			
3	13:00 14:30			
4	14:40 16:10			
5	16:20 17:50			

通年授業 卒業設計 卒業研究

備考 ○：必修科目 □：選択必修科目 ()：科目担当者 a, X, ①：クラス J305：教室番号

平成28年度

企業名
アイクラフト 株式会社
株式会社 アルトナー
エース設計産業 株式会社
株式会社 エフ・ラボ
株式会社 加貫ローラ製作所
金井重要工業 株式会社
カワイ事務機 株式会社
株式会社 カンセツ
岸和田製鋼 株式会社
株式会社 共和電子製作所
株式会社 クラックスシステム
株式会社 グローバル・パーツ
株式会社 ケー・エス・ディー
株式会社 コスモス・コーポレイション
佐藤精機 株式会社
三相電機 株式会社
サンショウシステム 株式会社
株式会社 三立
株式会社 SIGEL
シグマ・ガル 株式会社
シンコーマシントール 株式会社
新旭電子工業 株式会社
株式会社 センショー
センコー情報システム 株式会社
株式会社 ソフトム

企業名
大昌精機 株式会社
大和電設工業 株式会社
智頭電機 株式会社
寺崎電気産業 株式会社
トクデン 株式会社
株式会社 東峯技術コンサルタント
西尾レントオール 株式会社
株式会社 日興商会
株式会社 ニッポンケンシステム
日本電設工業 株式会社
日本フレックス工業 株式会社
㈱日本電機研究所
株式会社 ノーケン
株式会社 バウエン지니어リング
播州電装 株式会社
福地金属 株式会社
富士電波工業 株式会社
不動産研工業 株式会社 高砂事業所
フヨウブレカット 株式会社
フルタニ産業 株式会社
扶桑工業 株式会社
株式会社 フレックスコンピュータシステム
マルホ発條工業 株式会社
株式会社 マイスターエンジニアリング
株式会社 モリイ製作所

企業名
株式会社 壬生電機製作所
株式会社 ミヤワキ
株式会社 山本金属製作所
ユミックス 株式会社
㈱リサイクル
株式会社 シーエスコミュニケーション
日本マイクロシステムズ 株式会社
フジキンソフト 株式会社
日本ソフトウエア 株式会社
有光工業 株式会社
株式会社 レザック
久米電気 株式会社
メルコ・コントロール・プロダクツ 株式会社
株式会社 マックス
日東コンピュータサービス株式会社

平成27年度における活動評価シート

- ① 該当する項目(数値を記入できる項目を含む)のチェックボックス□に☑を入れてください。
 ② 該当する項目のうち、E列に単位が入力されているものは、必要に応じて枠内に数値を入力してください。
 ※ 所属・氏名および太枠内のみ編集してください。

所属：〇〇学科
 氏名：電通 太郎

○教育

1. 授業担当(学部)

		数値	単位
<input type="checkbox"/>	1 授業を担当した(週単位の時数を記入)1コマ15週で2.0時間		時間
<input type="checkbox"/>	2 「講義」科目を担当した		コマ
<input type="checkbox"/>	3 「実験・演習」系科目を担当した		コマ
<input type="checkbox"/>	4 必修科目を担当した		コマ
<input type="checkbox"/>	5 担当した必修科目の登録学生数(1科目あたりの平均学生数を記入)		人
<input type="checkbox"/>	6 選択科目・選択必修科目を担当した		コマ
<input type="checkbox"/>	7 担当した選択科目・選択必修科目の登録学生数(1科目あたりの平均学生数を記入)		人
<input type="checkbox"/>	8 休講した場合、補講(または代講)をした		回
<input type="checkbox"/>	9 授業時間以外に学生の質問に応じた		
<input type="checkbox"/>	10 オフィス・アワーで学生を指導した		
<input type="checkbox"/>	11 授業はシラバス通り進んだ		
<input type="checkbox"/>	12 成績評価の方法や基準を明示した		
<input type="checkbox"/>	13 試験の正解や模範解答を公表した		
<input type="checkbox"/>	14 試験の答案を返却した		
<input type="checkbox"/>	15 レポートを返却した		
<input type="checkbox"/>	16 卒業研究・制作の指導をした		人

2. 授業担当(大学院)

<input type="checkbox"/>	17 授業を担当した(週単位のコマ数を記入)		コマ
<input type="checkbox"/>	18 各授業科目の登録学生数(1科目あたりの平均学生数を記入)		人
<input type="checkbox"/>	19 修士論文審査の主査を務めた		人
<input type="checkbox"/>	20 修士論文審査の副査を務めた		人
<input type="checkbox"/>	21 博士論文(課程)審査の主査を務めた		人
<input type="checkbox"/>	22 博士論文(課程)審査の副査を務めた		人
<input type="checkbox"/>	23 博士論文(論文)審査の主査を務めた		人
<input type="checkbox"/>	24 博士論文(論文)審査の副査を務めた		人

3. 教材・教育方法開発

<input type="checkbox"/>	25 単著の教科書を執筆した		冊
<input type="checkbox"/>	26 共著の教科書を執筆した		冊
<input type="checkbox"/>	27 教科書以外の教材を執筆した		冊
<input type="checkbox"/>	28 教科書以外の教材を開発した		冊
<input type="checkbox"/>	29 教え方について独自の工夫をした		
<input type="checkbox"/>	30 留学生に対して特別な指導をした		
<input type="checkbox"/>	31 社会人学生に対して特別な指導をした		
<input type="checkbox"/>	32 障がい学生に対して特別な指導をした		

4. 授業改善活動

<input type="checkbox"/>	33 学内のFD関連研修会に参加した		回
<input type="checkbox"/>	34 学外のFD関連研修会に参加した		回
<input type="checkbox"/>	35 学生による授業評価の結果を授業改善に利用した		

5. 正課外活動

<input type="checkbox"/>	36	学内学生団体の部長(顧問)をした		
<input type="checkbox"/>	37	学内学生団体の実質的な(技術的な)指導をした		
<input type="checkbox"/>	38	学内学生団体の合宿に同行した		
<input type="checkbox"/>	39	学内学生団体の対外試合等に帯同した		
<input type="checkbox"/>	40	留学生の指導をした(チューター、カウンセラー)		
<input type="checkbox"/>	41	学生の就職相談に応じた		
<input type="checkbox"/>	42	就職に際して推薦状を書いた		
<input type="checkbox"/>	43	学生に就職先を紹介した		
<input type="checkbox"/>	44	学生の就職先を訪問した		
<input type="checkbox"/>	45	大学院進学について、相談に応じた		
<input type="checkbox"/>	46	学内の高大連携活動に参加した		
<input type="checkbox"/>	47	学外の高連携活動に参加した		
<input type="checkbox"/>	48	学生関連のイベントを担当した	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	49	資格取得支援のための講座を担当した	<input type="text"/>	回

○研究

1. 著作物(著書・論文等)

<input type="checkbox"/>	50	単著の学術書を刊行した	<input type="text"/>	冊
<input type="checkbox"/>	51	学術書以外(注釈書・辞書・学術的翻訳書等)の単著を刊行した	<input type="text"/>	冊
<input type="checkbox"/>	52	共著の学術書を刊行した	<input type="text"/>	冊
<input type="checkbox"/>	53	学術書以外(注釈書・辞書・学術的翻訳書等)の共著を刊行した	<input type="text"/>	冊
<input type="checkbox"/>	54	査読付国際雑誌に論文を発表した	<input type="text"/>	本
<input type="checkbox"/>	55	査読付学外雑誌に論文を発表した	<input type="text"/>	本
<input type="checkbox"/>	56	学内紀要に論文を発表した	<input type="text"/>	本
<input type="checkbox"/>	57	芸術(建築、美術、音楽等)創作活動を行った	<input type="text"/>	本

2. 学会報告

<input type="checkbox"/>	58	国内の学会で研究報告をした	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	59	国内の学会でシンポジウムの報告を担当した	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	60	国内の学会で企画リーダー(座長)を務めた	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	61	国際学会で研究報告をした	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	62	国際学会で研究報告をしたシンポジウムの報告を担当した	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	63	国際学会で企画リーダー(座長)を務めた	<input type="text"/>	回

3. 研究資金等

<input type="checkbox"/>	64	学内の競争的研究資金に応募した	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	65	学内の競争的研究資金を獲得した	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	66	学外の競争的研究資金に応募した	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	67	学外の競争的研究資金を獲得した	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	68	奨学寄附金を受領した	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	69	受託調査研究を引き受けた	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	70	学内の共同研究に加わった	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	71	学外の共同研究に加わった	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	72	学外の客員研究員を受入れた(本学退職教員の客員研究員を除く)	<input type="text"/>	回

4. 研究評価

<input type="checkbox"/>	73	研究活動に対して、国内の機関から表彰を受けた	<input type="text"/>	回
<input type="checkbox"/>	74	研究活動に対して、国外の期間から表彰を受けた	<input type="text"/>	回

○大学運営

1. 入試広報

<input type="checkbox"/>	75	入学試験において出題や採点あるいは実施の責任者を務めた		
<input type="checkbox"/>	76	入学試験において出題や採点の委員を務めた		
<input type="checkbox"/>	77	入学試験において書類選考を担当した		
<input type="checkbox"/>	78	入学試験において面接を担当した		
<input type="checkbox"/>	79	入学試験において試験監督を担当した		
<input type="checkbox"/>	80	オープンキャンパスにおける行事を担当した		
<input type="checkbox"/>	81	学生募集のために高校訪問をした		

2. 学部、学科内

<input type="checkbox"/>	82	学科主任その他専攻主任などを務めた		
<input type="checkbox"/>	83	その他(学科内検討組織等)の委員を務めた	<input type="text"/>	回

3.大学全体

<input type="checkbox"/>	84	学長、副学長、学部長、研究科長を務めた		
<input type="checkbox"/>	85	部長、研究所長、センター長等を務めた		回
<input type="checkbox"/>	86	全学的な委員会の委員長を務めた		回
<input type="checkbox"/>	87	全学的な委員会の委員を務めた		回

○社会貢献活動

1. 公的機関

<input type="checkbox"/>	88	政府の審議会の委員(委員・専門委員・幹事)を務めた		回
<input type="checkbox"/>	89	大学関係機関・団体等の役職を務めた		回
<input type="checkbox"/>	90	大学関係機関・団体等の委員を務めた		回
<input type="checkbox"/>	91	国内の所属学会で役員を務めた		回
<input type="checkbox"/>	92	国外の所属学会で役員を務めた		回
<input type="checkbox"/>	93	所属大学の公開講座等の講師を務めた		回
<input type="checkbox"/>	94	所属大学以外の主催する公開講座等の講師を務めた		回
<input type="checkbox"/>	95	公的機関の要請による研修講座の講師を務めた		回
<input type="checkbox"/>	96	マスコミ媒体から論評やコメントを求められた		回
<input type="checkbox"/>	97	地方公共団体の審議会等の委員を務めた		回
<input type="checkbox"/>	98	国家試験の試験委員を務めた		回

2. 産学連携、知財、TLO

<input type="checkbox"/>	99	企業と連携した活動を行った		
<input type="checkbox"/>	100	企業と連携した社会人向けの教育プログラムを担当した		回
<input type="checkbox"/>	101	特許を出願した		件
<input type="checkbox"/>	102	特許を取得した		件

3. ステークホルダー

<input type="checkbox"/>	103	教育懇談会に参加した		
--------------------------	-----	------------	--	--

4. その他NPO法人等を通じた公益性のある社会貢献活動

<input type="checkbox"/>	104	学外の団体が行う社会貢献活動に参加した		回
--------------------------	-----	---------------------	--	---

【自由記述欄】

その他特記事項等があれば記述してください。

1.教育

[Empty text box for education activities]

2.研究

[Empty text box for research activities]

3.大学運営

[Empty text box for university operations]

4.社会貢献活動

[Empty text box for social contribution activities]

5.その他(教育、研究、大学運営、社会貢献活動以外)

[Empty text box for other activities]

FD・SD 実施テーマ

平成28年度 テーマ 一覧

日程等	テーマ	講師
第1回 平成28年 5月12日 (木)	発達障害学生がかかえる困難と支援の方法	総合学生支援センター 高橋 和子 特任准教授
第2回 平成28年 6月 2日 (木)	「2015年度受領 教育推進費(通称：D予算)」実施・成果報告	工学部電気電子工学科 富岡 明宏 教授 工学部電子機械工学科 鄭 聖薫 教授 工学部環境科学科 中田 亮生 教授
第3回 平成28年 7月 7日 (木)	国語プレイスメソッドテストの結果について 「日本語上達法1」の授業方法とデザイン 「日本語上達法1」における「合理的配慮」の実践例	工学部人間科学研究センター 平沼 博将 教授 (非常勤講師) 辻 晶子 先生
第4回 平成28年 8月26日 (金)	「授業の基本」研修会－授業の基本と授業づくり－	総合学生支援センター 高橋 和子 特任准教授 滋賀県立大学 理事・副学長 倉茂 好匡 教授
第5回 平成28年12月15日 (木)	「2016年度 リメディアル教育」実施報告	各学科リメディアル教育担当教員
第6回 平成29年 2月24日 (金)	工学系学生に英語多読が必要な理由と効果のしくみ	豊田工業高等専門学校 西澤 一 教授
第7回 平成29年 3月24日 (金)	TA (S A) の仕事	総合情報学部デジタルゲーム学科 横山 宏 准教授 工学部電気電子工学科 小見山 彰 教授 医療福祉工学部医療福祉工学科 松村 雅史 教授 総合情報学部情報科学科 渡邊 郁 教授

平成29年度 テーマ 一覧 (予定)

日程等	テーマ	講師
第1回 平成29年 4月 1日 (土)	新任研修「大阪電気通信大学で教育活動を始めていただくにあたり」	副学長 森 幸治 教授 総合学生支援センター 高橋 和子 特任准教授
第2回 平成29年 6月29日 (木)	学内教育実践事例報告① 平成27年度大阪電気通信大学D予算事業 「OECU教育モデル開発」結果について	U 齊藤 安貴子 先生 E 富岡 明宏 先生 W 魚井 宏高 先生
第3回 平成29年 8月 2日 (水)	「授業の基本」研修会－授業の基本と授業づくり－	滋賀県立大学 理事・副学長 倉茂 好匡 教授

第4回	平成29年 8月 (予定)	SD研修「内容未定」	(予定)総合学生支援センター	高橋 和子	特任准教授
第5回	平成29年10月 (予定)	学内教育実践事例報告② 「社会人基礎力をのばすための工夫」	(予定)学内教員		
第6回	平成29年12月 (予定)	学内教育実践事例報告③ 「リメデイアル教育実践紹介(1)」	(予定)各学科の代表者		
第7回	平成30年 1月 (予定)	学内教育実践事例報告④ 「ラーニングスペース活用事例紹介」	(予定)活用教員		
第9回	平成30年 2月 (予定)	学内教育実践事例報告⑤ 「リメデイアル教育実践紹介(2)」	(予定)各学科の代表者		

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

① 定員充足の見込み

現在、本学工学部に設置されている各学科の定員は、次のとおりとなっている。

学 科 名	入学定員	収容定員
電気電子工学科	80	320
電子機械工学科	80	320
機械工学科	90	360
基礎理工学科	60	240
環境科学科	90	360
学部 計	400	1,600

この度設置する、工学部建築学科の定員を次に示す。

学 科 名	入学定員	収容定員
建築学科	80	320

本学の工学部における各学科の入学定員の設定は、80人を基本としている。一部90人や60人という入学定員の学科もあるが、建築学科については、入学定員を80人とした。80人という数は、入学者の質を維持しながら、十分に学生確保も併せて行えるものと考えている。学生確保の見通しについては、以下にその根拠を述べる。

本学科の設置にあたり調査機関として株式会社進研アドに対し、現役高校生を対象に工学部建築学科設置に関するニーズ調査を依頼した。調査は、平成29年1月10日から2月3日までで、高校2年次生を調査の対象として実施し、6,348名から有効回答を得た。その中で工学部建築学科への入学意向は354人となり、予定している入学定員数（80人）を4倍以上上回る入学意向者がみられた。このことから見ても、入学定員80人は十分に確保できる見通しである。

② 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

このたび、工学部建築学科と同時期に開設を予定している総合情報学部ゲーム&メディア学科も対象として、大阪電気通信大学「工学部建築学科」「総合情報学部ゲーム&メディア学科」（仮称）設置に関するニーズ調査を行った。

調査の概要は次の通りである。

1) 調査目的

平成 30 年 4 月開設予定の「工学部建築学科」「総合情報学部ゲーム&メディア学科」の新設構想に関して、高校生のニーズを把握する。

2) 調査概要

調査対象は高校 2 年次生とした。(予定通り学科開設が実現すれば、当該生徒たちは本学建築学科への進学も視野に入る。)

調査エリアは、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の高校 94 校について、各高校にて留置調査を実施した。

調査時期は、平成 29 年 1 月 10 日から 2 月 3 日で実施した。

調査の回収数は、76 校の生徒 6,348 人であった。(回収率 63.3%)

3) 調査項目

主な調査項目は、高校卒業後の希望進路、興味のある学問系統、本学建築学科の特色に対する魅力度、本学建築学科への受験意向、本学建築学科への入学意向とした。

4) 調査結果 (入学意向)

回答のあった 6,348 人のうち、本学を受験したいと回答のあったのは 972 人であった。そのうち、本学建築学科に入学したいと回答があったのは 354 人であり、入学定員 80 人の 4 倍以上の希望者があった。

[資料 1 : 大阪電気通信大学「工学部建築学科」「総合情報学部ゲーム&メディア学科」(仮称) 設置に関するニーズ調査 結果報告書【高校生対象調査】]

③ 学生納付金の設定の考え方

本学建築学科は、既存の工学部に 6 つ目の学科として設置をするが、既にある工学部の各学科は学部として統一した学生納付金を設定しており、建築学科についても、既存の工学部の各学科と同額で設定することが妥当であるとする。

具体的な学生納付金は、次のとおりである。

(単位：円)

	入学金	授業料	維持拡充費	初年次納付金	納付金総額
本学建築学科	200,000	985,000	340,000	1,525,000	5,500,000

比較対象となる大阪府内の近隣他大学の学生納付金は、次のとおりである。

(平成 29 年度入学生)

(単位：円)

	入学金	授業料	その他諸費	初年次納付金	納付金総額
関西大学 環境都市工学部 建築学科	260,000	1,374,000 1,557,000 (2年目以降)	—	1,634,000	6,305,000
近畿大学 建築学部 建築学科	250,000	1,442,000 30,000UP/年	26,500	1,718,500	6,304,000
大阪工業大学 工学部 建築学科	250,000	1,260,000	100,000 200,000 (2年目以降)	1,610,000	5,990,000
摂南大学 理工学部 建築学科	250,000	1,260,000	100,000 200,000 (2年目以降)	1,610,000	5,990,000
大阪産業大学 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科	250,000	980,000 ※1	282,000 312,000 (2年目以降) ※1	1,512,000	5,388,000 ※1

※1：学年進行に伴い前々年度の消費者物価指数の平均上昇率等を勘案してスライド制を実施

本学で設定する学生納付金は、近隣他大学との比較からみて、妥当な額であると判断する。

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

本学にて現在行っている学生確保に向けた具体的な取組は、次の通りであり、精力的に取組を行っている。

◆オープンキャンパス

オープンキャンパスは本学の学びの内容や施設紹介、在学生との交流等を通して本学を理解いただく機会となっており、参加者から出願に繋がることが多い。毎年 6・7・8 月に開催しており、昨年度の総参加者数は 1,894 名。

◆高校・会場ガイダンス（進学相談会）

高等学校主催の進学相談会や、業者主催の合同説明会に参加し、受験生に直面での訴求をはかっている。昨年度の高校ガイダンスへの参加は 161 件、会場ガイダンスへの参

加は 40 件。

◆高校への出張授業

高校で実施される模擬授業の依頼に応じ、本学教員が学科の魅力・卒業後の進路などを紹介し専門分野の訴求を含め高校に直接教授している。昨年度は 56 件の出張授業を実施。

◆高校への訪問

大阪・兵庫・京都など近畿エリアの各高等学校の進路指導部を中心に、高校教員への理解促進をはかっている。昨年度は 266 件の訪問を実施。

◆大学案内・新設学科パンフレット

学部学科、施設・設備、学生生活サポート、資格取得や就職活動へのサポート等を紹介。資料請求者へ発送、高等学校へ配布している。今年度の大学案内は 70,000 部発行し、巻頭では新設学科を特集し、学科パンフレットでは学科の特色を端的に紹介している。

◆大学 web サイト、新設学科紹介特設サイト

大学のホームページに新設学科に関連する特設サイトを設置し、動画や画像を用いながら、ビジュアル的に理解しやすく学びの内容を紹介している。

◆駅看板・電車内ポスターなどマス媒体広報

各キャンパス最寄駅構内の看板で新設学科開設の予定を広く告知。また JR や京阪電車内のドア横枠にポスターを掲出し、同じく新たな学科の告知やオープンキャンパス開催の周知を図っている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

建築学科における教育研究上の目的は、持続可能社会を実現する「人と環境に配慮した建物・まちづくり」を目指した教育研究を通じて、「人に対して安全かつ快適な空間であることを考慮しつつ、環境に対して自然との循環型共生や省エネルギーで環境負荷の低い建築物や都市を念頭に置いて、計画、設計、施工できる建築家や建築技術者を養成する」こととしている。

また人材養成の目的は、「住みやすいまちづくりをめざしたアクティブラーニングを中心とした教育により、コミュニケーション能力、チームで働く能力などの社会人として必要な基礎能力（社会人基礎力）を確実に身につけさせ、」社会に貢献できる人材を輩出できる教育を

行い、社会で活躍できる人材を養成する」こととしている。

そして卒業生は、建築、構造、設備の設計や施工に携わる建築家及び建築技術者として、ゼネコン（総合建設業者）、建築設備業者、建築設計事務所、住宅メーカーや住宅関連の設備業者への就職を目指す。また、建築・まちづくりに関するプランナー、コミュニティデザイナー、行政担当者、あるいは、工業・技術分野での教育者などの進路も目指す。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

建築学科の設置にあたり、当該学科の卒業生が、就職の受入れ先として社会から需要があるのかを見極めるため、株式会社進研アドに、企業対象のアンケート調査を依頼した。具体的には、工学部建築学科と同時期に開設を予定している総合情報学部ゲーム&メディア学科の両学科を対象に、大阪電気通信大学「工学部建築学科」「総合情報学部ゲーム&メディア学科」(仮称)設置に関するニーズ調査【企業対象調査】を行った。

調査の概要は次の通りである。

1) 調査目的

平成30年4月開設予定の「工学部建築学科」「総合情報学部ゲーム&メディア学科」の新設構想に関して、企業のニーズを把握する。

2) 調査概要

全国1,200社の企業(本社所在地が大阪府は34.7%、東京都は29.7%)を対象とし、アンケートを郵送し調査を行った。最も就職先として見込まれる建設業が46.9%であった。

調査時期は、平成29年1月10日から2月3日で実施した。

調査の回収数は、424社であった。(回収率35.3%)

3) 調査項目

主な調査項目は、採用予定数、本学建築学科の特色に対する魅力度、本学建築学科の社会的必要性、本学建築学科卒業生に対する採用意向、本学建築学科卒業生の毎年の採用想定人数とした。

3) 調査結果

回答のあった424社のうち、本学建築学科の社会的必要性については、97.4%の企業(413社)が必要だと答えていることから、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学科と捉えていることが伺える。

卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は335社(79.0%)であり、入学定員80

人の4倍以上を上回る採用意向がみられた。卒業生の採用を毎年何名程度想定しているかを聞いたところ、毎年の採用想定人数の合計は、567名あったことから、安定した人材需要があることが伺える。

また、近畿以西エリアの企業の採用意向は、81.3%（224社中182社）と入学定員を上回っている。また、大学所在地の大阪府の企業に限定した場合でも、採用意向は80.3%（147社中118社）と、予定している入学定員を上回っており、地域的な人材需要を踏まえた学科でもあることが裏付けられた。

〔資料2：大阪電気通信大学「工学部建築学科」「総合情報学部ゲーム&メディア学科」（仮称）設置に関するニーズ調査 結果報告書【企業対象調査】〕

また、本学に対する建設業界からの求人社数の推移は以下のとおりである。

現在、建築に関する直接的な学科がない中、多くの企業から求人がきており、平成28年度は1,241社とあるように、定員80人の15倍を上回っていることから、十分な就職先が確保されていることが伺える。

本学への求人社数

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
建設業	356	409	796	1,143	1,241

資料目次

- | | | |
|------|---------------------------------------------------------------------|---------|
| 資料 1 | 大阪電気通信大学「工学部 建築学科」「総合情報学部
ア学科」(仮称)設置に関するニーズ調査 結果報告書
【高校生対象調査】 | ゲーム&メディ |
| 資料 2 | 大阪電気通信大学「工学部 建築学科」「総合情報学部
ア学科」(仮称)設置に関するニーズ調査 結果報告書
【企業対象調査】 | ゲーム&メディ |

大阪電気通信大学
「工学部 建築学科」
「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】

平成29年3月
株式会社 進研アド

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2018年4月開設予定の「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の新設構想に関して、高校生のニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		三重県、滋賀県、京都府、大阪府、 兵庫県、奈良県、和歌山県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数	10,023人(94校)
	回収数 (回収率)	6,348人(76校) (63.3%)
調査時期		2017年1月10日(火)～2017年2月3日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別
・高校種別
・高校所在地
・所属クラス
・高校卒業後の希望進路
・興味のある学問系統
・「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の特色に対する 魅力度
・「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への受験意向
・「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への入学意向

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、新学科の「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」に対する需要を確認するための調査として設計したため、大阪電気通信大学の主な学生募集エリアである三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県に所在する高校の高校2年生に調査を実施した。

- 本調査の回答者は6,348人である。
- 回答者の性別は、「男性」が58.9%、「女性」が40.5%である。
- 回答者の在籍高校種別は「公立」が47.1%、「私立」が52.9%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、大阪電気通信大学の所在地である「大阪府」が58.6%で最も多い。次いで「京都府」が16.1%、「滋賀県」が11.2%である。
- 回答者の所属クラスは「理系クラス(理系コース)」が32.9%、「文系クラス(文系コース)」が31.4%である。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」の割合が63.6%で最も高い。次に「専門学校・専修学校に進学」が23.2%で高い。私立大学への進学志望者が多いことから、大阪電気通信大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統は、「工学(建築学など含む)」が18.1%で最も高い。次に「経済・経営・商学」が17.3%、「芸術学(デザイン、音楽、映像など含む)」が13.1%で高い。

高校生対象 調査結果まとめ

「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の特色に対する魅力度

- 「工学部 建築学科」の特色に対する魅力度(※)は、全ての項目で4割程度である。
- 「工学部 建築学科」で最も魅力度が高いのは、「A. 一級・二級建築士の受験資格に必要な専門知識を幅広く修得。環境、エネルギー、情報の関連分野を学ぶとともに、「人と環境に配慮した建物・まちづくり」を実現する建築家・建築技術者を目指します。」で44.7%である。次に高いのは、「B. 設計に必要な設計製図の基礎を学修。更に、本学の得意分野であるコンピュータによる図面作成(CAD)や、CG・BIMのITを駆使した最先端技術を学ぶことができます。」で43.6%である。
- 「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の特色に対する魅力度は、全ての項目で4～5割程度である。
- 「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」で最も魅力度が高いのは、「D. ゲームをベースに、映像(実写およびアニメーション)、音響、イベントなど、様々なチャンネルに対応できる知識と技術力を身に付けることができます。」、「E. アート&デザイン、アニメーション、ゲーム、ライブ、カルチャーの5つの領域から選択履修が可能。個々の興味に応じて専門知識と技能を身に付けることができます。」が51.8%で同率である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への受験意向

- 「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、15.3%(972人)である。

高校生対象 調査結果まとめ

「工学部 建築学科」への入学意向

- 「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」を「受験したいと思う」と答えた972人のうち、「工学部 建築学科に入学したい」と答えた人は36.4% (354人)であり、入学定員80人を4倍以上上回っている。

以下は属性別の結果である。

◇性別

- 「男性」の「工学部 建築学科」への入学意向は37.3% (840人中、313人)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- 大阪電気通信大学の所在地である「大阪府」の高校在籍者からの「工学部 建築学科」への入学意向は38.0% (568人中、216人)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」在籍者からの「工学部 建築学科」への入学意向は40.7% (509人中、207人)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 大阪電気通信大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の「工学部 建築学科」への入学意向は38.6% (736人中、284人)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

◇興味のある学問系統別

- 「工学部 建築学科」の学問内容と関連する「工学(建築学など含む)」に興味がある回答者の入学意向は57.3%(473人中、**271人**)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への入学意向

- 「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」を「受験したいと思う」と答えた972人のうち、「総合情報学部 ゲーム&メディア学科に入学したい」と答えた人は53.0% (**515人**)であり、入学定員110人を4倍以上上回っている。

以下は属性別の結果である。

◇性別

- 「男性」の「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への入学意向は52.3% (840人中、**439人**)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校所在地別

- 大阪電気通信大学の所在地である「大阪府」の高校在籍者からの「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への入学意向は48.1% (568人中、**273人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇所属クラス別

- 「理系クラス(理系コース)」在籍者からの「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への入学意向は49.1% (509人中、**250人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

◇高校卒業後の希望進路別

- 大阪電気通信大学を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」を考えている回答者の「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への入学意向は49.9% (736人中、**367人**)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇興味のある学問系統別

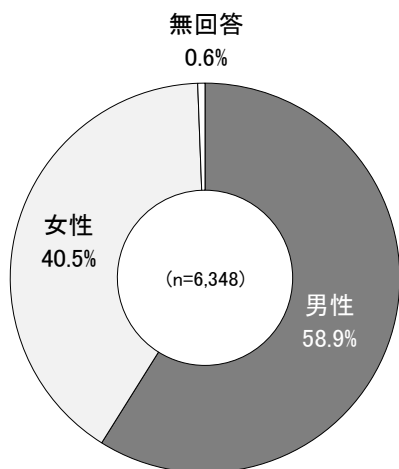
- 「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の学問内容と関連する「総合科学(総合情報学、情報メディア学など含む)」に興味がある回答者の入学意向は82.4% (250人中、**206人**)、「芸術学(デザイン、音楽、映像など含む)」に興味がある回答者の入学意向は65.5% (203人中、**133人**)と、それぞれ予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果

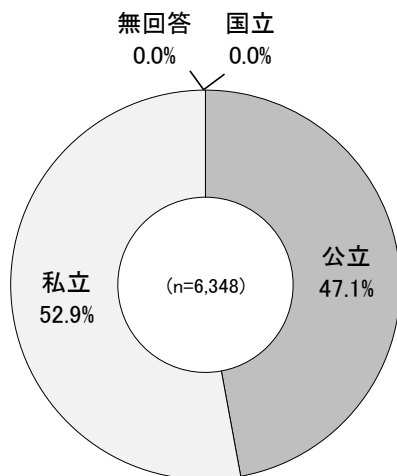


回答者の属性(性別／高校種別／高校所在地／所属クラス)

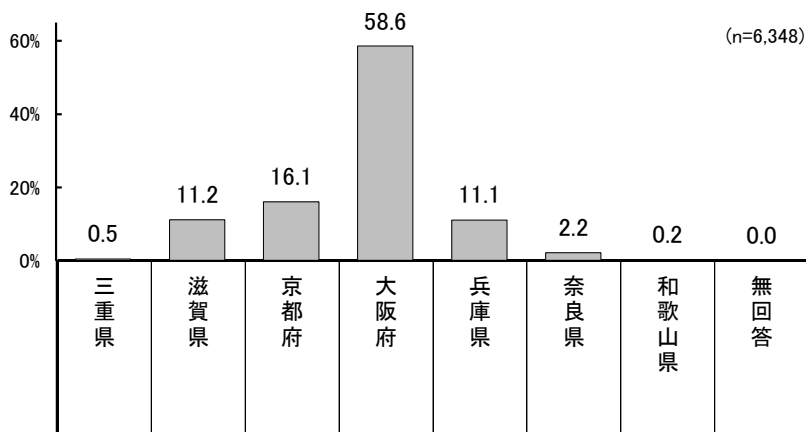
■性別



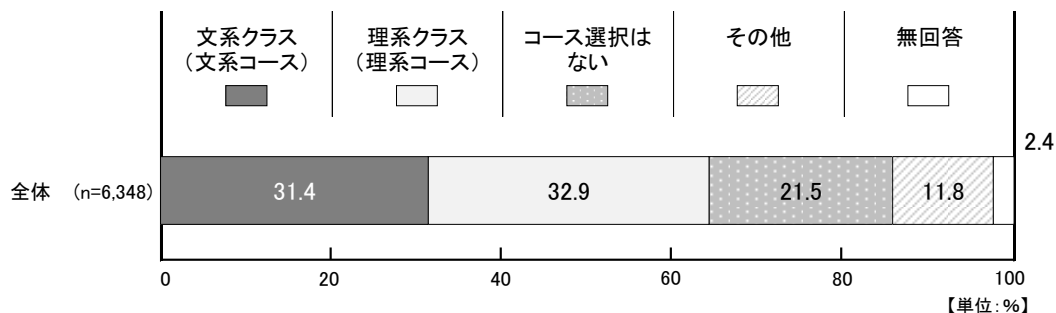
■高校種別



■高校所在地



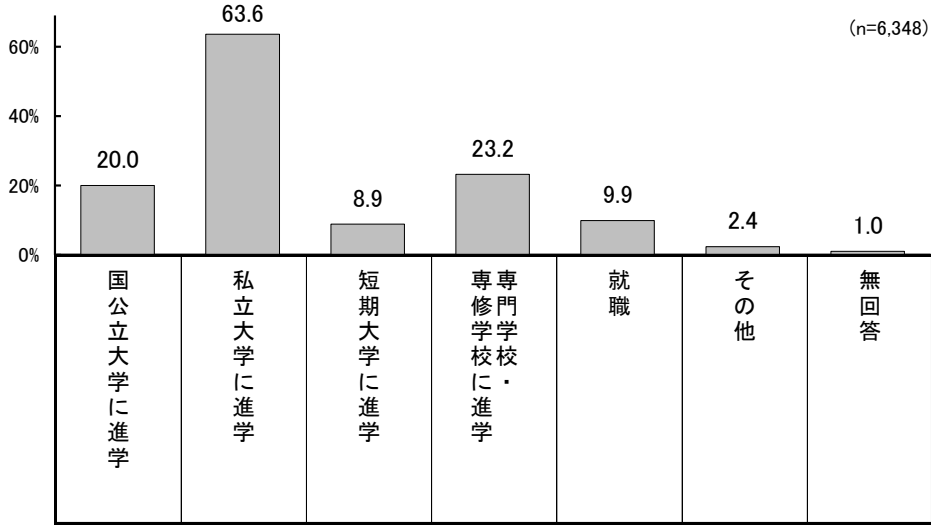
■所属クラス



高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

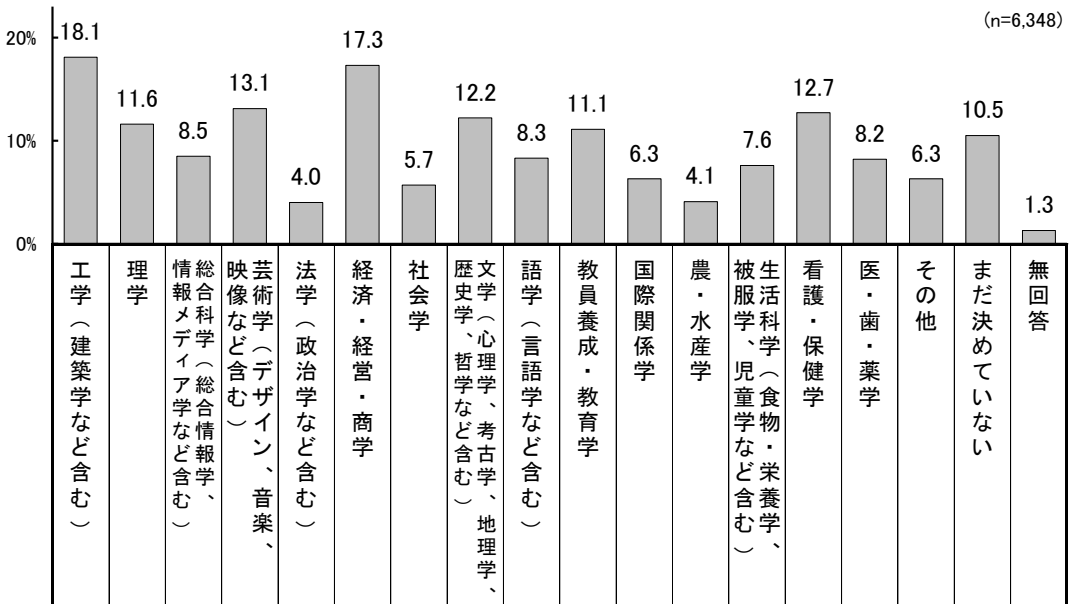
■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



■興味のある学問系統

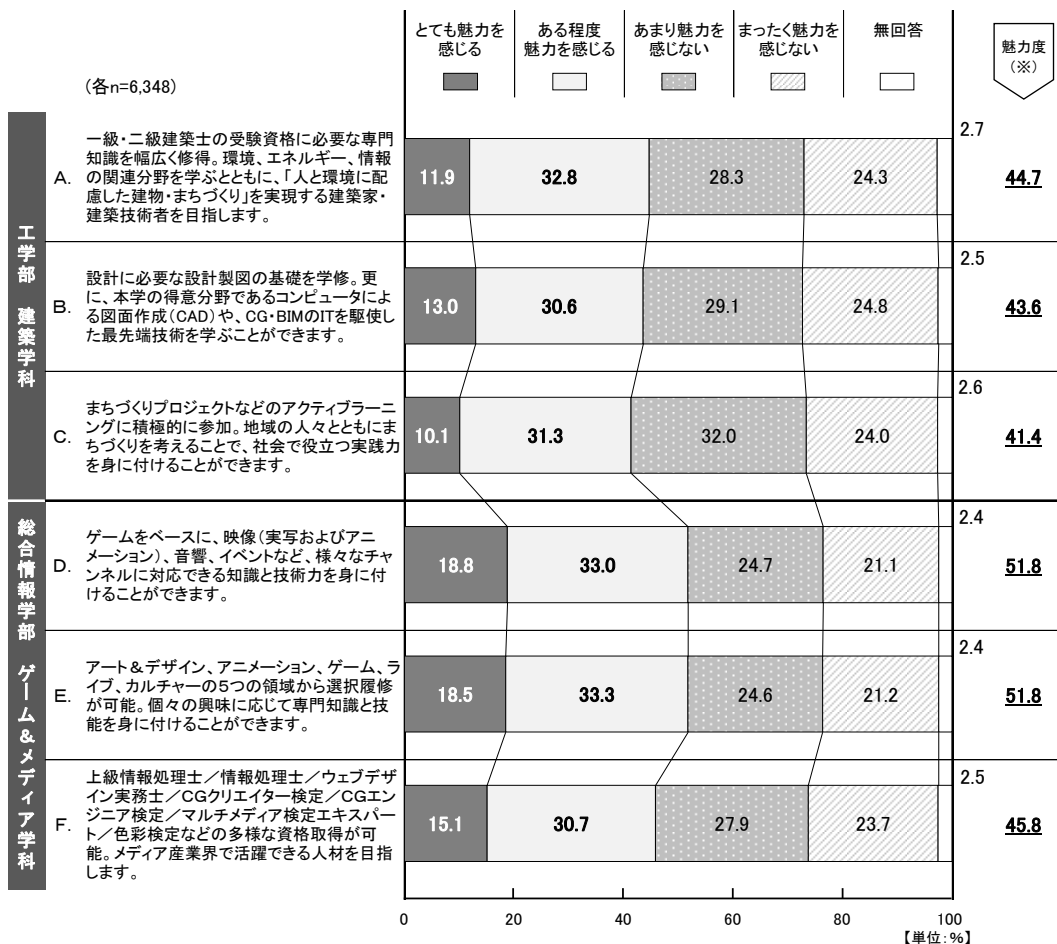
Q2. あなたは、どのような学問分野に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の特色に対する魅力度

■「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の特色に対する魅力度

Q3. 大阪電気通信大学「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



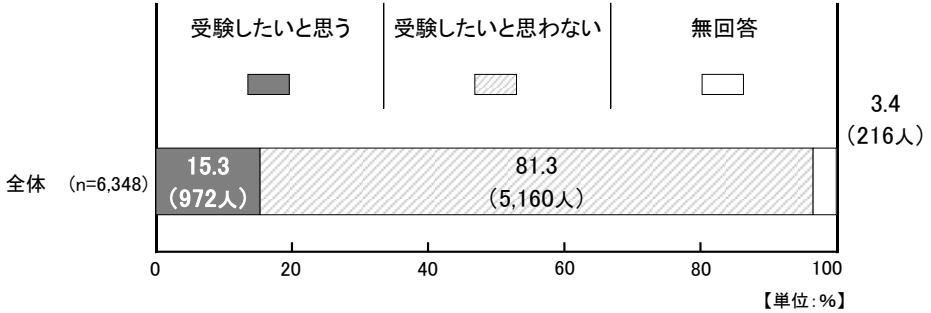
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への受験意向／
 「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への入学意向

■「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への受験意向

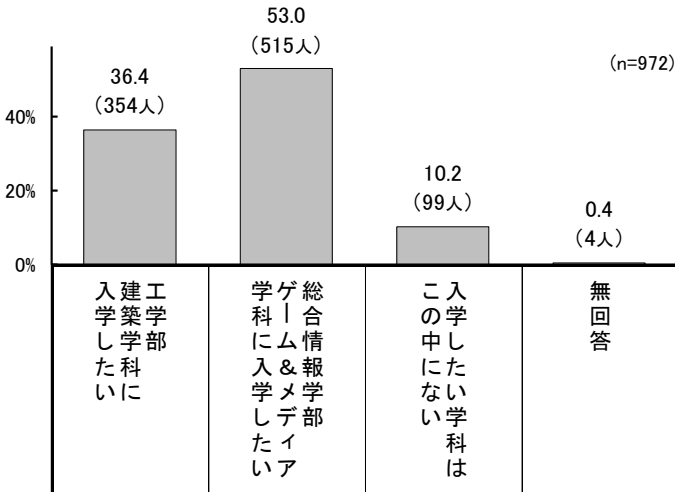
Q4. あなたは、新しく「工学部 建築学科」と「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」を備えた大阪電気通信大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた972人のみ抽出

■「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への入学意向

Q5. あなたは、大阪電気通信大学を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

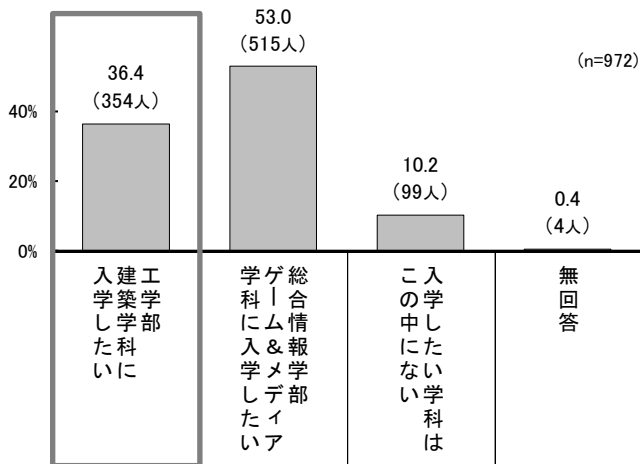


「工学部 建築学科」への入学意向

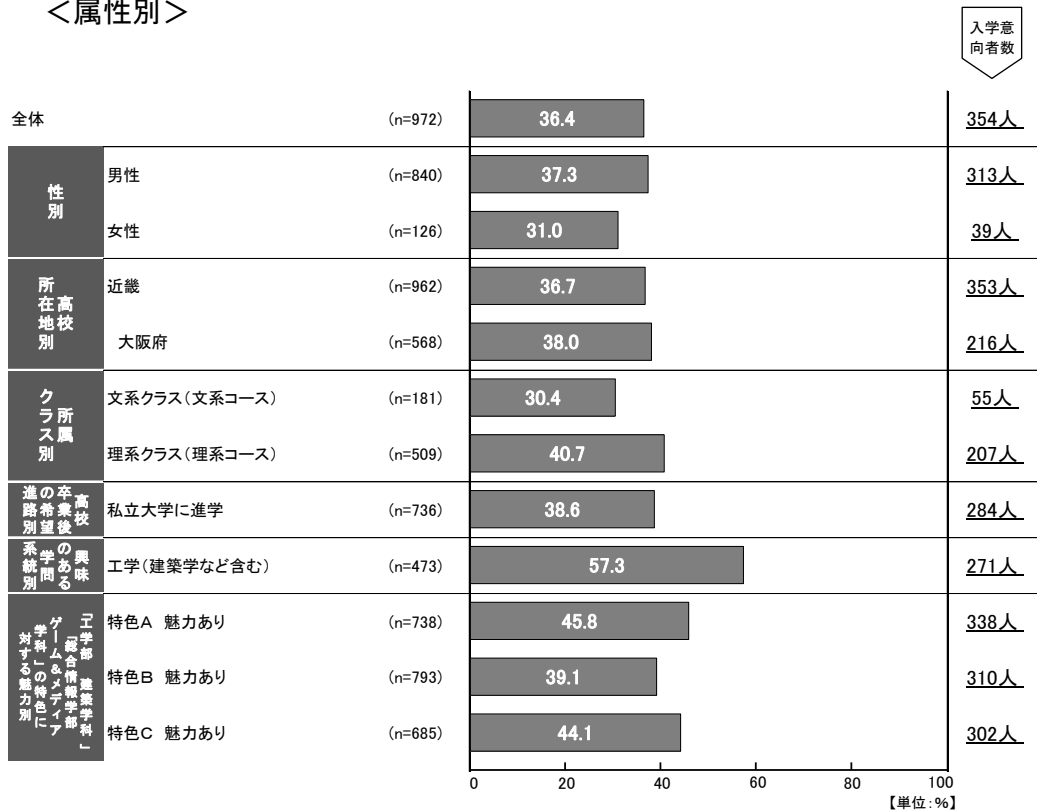
■「工学部 建築学科」への入学意向

Q5. あなたは、大阪電気通信大学を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q4で「受験したいと思う」と答えた972人の回答



<属性別>

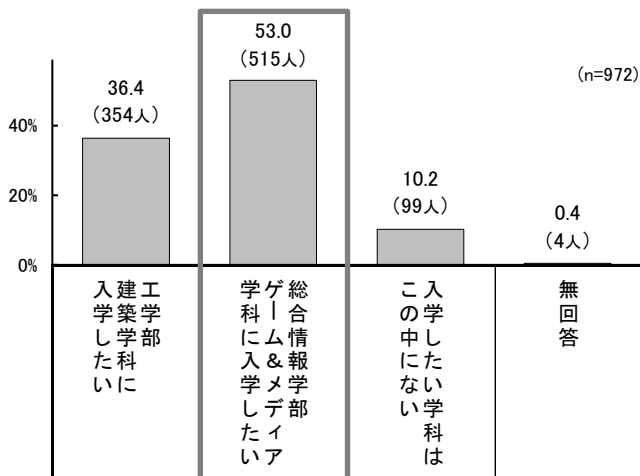


「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への入学意向

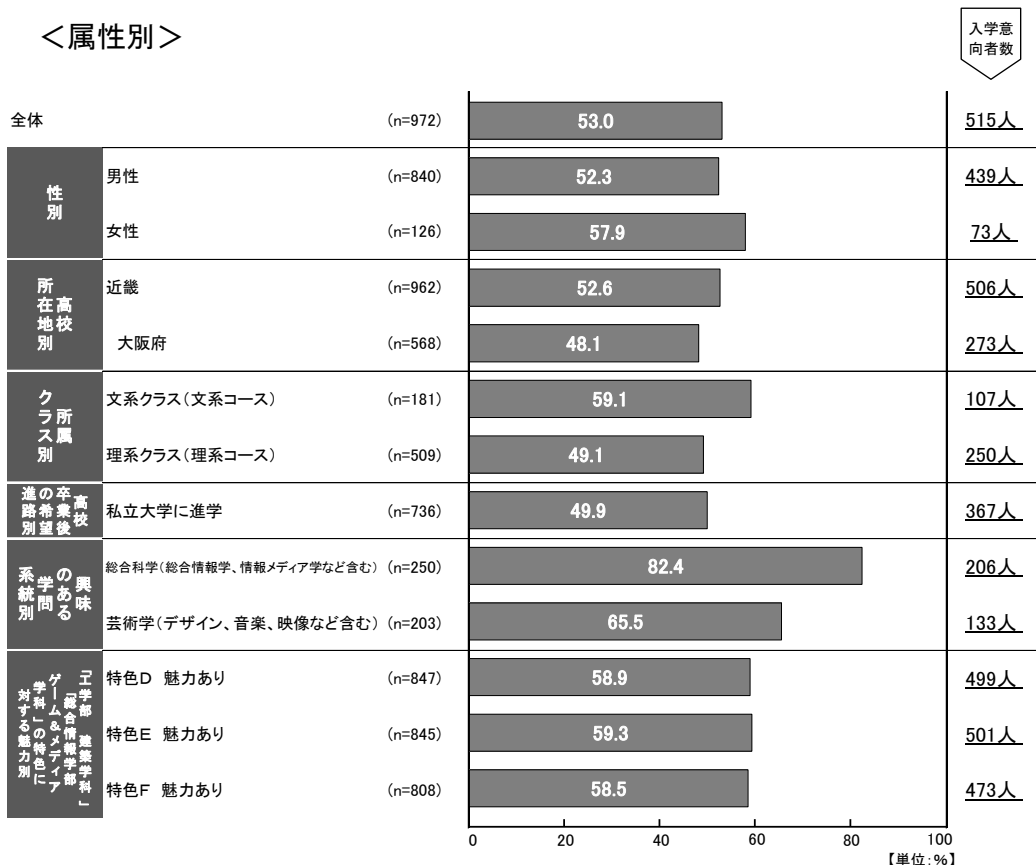
■「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」への入学意向

Q5. あなたは、大阪電気通信大学を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

※Q4で「受験したいと思う」と答えた972人の回答



<属性別>



卷末資料



• 調査票

調査票

大阪電気通信大学 「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」 (いずれも仮称、設置構想中)に関するアンケート

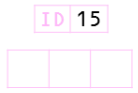
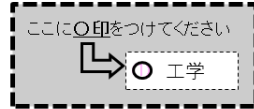
大阪電気通信大学では2018年(平成30年)4月より、「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称)を新設することを構想しています。このアンケートは、高校生のみなさんの進路選択に対する考え方や、大学で学びたいことなどの意見をお伺いし、大阪電気通信大学の教育をより充実したものにするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同配布資料に記載されている「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

記入要領

- 回答は、**あてはまる番号に「○」印**をつけてください。
- この用紙は、電算処理しますので汚さないようにしてください。
- 記入は、必ず**鉛筆又はシャープペンシル**で濃く書いてください。
- 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。
特に、「○」印は、**番号丸枠からはみ出さないよう**につけてください。



良い 記入例	<input type="radio"/> 工学	<input type="radio"/> 総合科学	悪い 記入例	<input type="radio"/> 工学	<input checked="" type="radio"/> 工学	<input type="radio"/> 工学	<input type="radio"/> 工学
	<input type="radio"/> 理学	<input type="radio"/> 芸術学		<input type="radio"/> 工学	<input type="radio"/> 工学	<input type="radio"/> 工学	<input type="radio"/> 工学

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別 (1つに○)	<input type="radio"/> ① 男性	<input type="radio"/> ② 女性	学年 (1つに○)	<input type="radio"/> ① 1年生	<input type="radio"/> ② 2年生	<input type="radio"/> ③ 3年生
在籍している 高校名	高校所在地 [_____] 都・道・府・県					
	<input type="radio"/> ① 国立 <input type="radio"/> ② 公立 <input type="radio"/> ③ 私立 (←1つに○) [_____] 高等学校					
所属クラス (1つに○)	<input type="radio"/> ① 文系クラス (文系コース)		<input type="radio"/> ③ コース選択はない			
	<input type="radio"/> ② 理系クラス (理系コース)		<input type="radio"/> ④ その他 (具体的に: _____)			

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

Q1 あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)

① 国公立大学に進学 ③ 短期大学に進学 ⑤ 就職
 ② 私立大学に進学 ④ 専門学校・専修学校に進学 ⑥ その他(_____)

Q2 あなたは、どのような学問分野に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)

① 工学(建築学など含む) ⑥ 経済・経営・商学 ⑫ 農・水産学
 ② 理学 ⑦ 社会学 ⑬ 生活科学
 ③ 総合科学 ⑧ 文学 (食物・栄養学、被服学、児童学など含む)
 (総合情報学、情報メディア学など含む) (心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む) ⑭ 看護・保健学
 ④ 芸術学 ⑨ 語学(言語学など含む) ⑮ 医・歯・薬学
 (デザイン、音楽、映像など含む) ⑩ 教員養成・教育学 ⑯ その他(_____)
 ⑤ 法学(政治学など含む) ⑪ 国際関係学 ⑰ まだ決めていない

調査票

◆大阪電気通信大学についてお聞きます。

大阪電気通信大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2018年(平成30年)4月に、新しく「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートと一緒に配布している資料を見てからお答えください ※

Q 3 大阪電気通信大学「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

			とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	例. ○○である。	→	①	○	③	④
工学部 建築学科	A. 一級・二級建築士の受験資格に必要な専門知識を幅広く修得。環境、エネルギー、情報の関連分野を学ぶとともに、「人と環境に配慮した建物・まちづくり」を実現する建築家・建築技術者を目指します。	→	①	②	③	④
	B. 設計に必要な設計製図の基礎を学修。更に、本学の得意分野であるコンピュータによる図面作成(CAD)や、CG・BIMのITを駆使した最先端技術を学ぶことができます。	→	①	②	③	④
	C. まちづくりプロジェクトなどのアクティブラーニングに積極的に参加。地域の人々とともにまちづくりを考えることで、社会で役立つ実践力を身に付けることができます。	→	①	②	③	④
ゲーム 総合情報学部 &メディア学科	D. ゲームをベースに、映像(実写およびアニメーション)、音響、イベントなど、様々なチャンネルに対応できる知識と技術力を身に付けることができます。	→	①	②	③	④
	E. アート&デザイン、アニメーション、ゲーム、ライブ、カルチャーの5つの領域から選択履修が可能。個々の興味に応じて専門知識と技能を身に付けることができます。	→	①	②	③	④
	F. 上級情報処理士／情報処理士／ウェブデザイン実務士／CGクリエイター検定／CGエンジニア検定／マルチメディア検定エキスパート／色彩検定などの多様な資格取得が可能。メディア産業界で活躍できる人材を目指します。	→	①	②	③	④

Q 4 あなたは、新しく「工学部 建築学科」と「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」を備えた大阪電気通信大学を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

- ① 受験したいと思う ② 受験したいと思わない

Q 5 あなたは、大阪電気通信大学を受験して合格したら、どの学科に入学したいと思いますか。あなたの気持ちに一番近い番号1つに○をつけてください。(1つだけ)

- ① 工学部 建築学科に入学したい ③ 入学したい学科はこの中いない
② 総合情報学部 ゲーム&メディア学科に入学したい

* * * 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。* * *

大阪電気通信大学
「工学部 建築学科」
「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【企業対象調査】

平成29年3月
株式会社 進研アド

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2018年4月開設予定の大阪電気通信大学「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の新設構想に関して、企業のニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の採用担当者
調査エリア		全国
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	1,200社
	回収数(回収率)	424社(35.3%)
調査時期		2017年1月10日(火)～2017年2月3日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査

- ・人事採用への関与度
- ・本社所在地
- ・勤務先の主な業種
- ・従業員数
- ・正規社員の平均採用人数
- ・本年度の採用予定数
- ・採用したい学問系統
- ・「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の特色に対する魅力度
- ・「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の社会的必要性
- ・「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」卒業生に対する採用意向
- ・「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」卒業生の毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ



企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※本調査は、大阪電気通信大学の新学科である「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」に対する人材需要を確認するための調査として設計したため、大阪電気通信大学の卒業生が就職している、もしくは就職先として想定される企業・団体の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、424社から回答を得た。

- 回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は21.0%、「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が68.4%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。
- 回答企業の本社所在地は、大阪電気通信大学の所在地である「大阪府」が34.7%と、地元エリアの企業に意見を聴取できていると考えられる。次いで「東京都」が29.7%と多い。
- 回答企業の業種としては「建設業」が46.9%と最も多く、次いで「情報通信業」が20.8%と多い。
- 回答企業の従業員数(正規社員)は、「100名～500名未満」が38.9%で最も多い。次いで「50名未満」が17.7%、「1,000名～5,000名未満」が14.2%である。100名以上の比較的規模の大きな企業が約7割を占める。

回答企業の採用状況(過去3か年)

- 回答企業の平均的な正規社員の採用人数は、「1名～5名未満」が29.0%で最も多い。次いで、「10名～20名未満」が19.8%、「5名～10名未満」が16.3%である。毎年、正規社員を採用している企業がほとんどである。
- 回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が58.7%で最も多く、次いで「増やす」が30.4%で多い。昨年以上の採用が予定されている様子。
- 回答企業の採用したい学問系統は、「工学系統」の割合が60.6%で最も高い。次いで「理学系統」が28.1%、「総合科学系統(総合情報学、情報メディア学など含む)」が24.1%である。

企業対象 調査結果まとめ

「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の特色に対する魅力度

- 「工学部 建築学科」の特色に対する魅力度(※)は、全ての項目で7割を超える。
- 「工学部 建築学科」で最も魅力度が高いのは、「B. 設計に必要な設計製図の基礎を学修。更に、本学の得意分野であるコンピュータによる図面作成(CAD)や、CG・BIMのITを駆使した最先端技術を学ぶことができます。」で83.5%である。
- 「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の特色に対する魅力度は、全ての項目で約4～6割を占める。
- 「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」で最も魅力度が高いのは、「F. 上級情報処理士／情報処理士／ウェブデザイン実務士／CGクリエイター検定／CGエンジニア検定／マルチメディア検定エキスパート／色彩検定などの多様な資格取得が可能。メディア産業界で活躍できる人材を目指します。」で66.3%である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

企業対象 調査結果まとめ

「工学部 建築学科」の社会的必要性

- 「工学部 建築学科」の社会的必要性については、97.4%の企業(**413企業**)が「必要だと思う」と答えており、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学科と捉えていることがうかがえる。

「工学部 建築学科」卒業生に対する採用意向／ 毎年の採用想定人数

- 「工学部 建築学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、79.0% (**335企業**)と、予定している入学定員80名を4倍以上上回る採用意向がみられた。
- 「工学部 建築学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた335企業へ「工学部 建築学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数の合計は567名程度であった。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

採用意向 属性別傾向

◇本社所在地別

- 「近畿以西」エリアの企業の採用意向は、81.3% (224企業中、**182企業**)と、予定している入学定員数を上回っている。また、大阪電気通信大学の所在地である「大阪府」の企業に限定した場合でも、採用意向は80.3% (147企業中、**118企業**)と、予定している入学定員数を上回っている。

◇業種別

- 特に「建築業」の企業の採用意向は、90.5% (199企業中、**180企業**)と高い。

企業対象 調査結果まとめ

「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の社会的必要性

- ・「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の社会的必要性については、86.8%の企業(368企業)が「必要だと思う」と答えており、多くの企業がこれからの社会にとって必要な学科と捉えていることがうかがえる。

「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」卒業生に対する採用意向／毎年の採用想定人数

- ・「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、55.9%(237企業)と、予定している入学定員110名を2倍以上上回る採用意向がみられた。
- ・「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた237企業へ「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数の合計は365名程度であった。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

採用意向 属性別傾向

◇本社所在地別

- ・「近畿以西」エリアの企業の採用意向は、54.9%(224企業中、123企業)と、予定している入学定員数を上回っている。また、大阪電気通信大学の所在地である「大阪府」の企業の採用意向は、59.9%(147企業中、88企業)である。

◇業種別

- ・特に「情報通信業」の企業の採用意向は、85.2%(88企業中、75企業)と高い。

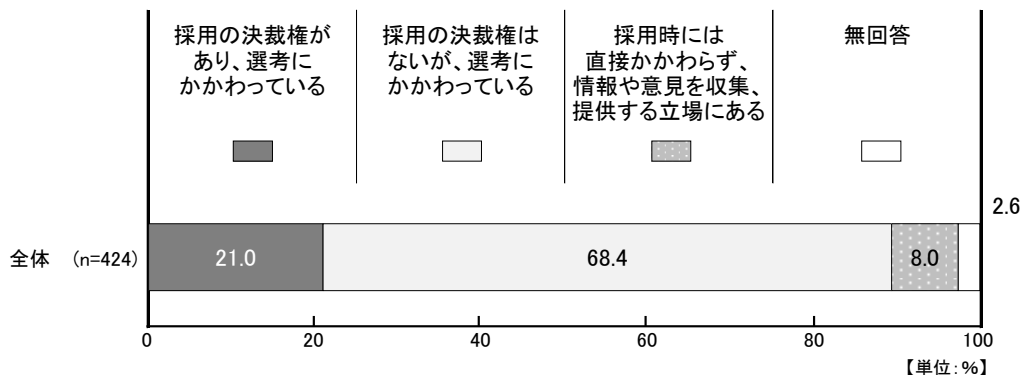
企業対象 調査結果



回答企業(回答者)の属性(人事採用への関与度/本社所在地)

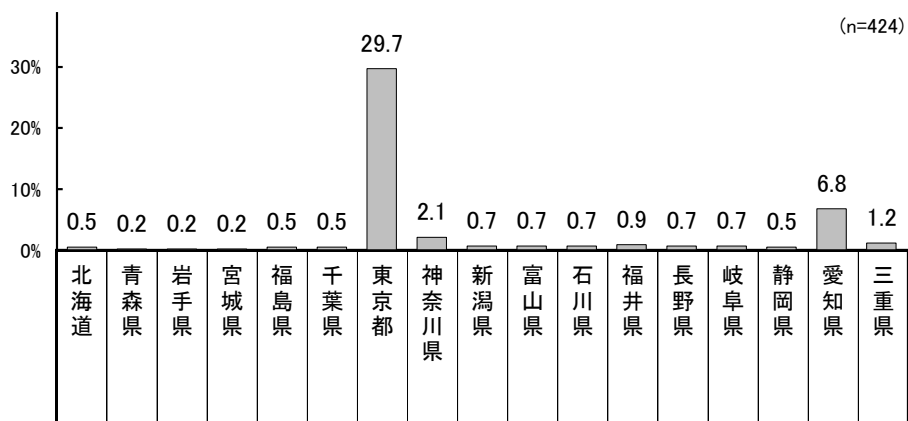
■人事採用への関与度

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)



■本社所在地

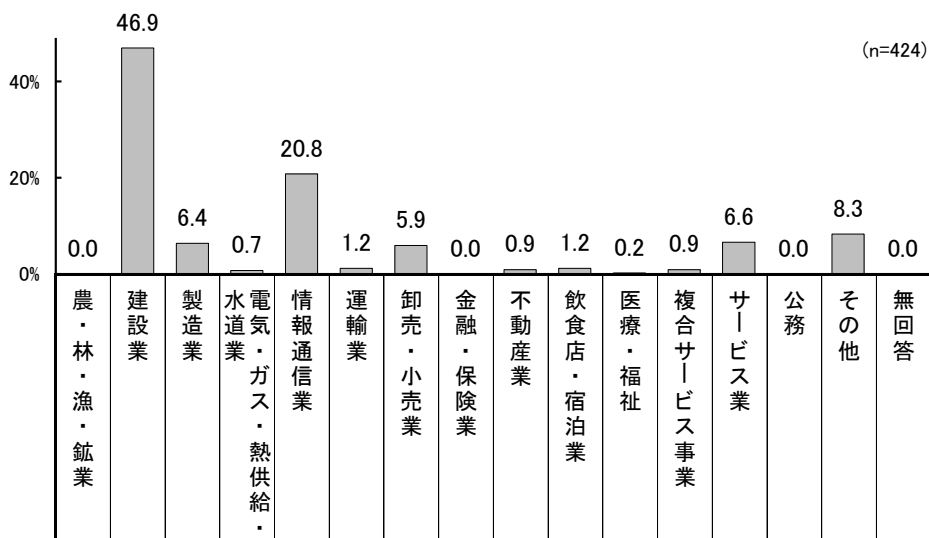
Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。



回答企業(回答者)の属性(勤務先の主な業種/従業員数)

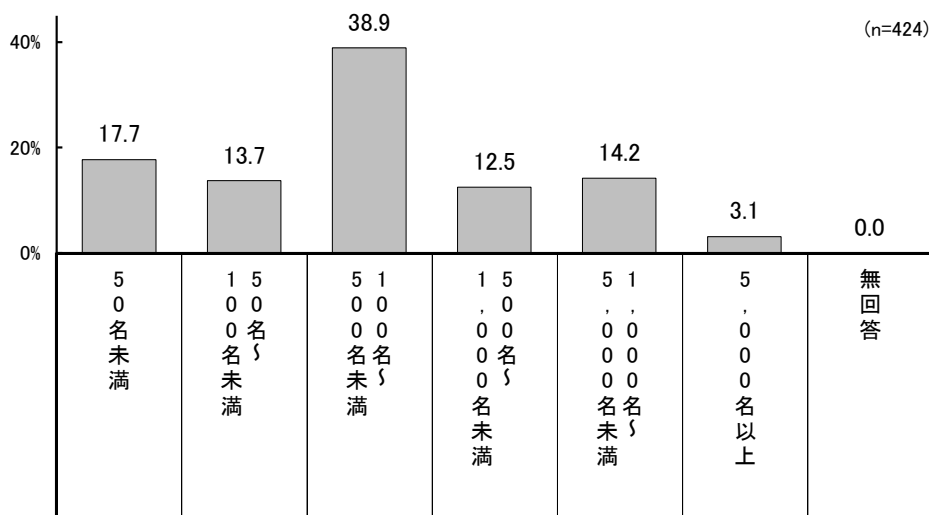
■勤務先の主な業種

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



■従業員数

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

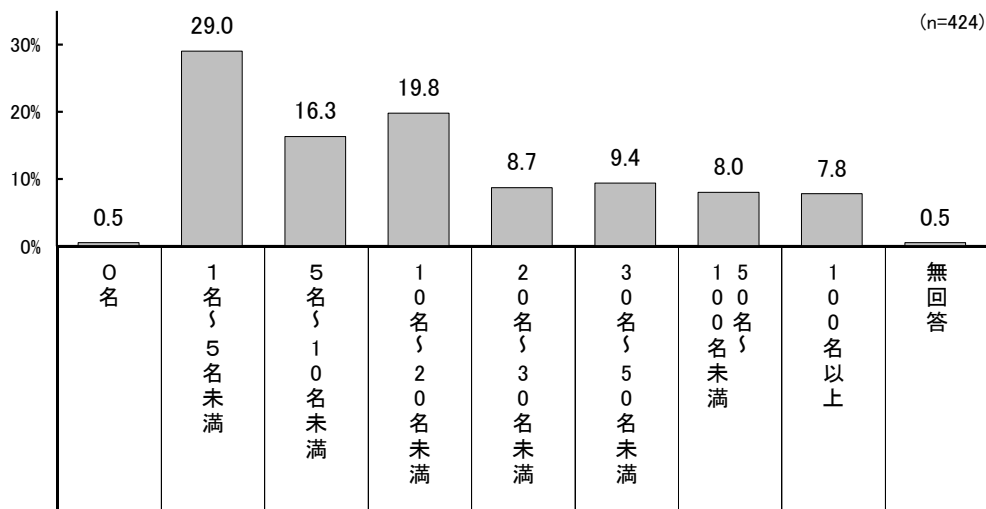


正規社員の平均採用人数／本年度の採用予定数

■正規社員の平均採用人数

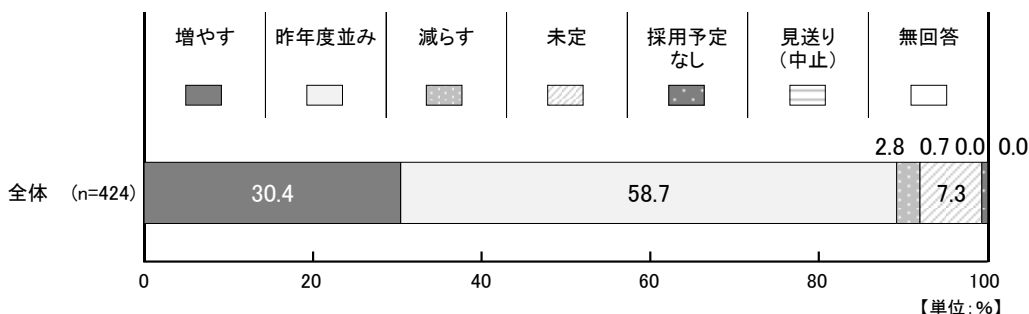
Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

総数	14,023人
平均	33.2人



■本年度の採用予定数

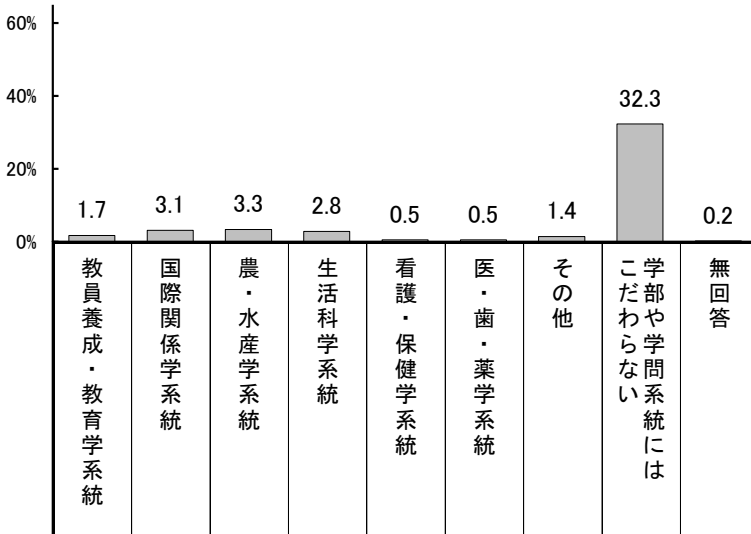
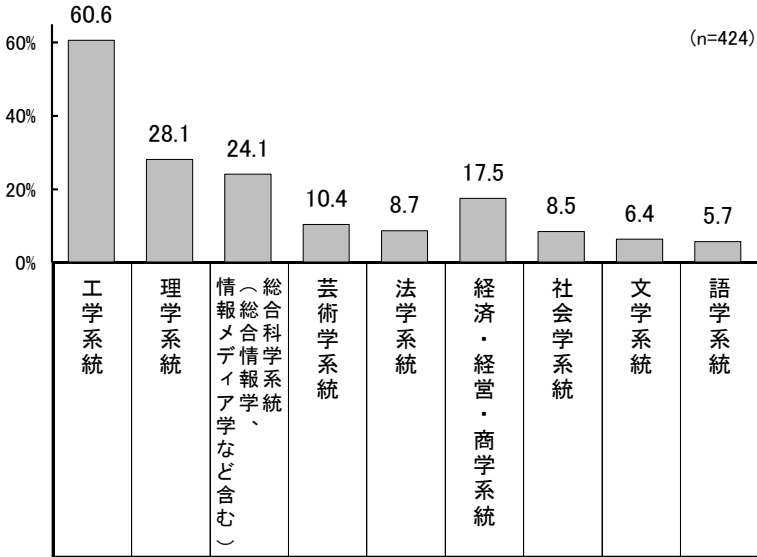
Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)



採用したい学問系統

■採用したい学問系統

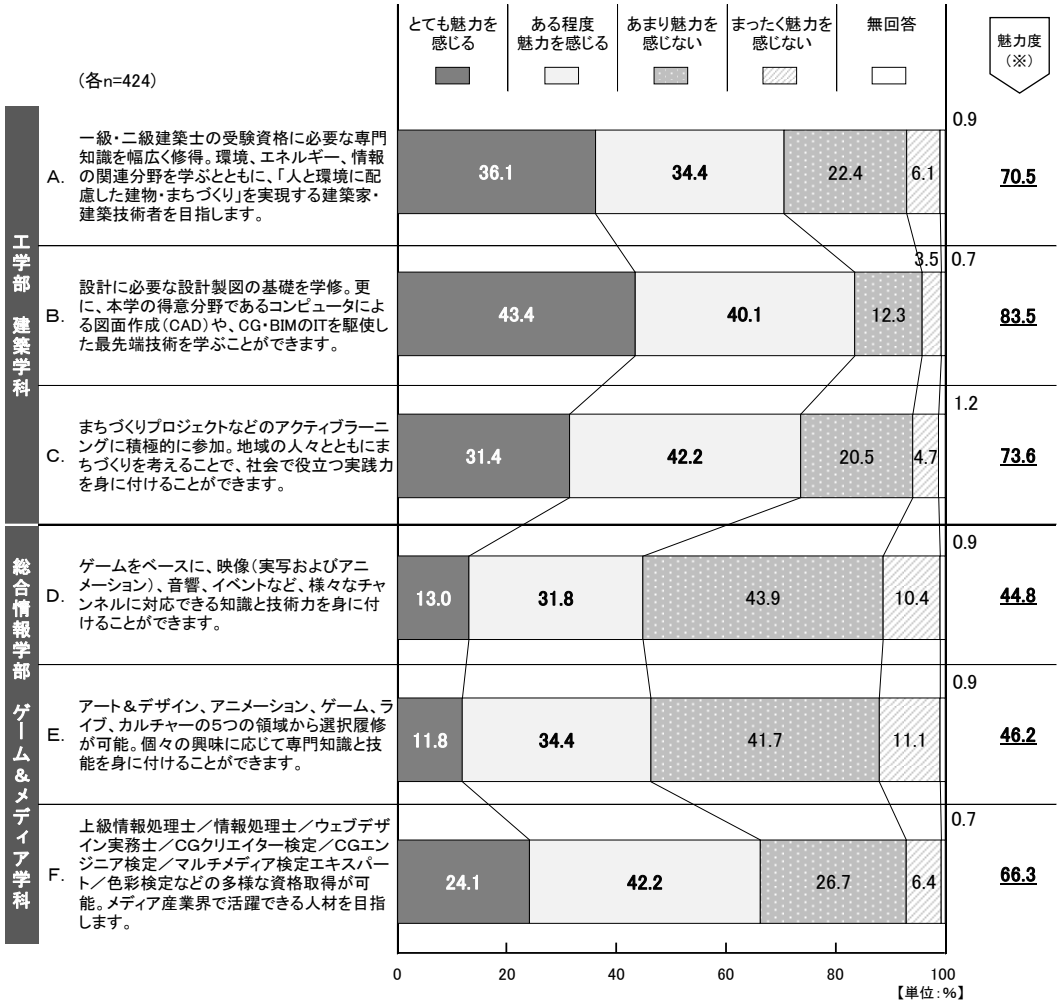
Q7. 貴社・貴団体では、どのような系統の学部を卒業した人物を採用したいとお考えですか。(あてはまる番号すべてに○)



「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」 の特色に対する魅力度

■「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の特色に対する魅力度

Q8. 大阪電気通信大学「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



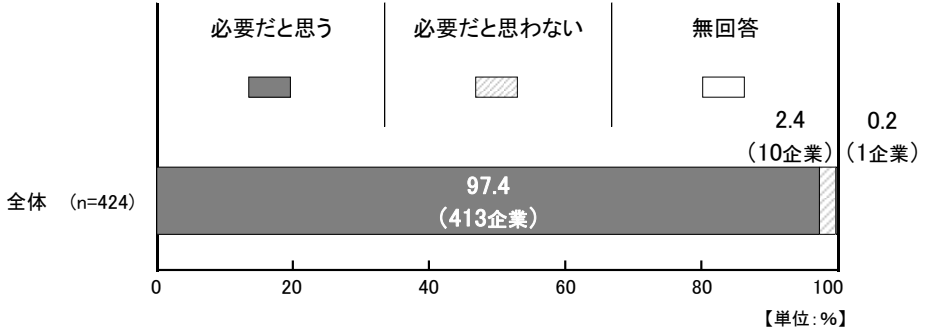
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

「工学部 建築学科」の社会的必要性

■「工学部 建築学科」の社会的必要性

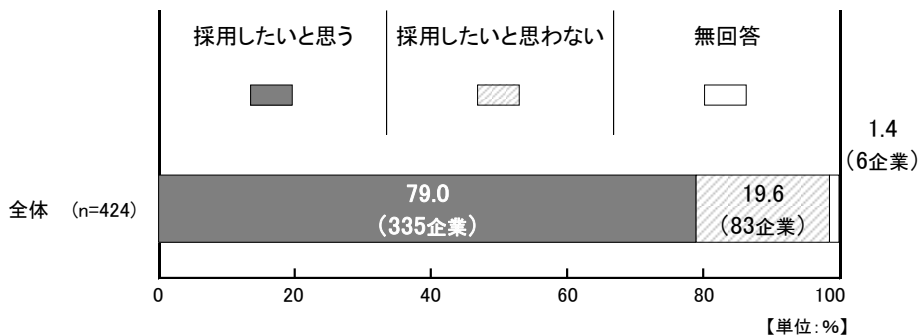
Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、大阪電気通信大学の「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思いますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「工学部 建築学科」卒業生に対する採用意向／ 「工学部 建築学科」卒業生の毎年の採用想定人数

■「工学部 建築学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、大阪電気通信大学「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた335企業のみ抽出

■「工学部 建築学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	人数は未確定	
		%	22.1%	20.3%	6.0%	2.1%	3.0%		2.1%
全体	335	企業数	74	68	20	7	10	7	149
		名	74	136	60	28	50	70	149

計 (※お示し) 毎年の採用想定人数を
よびた企業数・計
採用想定人数・
人数を
335
567

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名 を代入し合計値を算出

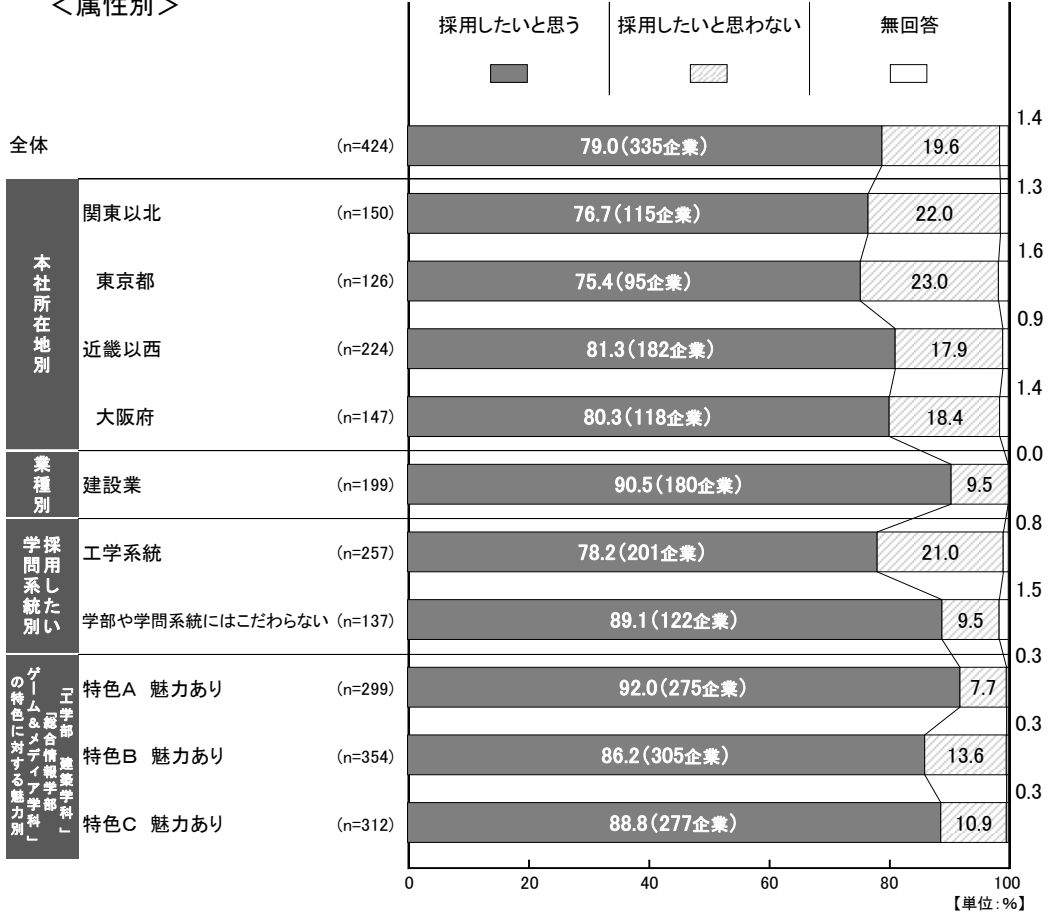
「工学部 建築学科」卒業生に対する採用意向

<属性別>

■「工学部 建築学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、大阪電気通信大学「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

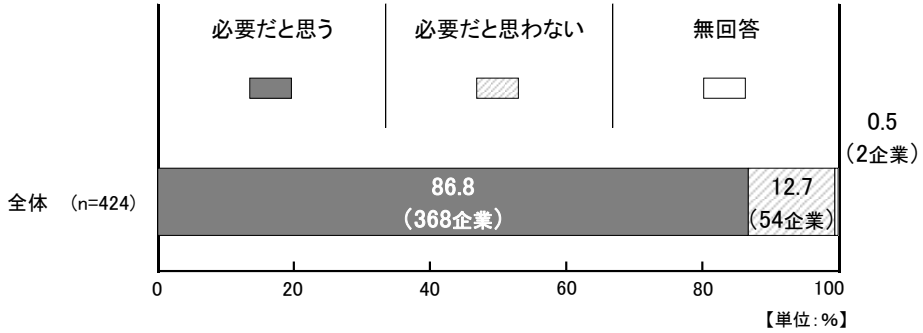
<属性別>



「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の社会的必要性

■「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」の社会的必要性

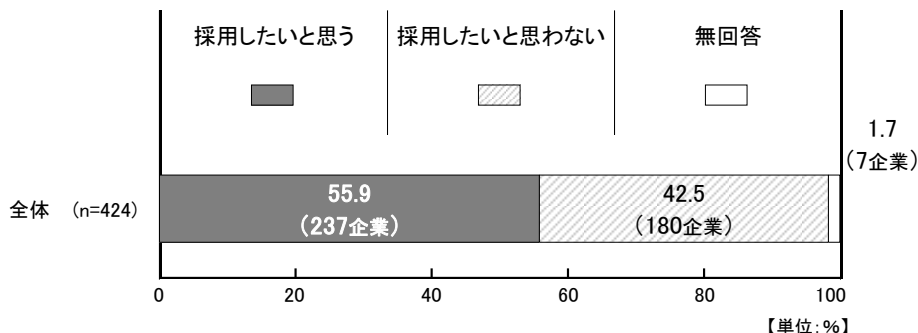
Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、大阪電気通信大学の「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称、設置構想中)は、これからの社会にとって必要だと思われませんか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」卒業生に対する採用意向／
 「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」卒業生の毎年の採用想定人数

■「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、大阪電気通信大学「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



「採用したいと思う」と答えた237企業のみ抽出

■「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q11. Q10でいずれかの学科の卒業生を「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします。「1. 採用したいと思う」と回答された学科を卒業した学生について、採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのあなたご自身のお考えに一番近いものをご回答ください。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

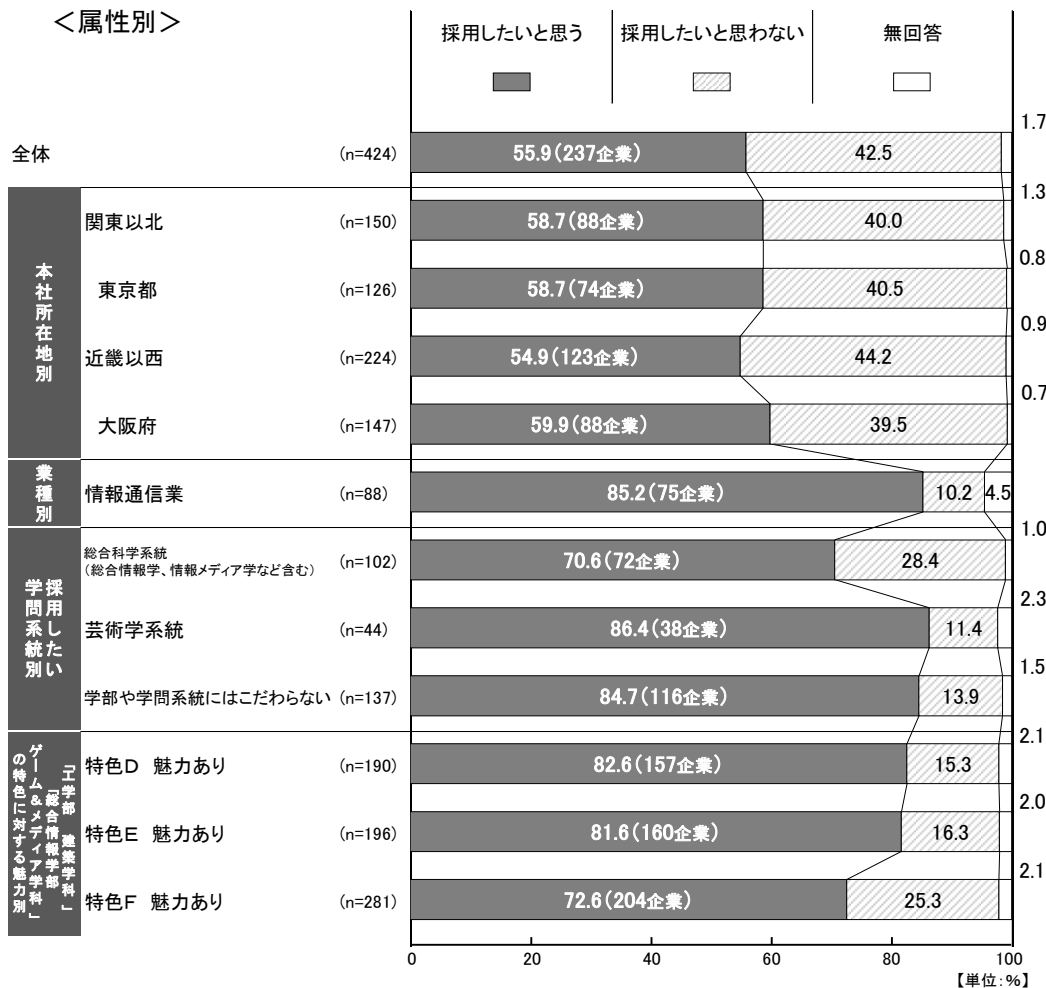
標本数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	人数は未確定	計 (※ お示 された 毎 年の 採用 想定 人数 を 計 算 す る に 使 用 す る 値 を 示 す 。)	
全体	237	%	22.8%	10.5%	5.9%	0.8%	2.5%	2.1%		55.3%
		企業数	54	25	14	2	6	5		131
		名	54	50	42	8	30	50	131	
									⇒	237
										365

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名 を代入し合計値を算出

「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」卒業生に対する採用意向 ＜属性別＞

■「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」卒業生に対する採用意向

Q10. 貴社・貴団体(ご回答者)では、大阪電気通信大学「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われませんか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



卷末資料



• 調査票

『大阪電気通信大学』に関するアンケート

大阪電気通信大学では、2018年(平成30年)4月に、「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称)を新設することを構想しています。このアンケートは採用ご担当者の皆様からご意見をお伺いし、より充実した大学や学部・学科にするための参考資料とさせていただきます。

このアンケートで得られた情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用し、個人を特定することは一切ありません。

つきましては、ぜひアンケートへのご協力をお願いいたします。

※ このアンケートや同封した資料に記載されている「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称、設置構想中)に関する事項はすべて予定であり内容が変更になる可能性があります。

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートにお答えいただいている方の、人事採用への関与度をお教えてください。

(あてはまる番号1つに○)

1. 採用の決裁権があり、選考にかかわっている
2. 採用の決裁権はないが、選考にかかわっている
3. 採用時には直接かかわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q3. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|-------------|--------------|
| 1. 農・林・漁・鉱業 | 6. 運輸業 | 11. 医療・福祉 |
| 2. 建設業 | 7. 卸売・小売業 | 12. 複合サービス事業 |
| 3. 製造業 | 8. 金融・保険業 | 13. サービス業 |
| 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 9. 不動産業 | 14. 公務 |
| 5. 情報通信業 | 10. 飲食店・宿泊業 | 15. その他 |

()

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|---------------|------------------|--------------------|
| 1. 50名未満 | 3. 100名～500名未満 | 5. 1,000名～5,000名未満 |
| 2. 50名～100名未満 | 4. 500名～1,000名未満 | 6. 5,000名以上 |

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の平均的な正規社員の採用数について、お教えてください。

過去3か年 平均

名程度

Q6. 貴社・貴団体の本年度の採用予定数は、昨年度と比較していかがですか。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|----------|--------|------------|
| 1. 増やす | 3. 減らす | 5. 採用予定なし |
| 2. 昨年度並み | 4. 未定 | 6. 見送り(中止) |

調査票

Q7. 貴社・貴団体では、どのような系統の学部を卒業した人物を採用したいとお考えですか。

(あてはまる番号すべてに○)

- | | | |
|--------------------------------------|----------------|---------------------|
| 1. 工学系統 | 6. 経済・経営・商学系統 | 12. 農・水産学系統 |
| 2. 理学系統 | 7. 社会学系統 | 13. 生活科学系統 |
| 3. 総合科学系統
(総合情報学、情報メディア学
など含む) | 8. 文学系統 | 14. 看護・保健学系統 |
| 4. 芸術学系統 | 9. 語学系統 | 15. 医・歯・薬学系統 |
| 5. 法学系統 | 10. 教員養成・教育学系統 | 16. その他() |
| | 11. 国際関係学系統 | 17. 学部や学問系統にはこだわらない |

大阪電気通信大学では、2018年(平成30年)4月に、新しく「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称)を設置することを構想しています。

※ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください※

Q8. 大阪電気通信大学「工学部 建築学科」「総合情報学部 ゲーム&メディア学科」(いずれも仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。

貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。

(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	例. ○○である。	→ 1	→ ②	→ 3	→ 4
工学部 建築学科	A. 一級・二級建築士の受験資格に必要な専門知識を幅広く修得。環境、エネルギー、情報の関連分野を学ぶとともに、「人と環境に配慮した建物・まちづくり」を実現する建築家・建築技術者を目指します。	→ 1	→ 2	→ 3	→ 4
	B. 設計に必要な設計製図の基礎を学修。更に、本学の得意分野であるコンピュータによる図面作成(CAD)や、CG・BIMのITを駆使した最先端技術を学ぶことができます。	→ 1	→ 2	→ 3	→ 4
	C. まちづくりプロジェクトなどのアクティブラーニングに積極的に参加。地域の人々とともにまちづくりを考えることで、社会で役立つ実践力を身に付けることができます。	→ 1	→ 2	→ 3	→ 4
ゲーム総合情報メディア学科	D. ゲームをベースに、映像(実写およびアニメーション)、音響、イベントなど、様々なチャンネルに対応できる知識と技術力を身に付けることができます。	→ 1	→ 2	→ 3	→ 4
	E. アート&デザイン、アニメーション、ゲーム、ライブ、カルチャーの5つの領域から選択履修が可能。個々の興味に応じて専門知識と技能を身に付けることができます。	→ 1	→ 2	→ 3	→ 4
	F. 上級情報処理士/情報処理士/ウェブデザイン実務士/CGクリエイター検定/CGエンジニア検定/マルチメディア検定エキスパート/色彩検定などの多様な資格取得が可能。メディア産業界で活躍できる人材を目指します。	→ 1	→ 2	→ 3	→ 4

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	オオイシ トシミツ 大石 利光 <平成28年4月>		高等学校卒		大阪電気通信大学 学長 (平成28.4~32.3)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等												
(工学部建築学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	当 年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
1	専	教授 (主任)	ササキ アツシ 佐々木 厚司 <平成30年4月>		工学 修士		建築学入門※ キャリア設計 インターンシップ 建築設計基礎実習 建築設計実習1 建築設計実習2 建築設計実習3※ 建築設計実習4※ 建築計画1 建築計画2※ 住環境計画※ 都市・街並み計画 建築設計実務実習 特別ゼミナール1 特別ゼミナール2 建築プレゼミナール1 建築プレゼミナール2 プレゼミナール 卒業設計 卒業研究	1前 3前 3後 1後 2前 2後 3前 3後 2前 2後 3後 3前 4前 2前 2後 2後 3前 3後 4通 4通	0.4 2 2 2 4 4 2 2 2 1.1 1.1 2 2 2 2 2 2 2 8 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	京都工芸繊維大学大学 院工学科学研究科 講師 (昭和57年4月)	5日
2	専	教授	イイジマ ケンイチ 飯島 憲一 <平成30年4月>		博士 (工学)		建築学入門※ 建築設計基礎実習 建築設計実習4※ 建築経済※ BIM実習 建築技術者倫理※ 2次元CAD実習 3次元CAD/DTP実習 コンピュータシミュレーション実習 建築プレゼミナール1 建築プレゼミナール2 プレゼミナール 卒業設計 卒業研究	1前 1後 3後 3後 3後 3前 2前 2後 3前 3後 3後 4通 4通	0.4 2 2 0.7 1 0.7 1 1 1 2 2 2 8 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	(株)安井建築設計事務所 設計本部 ICT/BIM デザインセンター長、 (株)安井ファシリティー ズ 建築データマネジメ ント本部副本部長 (平成28年4月)	5日
3	専	教授	タカハタ アキノブ 高畑 顕信 <平成30年4月>		工学 学士		建築学入門※ 建築設計基礎実習 建築設計実習4※ 建築構造1※ 建築構造2 建築材料※ 建築材料・構造実験 建築生産1 建築経済※ 建築技術者倫理※ 建築プレゼミナール1 建築プレゼミナール2 プレゼミナール 卒業設計 卒業研究	1前 1後 3後 2後 3前 2後 3前 3後 3後 3前 2後 3前 3後 3後 4通 4通	0.4 2 2 0.8 2 0.9 2 2 0.7 0.7 2 2 2 8 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	株式会社竹中工務店本 社 (大阪) 特任参与 (平成29年4月)	5日
4	専	教授	ツジ マサアキ 辻 聖晃 <平成30年4月>		博士 (工学)		建築学入門※ 建築設計基礎実習 建築設計実習4※ 建築構造力学1 建築構造力学4 建築構造1※ 建築構造3※ 建築材料・構造実験 建築プレゼミナール1 建築プレゼミナール2 プレゼミナール 卒業設計 卒業研究	1前 1後 3後 1前 2後 2後 3後 3前 2後 3前 3後 4通 4通	0.3 2 2 2 2 0.7 1.2 2 2 2 2 8 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	京都大学大学院工学研 究科建築学専攻 准教授 (平成16年10月)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(工学部建築学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
5	専	教授	ヤガサキ ゼンタロウ 矢ヶ崎 善太郎 <平成31年4月>		博士 (学術)		建築設計実習1 建築設計実習2 建築設計実習3※ 建築設計実習4※ 建築史・都市史1 建築史実習 建築プレゼミナール1 建築プレゼミナール2 プレゼミナール 卒業設計 卒業研究	2前 2後 3前 3後 3前 4前 2後 3前 3後 4通 4通	4 4 2 2 2 2 2 2 2 8 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	京都工芸繊維大学 大学院工学研究科 准教授 (平成11年4月)	5日
6	専	准教授	キタオ サトコ 北尾 聡子 <平成30年4月>		博士 (工学)		建築学入門※ 建築設計基礎実習 建築設計実習4※ 建築構造力学2 建築構造力学3 建築構造1※ 建築構造3※ 建築材料・構造実験 建築プレゼミナール1 建築プレゼミナール2 プレゼミナール 卒業設計 卒業研究	1前 1後 3後 1後 2前 2後 3後 3前 2後 3前 3後 4通 4通	0.3 2 2 2 2 0.5 0.8 2 2 2 8 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	京都工芸繊維大学 大学院工学研究科 助教 (平成7年5月)	5日
7	専	准教授	キタザワ マサオ 北澤 誠男 <平成31年4月>		学士 (工学)		建築設計実習1 建築設計実習2 建築設計実習3※ 建築設計実習4※ 建築計画2※ 住環境計画※ インテリア計画 建築材料※ 建築経済※ 建築法規 建築技術者倫理※ 建築プレゼミナール1 建築プレゼミナール2 プレゼミナール 卒業設計 卒業研究	2前 2後 3前 3後 2後 3後 2後 2後 3後 3前 2後 3前 3後 4通 4通	4 4 2 2 0.9 0.9 2 1.1 0.7 2 2 2 2 8 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	株式会社日建設 エンジニアリング部門 主任 (平成27年4月)	5日
8	専	准教授	ソエダ ハルオ 添田 晴生 <平成30年4月>		博士 (工学)		キャリア入門 建築学入門※ 基礎電気回路 建築設計基礎実習 建築設計実習4※ 建築環境工学1 建築環境工学2 建築環境工学演習 建築設備1 2次元CAD実習 3次元CAD/DTP実習 コンピューショナルデザイン実習 建築プレゼミナール1 建築プレゼミナール2 プレゼミナール 卒業設計 卒業研究	1前 1前 1前 1後 3後 1後 2前 3後 2後 2前 2後 3前 3後 4通 4通	2 0.3 2 2 2 2 2 4 2 1 1 1 2 2 2 8 8	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学工学 部機械工学科 准教授 (平成15年4月)	5日
9	兼任	教授	ウエガキ キミアキ 上垣 公明 <平成30年4月>		博士 (文学)		基礎英語1 英語リーディング2 英語スキルアップセミナー1 英語スキルアップセミナー2 英文法セミナー	1前 1後 2前 2後 1前	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	大阪電気通信大学工学 部英語教育センター 教授 (平成19年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(工学部建築学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週あたり平均 日数
10	兼担	教授	カシワバラ イクコ 柏原 郁子 <平成30年4月>		修士 (文学)		英語リーディング1 英語リーディング2 英語リーディング4 英語スキルアップセミナー1 英語スキルアップセミナー2	1前 1後 2後 2前 2後	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	大阪電気通信大学工学部英語教育センター教授 (平成10年4月)	
11	兼担	教授	カナダ(フクシマ)ヒヲシ 金田(福島) 啓稔 <平成30年9月>		修士 (教育学)		現代社会を考える2※	1後	0.4	1	大阪電気通信大学工学部人間科学教育センター教授 (平成14年4月)	
12	兼担	教授	カワグチ マサユキ 川口 雅之 <平成31年9月>		工学 博士		地域連携プロジェクト入門	2後	2	1	大阪電気通信大学工学部環境科学科教授 (平成6年4月)	
13	兼担	教授	サノ マサヒコ 佐野 正彦 <平成30年4月>		教育学 修士		教育制度論 現代社会を考える1※ キャリア概論	2前 1前 2前	2 0.4 2	1 1 1	大阪電気通信大学工学部人間科学研究センター教授 (平成24年4月)	
14	兼担	教授	スギムラ ヒロコ 杉村 寛子 <平成30年4月>		修士 (文学)		基礎英語1 英語スキルアップセミナー1 英語スキルアップセミナー2	1前 2前 2後	1 1 1	1 1 1	大阪電気通信大学工学部英語教育センター教授 (平成27年4月)	
15	兼担	教授	ナカサトミ(ウノ) ヒロシ 中里見(宇野) 博 <平成30年4月>		修士 (法学) ※		現代社会を考える1※ 日本語上達法2□ 日本国憲法の理念と現実□ 社会生活と法 総合ゼミナール	1前 2前 2後 2前 2前	0.4 2 2 2 2	1 1 1 1 1	大阪電気通信大学工学部人間科学研究センター教授 (平成28年4月)	
16	兼担	教授	ナカタ アキノリ 中田 亮生 <平成31年9月>		博士 (工学)		地域連携ボランティア入門	2後	2	1	大阪電気通信大学工学部環境科学科教授 (平成10年4月)	
17	兼担	教授	ハラダ トオル 原田 融 <平成30年4月>		理学 博士		力学1・演習	1前	4	1	大阪電気通信大学工学部数理科学研究センター教授 (平成12年4月)	
18	兼担	教授	ヒラスマ ヒロマサ 平沼 博将 <平成30年4月>		修士 (教育学)		現代社会と青年の心理 人間形成と教育 現代社会を考える1※ 日本語上達法1	1後 1後 1前 1前	2 2 0.4 2	1 1 1 1	大阪電気通信大学工学部人間科学研究センター教授 (平成19年4月)	
19	兼担	教授	ヤスエ ツネオ 安江 常夫 <平成30年9月>		工学 博士		基礎物理学	1後	2	1	大阪電気通信大学工学部基礎理工学科教授 (平成2年4月)	
20	兼担	教授	ヤナギタ タツオ 柳田 達雄 <平成30年4月>		博士 (学術)		基礎解析・演習 基礎微積分1・演習 線形代数1 線形代数2	1前 1前・後 1前 1後	4 4 2 2	1 1 1 1	大阪電気通信大学工学部基礎理工学科教授 (平成23年4月)	
21	兼担	教授	ヤマモト タケヒロ 山本 剛宏 <平成30年4月>		博士 (工学)		力学1・演習 力学2	1前 1後	4 2	1 1	大阪電気通信大学工学部機械工学科教授 (平成28年4月)	
22	兼担	准教授	オウ ショウホウ 王 少鋒 <平成30年4月>		博士 (社会学)		国際コミュニケーション 現代社会を考える2※ 異文化の理解 中国語1 中国語2 中国語3	2前 1後 1後 1前 1前 1後	2 0.4 2 1 1 1	1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学工学部人間科学研究センター准教授 (平成12年4月)	
23	兼担	准教授	サカモト(フクオカ) トモヒロ 坂本(福岡) 知宏 <平成30年4月>		文学 修士 ※		哲学の世界 道徳と教育 現代社会を考える1※ 現代社会を考える2※	1前 2後 1前 1後	2 2 0.4 0.4	1 1 1 1	大阪電気通信大学工学部人間科学研究センター准教授 (平成18年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
（工学部建築学科）												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従 事 する 週 当 たり 平 均 日 数
24	兼任	准教授	ナカムラ トシヒロ 中村 敏浩 <平成30年4月>		博士 (理学)		物理学・実験	1前	3	1	大阪電気通信大学工学 部基礎理工学科 准教授 (平成25年4月)	
25	兼任	准教授	オバナ(ヒガシ) ユキ 尾花(東) 由紀 <平成31年4月>		博士 (理学)		環境の科学	2前	2	1	大阪電気通信大学工学 部基礎理工学科 准教授 (平成22年4月)	
26	兼任	講師	オオムラ モトマサ 大村 基将 <平成30年4月>		修士 (教育学)		情報活利用リテラシー 情報社会と情報倫理 コンピュータリテラシー1 プログラミング基礎演習	1前 2後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	大阪電気通信大学 情報特任講師 (平成27年4月)	
27	兼任	講師	キシ カオリ 木子 香 <平成31年9月>		文学 学士		グローバル研修	2後	2	1	大阪電気通信大学総合 情報学部デジタルゲー ム学科 講師 (平成21年11月)	
28	兼任	講師	シマブク(カワチ)マイコ 島袋(河内) 舞子 <平成30年9月>		修士 (工学)		コンピュータリテラシー2	1後	2	1	大阪電気通信大学 情報特任講師 (平成28年4月)	
29	兼任	講師	ナカムラ ケンシ 中村 賢志 <平成30年4月>		理学 博士		物理学・実験	1前	3	1	大阪電気通信大学 実験特任講師 (平成28年4月)	
30	兼任	講師	マツダ マサタカ 松田 正貴 <平成30年4月>		博士 (文学)		現代社会を考える2※ 英語リーディング1 英語リーディング2 英語リーディング3 英語リーディング4 英語コミュニケーション2	1後 1前 1後 2前 2後 2後	0.4 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学工学 部英語教育センター 講師 (平成20年4月)	
31	兼任	講師	ムラキ ユウヤ 村木 有也 <平成30年4月>		修士 (体育学) ※		現代社会を考える1※ 現代社会を考える2※ スポーツ実習1 スポーツ実習2 スポーツ実習3 スポーツ実習4	1前 1後 1前 1後 3後 4前	0.4 0.4 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1	大阪電気通信大学工学 部人間科学研究セン ター 講師 (平成22年4月)	
32	兼任	講師	モンデン ナオユキ 門田 直之 <平成31年4月>		博士 (理学)		基礎微積分2・演習	1後 2前	4	1	大阪電気通信大学工学 部数理学研究セン ター 講師 (平成26年4月)	
33	兼任	講師	イシイ マサコ 石井 容子 <平成30年4月>		博士 (文学)		英語リーディング1 英語リーディング2 英語コミュニケーション3	1前 1後 3前	1 1 1	1 1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成26年4月)	
34	兼任	講師	イトウ ヒトシ 伊藤 仁志 <平成32年4月>		工学 修士		建築設計実習3※	3前	2	1	株式会社日本設計 執行役員関西支社長 (平成28年4月)	
35	兼任	講師	イナガキ ヒデカズ 稲垣 秀和 <平成32年9月>		工学 修士		建築生産2	3後	2	1	三井ホーム株式会社生 産技術本部生産工事部 生産工事推進グルー プ長 (平成29年4月)	
36	兼任	講師	イノウエ エイソウ 井上 栄壮 <平成31年9月>		博士 (農学)		生命の科学	2後	2	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成27年4月)	
37	兼任	講師	オオタニ ムネヒロ 大谷 宗啓 <平成30年4月>		修士 (教育学)		発達心理学	1前	2	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成22年9月)	
38	兼任	講師	オオマエ タク 大前 拓 <平成30年4月>		修士 (体育学)		スポーツ実習1 スポーツ実習2 スポーツ実習3 スポーツ実習4	1前 1後 3後 4前	1 1 1 1	1 1 1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成28年4月)	
39	兼任	講師	オカイ タカユキ 岡井 孝行 <平成30年4月>		理学 博士		基礎微積分1・演習 基礎微積分2・演習	1前・後 1後・2前	4 4	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成7年4月)	
40	兼任	講師	オカモト シゲル 岡本 茂 <平成32年4月>		博士 (工学)		建築設備2	3前	2	1	株式会社東畑建築事務 所環境計画室 フェロー (平成26年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(工学部建築学科)												
調査 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日数
41	兼任	講師	カクダ アキラ 角田 暁治 <平成32年9月>		博士 (工学)		環境デザイン論	3後	2	1	京都工芸繊維大学大学院 院工学科学研究科 准教授 (平成16年4月)	
42	兼任	講師	カサハラ カズト 笠原 一人 <平成32年9月>		博士 (学術)		建築史・都市史3	3後	2	1	京都工芸繊維大学大学院 院工学科学研究科 助教 (平成10年4月)	
43	兼任	講師	カシモト ヨシカズ 樫本 喜一 <平成30年4月>		博士(人 間科学)		歴史学の世界 日本の近代史を探究する	1前 2後	2 2	1 1	大阪府立大学 客員研究員 (平成21年4月)	
44	兼任	講師	カトウ トモヤ 加藤 智也 <平成30年4月>		博士 (文学)		ドイツ語1 ドイツ語2	1前 1後	1 1	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成14年5月)	
45	兼任	講師	キタガワ ヒサシ 北川 尚 <平成30年4月>		文学 修士 ※		ドイツ語1 ドイツ語2	1前 1後	1 1	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成7年4月)	
46	兼任	講師	キムラ ユウジ 木村 祐治 <平成30年9月>		修士 (法学) ※		政治のしくみを探究する	1後	2	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成26年9月)	
47	兼任	講師	クワバラ ケイジ 桑原 啓二 <平成30年4月>		修士(比 較文学) ※		基礎英語1 基礎英語2	1前 1後	1 1	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成26年4月)	
48	兼任	講師	シュンドウ ヒロシ 春藤 寛 <平成30年4月>		文学 修士 ※		フランス語1 フランス語2	1前 1後	1 1	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成13年5月)	
49	兼任	講師	シン コウゲツ 申 幸月 <平成31年9月>		文学 修士 ※		英語コミュニケーション2	2後	1	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成29年4月)	
50	兼任	講師	セキオカ ユキ 関岡 有季 <平成30年4月>		修士(ス ポーツ科 学)※		スポーツ実習1 スポーツ実習2 スポーツ実習3 スポーツ実習4	1前 1後 3後 4前	1 1 1 1	1 1 1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成27年4月)	
51	兼任	講師	タマイ マリコ 玉井 眞理子 <平成30年9月>		博士(人 間科学)		家族のくらしと社会 キャリアデザイン演習	1後 2後	2 2	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成14年4月)	
52	兼任	講師	ツジ ショウコ 辻 晶子 <平成30年4月>		修士 (文学)		日本語上達法1	1前	2	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成27年4月)	
53	兼任	講師	トガワ ナオコ 外川 直子 <平成30年4月>		博士 (理学)		力学1・演習 基礎物理学	1前 1後	4 2	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成17年9月)	
54	兼任	講師	トミダ ナルミ 富田 成美 <平成30年9月>		修士 (文学) ※		文学の世界	1後	2	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成15年9月)	
55	兼任	講師	ナカウチ ケイタ 中内 啓太 <平成30年4月>		修士 (文学) ※		基礎英語2 英語リーディング1 英語リーディング3	1後 1前 2前	1 1 1	1 1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成24年4月)	
56	兼任	講師	ニシダ マサツグ 西田 正嗣 <平成32年4月>		博士 (工学)		建築史・都市史2	3前	2	1	京都工芸繊維大学大学院 院工学科学研究科 教授 (昭和62年2月)	
57	兼任	講師	ニシノ ショウイチ 西埜 彰一 <平成31年4月>		学士 (工学)		建築設計実習1	2前	4	1	西埜彰一建築環境研 究所 代表 (平成14年2月)	
58	兼任	講師	ニシモト ミカ 西本 美香 <平成30年4月>		博士 (理学)		微分積分1・演習 微分積分2・演習	1前 1後	4 4	1 1	関西医科大学数学教室 研究員 (平成28年1月)	
59	兼任	講師	ハヤシ イクコ 林 郁子 <平成31年4月>		文学 修士		健康・スポーツ科学論	2前	2	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成7年4月)	
60	兼任	講師	ヒライ カツナオ 平井 克尚 <平成31年4月>		博士(人 間環境 学)		英語コミュニケーション1 英語コミュニケーション4	2前 3後	1 1	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成28年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(工学部建築学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る大 学等の職務に 従事する 週当たり平均 日 数
61	兼任	講師	マキノ ヤスノリ 牧野 泰典 <平成30年4月>		博士 (社会学)		経済学の世界 企業社会と労働	1前 2前	2 2	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成22年4月)	
62	兼任	講師	マズダ ジュンイチ 増田 純一 <平成30年4月>		修士(人 文学) ※		基礎英語 1	1前	1	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成21年4月)	
63	兼任	講師	マチガシラ ヨシロウ 町頭 義朗 <平成31年4月>		博士 (数理学)		確率・統計	2前	2	1	大阪教育大学教育学部 教授 (平成10年4月)	
64	兼任	講師	マツウラ ヨシコ 松浦 芳子 <平成32年4月>		博士(比 較文学)		英語コミュニケーション 3	3前	1	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成27年4月)	
65	兼任	講師	ミウラ タカヒロ 三浦 高広 <平成30年4月>		博士 (理学)		基礎微積分1・演習 基礎微積分2・演習 線形代数1 線形代数2	1前・後 1後・2前 1前 1後	4 4 2 2	1 1 1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成29年4月)	
66	兼任	講師	ヤギ アユミ 八木 彩祐未 <平成30年4月>		修士 (理学)		物理学・実験	1前	3	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成29年4月)	
67	兼任	講師	ヤマグチ マサヒロ 山口 雅弘 <平成30年4月>		博士 (理工学)		物理学・実験	1前	3	1	大阪大学核物理研究セ ンター理論部 共同研究員 (平成13年4月)	
68	兼任	講師	ヤマシロ アツシ 山城 敦 <平成30年4月>		博士 (理学)		物理学・実験	1前	3	1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成19年4月)	
69	兼任	講師	ヤマダ テツヤ 山田 哲也 <平成31年9月>		工学 学士		建築設計実習 2	2後	4	1	一級建築士事務所 時 愉空間 代表(平成8年4月)	
70	兼任	講師	ユアサ ミキ 湯浅 美季 <平成30年4月>		文学 修士 ※		ドイツ語 1 ドイツ語 2	1前 1後	1 1	1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成17年5月)	
71	兼任	講師	ワダ コウイチ 和田 浩一 <平成30年4月>		学術 修士 ※		基礎解析・演習 基礎微積分1・演習 線形代数1 線形代数2	1前 1前・後 1前 1後	4 4 2 2	1 1 1 1	大阪電気通信大学 非常勤講師 (平成8年4月)	

(注)

- 1 教員の数に応じ、適宜枠を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校に於ける学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 「申請に係る学部等に従事する週当たりの平均日数」の欄は、専任教員のみ記載すること。

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	2人	1人	人	人	3人	
	修 士	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
	短期大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短期大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	1人	3人	1人	人	人	5人	
	修 士	人	人	人	人	人	1人	人	1人	
	学 士	人	人	人	1人	人	1人	人	2人	
	短期大 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。